事項七　中国およびその他各地における排日状況

1　昭和6年9月20日　在済南西田総領事より幣原外務大臣宛（電報）

日本人保護方に関する韓復榘山東省主席への申入れについて

済南　9月20日後発
本省　9月20日後着
第一八三号（暗）

閣下発上海宛電報第三六五号ニ関シ
韓主席昨十八日夜膠済沿線ヨリ帰済セルニ付本十九日夕刻本官韓ニ会見シ御訓電ノ次第及閣下発奉天宛電報第一九九号ノ帝国政府ノ方針ヲモ併述シテ此際中国在留邦人ニ危害ヲ及ホスカ如キ行動ナキ様厳重取締リ邦人保護方当地及地方ノ軍政官憲側ニ訓電アリタキ旨申入レタル処韓ハ自分モ奉天事件発生ノ次第ヲ承知シタルニ付本日午後七時各省政府委員並ニ軍側及党部ノ各幹部ヲモ臨時ニ召集シ本件発生ハ遺憾トスルモ事件ハ（脱）外ナキ故山東省内ニ関スル限リハ支那側ニ軽挙妄動ナキ様取締リ責任ヲ以テ在留貴国人保護ニ当ルヘキ様電訓ヲ発スヘク且青島官憲及劉珍年側トモ連絡シ万遺漏ナキヲ期スヘキニ付安心アリ度ク貴国人側ニテモ此際事端ヲ発生セシメサル様御注意アリタシト述ヘタルニ依リ本官ハ既ニ我方在留民一般ニハ充分自重スヘキ様示達シ置キタル旨答ヘ置ケリ
尚韓ハ明二十日頃劉桂堂討伐指揮ノ為魯南ニ赴クヘキ筈ナリシ処奉天事件発生ニ依リ曹福林ヲ代ツテ派遣スルコトトセル旨付言セリ又当地市中ハ目下左シテ動揺シ居ラス
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ、支、北平、青島、南京、奉天、天津、漢口、広東、芝罘、張店、博山、坊子ニ転電シ、鄭州ニ暗送セリ

2　昭和6年9月20日　在蕪湖柴崎（白尾）領事より幣原外務大臣宛（電報）

人心やや動揺につき警備艦派遣方稟請について

蕪湖　9月20日前発
本省　9月20日後着
第二〇号（暗）

本官発公使宛電報
第一二号
奉天事件ノ反響トシテ今朝ノ支那紙ハ一斉ニ憤激シ挑戦的記事ヲ掲ケ人心稍々動揺シ居レリト推セラルルニ依リ地方治安亦不安ノ折柄居留民ノ保護ニ対シテハ支那側ト連繋万遺憾ナキヲ期シ居ルモ此際至急警備艦派遣方一遣司令官ト御打合ヲ請フ
上海ヘ転報相成度シ
大臣、北平、南京ヘ転電セリ

3　昭和6年9月(21)日　在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

時局に対し冷静に対処方の方針伝達について

上海
本省　9月21日後着
第九九四号（暗）

本官発重慶宛電報第三号
貴電第九四号ニ関シ
政府トシテハ往電合第一二〇四号ノ通事件ノ拡大ヲ避ケ地方的解決ヲ計ルベキ方針ナレバ差掛リタル危険ナキ限リ万一ニ備フル準備ハ充分之ヲ怠ラザルト同時ニ冷静ナル態度ヲ以テ暫ク様子ヲ見送ルコトト致シタシ
事態ノ変化ハ遅滞ナク当方ヨリ電報スヘシ
右成都ニ報告セラレタシ
貴電ト共ニ大臣漢口ニ転電セリ

4　昭和6年9月21日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

日本人保護に充分努力する旨張学良の言明について

北平　9月21日後発
本省　9月21日後着
第四二〇号（暗）

往電第四一九号末段ニ関シ
二十日朝張学良ニ面会シ公使宛貴電第三六号ノ御趣旨ヲ然ルヘク説述シ此際地方官憲ニ於テ充分日本人保護ニ努力スル様訓達方申入レタル処学良ハ申出ヲ待ツ迄モナク貴国民ハ充分保護ノ積リニテ昨日北平、天津、察哈爾其他ノ各地

官憲ニ対シ随時日本人商店住宅等ヲ見廻ハリ不時ノ事件ノ発生ヲ防止スル様訓令シ置キタルカ尚当地滞在中ナリシ天津市長張学銘ニ対シテモ主トシテ同地治安維持ノ見地ヨリ昨日帰津ヲ命シタリ右様ノ次第ニテ中国側ニテモ日本人保護ニ付万全ヲ期スヘキニ付日本人民ニ於テモ此際特ニ其行動ヲ注意セラルル様致シタシト言ヘリ依テ本官ヨリ本件ニ付特ニ注意ヲ喚起シタキハ謡言「ポスター」新聞記事等ノ取締問題ニシテ之等ハ無智ナル民衆ヲ刺戟シ如何ナル事件ヲ誘致スルヤモ計ラレス殊ニ天津等ニ於テハ最近モ日貨排斥事件続発シ居ル模様ナルカ右ハ延ヒテ不祥事件ノ導火線トモナル虞アルニ付之亦充分取締リアリタキ旨申入レタルニ学良ハ之ヲ諾シ若シ何等事件発生ノ模様モアラハ早速当方ニ通報アリタキ旨述ヘ居タリ

支、南京、奉天、天津、張家口ヘ転電セリ

5　昭和6年9月(21)日　在済南西田総領事より幣原外務大臣宛（電報）

山東省韓主席に対し地方官憲の反日行動取締り方申入れについて

済南

本省　9月21日後着

第一八六号(暗)

本官発芝栄宛電報

第一号

貴電第一号ニ関シ

本官十九日韓主席ニ会見ノ際御来電ノ次第ヲ述ヘ至急芝栄竜口方面ノ地方官憲ニモ反日行動取締方訓令アリ度キ旨申入レタル処同主席ハ各県長等ニ対スル自分ノ指令ニシテモ然ルカ殊ニ中央ノ訓令ハ一般的ナルニ付各県長ニ到達セサルカ如キ事無キ筈ナルモ兎ニ角一応劉珍年ノ方ニ申送ルヘシト答ヘタリ不取敢

大臣、支ヘ転電シ青島ヘ暗送セリ

6　昭和6年9月21日　在漢口坂根総領事より幣原外務大臣宛（電報）

漢口における省市両党部の対日決議について

漢口　9月21日後発

本省　9月22日後着

第六六四号(暗)

満州事件ニ関シ昨二十日当地軍憲ハ緊急会議ノ結果此際民

衆ノ越軌行動ヲ取締リテ反動分子ニ機会ヲ与ヘサルコトニ努ムルト共ニ中央ノ外交ニ支障ヲ来ササル様今暫ク排日運動ヲ禁圧シテ模様ヲ見ルコトトナリ直ニ関係ノ向ニ厳令ヲ下シタルカ之ニ反シ省市両党部ニ於テハ何レモ委員会ヲ開キ急速ニ内争ヲ終結シテ一致外敵ニ当ルコト及反日宣伝ヲ旺ニシ対日経済絶交ヲ実行スルコトノ二決議ヲ為シ早速各界ニ通牒スル処アリタル為本日市中各所ニ半旗ヲ黒布ヲ付シテ掲揚セルモノ多ク又宴会娯楽ハ三日間停止シテ日軍ニ依リ戦歿セル民国軍人ヲ追弔スルコトトナレリ尚本日ハ第二劃匪宣伝処ノ名ヲ以テセル多数ノ排日「ポスター」貼リ出サレ居ルヲ見ル尤モ新聞ノ論調ハ昨今ノ処当地トシテハ未タ極度ニ激烈ナラサルノミナラス市中ノ減水完全ナラサル個所多クシテ団体游行等ニ便ナラサル点アリ旁目下右以上ニ不穏ノ徴候ヲ認メサルモ中日両国民共既ニ少カラス動揺シ居ル事実ニ鑑ミ当館ハ中国公安局側ト折角連絡ヲ遂ケ例ニ依リテ予メ充分警戒ニ努メ居レリ

支ヨリ上海ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、広東、済南、南京ヘ転電アリタシ

鄭州、九江及上流各館ヘ転電セリ

7　昭和6年9月21日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京における排日状況と日本人の保護について

南京　9月21日後発

本省　9月22日前着

第五六八号(暗)

往電第五六五号ニ関シ

当地ニ於ケル対日空気ハ日ト共ニ険悪トナリ学生其他ノ団体ノ排日遊行モ漸次増加シ口々ニ排日「スローガン」ヲ高唱シ又排日伝単ハ市内到ル処ニ貼布セラレ更ニ市内各所ノ路上ニ於テハ軍官学校ノ学生等ノ排日演説等モ見受ケラルル有様ニテ居留民中ニハ自発的ニ家族ヲ上海ニ避難セシムルコトトセルモノモ可成リアル程ナルニ依リ本官ハ外交部ニ対シテ更ニ注意ヲ促スト共ニ二十一日ニハ直接治安維持ノ責任ヲ有スル谷衛戍司令ト会見シ我方ニ於テハ日華ノ大局ニ鑑ミ今回ノ事件ノ拡大ヲ出来得ル丈防止セン意向ニテ外交部側トモ談合シタルカ外交部側モ全然同意見ナルコトヲ明カニシ唯サヘ国民ノ感情昂奮セル此際此上激情ヲ刺戟

スルカ如キハ最危険ニシテ激情ノ赴ク処如何ナル不祥事ヲ惹起スルヤモ計リ難ク此上不祥事件起ランカ両国ノ関係ハ遂ニ収拾スヘカラサルニ至ルノ虞アリ依テ出来得ル丈言論行動ヲ慎ミ感情ノ昂奮ヲ制止スル様互ニ努力スヘキ旨申合セタル次第ナルカ其後排日伝単、遊行、演説等頻々トシテ行ハレ殊ニ軍官学校ノ軍服ヲ着シタル学生カ之ニ加ハルカ如キコトヲ看過スル様ニテハ貴司令ノ重大ナル責任トモナル次第ナリトノ趣旨ニテ懇談シタル処谷ハ御話ノ次第ハ自分モ全然同感ニテ無用ニ感情ヲ刺戟スルカ如キ行動ヲ制止スル様極力注意シ居ル次第ナルカ例ヘハ軍官学校ノ学生ノ如キハ今回事件ニ対シ極度ニ憤慨シ居ルニ付之ヲ頭ヨリ抑ヘラレタル激情ハ別ノ途ヲ見出シ勃発スルコトナキヲ保セス一般民衆ニ付テモ同様ニシテ彼等ヲ不幸ニ激昂セシメサル様適度ノ取締ヲ為スニ苦心シ居ル次第ナリ然レ共日本在留民ノ保護ニ付テハ充分責任ヲ以テ之ニ当リツツアリ此点ハ御安心アリタシトノ趣旨ニテ釈明ニ力メ居リタリ

谷ノ人柄ニモ鑑ミ右ハ必スシモ通リ一片ノ弁明トモ思ハレス旁今回ノ排日ハ可成リ深刻ナルモノアル様看取セラル

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平、奉天へ転電セリ

8　昭和6年9月21日　在蘇州川南（省一）領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

蘇州中国官憲の日本人保護に関する配慮について

蘇州　9月21日後発
本省　9月21日後着

第二五号（暗）

奉(1)天事件ニ関シ二十日当地新聞ハ一斉ニ誇張乃至煽動的記事並論説ヲ掲ケタル為鮮カラス人心ヲ刺戟セルカ如ク之カ影響ヲ顧慮セラレタルヲ以テ本官ハ事件ノ発端ヲ説明旁居留民保護ニ対スル注意喚起ノ為呉県県長ヲ往訪セントスル矢先公安局長ノ代理トシテ一局員来館園田署長ニ面会ヲ求メタルニ付応接シタル処同人ハ奉天地方ニ於テ中日両国軍隊衝突事件ニ付テハ未タ何等ノ公報ニ接セス其真相不明ナルモ本日上海蘇州ノ各新聞記事ヲ見ルニ両国軍隊ノ衝突ハ事実ナルカ如キヲ以テ之ニ関連シ自国民中貴国居留民ニ対シ不穏ノ行動ニ出ツルカ如キ者無キヲ保シ難キヲ以テ公安局ニ於テハ極力之カ阻止ニ努ムヘク既ニ所属機関ニ令達シ

置キタルカ若シ民衆ヲ煽動シ又ハ貴国民ニ危害ヲ加フルカ如キ行動ヲ敢テスル者アルトキハ遅滞無ク通知アリタキ旨申出テタルヲ以テ署長ハ先方ノ好意ヲ謝シ事件発生ノ原因ヲ説明シタル後今後ノ連絡方等ヲ打合セ置キタル趣ナルカ次テ県政府秘書県長ノ旨ヲ受ケ本官ヲ来訪シ右同様ノ趣旨ヲ述フル所アリタルニ付其好意ヲ謝シ此際民衆ノ妄動無キ様厳重取締ラレタク尚(2)特ニ邦人経営ノ工場ニ使用セル工人ノ言動ニ付テハ我方ニ於テ監視ヲ怠ラサルヘキモ中国側ニ於テモ周密ノ注意ヲ払フ様県長ニ伝達方申入レ置キタルカ（県長ノ都合ニテ明二十一日本官往訪ノ筈）公安局ニ於テハ現在日本租界近接ノ分駐所ニ増員シ警備ニ当リ居レリ斯ノ如ク中国側カ我方ノ要望ニ先チ居留民保護ニ好意ヲ寄セ機敏ニ手配セルカ如キ其実際的効果如何ハ別問題トシ殆ト前例無キニ鑑ミ或ハ中央政府ヨリノ訓令ニ基クニアラスヤトモ察セラル（秘書ハ我居留民保護ノ対策ニ関シ県長ハ公安局長其他ヲ招集シ非公式会議ヲ開ケル旨語レリ）翻ツテ我在留民側ニ於テハ往年南京事件及済南事件ニ際シ苦キ経験ヲ嘗メ居ルト事態悪化ノ場合孤立無援ニ陥ル虞アル地理的関係ヲ顧慮シ動モスレハ神経過敏ニ走リ易キ傾向アルヲ以テ本官ハ不取敢民会長及各工場主ヲ招集シ各在留民ヲシテ民国人ニ対スル言行ヲ慎マシメ徒ニ杞憂ノ念ヲ抱キ動揺スルカ如キコト無キ様自重方篤ト諭示シ置キタリ

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

公使、北平、奉天、南京へ転電セリ

9　昭和6年9月21日　在重慶清野（長太郎）領事より幣原外務大臣宛（電報）

奉天事件の成行き回電方稟請について

重慶　9月21日後発
本省　9月22日前着

第一五六号（暗）

本官発支宛電報第九四号

奉天事件勃発ノ次第ハ直ニ成都ニ電報シ置キタルカ若シ引揚ヲ要ストセハ成ルヘク早ク同館ニ通知シタキニ付御見込御回電ヲ請フ

大臣、成都ニ転電セリ

10　昭和6年9月21日　在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（電報）

居留民保護の関係より日清汽船雲陽丸の停

船方希望について

重慶　9月21日後発
本省　9月21日後着

第一五七号(暗)

奉天事件ニ関シ

当地督弁及四川（脱）新聞電報ヲ綜合シ軍艦ノ接電ナリトシテ其成行ヲ告ケ在留民保護方ノ注意ヲ惹キ置キタル処目下両国政府間ニ戦意ナキ旨ヲ了解シ首肯シタル次第ナルカ当地新聞紙ハ二十日ヨリ悲憤煽動ノ記事ヲ掲載シ始メ前途ノ形勢予想スヘカラサルニ付二十三日当地入港ノ予定ナル往電第一五四号ノ日清汽船ノ雲陽丸ヲ暫ク当地ニ停船セシムルノ余儀ナカルヘキヤモ計リ難キニ依リ予メ御承認ヲ請フ

支ヘ転電セリ

11　昭和6年9月(22)日　在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

砲艦下航方命令について

上海
本省　9月22日前着

第一〇〇〇号(暗)

本使発蕪湖宛電報

第四号

往電第三号ニ関シ

一遣司令官ハ先ツ在南京宇治ヲ二十二日発貴地ニ派遣シ置キ在漢口伏見ヲ二十六日発貴地ニ派遣宇治ハ交代上海ニ下航方ヲ命令セル由

大臣、北平、漢口、南京ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

12　昭和6年9月22日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平における省市両党部および各大学等の排日運動の状況について

北平　9月22日後発
本省　9月23日前着

第四三七号

今次事件ノ報伝ヘラルルヤ党部及各学校学生ハ直ニ排日運動ヲ開始セリ

一、省市党部トモ十九日付ヲ以テ中央、広東両政府及全国ニ対シ夫々通電ヲ発シ一致外侮ニ当リ日本ト合作セサルコト並慎重ノ態度ヲ持シ日本ニ口実ヲ与ヘサル様スヘキコトヲ主張セルカ省党部ハ二十一日標語貼布伝単撒布及講演ノ各隊ヲ組織スルト共ニ市内各要所ニ大袈裟ナル布製標語ヲ掲出セリ

二、同日中央委員李石曾、張継ハ北平、天津、平綏、河北各党部ヲ召集シ商議ノ結果四党部連名ニテ(イ)中央及広東ニ対シ一致団結シテ外侮ヲ防禦方(ロ)全国陸海空軍長官ニ対シ至急戦闘準備方(ハ)全国同胞ニ対シ即日不合作主義ヲ執リ徹底的経済絶交ノ実行方夫々打電ノコト(ニ)平津、河北及平綏線方面ニ於テハ二十三日喪章ヲ付シ半旗ヲ掲ケ娯楽ヲ停止シテ哀悼ノ意ヲ表シ且中山公園ニ於テ各会代表大会ヲ挙行シテ国民総動員方策ヲ討議スルコト等ヲ決定セリ

三、陸軍大学教職員会ハ十九日中央及各方面ニ通電ヲ発シ二十日ノ会議ニ於テ抗日救国団ヲ組織スルコト日本教官ノ自退ヲ求ムルコト等ヲ決議セルカ北京、清華、燕京、交通ノ各大学北平大学、工学院、芸術学院其他各中学ハ二十一日夫々反日運動委員会、反日救国会等ヲ組織シ且各種実行方法ヲ議決スル処アリ並示威遊行ヲ為シ伝単ヲ撒布セル学校モアリ尚平津学術団体代表ハ同シク二十一日対日運動ノ指導及宣伝ヲ為スコトトセリ

四、二十一日朱市長ハ于衛戍司令、鮑公安局長等列席ノ下ニ各大学校長ヲ召集シ学生ノ愛国運動ニ際シ危害行動ナキ様勧説方諒解ヲ求メタルカ協議ノ結果(イ)教育救国ノ趣旨ニ依リ休校セサルコト(ロ)学生ノ校内ニ於ケル会合ハ学校ノ許可ヲ経ヘキコト(ハ)各学校ニ於ケル日本及朝鮮学生ハ出校ヲ見合ハサシムルコト(ニ)学生ノ講演地点ハ天安門中山公園其他十一ケ所トス(ホ)活動写真館ニ於テハ講演ヲ禁シ映写トス(ヘ)学生ノ遊行ハ学校当局ヨリ勧説禁止スルコト等ヲ議決セリ

在支公使、南京、奉天、天津ヘ転電セリ

13　昭和6年9月22日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平における学生運動に対する張学良の態度について

北平　9月22日後発
本省　9月23日前着

第四三八号(暗)

当方面排日運動ハ往電第四三七号ノ通漸ク激化ノ傾向アリ殊ニ二十一日日本人一子女中国小学生徒ノ為殴打足蹴ニセラレタル事件アリタルヲ以テ直ニ館員ヲシテ市政府当局ノ注意ヲ喚起セシメ置キタルカ同夜張学良ハ宴席後本官ニ対シ在満日本人ノ保護ニ付テハ極力尽力ノ積リニテ昨日貴官来訪後自分（学良）ヨリ各新聞社ニ対シ記事ニ留意方申入レ置ケリ学生運動ニ付テハ今日迄極力慰撫シ来レルモ之ヲ正面ヨリ抑圧スルニ於テハ却テ感情ヲ激発シ意外ノ事件発生ノ虞アルニ付公安局ニ申請ヲ条件トシテ示威運動ヲ許可スルコトアルヤモ知レサルニ付斯ル際ハ日本人ニ於テモ慎重注意セラレタキ旨述ヘタルニ付本官ヨリ学生ノ後援乃至示威游行ハ一般民心ヲ刺戟シ不祥事件発生ノ基因トナリ易キニ付充分取調ヘラレタク万一副司令ノ膝下ニテ斯ル事件起ラハ今次事件ヲ成ルヘク局限セントスル努力モ効ヲ奏スルニ由無ク殊ニ副司令現在ノ非常ニ緩和セル態度ニ疑念ヲ抱ク者アルニ至ルヘク右ハ副司令ノ為ニモ採ラサル所ナリ就テハ副司令ノ権限内ニテ是非厳重取締ラレタシト言ヘルニ学良ハ多分大丈夫ナルヘキニ付安心アリタシト答ヘタリ公使、南京、天津、奉天へ転電セリ

14　昭和6年9月22日　在天津田尻総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

天津における満州事件への反応および近郊の中国軍兵力について

天津　9月22日後発
本省　9月23日前着

第三三八号（暗）

当方面ノ状況左ノ通リ

㈠支那側ニ於テハ学生其他民衆ノ軽挙ヲ戒メ「ビラ」伝単等ノ悪宣伝ヲ取締リ経済絶交委員会ノ日（貨）ノ検査ノ如キモ（目下相当ノ荷動アリ）日支人衝突ヲ惹起スル虞アリトシテ停止セシムル等事端発生防止ニ努メ居ル処二十一日以来奉天方面ヨリ敗兵及避難民ノ来平ニ連レ流言蜚語伝播サレ且反抗ノ策動モアリ人心動揺シ来レル模様ナリ

㈡漢字紙ハ何レモ各地ヨリノ情報ヲ以テ全紙ヲ埋メ今次ノ事件ハ日本ノ計画的行動ナルニ付挙国一致救国ニ当ルヘキ旨力説シ又不戦条約違反ナリト論スル等毒筆ヲ弄シ甚タシキハ宣戦布告ヲ叫フモノアリ

㈢当地ノ支那兵力ハ往電第三三五号ノ通ナルカ楊柳鎮北倉近郊ニ約一万五千駐防シ居リ又㈠ノ事情モアルヲ以テ我駐屯軍ニ於テハ警備物々シキ為少カラス内外人ノ不安昂リ居ル処当方ヨリ進テ積極的行動ニ出テサルコト話合ヒ済又暴動ノ突発無キ限リ目下支那軍ト正面衝突ノ危険ハ先ツ無キ見込ナリ引続キ在留民ノ妄動ヲ戒メ居リ一方英仏領事ハ当方ノ希望ニテ支那側ニ対シ民衆ノ取締リ励行方警告セリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平、奉天、南京、青島へ転電セリ

15　昭和6年9月(22)日　※在漢口坂根総領事より幣原外務大臣宛（電報）

日清汽船雲陽丸の重慶への遡江について

漢口
本省　9月22日後着

第六五八号（暗）

宜昌発本官宛電報

第四五号

大臣公使へ転電アリタシ

重慶比良艦長ヨリ同地領事ト協議済ノ趣ヲ以テ日清汽船一隻至急遡航セシメラレタキ旨当地ニ見艦長ヘ来電ニ依リ早速雲陽丸ヲ上航セシムル様相談セル処同船ハ当分上航見合セ当地繋留中ノモノニテ命令ニアラサレハ当地出張所限ニテ便宜ノ計ヒ出来兼ネ且船長ハ此際下級船員ノ動揺ヲ恐レ警戒隊ノ乗組ヲ希望ストノ申出ニテ協議ヲ重ネタル末警戒隊ノ件ハ艦長ヨリ至急司令官ノ指令ヲ請フ事命令ハ重慶領事ヨリ発令スル事トシ兎ニ角重慶居留民避難用トシテ同地急行ノ準備ニ掛ラシメタル処艦長ハ司令部ヨリ折返シ警戒隊派遣方指令ニ接シタル趣ニテ同船二十日午前六時出帆上航セリ

重慶へ転電セリ

16　昭和6年9月(22)日　在福州田村（貞治郎）総領事より幣原外務大臣宛（電報）

福州における党部および反日会の示威運動について

福州
本省　9月22日後着

第八〇号（暗）

二十一日楊樹荘ニ面会後訓令ノ趣旨ヲ以テ在留民保護方申入レタルト共ニ党部反日会新聞紙等カ日本帝国主義ハ中国民族生存唯一ノ敵人ナリト中央ニ向ツテ対日宣戦準備ヲ講ズヘシ等過激ナル言辞不実ノ報道ヲ以テ今ニモ両国間ニ戦争勃発スルヤノ如ク吹聴シテ民心ノ激発ニ力メ居レル処斯クノ如キハ両国民間ノ感情極メテ機微ナルモノアル際国交上ハ勿論我居留民ノ安全ヲ期スル上ニ於テモ危険ナルコトニ付党部ノ激昂モ然ルコト乍ラ政府当局トシテハ大局上ノ立場ヨリ冷静ニ善処シ一層厳密ナル取締ト民心ノ緩和誘導ニ努力サレタキ旨申入レタルニ対シ楊ハ既ニ中央ヨリ電訓ノ次第モアリ地方的ニ事端ヲ発生セシメサル様細心ノ注意ヲ以テ日本居留民保護ニ当ラシムヘシト答ヘタリ党部及反日会等ニ於テハ明二十三日各学校児童ヲ全部集メテ示威運動ヲ計画シ居リ一般ニ空気緊張ノ折柄馬公駆逐艦二隻二十七日定期巡航ノ為入港ノ予定ノ処事態ノ如何ニ依リテハ多少繰上ケ来航方希望スル旨電報シ置キタリ

支、南京、厦門ニ転電セリ

17　昭和6年9月22日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

第四四〇号（暗）
（一七文書）
往電第四三五号ニ関シ

二十二日陳友仁ハ市党部幹部ヨリノ奉天事件ニ関スル投書ヲ本官ニ示シタルカ右ニ依レハ市党部ニ於テハ万宝山事件朝鮮事件等ニ際シ一再ナラス反日行動ニ出テンコトヲ建言セルニモ拘ラス其都度当館ノ圧迫ニ依リ泣寝入リトナリタルモ今回ノ事件ハ国民的大屈辱ナルヲ以テ如何ニモシテ排日運動ヲ醸成セシメ国民一致シテ雪辱セサルヘカラストナシ頗ル激越ナル口調ニテ当局ノ軟弱外交ヲ攻撃セルモノナリシ次第モアリ同日午後他用ヲ以テ孫科ヲ往訪ノ際在支公使宛往電第一八九号申入ノ趣旨ヲ繰返シタル処孫科ハ今回ノ事件ハ単ニ張学良及其一味ヲ威嚇セシニ止リタルモノト想像スルモ何分北方ヨリノ消息ハ著シク民衆ヲ刺戟シタルヲ以テ此際徒ニ民衆ノ対日批判ヲ圧迫スルハ却テ面白カラサル反動ヲ助成スル結果トナルヲ惧ルルニ付事件ノ報道乃至論評等ハ自由ニ之ヲ発表セシムル予定ナルモ組織的反日行為等ハ之ヲ助成セサルノミナラス若シアラハ厳重取締ル方針ナル旨申述ヘタルニ対シ本官ヨリ広東政府ノ勢力範囲内ハ朝鮮事件勃発ニ際シテモ上海、南京ニ於ケル如キ旨目的排日運動ナク実ニ謂ハハ楽天地ナリシカ今般ノ事件ニ依リ万一実際的排日的運動勃発センカ当地政府モ我方ニ対シ南京ト同様ノ印象ヲ与フルコトトナリ陳友仁ノ渡日等ニ依ル折角ノ努力モ水泡ニ帰シ甚タ面白カラサル結果ヲ招来スヘキニ付実際運動ハ絶対之ヲ禁止セラレタキ旨念ヲ押シタル処孫科ハ之ヲ諒トシ何処迄モ之ヲ厳守スル様言明セリ

公使ヨリ上海、漢口ヘ転報ヲ請フ

公使、北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、済南、福州、南京、厦門、汕頭ヘ転電セリ

19　昭和6年9月22日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

国民政府の日本人保護施策に関する許幣弁の申出について

南京　9月22日後発
本省　9月23日前着

第五七一号（暗、至急）

二十二日許幣弁来訪シ国民政府トシテハ日本在留民ノ保護ニ付責任ヲ以テ充分ノ手配ヲ為シ居ルモ一般民衆ノ対日空気極度ニ悪化シ居ルコトトテ万全ヲ期スル為㈠日本在留民

陳友仁の排日取締りに関する言明について

広東　9月22日後発
本省　9月23日前着

第四三五号（暗）

往電第四三二号ニ関シ

二十一日本官陳友仁ト会談ニ際シ十九日夜汪精衛ニ内話シタル通リ申入レタル処陳モ極力排日ヲ取締リ日本人保護ニ任スル旨語リ居リタリ

御含置迄

公使ヨリ上海、漢口ヘ転報ヲ請フ

公使、北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、済南、南京、福州ヘ転電シ香港ヘ暗送セリ

18　昭和6年9月22日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

広東市党部幹部の奉天事件に関する投書内容ならびに孫科に対し排日取締り方申入れについて

広東　9月22日後発
本省　9月22日後着

ハ出来得ル丈ケ外出セサルコト㈡外出ノ場合ハ予メ警察若ハ外交部ニ通知アリタク直ニ保護ノ為巡警ヲ派スヘク㈢汽車ハ危険多キニ付避ケラレ度ク公使来京ノ場合ニハ汽船又ハ飛行機ヲ利用セラレタキ旨申出タリ依テ本官ハ一応其配慮ヲ謝スルト共ニ新聞紙ノ激越ナル論調、排日伝単、排日遊行等ヲ指摘シ斯ルコトヲ放任スルハ民衆ノ対日空気ヲ悪化セシメ延イテ不慮ノ災禍ヲ誘致スルコトナルヘク其結果ハ国民政府ノ責任ナル旨ヲ述ヘ取締方要求シ置キ更ニ徐謨ヲ往訪同様排日ノ有効ナル取締方重ネテ要求シ置キタリ尚当地在留民中ノ婦女子ハ今明日中ニ殆ト全部自発的ニ上海ニ引揚クルコトトナルニ依リ館員ノ家族ニ対シテモ上海ニ引揚ケ差支ナキ旨内諾ヲ与ヘ置キタルニ付右御含置相成度シ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東へ転電セリ

20　昭和6年9月22日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京における排日状況に関し取締り方申入れならびに日本人の避難事情について

南京　9月22日後発
本省　9月23日前着

第五七七号（暗）

当地ニ於ケル排日空気ハ刻々険悪トナリ本二十二日ノ如キハ游行、戸外演説等モ猛烈トナリタルノミナラス游行ノ団体ノ一部ハ当館前ニ集合シ指揮者ノ号令ノ下ニ「打倒日本帝国主義」「促速(ママ)裏内進入」等ノ口号ヲ大声ニ合唱シ今ニ入ルノ気勢ヲ示シ更ニ伝単ノ如キモ「東洋鬼ヲ殺セ」「一人ノ日本人ヲ殺セハ一人瞑スヘシ」ト云フカ如キ未タ曽テ見サル極端ノモノトナリ而モ右ハ主トシテ軍官学校学生ノ手ニ成ルモノ多ク更ニ日本人掩殺計画ノ如キ風説モ一般ニ拡マリ人心極度ニ不安トナリタルニ付外交部及衛戍司令部ニ対シテハ重ネテ前記ノ事例ヲ指摘シ游行等ノ取締及邦人保護方ニ付警告シ殊ニ明二十三日ノ国恥紀念日ニ対スル取締ニ付注意ヲ促シタルカ谷司令ハ本日モ蔣主席ヨリ厳重取締方命令アリ又軍官学校ノ学生ニ対シテモ訓示スル所アリタルニ依リ懸念ノ要無シ尤モ自分ハ明日ノ会合游行等ニハ自ラ出動シ充分取締ルヘキニ付安心アリタキ旨申居レリ

右ノ通当地当局ハ目下ノ所邦人ノ保護ニ付テハ充分努力シ

居ルコトハ事実ナルカ民衆ハ済南事件ノ際ヨリモ遙ニ殺気立チ居ルニ付万一ヲ慮リ明二十三日中ニハ館員ヲ除ク在留民全部ヲ日清「ハルク」ニ避難セシムルコトセリ

尚未タ避難セサル居留民婦女子ノ殆ト全部ハ明朝発ノ汽船ニテ上海ニ赴クコトトナレルニ付当館々員ノ家族モ一人ヲ除キ全部同船ニテ一先ツ上海ニ避難セシムルコトトセリ

公使、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東へ転電セリ

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

21　昭和6年9月22日　在杭州米内山（庸夫）領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

杭州における学生による対日示威運動について

杭州　9月22日後発
本省　9月23日前着

第二八号（暗）

九月二十一日満州事件ニ対スル当地各界協議会開カレ其結果当地ニ於ケル状況悪化ノ傾向ヲ帯ビ来リ同日午後警官学校学生武装示威運動ヲ開始シ当館ヲ囲繞シテ打倒日本ノ口号ヲ叫ビ本二十二日民国日報ハ全国学生ノ奮起活動スベキコトノ煽動的論説ヲ掲ゲ之ニ応ジテ直ニ学生団体ノ本館前ヲ示威運動ナスモノ現ハレ来リ尚二十三日ニハ市民大会開催ノ計画ヲナシ特ニ各学生労働団体等ノ糾合ヲ策シ居ル趣ナリ

北方状況ノ発展ニ連レ何レ執拗ニ対日示威運動継続セラルルモノト認メラル

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

支、南京、蘇州ニ転電セリ

22　昭和6年9月22日　在杭州米内山領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

杭州の状況悪化の傾向につき婦女子避難について

杭州　9月22日後発
本省　9月23日前着

第三〇号（暗）

各方面ノ情報並ニ排日論者側ノ各種ノ計画ヲ見ルニ当地ノ状況ハ急転悪化スル傾向アリ御承知ノ通当地ニ於テハ何等安全ナル避難場所ヲ持タス又武力ニ依ル我方ノ保護ヲモ期

待シ得ラレサル土地柄ニ付居留民ノ安全ニ関シテハ早キニ従テ考慮処置スル必要アリト認メラルルニ付テハ小官ハ充分当地形勢ノ推移ヲ見タル上必要ト認ムル時機ニ於テ先ツ第一ニ時機ヲ失セス婦女子ヲ上海ニ避難セシムル事トシタシ右予メ御含ミ置キヲ請フ

当地在留婦女子ハ館員家族九名居留民八名（内二名ハ既ニ避難済）ナリ御参考迄ニ申添フ

公使ヨリ上海へ転報ヲ請フ

前電ノ通転電セリ

23　昭和6年9月22日　在杭州米内山領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

杭州領事館館員および日本人の上海への避難について

杭州　9月22日後発
本省　9月23日前着

第三一号（暗）

本官発上海宛第四号

本官発大臣宛電報第三〇号（二二文書）ニ関シ

当館々員家族九名外ニ居留民家族二名明二十三日午前七時二十五分杭州発午後一時二十五分上海北站着ノ汽車ニテ貴地ニ向フコトニ決定セリ一部ハ万歳館一部ハ日出館ニ投宿ノ予定ナリ上海駅ヨリ旅館迄ノ安全ニ関シテ然ルヘク御手配ヲ請フ

公使へ転報アリタシ

大臣へ転電セリ

24　昭和6年9月23日　※在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

鄭州における各級党部の排日宣伝および日本棉花店員の漢口への引揚げについて

上海　9月23日後発
本省　9月23日後着

第一〇〇九号（暗）

鄭州発本使宛電報

第五号

奉天事件ハ昨今両日ニ亘リ当地及開封ノ民国側諸新聞ニ各地来電トシテ極メテ誇大ニ掲載セラレ居ルモ一般ニハ尚目立チタル反響ナキ処一方反日援僑会ナルモノヲ中心トシ各級党部ノ排日宣伝行ハレ居ル際ニモアリ今後民心悪化ノ虞ナキヲ保セサルヲ以テ本官本二十一日不取敢公安局長ヲ訪問在留民ノ保護方ヲ懇請シ先方ニ於テモ責任ヲ負フテ保護ニ任スル旨辞ヲ尽シテ応対セラレタルヲ以テ差当リ右ニ信頼シ居ル次第ナルカ当地日本綿花ハ本事件ノ為一般邦人側商取引不能トナルハ勿論万一ノ場合ハ日本側ノ実力的保護ハ殆ト絶対ニ期待セラレサル土地柄ナルヲ理由トシ漢口支店ノ電命ニ依リ先ツ当地ニ於ケル店員ノ家族ハ今明日中ニ漢口ニ引揚ケ店員モ追テ引揚ノ準備ヲ為ス由ナリ

尚当地現在留者ハ当館関係者男四（近ク一名来任ノ筈）女一日本綿花関係男女各三小児二陸軍駐在武官一個人商男一ナリ

大臣、北平、漢口、南京へ転電セリ

25　昭和6年9月(23)日　在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

重慶における中国民衆運動に対する出先公館および海軍側の措置回示方稟請について

上海
本省　9月23日後着

第一〇一二号（暗、至急）

重慶発閣下宛電報第一五八号ニ関シ

同地ニ於ケル中国民衆運動ノ趨勢ハ或ハ直ニ租界回収ノ実行ニ移ルヤモ計ラレス斯ノ如キ場合当地碇泊中ノ我艦ハ特ニ反対ノ命令無キ限リ当然ノ職責トシテ之カ防禦ニ当ルヘク之カ為帝国海軍カ砲火ヲ開クカ如キ事アラハ其長江筋各地ニ及ホス影響極メテ重大ナルモノアルヘキハ明白ナリ而シテ他方同地租界ノ現状ニ鑑ミ此際実力ヲ以テ之ヲ防止スルハ無益ト思ハルル処当方及海軍側ノ執ルヘキ方針御決定ノ上至急各出先ニ対シ何分ノ儀御回示置ヲ請フ

北平、奉天、天津、青島、漢口、重慶、宜昌、沙市、長沙、南京、福州、広東、九江、蕪湖へ転電シ上海へ転報セリ

漢口ヨリ宜昌、沙市、長沙へ転電アリタシ

26　昭和6年9月23日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

北平における排日状況について

北平　9月23日後発
本省　9月24日前着

第四四三号

往電第四三七号（二二文書）ニ関シ
其後ノ状況左ノ通リ
一、二十三日朝ヨリ各学校学生ノ講演会全市ニ亘リ活動シ又随所ニ小部隊ノ示威游行アリ為ニ一時戒厳施行浮説サエ伝ヘラレタルカ午後ニ至リ稍々平静ニ帰セリ
一、学生ハ喪章ヲ付シ学校銀行等ハ半旗ヲ掲ケ娯楽機関ハ全部休業セリ
一、二十二日市長名義ヲ以テ一般市民ハ沈静国難ニ当リ事端ヲ起ササル様スヘク在留日本人ノ保護方ニ付テハ公安局ニ命令済ナリトノ布告及謡言禁止並金融維持方ノ布告ヲ発セリ
一、北平市商会ハ二十一日会議ノ結果(イ)全市商人ハ徹底的対日経済絶交ヲ行フコト(ロ)在留日本人ニ対シテハ引続キ和平友誼的態度ヲ持スルコト(ハ)日本商人トノ取引ハ即日停止スルコト(ニ)日貨ハ之ヲ封鎖シ又日本人ニ物品ヲ供給セサルコトノ各項ヲ議決セル由
公使、南京、奉天、天津ヘ転電セリ

27　昭和6年9月23日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

反日会主催各界代表大会の議決内容について

上海　9月23日後発
本省　9月23日後着

第五二四号
当地反日会ノ開催セル満州事件ニ対スル各界代表大会ハ二十二日午前十時ヨリ市商会「ホール」ニテ開催当地各界ノ有力者及各団体並ニ学校等ノ代表百数十名ノ出席アリ（入場者ヲ厳重制限セル由）市党部委員唐百川開会ノ辞ヲ述ヘ反日弁法ニ付各団体ノ提案ヲ討議ノ結果
一、国民政府ニ対シ速ニ軍事動員ヲ為シ日本軍ヲ駆逐シ占領地ヲ恢復スル様電請ス
二、全国ニ対シ一致団結ノ上日本ニ対抗スヘシトノ通電ヲ発ス
三、工会及失業者ヲ以テ救国義勇軍ヲ組織ス
四、従来ノ反日援僑委員会ヲ抗日救国会ト改称スルト共ニ組織ヲ拡大シ新委員二十四名ヲ追加ス
五、二十六日ヲ期シ全市民大会ヲ召集ス当日ハ全市停業シ弔意ヲ表ス
六、日本ヨリノ水災慰問品ヲ返還シ別ニ資金ヲ募集シ救済

ニ充ツル様中央ニ電請ス
七、徹底的対日経済絶交ヲ断行シ若シ違反者アルトキハ撲殺スル事
等ヲ議決セル趣ナリ
支ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、南京、福州、広東ヘ転電セリ

28　昭和6年9月23日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における排日状況について

上海　9月23日後発
本省　9月24日前着

第五二六号
往電第五〇六号ニ関シ
一、当地中国人側ノ対日感情ハ二十二日来目立チテ増シタル反日的「ポスター」ト続々開催セラルル各会代表大会及学生抗日大会等ノ反日的会合及宣伝ニ依リ頓ニ悪化ノ度ヲ深メタル感アリ
二、主トシテ当地邦人小商人筋ノ金融機関ナル上海銀行及漢口銀行支店ハ時局ノ重大化ニ伴ヒ今週初メヨリ預金引出者続出シ既ニ本日迄ニ各七八万弗ノ支払ヲ為シタル由ナルカ目下ノ処尚相当ノ支払準備ヲ有シ大体心配ナキ趣ナリ
三、日本人通学児童ニ対スル投石揶揄等ノ悪戯ハ二十一日来著シク増加シ（負傷スル程度ノモノ少シ）タルニ付通学路ノ警戒ヲ更ニ厳ニスルト共ニ学校側モ授業短縮ヲ実行シ又浦東側通学児童ノ一部通学ヲ停止スルコトトセリ
四、通関業者ハ組合ノ決議ニ依リ二十一日ヨリ日本人関係貨物ノ取扱ヲ拒絶シ中国側銀行及銭荘ハ邦人ニ対スル銀ノ売買ヲ為ササルモノ出テ（銀相場ノ激変モアリ）又郵便局及鉄道其他ニ於テモ兎角邦人ニ対シ難癖ヲ付クル風アリト
五、党部及反日会方面ノ圧迫ニ依リ支那人家主ハ支那街及「エキステンション」居住邦人借家人ニ対シ立退ヲ迫リ一般華商ハ日本人ヘノ日用品及食料ノ販売差止ヲ命セラレタルヤノ聞込モアリ居留民ハ長江上流方面ヨリノ引揚者ノ来着等ニ依リ漸次不安ノ念ヲ増シ居ル模様ナリ
北平、奉天、天津、青島、済南、南京、漢口、広東、福州ヘ転電シ支ヘ転報セリ

29　昭和6年9月(23)日　※在漢口坂根総領事より幣原外務大臣宛（電報）

長沙における排日運動の状況について

漢口
本省　9月23日前着

第六六二号（暗）

長沙発本官宛電報第七九号

外務大臣へ転電アリタシ

第七五号

満州事件ニ関スル情報ハ十九日午前十一時頃当地海軍側ヨリ入手シタルヲ初メトシ各方面ニ屢々入電シ中国新聞中ニハ午後四時頃号外ヲ出セルモノアリ二十日ノ漢字紙ハ一斉ニ本件ニ関スル記事ヲ満載シ且ツ大抵社論ヲ掲ケ慷慨激越ナル口調ヲ以テ日本ハ中国ヲ併合セントスルモノナルヲ以テ内争ヲ止メ一致最後ノ奮闘ヲ為セトノ趣旨ヲ強調シ中ニハ目前ノ努力トシテハ日貨ノ抵制ヲ励行セヨト説クモノアリ又対日援僑会ハ中央ニ対シ厳重抗議方ヲ打電セル趣ナルカ目下ノ処未タ中国人ノ邦人ニ対スル態度異状ナキカ事件発生早々ノコトニテモアリ其反響カ如何ナル程度ニ及フヤ逆睹シ難ク本官ハ事件ノ重大ト目下排日運動ノ行ハレ居ル矢先ニモアリ十九日午後不取敢在留邦人ニ対シ充分警戒方注意シ置ケリ

支、北平、南京へ転電アリタシ

九江へ暗送セリ

30　昭和6年9月23日　在福州田村総領事より幣原外務大臣宛（電報）

一般日本人に対し台湾への引揚げ準備方指令につき配船等に関し稟請について

福州　9月23日後発
本省　9月23日後着

第八一号（暗）

本官発台湾総督宛電報第一二号

満(1)州事件ハ軍事行動区域ノ拡大ニ伴レ急速解決困難ナルヤニ見受ケラルル処本官ハ外務大臣ノ訓令ニ依リ二十一日楊福建省政府主席ニ面会在留民保護方ニ付厳重申入レタル結果当局トシテハ相当取締ニ努メ居ル模様ナルモ威令毫モ行ハレサルト事件ノ性質上中央ノ対日策ニ策応シテ対日感情悪化ノ兆アリ当地ニ於テ最初ノ事件ヲ醸スコト無シトスルモ他地方ノ振合ヒニ依リ万一ノコトナキヲ保セサル処当地ハ近来台湾トノ船便悪シク乗船地点遠隔等ノ事情ニ鑑ミ万全ヲ期スル為メニハ無駄トナルトモ早手廻シノ必要アルニ付当館ハ二十三日不取敢一般在留民ニ対シ大体(一)貴重所持品等ハ成ルヘク二十六日出帆大球丸ニテ基隆ニ先送シ置クコト(二)台湾ニ親戚縁故本店等ノ関係アルモノ又ハ経済上余裕ノ向ハ早クハ同船ニ又ハ十月六日ノ次便船ニテ家族ヲ任意一時台湾ニ避難セシムル準備ヲ備ヘ置クコト(三)事態一層悪化セハ先ツ内地人婦女子全部（約二六〇名）ト台湾婦女子中ノ希望者ヲ同様避難セシメ(四)男子(内地人約一一〇名)台湾籍民（約一一〇〇名）ハ警備艦保護ノ下ニ引続キ業務ニ従事スル様居留民会及工会ヲ経テ指令セリ

然(2)ルニ台湾当地間唯一ノ連絡タル貴府命令大阪商船北支那航路ト台湾福州厦門航路トハ船繰甚タ悪シク近来往復共殆ト同日当地ヲ重複発着スルコトトナリ為ニ其間約十日間船便ナク万一在留民ノ引揚ノ際ニモ之ニ依リ難キ虞アルニ付機宜ノ措置トシテ時局安定ニ至ル迄大球丸ヲ北支那航路船発着ノ中間ニ挟ミ差当リ次回大球丸ハ是非共十月一日頃当地出帆（当地厦門間一航海欠ク）ニ繰上ケ爾後約五日毎ニ当地ヨリ台湾へ便船アル様船繰臨時変更方逓信部ヨリ受命会社タル大阪商船ニ指令方特ニ御詮議ヲ得タク当地トシテハ殊ニ在留民ノ安否ニ関スル重大問題ニテ右ニ依テ万一ニ処スル引揚方法ヲ講シ置キタキニ付折返シ何分ノ御回電願フ尚又此上更ニ事態悪化シテ婦女子全部ノ保護引揚ヲ必要トスルカ如キ場合ニハ中ニハ土着ノ在留民家族ニテ台湾ニ何等縁故ナク避難後ノ生活資力ナキモノ少数アル見込ニ付一時之等ノ保護収容方ニ付テモ御迷惑ナカラ御配慮煩ハシタシ　大臣、公使、厦門へ転電セリ

31　昭和6年9月(23)日　在福州田村総領事より幣原外務大臣宛（電報）

福州における事変への示威反日大会の状況について

福州
本省　9月23日後着

第八二号（暗）

二十三日午前当市南(ママ)較場ニテ満州事変ニ対スル示威反日大会アリ会衆大学其他ヲ合シ約一万ニ達シ省党部員等ニ依リ大挙宣戦布告国交断絶ヲ叫ヒ聴衆中ニハ即時開戦襲撃セヨ

ト云フ者スラアリシカ折柄突然ノ豪雨ニ大部分退去シ学生ノミ濡鼠トナリテ狂鬼ノ如ク口号ヲ叫ヒツツ城内ヲ遊行後無事散会セリ当日軍警百五十名ニテ会場ヲ警戒シ城内方面警備台湾人住宅保護ノ為警査隊ヲ派遣セリ
支、厦門へ転電セリ

32　昭和6年9月(23)日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

鎮江へ警備艦派遣取計方に関し稟請について

南京　本省　9月23日前着

第五七五号（暗）
本官発在支公使宛電報
第五四一号
鎮江日本人会長ヨリ同地在留民ハ頗ル不安ニ駆ラレ居ル趣ヲ以テ至急警備艦派遣方申出タルニ付テハ右司令官ト御打合ノ上然ル可ク御取計相成度シ
大臣、漢口へ転電セリ

33　昭和6年9月23日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京市党員大会における蔣主席の演説について

南京　9月23日後発　本省　9月24日前着

第五七九号
往電第五六五号末段南京市党員大会ハ二十二日中央大学大講堂ニ於テ開催蔣介石戴天仇朱家驊等モ出席セルカ席上蔣介石ハ今回日本ノ暴行ハ東洋ノ平和ヲ破壊セルノミナラス世界ノ平和ニモ影響スルニ足ル重大事件ナルヲ以テ吾人ハ堅実、沈着ナル態度ヲ以テ之ニ臨マサルヘカラス今回ノ事件ニ依リ㈠国際間ニ正義アリヤ世界各国ハ横暴ヲ制裁シ平和ヲ確保スル決心アリヤ㈡中国人ハ全国一致愛国的精神ヲ発揮シテ外患ニ当リ得ルヤ否ヤノ二点ヲ試験スル事ヲ得ヘシ事件発生後世界ノ輿論ハ日本ノ非ヲ認メタルカ此際民衆ハ秩序ヲ守リ政府ニ服従シ妄動スヘカラサル旨述ヘタル趣ナリ
右大会ハ㈠即日対日絶交作戦準備方中央ニ請訓スル案㈡全国各級党部ニ通電シ即時ニ党員救国義勇軍ヲ組織スル案㈢全国ヘ通電シ永久ニ対日経済絶交ヲ行フ案等十五件ノ提案

ヲ決議セル後游行ニ移リ其流レハ往電第五七七号ノ通屢々当館門前ニ押寄セ打倒日本帝国主義ヲ絶叫セリ
支、北平、青島、天津、済南、漢口、広東ニ転電シ奉天ヘ暗送セリ

34　昭和6年9月23日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京における排日大会の状況および外交部等の警戒について

南京　9月23日後発　本省　9月24日前着

第五八一号（暗）
往電第五七七号ニ関シ
本二十三日排日大会ハ予定通リ行ハレタルモ中国側ノ取締厳重ナリシ為示威行列等ハ当館方面ニ来ラス又在留民モ「ハルク」ニ避難シ居リタル為何等ノ故障ノ発生ナク無事経過セリ尚外交部員ノ談ニ依レハ今回ノ事件ニ関連シ民衆ノ外交部長ニ対スル攻撃甚シキニ鑑ミ事件発生以来外交部及外交部長官舎ハ多数ノ巡警ニ依リ警戒セラレ殊ニ本二十三日ニハ各百名ノ巡警ニテ固メタルカ当館同様示威游行ノ来襲ナカリシ為故障ナキヲ得タル趣ナリ不取敢冒頭往電ノ通転電セリ

35　昭和6年9月(23)日　在厦門三浦（義秋）領事より幣原外務大臣宛（電報）

日本人の生命財産の保護等に関する林警備司令との会談について

厦門　本省　9月23日後着

第七八号（暗）
閣下発公使宛電報第三六八号ニ関シ
往電第七四号申入レ後支那側官憲ハ私服警察官ヲ市中ノ要所ニ配備シ相当警戒ニ力メ居ル模様ニテ反日会ノ路傍演説貼紙等モ二十二日ニハ殆トナキニ至レルカ為念同日林警備司令ヲ往訪シ奉天事件ノ発生ハ遺憾ナルモ日本政府ニ於テハ事件ノ拡大化防止ニ努メ居リ又支那政府要路ニ於テモ同様ノ方針ニテ更ニ進ンテ日支両国間根本的誤解ヲ芟除スヘク腐心中ナリトノコトニモアリ旁恐ラク之以上重大化スルコトナカルヘシト思考スル処本件ニ関スル誇大ノ報道ノ為当地人心ノ激化ヲ来シ日本人トノ間ニ不測ノ出来事ノ発生

スルコトナキヤヲ虞レ居ル次第ニ付日本居留民ノ生命財産ノ保護ニ付テハ既ニ御手配済トハ存スルモ此上トモ配慮アリタキ旨申入レタルニ同司令ハ党部側ニ於テハ新聞紙等ニテ愛国的ノ言葉ヲ列フルコトハ之アルモ治安ヲ紊シ日本人ノ生命財産ニ危険ヲ及ホスカ如キコトハ絶対ニ之ナカラシムヘキニ付安心アリタシ自分ノ憂フル処ハ台湾籍民ノ軽挙妄動ニアリト述ヘタルヲ以テ本官ハ台湾籍民ニ付テハ既ニ事件発生ノ直後ニ於テ自重方訓諭シ置キタルカ更ニ昨日有力者ヲ招致シヨク事態ヲ説明ノ上不測ノ事端ヲ醸ササル様一般台湾人ヲ指導方説示シ置キタル次第モアリ台湾人方面ヨリ事ヲ構フルカ如キコトハ万々ナカルヘシト信ス本官トシテハ新聞紙ノ反日宣伝反日会ノ示威運動等熾烈トナルカ如キ場合ニ於テ何等カノ憂慮スヘキ事端ヲ招来セスヤト懸念シ居ル次第ナリト説明シタルニ同司令ハ新聞紙及反日会等ノ方面ハ自分ニ於テ何トカ法ヲ設ケテ取締ルヘク要ハ台湾人カ自分ヲ信頼スルヤ否ヤニアリト答ヘ余程台湾人ヲ心配シ居ル様見受ケラレタリ

支、北平、南京、福州、汕頭、広東、奉天ヘ転電セリ

36 上海における対日民心悪化の傾向について

昭和6年9月(24)日　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海
本省　9月24日前着

第五二八号（暗）

既報ノ通公安局側ハ邦人ノ充分ナル保護ヲ言明シ居留民側並ニ陸戦隊側ニ於テモ自ラ接近シ来リテ取締ヲ誓ヒ同時ニ軍隊ノ越界出動ナカランコトヲ懇請シ又居留民側ノ希望ヲ容レ反日傾向アル警察分署長等ノ更迭モ直ニ実行スル等誠意ヲ示シ居リ未タ格別ノ事故ヲ発生セサルモ二十一日頃ヨリ往電第五二六号ノ如キ通学児童ヘノ悪戯迫害稍目立チ来リ宣伝「ポスター」伝単等モ増加シ日貨排斥使用人職工等ノ「ストライキ」等発生ノ兆ヲ現ハシ来レリ往電第五二七号ノ次第モアリ今直ニ暴動等勃発ハ予想シ得ザルモ民心極度ニ悪化シ居ルヲ以テ将来ハ容易ニ逆睹シ難シ

支へ転報セリ

北平、奉天、漢口、天津、青島、済南、福州、広東、南京ニ転電セリ

37 杭州における排日状況悪化に伴ない日本人引揚げについて

昭和6年9月24日　※在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海　9月24日後発
本省　9月25日前着

第五三二号（暗）

米(1)内山代理ヨリ

第三二号
往電第三〇(二二文書)号ニ関シ

当地状況ハ各方面ヨリ来ル過激ナル情報ト当地党部ノ巧妙ナル宣伝ト相俟テ益々悪化シ来リ警官学校ニテハ邦人山田教官ヲ帰国セシメ同校学生カ直ニ示威運動ヲ開始シタルヲ手始メニ各学校学生カ漸次排日運動ニ参加シ旁日支国交断絶スヘシ等ノ謡言伝ハリ人心不安ヲ極メツツアルヲ以テ小官ハ本官発上海宛電報第四号ノ通不取敢婦女子ノ引揚ヲ決行スルコトトシ其準備中ナリシ処同二十二日夜邦人襲撃ノ報伝ヘラレ又二十三日ニハ市民大会ヲ開催学生労働者等ヲ糾合シテ大示威運動ヲ起スヘシトノコトニ有之在留邦人極度ニ不安ヲ感シタルモノノ如ク同夜一同当館ニ集合種々協議ノ結果何レモ引揚ヲ希望シタリ

(2)是ヨリ先小官支那官憲ノ意向ヲ確メタル処素ヨリ在留邦人保護ニハ全力ヲ竭スヘキモ今回ノ民心ノ激昂ハ従来ト異ナリ熾烈ナルモノアリ此間ニ又共産党ノ煽動アルヤモ知レサルニ付邦人ノ外出ハ成ル可ク差控ヘラレ度ク又上海方面ヨリノ旅行者ハ差止メアリタシトノコトニテ万一ノ際ニ果シテ其保護ニ信頼シ得ヘキヤ否ヤ疑問ニ有之殊ニ二十三日市民大会後当館並ニ居留民住宅ニ殺到スヘキ計画アリトノ密報モ有之何レニシテモ今後居留民不安ノ事情ハ到底消滅セサルヘク旁当地ニ於テハ居留民側ニハ特ニ引揚ケ困難ノ事情モ存セス且之ヲ引止ムル必要モナカルヘキヲ以テ此際寧ロ居留民側ノ希望ニ基キ早キニ従テ引揚クルヲ可トスヘク依テ急激居留民男子ノ引揚ヲモ決定シタリ

小官及館員ハ兎ニ角二十三日ノ市民大会ヲ避クル為一先ツ共ニ上海ニ赴キ事件収マリ次第直ニ帰杭スルコトトセリ右ハ居留民側ノ希望ニ基ク咄嗟ノ際ノ決定ニ有之経伺御訓令ヲ仰ク遑ナカリシ次第ナルニ付右事情御了承ノ上御承認ヲ請フ

南京、蘇州ニ転電シ支へ転報セリ

38　昭和6年9月24日　※在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

杭州在留日本人等の上海到着について

上海　9月24日後発
本省　9月25日前着

第五三四号（暗）

米内山領事代理ヨリ

第三三号

往電第三二号ニ関シ

在杭州居留民及旅行者トモ計三十名（男十四名（ママ）女十五名）二十三日杭州発無事上海ニ到着セリ尚外ニ当館管内内地ニ居住スル邦人四名（男二名女二名）ニ対シテハ別途安全引揚ケノ途ヲ講シツツアリ今回ノ居留民引揚ケニ際シ小官ハ二十二日夜張市長ヲ往訪其途中ノ保護ヲ依頼シ並ニ小官ハ一行ヲ上海迄送リ届ケ直ニ引返スヘキ旨伝ヘ置キタリ本官ハ杭州ノ状況ヲ見極メノ上直ニ帰杭ノ予定ナリ御含ミ置キヲ請フ

支へ転報セリ

39　昭和6年9月24日　在福州田村総領事より幣原外務大臣宛（電報）

福州総領事館署員家族の台湾避難の取扱に関する配慮方について

福州　9月24日前発
本省　9月24日後着

第八三号（暗）

往電第八一号台湾総督府宛拙電ノ通当地ハ交通不便ノ特殊事情ニ鑑ミ万全ヲ期スル為在留民ニ対シ不取敢同電ノ通婦女子及所持貴重品ヲ便宜任意ニ台湾ニ一時的避難方ノ指令ヲ発シタルニ付テハ万一ノ際館署員カ在留民保護ニ付行動ノ敏活手配上ノ遺憾ナキヲ期スル為ニハ今後形勢ノ推移ニ応シ館署員家族モ在留民同様予メ一時（差当リ一ケ月位）台湾ニ避難セシメ置クコト職務遂行ニモ必要ナルヘキカト存セラルル処右ハ非常時ニ際シ又多少公務上ノ必要ヲモ含ム次第ナルヲ以テ普通帰朝呼寄ノ例ニ依ラス本官ノ裁量ニテ取計方並一時避難滞在等ニ付テモ各自相当費用ヲ要スル次第ニモアリ相成ヘクハ南支方面ヨリ台湾出張ノ場合ニ準シ台湾避難滞在中ニ限リ之ヲ内地帰朝ト看做サス引続キ妻加俸支給方御承認ヲ請フ

40　昭和6年9月(24)日　在蘇州川南領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

蘇州における党部、反日会、学校等の宣伝活動について

蘇州
本省　9月24日前着

第二六号（暗）

満州(1)事件ニ関シ当地ノ党部、反日会、学校其他ノ団体ハ連日新聞ト共ニ輿論ノ激成ニ努メ宣伝隊ハ市内ノ茶館劇場等ヲ初メ往来ノ群集ヲ集メテ民心ノ激励ニ奔走シツツアリ二十二日県政府ニ於テハ党部軍部行政機関ノ首脳者ヲ集メ会議ヲ開キタル結果㈠二十五日午後一時公共体育場ニ於テ民衆大会ヲ開キ二十六日ヲ宣伝日トスルコト㈡宣伝日ニハ各地中等学校以上ハ休業シ教員引率ノ下ニ学生隊ヲ分派シ宣伝ニ従事セシメ小学生ニ対シテハ教員ヲシテ講演セシムルコト㈢地方治安ハ軍警ヲ以テ維持スルコト等ヲ決議セルカ在留邦人ニ対スル人気ハ漸次悪化ノ傾向アリ邦人ヲ罵詈シ悪戯ヲナス者頻出ノ傾向アル為（以下脱）(2)租界外居住者中民国側ノ被傭者ハ傭主ノ勧告モアリ旁自発的ニ租界内ニ引揚ケタルカ工場方面ニ於テハ邦人ノ引揚ケヲ見タル場合ハ工人ノ経営ニ移スヘク企テ居レルヤノ聞込ミモアリ一般在留民ニ於テハ当地ノ形勢ト各地不穏ノ報道トニ怖ヘヲ来シ漸次不安ノ念ヲ加ヘツツアルニ依リ本官ハ此ノ際種々ノ謡言ニ惑フコトナク冷静ナル態度ヲ持シ軽挙妄動ヲ慎ム様折角説示シツツアリ居留民保護ニ付テハ往電第二五号ノ通二十一日本官県長ニ会見シタル上更ニ園田署長ヲシテ直接公安局長ニ申入レ置カシメタルカ両人トモ充分ニ其責ニ任スヘキヲ以テ安心アリタキ旨言明スル所アリ目下ノ処租界付近ノ警戒其他ニ対シテハ当館ト連絡ヲ保チ誠意ヲ以テ当リ居レリ

支ヨリ上海ニ転報アリタシ

支、北平、南京、杭州ニ転電セリ

41　昭和6年9月24日　在蘇州川南領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

蘇州在留日本人の引揚げに関する意向について

蘇州　9月24日後発
本省　9月24日後着

第二七号（暗）

本官発在支公使宛電報
第一四号
貴電第一号ニ関シ
当地ノ状勢ハ今日迄ノ処左程険悪化シ居ラサルモ南京、杭州方面ノ気勢ニ煽ラレ何時急転スルヤモ知レス在留民ニ於テハ明二十五日開カルヘキ民衆大会及二十六日ノ宣伝(脱)セル形勢ヲ見極メタル上態度ヲ決定スヘク申合セ居レリ在留民ノ引揚ハ工場使用人ニ動揺ヲ来サシメ昭和二年ノ事態ヲ繰リ返ス虞アルヲ以テ何レモ慎重ニ考慮シ居レリ工場数三使用人約八百在留民一〇八館員及家族三二
公使ヨリ上海へ転報アリタシ
大臣、南京へ転電セリ

42　昭和6年9月(24)日　※在重慶清野領事より幣原外務大臣宛(電報)

在成都総領事館の保護要請に関する四川省劉主席との会談について

重慶
本省　9月24日前着

第一五九号(暗)
成都発本官宛電報第二三号
大臣へ転電アリタシ
第二三号
十八日勃発セル奉天事件ニ付テハ重慶及漢口ヨリ簡単ナル電報アリシノミナル処当地新聞ハ二十日以来号外ヲ除キ南京無線電報トシテ日本軍ノ奉天外南満各地ノ占領ヲ報シ日本ノ横暴ヲ痛烈攻撃セルカ時恰モ成都反日会ノ対日経済絶交宣伝ノ際トテ民心一層激昂ノ模様アリ二十一日夜当館ノ塀ニ不穏ノ貼紙ヲ為シ又当館ノ塀ヲ打壊ハス等ノ噂モアルニ付万一ヲ慮リ二十二日省主席ヲ訪問シ時節柄当館ノ保護方ヲ申入レ置キタリ右会見ノ際劉主席ヨリ当館ニ対シ事件ノ真相ヲ尋ネタルヲ以テ右漢口来電ノ事実ノミヲ語リ置キタリ若シ支那新聞ノ通トセハ日支国交上一大事ニテ或ハ引揚ヲ要スルニ至ラサルヤト思考セラル何分ノ儀御回示ヲ請フ
支へ転電セリ

43　昭和6年9月24日　在香港吉田(丹一郎)総領事代理より幣原外務大臣宛(電報)

香港における中国人の邦人店舗襲撃事件につ

いて

香港　9月24日後発
本省　9月24日後着

第八三号(暗)
往電第八一号ニ関シ
昨二十三日午後八時支那暴民(学生及弥次馬数百名ニシテ裏面ニ煽動者アルモノノ如シ)ハ突如当地湾仔居住邦人店舗ヲ襲ヒ前後三四十分間ニ亘リ軒並ニ「ショウインド」ヲ破壊セルカ本官ハ此ノ報ニ接スルヤ直ニ所轄警察署ニ対シ至急邦人保護手配方要求スル一方館員ヲ従ヘ現地ニ急行被害状況ヲ視察セリ
被害戸数ハ一区画十一戸ニ限ラレ現ニ本邦人ノ身体ニ危害ヲ加ヘタル形跡無ク商品家財ノ損害亦大ナラサル見込尚本件突発ニ当リ当地警察当局ニ於テハ逸早ク巡邏隊ヲ繰リ出シ警戒ヲ厳ニシ本邦人保護ニ努メタル結果幸大事ニ至ラスシテ平静ニ復シ目下ノ処之レ以上拡大スル模様ナキモ時節柄在留邦人ニ対シ不慮ノ事件ヲ招カサル様特ニ政庁側ニ申入ルルト共ニ在留民各自ノ自重ヲ促シ置ケリ尚英国警視総監ハ今朝本官ニ対シ今回ノ事件ヲ未然ニ防止シ得サリシ件ニ付衷心遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ今後ノ本邦人保護ニ付万全ヲ期スヘキ旨言明シ又華民政署ニテハ二十五日漢字新聞責任者ヲ召集シ今後ノ記事ニ付特ニ注意スル様訓示スル筈
右不取敢
公使ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ
北平ヨリ奉天へ転電アリタシ
支、北平へ転電シ広東へ暗送セリ

44　昭和6年9月25日　※在上海重光公使より幣原外務大臣宛(電報)

漢口における排日状況と日本人の保護につい

て

上海　9月25日後発
本省　9月26日前着

第一〇三四号(暗)
漢口発本官宛電報
合第二三九号
大臣へ転電アリタシ
第六六七号
往電第六六六号ニ関シ

当地各漢字紙ハ二十日以来連日満州事件ニ関スル激越ナル排日論説ヲ掲ケ居ル処武漢軍官学校長銭大鈞及在当地第二剿匪宣伝処長蔣堅忍ハ武漢日報新民報奮闘報ノ紙上ニ過激ナル論評ヲ掲ケテ即時日本ニ対シ宣戦スヘキ旨ヲ高調シ居ル処就中銭大鈞ハ軍官学校ヲ中心トシテ躍起ニ排日行動ヲ開始セルモノノ如ク同人ハ既ニ蔣介石宛電報ヲ以テ断乎タル態度ニ出テ急速ニ日本ニ対シ宣戦スヘキ旨建言スル処アリタル趣ニシテ本二十三日同校学生ハ同人ノ指揮ノ下ニ武装シテ示威游行ノ上市中各所ニ於テ排日高唱ヲ為セルカ一方省市両党部ニ於テモ中央広東張学良其他各省市党部宛反日通電ヲ発スルト共ニ武漢三鎮ノ各反日会及経済絶交委員会ヲ操縦シ経済絶交ノ即時開始等ヲ策シ居ル有様ニシテ反日風潮漸次抬頭ノ風アリ在留邦人（特ニ租界外居住者）ノ不安日ニ高マリ居ルモ当地官憲ノ態度引続キ往電ノ通ニシテ何等衝突事件起ラサル限リ邦人ニ対シ急ニ直接行動ニ出ツルカ如キ形勢ハ今以テ之ヲ認メス

支ヨリ上海へ転報シ、北平、奉天、天津、青島、済南、広東、南京、鄭州へ転電ヲ請フ

冒頭往電ノ通転電セリ

45　昭和6年9月25日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における排日情勢悪化の邦商の取引に及ぼせる影響について

上海　9月25日後発
本省　9月26日前着

第五四六号

今次事変ノ影響ニ依ル当地一般排日状勢ノ悪化ハ随次往電ノ通リナル処之カ当地邦商ノ企業商取引ニ及ホセル影響ヲ見ルニ前数次ノ排日貨運動ノ際ヨリモ一段ト猛烈ニシテ一部特殊ノ商品ヲ除キ二十二、三日来殆ト停止又ハ休業ノ状態ヲ余儀ナクセラルルニ至レリ今各方面ノ状況ヲ概観スルニ左ノ通リ

一、紡績業ハ職工ノ動揺未タ無之モ製品ノ受渡二十三日以来全然杜絶シ綿糸綿布モ亦同様ニシテ新規取引絶無ナルハ勿論大契約ノ取消ヲ続々申込ミ来リ中国商「ブローカー」ハ邦商ニ寄付カス電話ニ依ル商談ヲモ拒否シツツアリ

二、紙類ハ新聞社方面ヘノ荷渡尚アルモ今後日本側ヨリノ

抵制アルヘキヲ見越シ加奈陀方面ニ注文ヲ発セル向アリ砂糖ハ二十二日以後新規取引ナク雑貨ハ契約品取消多シ

三、当地ニ工場ヲ有スル雑貨類ハ莫大小ノミ尚稍売行アルモ護謨靴革皮燐寸等荷動全然停止シ工場側ハ中国人職工ノ悪化警戒ニ之努メ（脱？）品トシテ麪雑穀ノ買付ハ尚商談出来ツツアルモ奥地ヨリ来ル貨物ノ出廻リハ今後激減スルニ至ルヘク輸出買付モ困難ナルニ至ルヘシ

支ヘ転報セリ、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、南京、広東ヘ転電セリ

46　昭和6年9月25日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

広東における排日状況について

広東　9月25日後発
本省　9月25日後着

第四五四号（暗）

満州事件ノ当地各方面ニ於ケル反響左ノ通

一、其後当地ノ新聞論調漸ク激越トナリ殊ニ往電第四四七号後段ノ台湾銀行ノ取付ニ関シ同銀行ハ既ニ支払不能トナリタリ等虚報ヲナシ居レリ

二、一方二十一日以来当館ヨリ居留民一般ニ対シ不祥事ノ惹起ヲ防ク為言動ヲ慎ム様篤ト申聞ケ置キタルハ既報ノ通ニテ一般ニ細心ノ注意ヲ用ヒタル処二十四日邦人店舗前ニ群集数千游行シ罵詈ヲ吐クモノアリタルモ幸ニ公安局特派巡警ノ保護ニ依リ何等被害ナカリシモ同日店舗ハ自発的ニ閉鎖セリ

三、曩ニ当地嶺南大学ニ転学セシ藤島留学生モ二十四日商工庁ノ勧告ニ従ヒ沙面ニ引揚来レリ

四、本二十四日当地外支人ヨリ成ル倶楽部ノ午餐会ニ出席セルニ当地基督教青年会幹部ハ本官ニ対シ当地国民政府ノ親日的態度ヲ従来ハ黙過シ来リタルモ今ヤ堪ヘ難シトノ口吻ヲ洩セリ

五、以上ノ形勢ニ鑑ミ当地警備嵯峨艦長トモ相談ノ上中国人ヲ徒ニ刺戟スルコトアルヘキヲ慮リ予テ二十七日当地入港ノ筈ナリシ駆逐艦ノ差遣差控ヘラルル様馬公司令官ニ手配済ナリ

六、尚一日ヨリ排日伝単並ニ「ポスター」ノ掲載ヲ見ルニ至レリ

右不取敢

支ヨリ上海へ転報アリタシ
支、北平、青島、南京、香港、奉天、天津ニ転電セリ

47　昭和6年9月25日　在広東須磨総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

広東における排日状況と取締り方申入れについて

広東　9月25日後発
本省　9月26日後着

第四五八号（暗）
往電第四五四号ニ関シ
其後新聞ノ報道振ハ愈露骨トナリ且紙面ノ大部分ヲ排日記事ニテ占メ居リ二十四日ノ如キハ「台湾支店取付ニ遭フ」等著シク中傷的記事ヲ掲ケタルニ付一日陳友仁ヲ往訪ノ際之等記事取締方ヲ申入レタルニ陳ハ独リ新聞記事取締リノミナラス当局ニ於テハ此際成ルヘク排日越軌行動ニ出テシメサル様細心ノ注意ヲ払ヒ居リ現ニ二十四日中山大学生数百名カ二十四時間内ニ日本領事及居留民ヲ立退カシメラレタシ等数校ノ請願ヲ齎シタル際ノ如キ唐紹儀ハ一言ノ下ニ之ヲ跳付ケ引退ラシメタル程ナリトテ之ヲ快諾シタリ
右不取敢電報ス
支ヨリ上海へ転報アリタシ
支、北平、奉天、天津、青島、南京へ転電シ香港へ暗送セリ

48　昭和6年9月25日　在蘇州川南領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

蘇州における市民大会の反日気勢について

蘇州　9月25日後発
本省　9月26日前着

第三〇号（暗）
往電第二六号（四〇文書）ニ関シ
市民大会ハ予定ノ通リ本二十五日午後一時ヨリ開カレ官民各界ノ参加者約四千名各代表者ノ悲憤慷慨演説行ハレ反日気勢ヲ高調シテ散会セリ
既ニ日没トナリタル為別ニ示威運動モ行ハレス無事経過セルカ反日「ポスター」伝単等ハ市内隈ナク撒布セラレ住民ノ敵愾心日ヲ逐ヒ加ハリツツアルヤニ察セラルルニ付明二十六日宣伝隊（主トシテ党部学生）ノ行動ハ注意ヲ要スヘク警戒中ナリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ
支、北平、南京へ転電セリ

49　昭和6年9月(25)日　在重慶清野領事より
幣原外務大臣宛（電報）

雲陽丸の重慶繋留希望について

重慶
本省　9月25日前着

第一六一号（暗）
往電第一五七号（一〇文書）末段ニ関シ
雲陽丸ハ二十三日入港シタルカ往電第一六〇号ノ如キ劉湘ノ態度ナルニ付現在ニ於テハ危険ヲ予想セラレサルニ似タルモ当地ノ事態ハ他地方ノ事態ニ依リテ変化スヘク在留民モ為ニ頗ル恐怖ヲ感シ居リ又宜昌ヨリ当地ヘノ汽船ノ溯航ハ四日ヲ要シ万一ノ場合間ニ合ハサル惧モアル処同船ハ宜昌発漢口宛電報第四五号ニ依レハ当分宜昌ニ繋留中ノモノナル趣ナルニ付テハ等シク繋留セシムルモノナラハ当地ニ繋留セシムル様日清汽船本社ヘ御交渉ナシ置カルル様致シタク本件ハ費用ノ払出ヲ要スルモノナルニ鑑ミ右為念
支、上海へ転電セリ
（欄外注記1）
日清汽船、逓信省管船局何レモ雲陽重慶繋留方異議ナキ旨述ヘタリ　九、廿六（松村印）
（欄外注記2）
経費ハ重慶宜昌何レニ繋留スルモ大差ナキ趣ナリ

50　昭和6年9月(25)日　在重慶清野領事より
幣原外務大臣宛（電報）

居留民避難対策に関する艦長との打合わせについて

重慶
本省　9月25日前着

第一六二号（暗）
往電第一五八号ニ関シ
督弁及市長ノ態度ニ見テ無事ナルヘシト思考シタルモ本二十四日ハ当地租界取極満三十年ノ当日ナルニ付万一ノ場合ヲ慮リ曽テノ御訓電ヲ体シ艦長トモ打合セノ上
㈠租界隣接地ニ密偵ヲ派シ人民其他ノ群集カ租界侵入ノ模様アルトキハ早キニ従ヒ婦女子ヲ本邦汽船ニ収容ス
㈡侵入群集暴行ノ模様アルトキハ男子モ同様ニ避難セシム（之ニ便スル為ニ江岸ニ小蒸汽船ヲ繋留シ置ク）

㈢侵入ノ群集カ租界回収ノ事実ヲ為ス場合ニハ当館員及城
外方面ノ全在留民ヲモ汽船ニ引揚ケシメタル後官憲ニ対
シ期限ヲ付シテ明渡シ請求ノ交渉ヲ開始ス
㈣之ニ応セサル場合ニハ其後ノ措置ヲ軍艦側ニ委ス
迫テ㈢以下ニ関シテハ其遑アル限リ請訓スルコト固ヨリナ
リ
トノ段取ノ腹ヲ以テ尚成ルヘク武装水兵ノ上陸ヲ見合スヘ
キ方針ノ下ニ手配シ置キタリ
支、上海、南京ヘ転電シ漢口、宜昌、成都ヘ暗送セリ

51　昭和6年9月25日　※在重慶清野領事より
幣原外務大臣宛（電報）

成都における情勢不穏と日本領事館警護について

重慶　9月25日前発
本省　9月25日後着

第一六六号（暗）
成都発本官宛電報
第二四号
支ヘ転電アリタシ
第二号
大臣ヘ転電アリタシ
第二四号
満州事件ニ関シテ当地二十余ノ新聞ハ何レモ大々的ニ事件
ヲ報道シ且事実ト認メ難キ日本軍ノ暴行的行為ヲ掲ケ又社
説等ニテ筆ヲ極メテ日本ヲ攻撃セル為折柄成都反日会ノ対
日経済絶交宣伝ノ際トテ人心一層激昂シ居レル模様ニテ不
穏ナル噂モアルニ付小官発大臣宛電報第二三号ノ如ク二十
二日当局ニ対シ当館ノ保護方申入レ同日ヨリ特ニ当館ノ警
戒ヲ始メタルカ本日城防司令ヨリ武装兵ヲ当館ニ派シ領事
館ニ対シテハ公安局トモ連絡シ警戒セルヲ以テ心配ナキモ
成都ノ青年中ニハ不良ノ者モ少カラス民心激昂ノ折柄万一
ノコトアリテハ大事ニ付領事ハ素ヨリ館員及家族ノ方モ当
分ノ間成ルヘク外出ヲ差控ヘラレタキ旨特ニ申出アリ又昨
日モ親シキ某中国人ヨリモ同様ノ注意アリタルニ付館員及
家族ニ対シテモ外出ヲ禁シ居レリ尚当地ニハ館員及家族ノ
外本邦人ハ中国人ノ妻トナリ居ル者五人居ルノミニテ之等
ノ者ハ中国人同様ナレハ特ニ保護方手配スルノ要ナシト認
ム

大臣、支ヘ転電セリ

52　昭和6年9月(25)日　在汕頭戸根木領事館事務代理より
幣原外務大臣宛（電報）

汕頭における対日感情の悪化について

汕頭
本省　9月25日後着

第二六号（暗）
往電第二四号ニ関シ
其後対日感情ノ悪化漸次露骨トナリ対日罷工経済絶交等ノ
噂巷間ニ流布セラレ万宝山事件朝鮮事件ニ際シテ制シ居タ
ル反日的鬱憤モ加ハリ何等カノ切懸ケニ爆発セントスル感
アリ今日迄ノ市中ノ状況左ノ通リ
一、市党部ニ於テハ二十三日午後執行委員ノ緊急会議ヲ開
キ本月二十八日各界対日示威大運動ヲ挙行シ全市一律ニ
休業娯楽ヲ停止セシムルコト並全国一致スル為蔣介石ヲ
下野セシメ迅速ニ対日宣戦ノ布告方政府ニ電請スルコト
等ヲ議定セル旨二十四日ノ漢字紙ニ掲載セラレタリ右示
威運動内容ニ付探査シタル処ヲ綜合スルニ市党部ハ未タ
省党部ヨリ反日実行ニ付何等指令ニ接シ居ラサルモ目下
ノ処省党部ノ許可ヲ得ラルルモノトシテ各界大会並示威
巡行等挙行ノ準備ヲ進メ同日対日法案ヲ討議セントスル
モノノ如シ依テ本官ハ直ニ館員ヲ政府ニ派シ事端惹起ノ
虞アル此種反日行為ノ阻止並特ニ居留邦人ノ保護ニ留意
方申入レシメタル処市長ハ愛国運動ハ阻止スルコト困難
ナルモ危害ノ行動ハ充分取締ル旨述ヘタル由ナリ(脱?)
ノ事情ニ依リ事態ノ悪化ヲ慮リ且ツハ居留民モ頗ル不安
ヲ感シ居ルニ付不取敢馬公司令官ニ軍艦派遣ヲ請ヒタリ
二、華僑互助社並市内通信社連合会ハ二十三日午後ヨリ反
日伝単ヲ撒布セル外打倒日本帝国主義打倒東亜平和之破
壊者日本等ノ大貼紙ヲ目抜ノ所ニ出タセルカ各漢字紙ニ
在リテモ申合セノ結果本日ヨリ一斉ニ本邦人ノ広告登載
ヲ拒否シタリ
三、其他中等学校ニ在リテモ政府対日宣戦ノ要求反日講演
隊ノ組織等ヲ決議セルモノアリ又市中ニハ二十八日ノ示
威運動ニ関シテ本邦人ニ嚇シ文句ヲ吐ク者モ出テ其他反
日ニ関連シ経済絶交実施ノ際之カ破壊者ヲ罰スル為暗殺
団ヲ組織スヘシ等中国一流ノ謡言ヲ流布スルモノモアリ
テ一般ノ対日感情悪化ハ次第ニ深刻トナルヤニ見受ケラ

ル尚台銀支店ノ中国人預金者ハ連日引出ヲナシツツアリ
右不取敢
支、北平、広東、南京、厦門へ転電セリ

53　昭和6年9月25日　在香港吉田総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

香港における排日状況と居留民の保護について

香港　9月25日後発
本省　9月25日後着

第八四号（暗）
往電第八三号ニ関シ（四三文書）
其後当地支那人ノ対日感情漸次悪化シ二十四日白昼日本人小学校掲揚ノ国旗ニ対シ何者カ火ヲ点シタル者アリ直ニ発見半焼ノ程度ニテ消シ止メタルカ本件ニ付テハ是非犯人逮捕方政庁側ニ特ニ申入置ケリ尚邦人ノ路上ニ於テ投石殴打セラレタル者アリ世上ニハ邦商襲撃ノ謡言頻々トシテ伝ヘラレ事態益々悪化ノ傾向アルニ鑑ミ本官ハ当地各関係当局ヲ往訪シ在留邦人保護ニ付最善ノ措置ヲ講スル様厳重申入置キタル処昨夜午後九時区々当地湾仔広場ニ雲集シタル支那群集ハ排日演説ニ煽ラレ周密厳重ナル警戒網ノ間隙ニ乗シ雪崩ノ如ク門戸ヲ鎖セル邦人商店ニ殺到シタルカ急報ニ依リ本官現場ニ赴キタル時ハ警察ノ力ニ依リ漸ク平静ニ復シ居タリ
右被害邦商ハ四戸ニシテ死傷等ナキモ此種襲撃並ニ各個的暴動ニ在留邦人ハ何レモ戦々兢々タリ一方英国警察当局トシテハ本官ヨリ厳重申入ノ次第モアリ折角暴民取締並邦人保護ノ為奔命シ居ル次第ナリ不取敢
公使ヨリ上海、南京ヘ転報アリタシ
北平ヨリ奉天ヘ転電アリタシ
支、北平ヘ転電シ広東ヘ暗送セリ

54　昭和6年9月25日　在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛

満洲事変に関する蔣主席の指令について

漢口　9月25日付
本省　10月13日着

機密第九八六号
昭和六年九月二十五日
在漢口

総領事　坂根準三（印）

外務大臣男爵　幣原喜重郎殿

奉天事変ニ関スル蔣介石ノ指令報告ノ件

武漢行営ヨリ出タル確実ナル消息ニ拠レハ武漢行営ニ於テハ本月二十日軍、政、商各代表会議ヲ開催シ奉天事件ニ対シテハ穏健態度ヲ持シ反日標語及反日口語等ヲ禁シ若シ民衆ニシテ軌外ノ行動アルモノハ極力制止スルコトヲ決議シタル処二十一日来当地各級党部宣伝部等ニ於テハ華街方面ニ激烈ナル反日標語ヲ貼布シ形勢険悪ナルヲ以テ其ノ状況並ニ向後ノ方針等ヲ蔣介石ニ請訓シタルニ二十一日午後蔣介石ヨリ返電アリ其大意ニ依レハ瀋陽ヲ強取セル日軍ノ行動ニ関シテハ我カ国人ノ均シク憤激措ク能ハサル処ナルモ政府ハ現ニ厳重交渉シツツアリ遠カラス解決スルニ至ルヘキヲ以テ今後民衆ニシテ軌外ノ行動ニ出ツルモノアラハ責任ヲ以テ制止シ交渉ヲシテ難局ニ陥ラシムルカ如キコトアルヘカラスト云フニ在リ而シテ武漢行営ハ該命令ヲ接受スルヤ直チニ省市両党部ニ通牒セリト云フ
右報告ス
本信写送付先
公使、北平、奉天、天津、青島、済南、上海、広東、南京、九江、宜昌、沙市、重慶、長沙、鄭州

55　昭和6年9月25日　在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛

軍官学校武漢分校学生の示威行進について

漢口　9月25日付
本省　10月13日着

機密第九九二号
昭和六年九月二十五日
在漢口

総領事　坂根準三（印）

外務大臣男爵　幣原喜重郎殿

奉天事変ノ為武漢軍官学校生示威游行ノ件

本月二十三日午前十一時五十分頃軍官学校武漢分校ノ学生約一千名ハ武装着剣シ武昌ヨリ一碼頭ニ上陸シ武漢要塞司令部武装兵及市党部ノ宣伝隊ト合流シ同校副校長兼武漢要塞司令銭大鈞乗馬指揮ノ下ニ「打倒日本帝国主義」「全国一致総動員対日宣戦」「駆逐在華日軍」等ノ口号ヲ高唱シ

尚中国国民党中央陸軍軍官学校武漢分校特別党部ノ名ニ於テ別添「為日軍佔領瀋陽告全国同胞書」ノ宣伝ビラヲ撒布シツツ日清汽船会社前ヲ経テ横浜正金銀行前ヲ左ニ折レ老大智門ヨリ怡園ニ向ヒタリ

尚各特別区及華街方面ニハ党部及平漢路特別党部ノ名ヲ以テ本日打倒帝国主義同胞一致抵抗日軍実行経済絶交等ノ標語ヲ貼付シ反日気勢ヲ煽リ居レリ然レトモ苦力、車夫等ノ態度ハ目下険悪ノ徴アルヲ認メス

右報告ス

本信写送付先

公使、北平、奉天、天津、青島、済南、上海、広東、南京、九江、宜昌、沙市、重慶、長沙、鄭州

（別紙）

為日軍佔領瀋陽告全国同胞書

全国親愛的同胞們！向来懐着鬼胎、以侵略鄰邦、実行其所謂大陸政策与海洋政策的日本倭奴、藉口中村事件、突於本月十八日晩、出兵強佔我瀋陽了！当其佔領瀋陽的時候、即令一般野蛮日兵殺我同胞、繳我軍械、燬我兵工廠、焚我北大営房……此種不顧国際公法、不講公理人道的——倭奴、不僅要亡我国家！簡直要滅我種族而後快！

同胞們！我們要瞧得、日本藉口中村事件、即便出兵強佔我瀋陽、那麼、我們拿万宝山事件以及朝鮮排華事件両相衡量起来、我們就調集大軍将日本数島完全佔領、亦不為過甚、且所謂中村事件、究竟有無其事、有無其人、尚未調査明白、即使有之、以一浪蕩退伍之軍人、既無日政府之通知、又無中政府之護照、類似宵小、潜遊内地、縦被刺死、亦咎由自取、又何足怪、乃日帝国主義者、竟頽然不知羞、把万宝山事件及朝鮮排華事件置之度外、反信口雌簧捏造中村事件、一方面藉作敷衍万宝山及朝鮮排華案件之搪塞！

再進一歩、作実行亡我国家、滅我種族之導火線！此而可忍、孰不可忍。

同胞們！瀋陽已被日兵強佔了、且還有向我関内進展模様！看呵！那青天白日的旗幟已易為太陽式的旗幟在那裡飄揚了……聴呵！那整千整万的東三省民衆在那裡哭天無路、入地無門了……我們当此千鈞一髪、生死危亡的関頭、我們如願亡国滅種則已、否則、須上下一致、万衆一心、全国動員、対日宣戦！切不可存那所謂各人打掃門前雪、那管他人瓦上霜的旧観念！要知皮之不存、毛将安付、

国家已亡、種族奚保、同胞們！醒来吧！快快醒来吧！準備我們的頭顱和鮮血与那倭鬼去奮闘吧！総之今日的我們危殆極了！我不殺倭奴、倭奴必将滅我！与其坐而待亡、何若背城借一。同胞們！起来呵！趕快起来呵！預備我們的刺刀和槍砲殺到東京去吧。

駆逐在華日軍！

実行封鎖在華日僑糧食！

全国一致総動員対日宣戦！

殺到東京去！

打倒日帝国主義！

中国国民党万歳！

中国革命成功万歳！

中国国民党中央陸軍軍官学校武漢分校特別党部印

56

昭和6年9月26日　※在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

南昌および九江における排日状況と居留民の保護について

上海　9月26日後発

本省　9月26日後着

第一〇四四号（暗）

九江発本使宛電報

第八〇号

外務大臣へ転電アリタシ

第一〇〇号

当地方時局ニ関スル情報左ノ通リ

一、南昌及九江ニ於ケル漢字紙ハ満州事件ヲ以テ殆ト紙面ノ全部ヲ埋メ居リ激越ナル字句ヲ使用シ居レル処今回ノ事件ハ中村事件ニ依リ事端ヲ発シタル如ク書キ立テ居ル為一般市民中事件ノ真相ヲ承知セルモノ少シ

一、南昌ニ於テハ市内大通ニ「ポスター」ヲ貼布シ学生等ノ大道演説行ハレツツアリ九江ニ於テモ第五師並党部ノ主催ニテ昨二十四日中学校女学校生徒全部集合シ時局問題大講演会ヲ開催シタルカ何レモ過激ノ言辞ヲ弄シタリ

一、去ル二十三日市内大通ノ商店ハ省党部ノ命ニ依リ何レモ半旗ヲ掲ケ歌舞音曲ヲ停止シテ満州事件犠牲者ニ哀悼ノ意ヲ表シタリ

一、小官ハ当地当局者ニ対シ日本政府カ在本邦支那人保護ニ全力ヲ尽シ居ルコトヲ説明シ在留民ノ保護方依頼シタ

ルニ責任ヲ以テ保護スヘキ旨言明セリ
一、本日御真影及重要書類ヲ軍艦鳥羽ニ移セリ
一、在留民保護方ニ関シテハ軍艦鳥羽ト打合ヲ了シ万遺憾ナキヲ期シ居レルカ婦女子及児童ニ対シテハ本邦若ハ上海ヘノ引揚方ヲ慫慂セリ
尚在留民ノ重要品ハ軍艦ヘ其他ノ家財道具ハ日清「ハルク」ヘ保管スルコトトセリ
一、南昌其他ニ在ル本邦人ニ対シテハ上海若ハ当地ヘ引揚方慫慂セリ
一、当地日本人小学校ハ浸水ノ為引続キ休校中ナリシ処全ク減水シタルヲ以テ来ル二十八日ヨリ開校スル積ナリシカ児童カ登校ノ際支那人ヨリ危害ヲ加ヘラルル懸念アリ已ムヲ得ス此儘閉校スルコトトナレリ
北平ヘ転電シ漢口、南京、蕪湖、長沙ヘ暗送セリ
上海ヘ転報アリタシ

57 昭和6年9月26日 在福州田村総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

福州における排日状況と日本人の保護について

福州 9月26日後発
本省 9月27日前着

第八四号（暗）
当地其後ノ状況左ノ通
一、二十三日反日大会ニ際シ楊樹荘ハ本官申入レノ次第モアリ万一ヲ慮リ林知淵ヲシテ省党部ニ游行取止メ及対日示威運動ノ緩和方勧説セシメタルモ其効ナク大会会場ニ居残レル党部及反日会員等ニテ楊ノ態度ニ慊ラス面当テニ当夜邦人ヲ襲撃スヘシトテ賛否激論セリトノ情報モアリ前日来一般ノ悪空気ニ鑑ミ在留民ノ夜間外出ヲ禁シ非常警戒中当館書記生宿舎ニ何者カ電話ニテ応対ノ使用支那人ニ対シ当夜邦人ヲ襲撃スル筈ニ付支那人ハ即時立去レト言ヒ来レル者アリ翌朝門扉ニ「ペンキ」ニテ日人ヲ撲殺セヨト大書シ居留民会ノ門扉ニモ同様悪戯セルモノアリ其他東瀛学校宿直支那団員ニ対シテモ同校（ヲ）襲撃スル旨電話アリ城内閩報分館主任台湾人ハ反日会員ヨリ即時立退カサレハ放火スヘシト威嚇サレ又二三台湾人ヨリモ類似ノ報告アリタル外当館事務所及公館トモ朝ヨリ夜間迄殆ト間断ナク電話ニテ暴言悪戯ヲナス者アリシ

カ幸ニシテ内台人共何等事故ナク無事経過セリ
一、二十四日省政府ニテ党政連席会議ノ結果中央訓令ノ意ヲ体シ此際冷静自重軽挙妄動ヲ戒ムルコトニ意見一致セル趣ニテ一般ノ空気余程緩和セルカ二十五日朝本官来訪ノ仏国領事ノ如キモ城内方面ノ状況モ遽ニ平穏トナレルニ寧ロ驚（キ）居レリト語レル程ナリ
一、二十四日駆逐艦一隻入港本二十六日軍艦矢矧入港ノ予定又当地台湾間便船ハ当分四五日隔キ発着スルコトトナリ右ハ一般ノ情勢緩和ト共ニ在留民ニ安堵ノ念ヲ与ヘ二十二日ノ状況ニ鑑ミ一部婦女子ノ任意避難ヲ用意セル者モ一応形勢観望スルコトトセル向多シ
支、厦門ニ転電セリ

58 昭和6年9月(26)日 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛（電報）

南京における排日示威運動について

南京 9月26日後着
本省

第五九六号（暗）
当地其後ノ状況ハ民国側ノ取締厳重ナル為市内表面平静ナルモ時折十人、十五人ノ小団体日本人住宅前ニ至リ示威運動ヲ行ヒ又日本人ノ各住宅ニ頻々電話ヲ掛ケ悪口強迫ヲ為ス等尚不安去ラサルニ依リ新聞記者以外ノ在留民ハ今尚日清「ハルク」ニ起居シ居レリ
支、北平、奉天、漢口ヘ転電セリ
支ヨリ上海ヘ転電アリタシ

59 昭和6年9月26日 在香港吉田総領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

香港および九竜における事態悪化と日本人の保護について

香港 9月26日後発
本省 9月26日後着

第八五号（暗）
往電第八四号（五三文書）ニ関シ
其後事態益々悪化シ二十五日ヨリ遂ニ香港中央部並九竜方面ニ迄波及シ白昼邦人ノ暴行迫害セラレタルモノ十数件ニ及ヒ同夜湾仔方面邦人商店ハ又復投石襲撃セラレタリ今二十六日ハ仲秋節休日ノ為午前中ヨリ既ニ暴行ヲ開始シツツアリ邦人ノ外出ハ危険ノ状態トナレリ

右ニ関シ当地関係当局ハ本官ヨリ累次申入ノ次第モアリ警務局長官自ラ出動シテ折角暴動取締並邦人保護ニ全力ヲ尽シツツアルモ目下ノ処容易ニ鎮静スヘシトモ思ハレス右不取敢
公使ヨリ上海、南京ニ転電シ北平ヨリ奉天ニ転電アリタシ
支、北平へ転電シ、広東へ暗送セリ

60　昭和6年9月26日　在シンガポール伊藤（憲三）総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

シンガポールにおける排日状況について

シンガポール　9月26日後発
本　省　9月26日後着
第二六号（暗）

満州事件ニ関シ十九日来漢字紙ハ中国各地ヨリノ誇大ナル電報及悲憤慷慨的論説ヲ掲ケ各華僑組合カ本国政府等ニ対シ中国国内一致外敵ニ当ルヘキヲ慫慂セル通電及連盟ニ日本ノ非理ヲ訴ヘタル電信ヲ伝フル等紙面ノ大部分ヲ対日問題ニ費シ居ル状態ニシテ相当当方面華僑ノ民心ヲ刺戟シタル処各地ノ華僑ハ国民政府ノ提唱ニ呼応シ二十三日国恥日ヲ行ヒ弔旗ヲ掲ケ大部分ノ中国商店学校娯楽機関等示威休業ヲ為セリ
二十四日ニハ当地華僑総商会ニ於テ大会ヲ催シ連盟及「ケロッグ」条約調印国ニ援助ヲ請フヘク決議シ当館内ニ於テハ平和的行動ヲ執ル事等ヲ論議セルノミニテ総商会トシテハ排日決議ヲ為スニ至ラサリシ模様ナリ英国官憲ハ小官ト連絡ヲ保チ国恥日ニハ多数ノ警官ヲ主トシテ邦人集中地域ニ派シ総商会大会ニ於テモ警戒厳重ナリシト称セラレ半島方面ニ於テモ夫々手配シ事態ノ悪化ヲ防止シ居リ二十四日ニハ当地全部ノ新聞記者ヲ華民局ニ召喚シ過激ノ論調ヲ慎ミ不穏ノ記事ヲ警ムル所（アリ）目下本邦人ニ対シ危害ヲ加フルカ如キ事件ノ発生ヲ見ス尚当地官憲ハ郵便ニ付セル宣伝文書ヲ郵便局ヨリ連日押収シ居ルモ此種伝単ノ配布貼付ノ如キハ頓ニ増加ノ傾向アリテ対日感情尚緩和セス成行楽観ヲ許サス英国金輸出禁止ノ影響ニ依リ一般取引ハ目下事実上停頓シ居ルモ華商当業者団結ノ結果綿製品「エナメル」類ハ殆ト取引中止セラレ居リ陶器類及当地物産ニ於テハ表面邦商ト取引セサル申合ヲ為シタル趣ナルカ只今ノ処裏面ニ於テ間々有利ニ商売行ハレ居レリ

61　昭和6年9月26日　幣原外務大臣より在上海重光公使宛（電報）

重慶における民衆運動に関し租界および居留民保護について

本省　9月26日前1時発
第三八三号　暗、大至急
重慶ニ於ケル民衆運動ニ関シ租界及居留民防護方ノ件貴電第一〇一二号（二五文書）ニ関シ当方ノ方針及処置ニ関シテハ近ク決定ノ上申進スヘキモ差当リ重慶ニ於ケル中国民衆運動カ益々悪化シ我租界回収ニ及フコトアリトスルモ我警備艦ニ於テ実力ヲ以テ之ヲ防拒スルコトハ貴見ノ如ク他地方ニ及ホス影響ノ極メテ大ナルモノアルヘキニ鑑ミ情勢ニ依リテハ居留民及領事館員ヲ収容シテ一時下流ニ退去スルノ外無カルヘキモ暴力ニ依ル租界ノ回収ハ其儘容認シ得ヘキ限リニ在ラサルヲ以テ斯カル場合ニハ我方トシテモ勢ヒ其ノ適当ト認ムル所ニ依リ何等カ reprisal ノ手配ニ出テサルヲ得サルニ至ルヘキ処斯クテハ満州事件ニ因ル時局ヲ益々拡大シテ遂ニ収拾ス可ラサル状態ニ導クヘキコト必然ニシテ今次事件ニ因ル国交上ノ難局打開ニ付有ラユル苦心ヲ払ヒ居ル帝国政府ノ方針モ水泡ニ帰スルニ至ルヘシ右ハ本大臣ノ最モ不本意トスル所ナルト同時ニ国民政府モ亦固ヨリ欲セサル所ナルヘキニ付貴官ハ此際特ニ以上ノ趣旨ヲ以テ国民政府当局ノ深甚ナル反省ヲ促サルルト共ニ関係地方官憲ニ対シ民衆ノ越軌ノ妄動厳重取締方ニ付適切ナル訓令方申入レラレ度尚各地方館ノ報告ヲ綜合スルニ長江筋及南支沿岸各地ノ排日運動ハ日ヲ逐ウテ矯激ヲ加ヘムトスル風アリ地方官憲ノ邦人ニ対スル保護モ頼ムニ足ラス居留民ハ続々引揚ヲ開始シ居ル状態ニシテ殊ニ国民政府直接ノ権下ニ在ル南京ノ如キニ於テサヘ事態甚シク険悪ヲ呈シ居ル模様ナル処右ニ付テハ恐ラク国民政府ニ於テ満州事件ニ対スル国民的憤激ノ自然ノ発露ナル以上官憲ニ於テ抑制スルニ由無キ等一応ノ理窟ヲ付クヘシト思ハルルモ往電第三六五号ノ通リ当方ニ於テハ速カニ内務及植民地当局ヲシテ在留中国人ニ対スル保護方ニ付最善ノ手配ヲ講セシメ居リ一般国民モ自重シテ今日迄何等不祥事故ヲ起ササル状態ナルニ不拘中国民衆ノ排日運動此上猖獗ヲ続クルニ於テハ我国民ノ感情モ従ツテ激化シ勢ノ赴ク所官憲ノ保護モ遂ニ完全ヲ期シ難キニ至ル無キヤヲ保セサル次第ニ付右ノ点ニ付テモ併セ

テ国民政府ノ注意ヲ喚起セラレ至急有効ナル取締措置ヲ講スル様篤ト要求セラレ度
長江筋及南支各地領事ニ転電アリ度
北平、奉天、天津、青島ニ転電セリ

62　昭和6年9月26日　幣原外務大臣より在重慶清野領事宛（電報）

雲陽丸重慶繋留について

本省　9月26日後2時45分発

第三三号（暗）
雲陽丸重慶繋留ノ件
貴電第一六一号（四九文書）ニ関シ
雲陽丸ハ当分貴地ニ繋留セシムルコトニ日清本社ト話合済
支ヘ転電シ支ヨリ上海ヘ転報セシメタリ
（欄外注記）
費用ハ官員、重慶何レニテモ大差ナキ旨日清ヨリ確メスミ

63　昭和6年9月27日　在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

中国側の排日ボイコットの実状等各国に周知方について

上海　9月27日後発
本省　9月28日前着

第一〇五八号（暗）
在米大使来電第二二四号国務省ノ覚書末段ニ関シ民国側カ如何ニ「ボイコット」反日煽動等（政府及党ノ指導ノ下ニ全国ニ亘ル）ニ依リ事態ヲ悪化シツツアルカヲ各国側ニ徹底セシムルヲ要スヘシ
南京、北平、寿府、在米大使ヘ転電セリ

64　昭和6年9月（27）日　在福州田村総領事より幣原外務大臣宛（電報）

福州における中国官憲の日本人保護に対する配慮について

福州
本省　9月27日後着

第八五号（暗）
二十五日林知淵過般在留民保護ニ関スル楊樹荘ヘノ本官申込ニ対スル挨拶トシテ来訪シ其後党部方面ヘノ説得経過ヲ述ヘ前日ノ連席会議ニテ双方共ニ此際軽挙ヲ戒ムルコトニ

完全ニ一致シ在留民ノ保護方ニ付遺憾ナキ様夫々手配中ニ付何等懸念ヲ要セサル旨ヲ繰返シ反日大会当日在留民ニ不安ヲ与ヘタルコトハ遺憾ニ付一層保護方手配スヘシトテ辞去セルカ引続キ民政庁長鄭宝菁モ私交上ノ訪問ナリトテ略略同様ノ事ヲ繰返シ本官ヨリ在留民側ノ状況ヲ聴取ノ上即夜邦人区域ノ警戒ヲ増ス様公安局ニ命スヘク尚邦人側ニ不安不便ヲ与フルコトモアラハ事ノ大小ニ拘ラス何時ニテモ申出ラレ度ク問題自体ハ両国政府間ノ外交交渉ニ依ルヘキモ其間福建トシテ何等事端ヲ起ササル様邦人保護ニ付万全ヲ期シ居レリトテ尚一部不良台湾人ノ取締リ方ヲ求メタルニ付本官ハ危険ハ反日会分子トノ衝突ニアルヘキニ付此際当地方トシテハ反日会カ此上更ニ跳梁スルカ如キコトナキ様厳密ノ方法ヲ講スルノ外ナカルヘシト説明セル処良ク諒解セルニ付何トカ方法ヲ講スヘシトテ立去レリ右ハ中央ヨリノ訓令ニテ大体ノ方策モ目鼻ツキタルニ依ルコト勿論ナルヘキモ民政庁主席秘書欧洋英カ惲ナル一籍民ニ内話セル処ニ依レハ楊樹荘ハ東北艦隊ニ属スル一二砲艦カ我軍ノ手ニテ武装解除サレタリトノ報道ニ関シテ万一福建ニテ事端ヲ醸シ馬尾厦門ノ海軍ニ事アラハ自己ノ政治的致命傷トナルヘキヲ慮リ他省ハ兎モ角当地方ニテハ事端発生ヲ極度ニ取締ル方針ナリトノコトナルカ支那人間ニテハ馬公ノ我海軍ニテ又当地ハ台湾軍ニテ占領スル計画ナリトノ謡言アリ厦門ニテハ既ニ陸戦隊五百名上陸セリトノ新聞報道ヲ為シ居ル際当地ニモ駆逐艦一隻ノ入港アリ尚一隻入港ノ筈ナルニ付当方ニ先方ノ取締振リ説明ニ来レルモノナルヘク尚林知淵ハ本日厦門ニ向ヘルカ同様打合セノ為ト想像セラル
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
支、厦門ヘ転電セリ

65　昭和6年9月27日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

香港における日本人被害事件に関し英国側の注意喚起について

広東　9月27日後発
本省　9月27日後着

第四六四号（暗）
香港宛拙電第二四号ニ関シ
未タ確報ニハ接セサルモ右香港邦人ヨリ当地邦人ニ対スル電話情報ニ依レハ二十六日夜香港ニ於テハ邦人八名殺傷セ

ラレ邦人使用中国人僕婢ハ危険ノ為買出シニ外出スルヲ得ス殆ト食糧攻メノ状態ナル趣ナルニ付テハ右ハ直ニ当地中国人ニモ波及スル惧アリ当地邦人人心恟々タル有様ナルヲ以テ既ニ御気付ノ事トハ存スルモ此際閣下ヨリモ英国側ノ注意ヲ喚起セラルル様御措置相成度シ

尚二十七日宴会ニ落合ヒタル英国総領事ハ今次香港事件ハ英国屈辱トモ称スヘク且ツ当地ヘノ影響大ナルヘキヲ以テ至急香港総督ノ注意ヲ喚起スルト共ニ在華同国公使ニモ電報致シ置キタリト語リタリ

支、北平、奉天、南京へ転電シ香港へ暗送セリ

66 昭和6年9月27日 在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（電報）

重慶における反日市民大会の開催について

重慶 9月27日後発
本省 9月28日前着

第一七二号（暗）

往電第一六七号ニ関シ

一、市民大会ハ二十八日午前十時ヨリ開カルルコトトナリ

同日ニハ全市民ハ朝食ヲ絶チ宴会娯楽ヲ中止シ商店学校工場等ハ半旗ヲ掲ケテ業ヲ休ミ市民一般ニ喪章ヲ用フルコトニ宣伝シ居ル趣ナリ

二、本日ノ新聞紙ノ報道ニ依レハ劉湘ハ別電第一七三号（見当ラズ）ノ通所属ノ各県ニ発令シタル趣ニテ又現ニ当館及各在留民宅付近ニ武装及平服ノ軍警ヲ配セシメ居リ且右大会開催準備相談会ニハ市政府ノ公安局長社会局長等モ参加シ居ルハ内部ヨリ之ヲ取締ラン意トモ解セラルル節アリ要スルニ当地官憲ノ我居留民保護ノ努力ハ認メラルル次第ナルカ万一ヲ慮リ明日ハ婦女子ヲ雲陽丸ニ避難セシムルコトトセリ

三、広安ニ在ル第二十軍長楊森ハ省内軍閥ノ各首領ニ対シ対日開戦ノ場合ニ於ケル四川省ヨリノ出兵額ト其準備ニ付協議ノ為速ニ会議ヲ開クヘシト通電セリトノコトナリ

四、我居留民ナキ地方ニ於テモ反日風潮盛ナリ

支、上海、南京、漢口ニ転電シ宜昌、成都ニ暗送セリ

67 昭和6年9月27日 在香港吉田総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

香港および九竜における日本人の被害について

香港 9月27日後発
本省 9月27日後着

第八七号（暗、至急）

往電第八五号（五九文書）ニ関シ

二十六日仲秋節トテ事態或ハ悪化スヘシト想像セラレタル処果シテ湾仔邦人商店街ニハ午前中ヨリ既ニ襲撃始マリ更ニ悪化ノ兆アリタルニ依リ本官ハ政庁側ト相談ノ上同方面居留民保護完全ヲ期スル為一所ニ集中ノ策ヲ執リ之ヲ日本人小学校ニ収容セリ然ルニ同日ハ九竜方面ニ於テモ邦人居宅ノ襲撃起リ夜ニ入リ軍隊ノ出動ヲ見ルニ至レリ之ヨリ曩同方面ノ居住民ニモ夫々最寄ニ集中方命シ置キタル処比較的遠隔ノ地ニアリ引揚間ニ合ハサリシ邦人二名（姓名不詳）殺害セラレタリ

公使ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ

北平ヨリ奉天ニ転電アリタシ

公使、北平ヘ転電シ広東、厦門、汕頭ヘ暗送セリ

68 昭和6年9月27日 在香港吉田総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

九竜における日本人被害者について

香港 9月27日後発
本省 9月27日後着

第八九号（暗）

往電第八七号（六七文書）ニ関シ

殺害セラレタルハ長崎県人山下純次郎（四十一）同人妻ハルニシテ同人母ミヨ長男美代治（九才）四男四郎（四才）及女中山口スミハ重傷入院後死亡外ニ小供二名負傷襲撃ノ報ト共ニ直ニ軍隊出向キタルモ間ニ合ハス其場ニ於テ下手支那人二名射殺十名捕縛セラレタリ

69 昭和6年9月27日 幣原外務大臣より在上海重光公使宛（電報）

華中および華南の日本人保護に関し遣外艦隊と連絡方について

別電 同日幣原外相より重光公使宛第三八九号
華中・華南方面の居留民保護方に関する閣議決定

本省 9月27日前1時30分発

第三八八号 暗、極秘

中支及南支居留民保護ニ付遣外艦隊ト連絡方ノ件

中支及南支方面ニ於ケル居留民保護方ニ関シ二十四日閣議ニ於テ別電第三八九号ノ通リ決定シタル処右ハ如何ナル時機ヨリ発動スベキカハ現地ノ情況如何ニ依リ決セラルヘキ所ナルモ今後ノ心得トシテ予メ海軍省ヨリ第一遣外艦隊司令官ヘ訓令済ナルニ付テハ貴官ハ右趣旨ニ依リ遣外艦隊側ト連絡セラレ今後ノ情勢ニ応シ機宜ノ措置ヲ講シ得ルノ用意ヲ整ヘ置カレ度尤モ漢口ハ目下水害ノ折柄ニモアリ昭和二年ノ場合ノ如ク上流各地居留民ヲ同地ヘ収容シテ現地保護ヲ加フルコト実際上或ハ困難ナルヘク其ノ場合ニハ全部上海ヘ集合セシムル外無カルヘキニ付右ニ付テハ現地ノ実情ニ照ラシ臨機ノ措置ヲ執ルコトトシ以上ノ方針ニテ今後必要ニ応シ随時関係領事ヲ指導セラレタシ

別電ト共ニ上海ニ転報シ漢口ニ転電アリ度

（別　電）

本省　9月27日前1時30分発

別電第三八九号　暗、極秘

中支及南支居留民保護ニ付遣外艦隊ト連絡方ニ関スル件

二十四日閣議ニ於テ海相ヨリ情報ニ依レハ中支南支方面ハ漸次形勢悪化ノ模様ナルガ海軍ノ実力ヲ以テスル居留民保護ノ効果ハ内地ノ局地ニハ及ヒ難シ青島ハ兎モ角ナルガ揚子江方面ハ最モ懸念セラルル所ニシテ例ヘハ重慶ノ如キ少数ニテモ居留民ノ在留シアル以上之カ保護ノ為メ我武力ノ存在ヲ必要トシ従ツテ一旦暴徒等蜂起スルニ於テハ最後ノ一兵ニ至ル迄死力ヲ尽シテ踏ミ止マラザルヲ得ザルベシ然カモ一局地ニ如斯キ事態ヲ生ゼンカ直ニ全流域ニ波及ヲ予期セザルベカラザル所事ノ重大ナルニ鑑ミ此ノ際政府トシテ方針ヲ定メ置ク必要アルベシ

ト諮リタルニ

斯ル場所ノ居留民ハ寧ロ早目ニ適当ノ地ニ引揚クルノ外ナカルベシト云フニ意見一致シ

揚子江方面ハ前例ノ如ク漢口及上海ニ集合現地保護ヲ計ルコトニ同意アリタリ

70　昭和6年9月(28)日　※在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

漢口における排日運動の状況および官憲軍警の排日取締りについて

上海
本省　9月28日後着

第一〇六一号（暗）

漢口発本使宛電報

合第二五一号

大臣ヘ転電アリタシ

第六七七号

一、中国側新聞ノ無稽ナル悪宣伝ハ依然猛烈ヲ極メ排日標語及「ポスター」ハ市中一面ニ貼リ廻サレ居レリ一時ハ市中一般ノ空気相当昂マリタルモ多少共事情ノ判明スルニ伴ヒ官憲ノ取締ト相俟テ若干落付ヲ生シタルヤニ認メラル

一、武漢軍警ハ満州事変ノ為党部ノ活動勢ヲ加ヘ民心大イニ刺戟セラレ居ル状勢ニ鑑ミ地方的事端ノ発生ノ結果日本側ニ口実ヲ与ヘ又ハ共産党ニ乗セラルルコトヲ恐レ軍憲トシテ（脱）反日運動ヲ取締ニ決定シ軍警ニ詳細ナル密令ヲ発シタル事実アリ

一、武漢警備司令夏斗寅ハ二十六日代表者ヲ本官ノ許ニ派シ官憲側ノ意向ヲ伝ヘ当地在留邦人ノ生命財産ノ保護方ニ付テハ万遺漏ナキ様手配済ナルニ付安心アリタキ旨申入レ来レリ

一、湖北救亡会ハ王錦霞、ソウセイギ等四三事件以来排日毎ニ牛耳ヲ執レル人物五名ヲ常務委員ニ任シ義勇隊宣伝隊等ノ陣容ヲ整ヘ党部及反日会ト連絡ヲ執リ経済絶交遊行大道演説等ヲ計画シ居ルモ目下特別戒厳中ナル為前報以後ハ遊行演説等モ禁止セラレ僅ニ中央直轄タル軍官学校ノ宣伝隊ノミ市中ヲ横行シ居レリ

一、経済絶交ハ早晩避ケ難カルヘキ形勢ナルカ当地総商会側トシテハ形式的ニ救亡会ニ二三委員ヲ参加セシメタルニ止リ今尚経済絶交ハ商人自体ニテ之ヲ行フヘキモノナリトノ建前ヲトリテ党部側指導ノ本運動ニ参加方ヲ肯ンセス従テ此際直ニ日貨ノ登記及愛国基金ノ徴収等ヲ行フコトナク暫ク時局ノ成行ヲ見送ル事ニ打合タル趣ナリ

一、紡績職工ノ動静ニ付テハ特ニ警戒中ナルカ今日迄著シク不穏ノ模様ナシ尤モ万一ノ場合ヲ慮リ工場内居住邦人ノ家族ハ内地ニ引揚ケシムルコトトナレリ

一、当地ノ現況上記ノ如クナルニ照シ本官ハ絶ヘス海軍側ト連絡シテ鋭意突発事変ニ備フルト共ニ中国側新聞ノ悪

宣伝ニ対シ機会アル毎ニ事実ヲ鮮明シテ帝国政府ノ態度ヲ正解セシムルニ努メ同時ニ四三事件以来恐怖ニ捕ハレ易キ在留邦人ヲ慰撫シテ極力人気ノ鎮静ニ心掛ケツツアリ

公使ヨリ上海、南京ヘ転報シ、奉天、北平、天津、広東ヘ転電ヲ請フ

例ノ通リ暗送セリ

71　昭和6年9月28日　※在漢口坂根総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

長沙における反日示威大会当日の状況および排日運動漸次悪化の傾向について

漢口　9月28日後発
本省　9月29日前着

第六八〇号（暗）

長沙発本官宛電報第八二号

大臣ヘ転電アリタシ

第七八号

往電第七七号ニ関シ

一、昨二十五日反日示威大会当日ハ早朝ヨリ飛行機ニテ党部学校及各種団体ノ作成セル挑戦的排日宣伝「ビラ」ヲ撒布シテ気勢ヲ煽リ定刻午前九時教育会慶場（ママ）ニ於テ大会ヲ挙行シタル処参会者ハ工界、学校及其他ノ団体ヲ併セ約二万内外ニシテ群集ノ大半ハ案外気乗リ薄ノ態ニテ何健始メ当地要人ハ列席セス挙式ハ省党部委員ニ依リテ主宰セラレ大要

イ、中央ニ対シ国内ノ武力ヲ統一シ対日開戦ヲ電請スルコト

ロ、諸外国及国際連盟ニ通電シ日本ノ陰謀ヲ暴露スルコト

ハ、対日経済絶交及日本人ノ中国人使用ヲ禁止スル旨ヲ全国ニ通電スルコト

等ヲ決議シタル後予定ノ遊行運動ニ移リタルカ参加者ハ約二千ニ減シ剰サエ比較的徹底セル官憲ノ取締ニ到ル処出鼻ヲ挫カレ気勢揚ラス当館ニ於テハ万一ノ場合ヲ顧慮シ本邦商店ハ全部表戸ヲ鎖シ婦女子ヲシテ貴重品ヲ携ヘ中ノ島ニ避難セシメ之ニ備ヘタルカ遂ニ邦人居住地域ヲ通過スルコトナク二時頃無事散会セリ

二、此日民国側各機関学校工場碼頭苦力人力車夫等一斉ニ

休業シタルモ市中一般平常ト異ナル処ナシ

三、然ルニ当地日英海軍側「ニュース」ニ依レハ長江沿岸各地及南支方面ニ於テハ排日運動悪化シ既ニ婦女子乃至邦人全部引揚ケタル所少カラス幸当方面ハ目前差迫リタル危険ハ感セサルモ何分排日熾烈ナル土地柄ニシテ新聞其他ノ宣伝ハ極度ノ捏造又ハ誇張的字句ヲ連ネテ人心ヲ煽動シ居リ今後事態ノ変化楽観ヲ許ササルモノアリ現ニ邦人使用電話ノ妨碍渡船ノ邦人乗船拒絶又ハ邦人使用ノ民国人ニ対スル脅迫等局所的ニ行ハレ漸次悪化ノ傾向アリ此処当分ノ間ノ推移最重大ナルニ付目下慎重形勢監視中ニテ中ノ島ニ避難中ノ婦女子ハ暫ク其儘トシ在留邦人ニ対シ最悪ノ場合ニ処スル準備ヲ命シ置ケリ

支ヨリ上海、南京ヘ転報アリタシ

支、北平ヘ転電アリタシ

72　昭和6年9月28日　在重慶清野領事より　幣原外務大臣宛（電報）

重慶における排日状況と日本人保護について

重慶　9月28日後発
本省　9月28日後着

第一七四号（暗）

往電第一七二号（六六文書）ノ一ニ関シ

一、市民大会ハ本二十八日十一時ヨリ夫子廟ニ開カレ二時終了シ集会者約二千ト称シ折柄ノ降雨ニ雨具ヲ用ヒシテ佇立シ皆ビショ濡レトナリテ解散セル由ナリ

二、禁止ニ依レルヤ雨天ノ為ナルヤ不明ナルモ示威行列ノ催ハナカリキ

三、開会迄ノ午前中ハ各通リニ於テ「ドラ」ヲ鳴ラシ廻リテ市民ノ注意ヲ引キ全市ノ商店ハ悉ク門ヲ閉チ扉ノ上ニ「誓死抗日」ナル貼紙ヲ為シ露店ニ至ル迄飲食物ノ販売ヲ禁シ轎ノ通行ヲモ禁シテ一般民衆ニ哀悼ノ意ノ表示ヲ強制セリ

四、同大会ニ於テハ日本ハ吾等ノ唯一ノ敵民衆ヲ武装セヨ宣戦ヲ中央ニ請願ス放火虐殺、強姦、掠奪ノ日軍ヲ消滅セヨ死ヲ誓ツテ同胞ノ復仇ヲ為セ経済絶交ヲ励行セヨ日本人ト勾結セル奸商ヲ懲罰セヨ等ノ口号ヲ合唱シタル由ニテ又街上ニハ之等ノ口号宣言等ノ「ビラ」ノ貼リ出シ及撒布アリ諸所ニ男女ノ路傍演説アリタリ

五、当館ノ大門ニ密カニ「日軍ヲ撃破ス」ナル「ビラ」ヲ

貼リタル者アリシモ今六時迄ニハ暴行ヲ受ケタル在留民ナシ但シ当地官憲ハ朝来当館及在留民住宅付近ニ夫々軍警ヲ派シ警戒シ居レリ

支へ転電シ漢口、成都、宜昌へ暗送セリ

73　昭和6年9月(28)日　在汕頭戸根木領事館事務代理より幣原外務大臣宛（電報）

汕頭における示威運動の開催予定にかんがみ日本人保護方に関し市長へ申入れについて

汕頭　本省　9月28日前着

第二六号(注)（暗）

往電第二四号ニ関シ

一、二十八日ノ示威大運動ハ党部ニ於テ会場ヲ市内一映画館ニ定メ各界出席代表ヲ一名ニ制限シ市内遊行ニ関シテモ各団体ニ何等通知ヲ発セサリシカ如クナルカ一般民衆ハ右ニ対シ頗ル不快ヲ表シ居ル様ナリ今日迄邦商ニ対シ対日暗殺団ナル名目ノ下ニ脅迫状ヲ送リ来レルモノ二件二十八日襲撃ヲ行フヘシト噂サルル邦商二軒アリ各団体ハ別個ニ午前中所属員ヲ本部ニ招集会合ヲ催ス筈ニテ一般ノ感情悪化ハ新聞紙ノ宣伝ト相俟テ党部ノ制限或ハ官憲ノ統制ニ服スルヤ危マレ居レリ

二、二十六日馬公ヨリ駆逐艦一隻到着同夜居留民ノ主立チタルモノニ艦長ト協議ノ結果示威運動ノ当日ハ一時邦人ヲ当館ニ集合セシムルコトトセリ

三、右状勢ニ鑑ミ二十五日本官ハ二十八日ノ示威運動ノ結果会衆暴動化シ邦人ニ危害ヲ及ホスニ於テハ市長ニ於テ之カ責任ヲ負フヘキモノニ付予メ軍警ニ充分邦人保護命令方警告ヲ発シ二十六日ニハ福山警部ヲシテ公安局ニ赴カシメ前記脅迫状ヲ示シ之等邦人ノ特別保護並脅迫者ノ捜査取締方ヲ要求シタルカ二十七日市長ヨリ代表者ヲ派シ本官ヲ来訪邦人保護ニ関シテハ市長ニ於テ特ニ心ヲ砕キ居ルヲ以テ在泊軍艦ハ中国民衆ノ憤激ヲ防ク為当日(脱)時出港ヲ願ヘレハ幸ナリト申越シタルヲ以テ居留邦人ニ対スル民衆ノ悪感甚シク種々脅迫等ノアル折柄之カ出港ハ困難ナレトモ居留民ハ万一ヲ慮リ領事館ニ来集セシムルコトトシ自宅ニ止マルモノニハ外出ヲ禁シ居ルニ付当方ヨリ事ヲ醸スコト万々ナク結局中国民衆サヘ軌外ノ行動ナキ限リ問題ノ発生ヲ見サル筈ナルヲ以テ此上ト

モ一層取締及保護ニ留意アリタシト述ヘ尚二十八日会場付近ニ居住スル邦人ノ厳重警戒方会衆ノ解散時ニ起シ勝ナル妄動ノ防止其他ニ特ニ注意方申入レ置キタリ当日ハ市長ヨリ便衣隊ヲ派シ当館付近ノ警備ニ当ラシムル筈不取敢

支、北平、広東、福州、南京、厦門へ転電セリ

（編注）本電の発電番号は、五二文書と同一であるがそのままとした。

74　昭和6年9月28日　在汕頭戸根木領事館事務代理より幣原外務大臣宛（電報）

汕頭における排日状況と日本人保護について

汕頭　9月28日後発
本省　9月29日前着

第二八号（暗）

往電(1)第二七号ニ関シ

一、対日示威運動大会ハ予定ノ会場ニ於テ本日午前九時ヨリ開会各諜報者ノ内報ヲ綜合スルニ三百余団体代表三百名並ニ学生ヲ主トスル（全体ノ四分ノ三）傍聴者ヲ併セ二千余名ノ来会者アリ場内立錐ノ余地ナキ状況ニシテ市党部委員司会ノ下ニ進行司会者ノ今次満州事件ニ関スル報告アリ反日並ニ国際連盟ノ執レル本件態度ニ関スル演説ヲ為セル者二十余名ニ達シ左ノ如キ決議ヲ為シタル趣ナルカ午後零時四十分無事解散シタリ

㈠汕頭民衆抗日救国運動大会ヲ工、商、学、党、政、軍、法ノ各団体ヨリ代表一名ヲ出シ㈡各商店ニ対スル日貨ノ販（売）ヲ禁シ（其ノ）通告方商会ニ要求スル事㈢各界ニ対シ日貨ノ購買、日人ノ工作、日本船ニ乗船及日本旅館ニ宿泊等ノ事ヲ自動的ニ停止方ノ通告ヲ発スル事㈣政府ニ対日絶交対日戦備ノ即行ヲ請求スル事㈤各市民門戸ニ「抗日救国」ノ標語ヲ貼付シ市民ヲ警醒スル事㈥蔣介石ノ下野ヲ促進シ統一的(ママ)兵政府ヲ組織シ全国一致対外方通電ヲ発スル事

右ノ外日貨排斥ニ関スル幾多ノ説アリタルモ之等ハ抗日会ノ成立後規定ヲ定ムル事トナレル由

二(2)、市中ハ一斉ニ門戸ヲ鎖シテ休業シ学生工会員其他ノ伝単撒布「ポスター」貼布ヲ為スモノ多数見受ケタルモ別段ノコトモナク各学校官署ニ半旗ヲ掲揚平穏ナリ

三、本日中国官憲ノ邦人保護ハ能ク当方要求ノ通行ハレタ

リ本朝本官ハ当館屋上カ第二師司令部望楼ノ兵士ヨリ見通サレ軍艦トノ信号連絡ニ当リ司令部ノ誤解ヲ招クヲ惧レ通信兵ノ来館シ来ル旨師長ニ通知シタル処師長ハ即刻代表ヲ二回ニ亘リ来館セシメ本官屢次申入ノ次第ヲ能ク諒解シ前日当方要求ノ通会場内外ニハ私服並武装巡警ヲ派シ軌外ノ行動ヲ防クト共ニ当館付近ニハ密偵武装巡警ヲ配置スルコトトナリタルカ更ニ一個小隊ノ軍隊ヲ以テ付近通路ヲ警戒セシムルニ付誤解ヲ避ケラレタク陸戦隊ハ此際上陸セシメサル様取計ハレタシト申述ヘ尚本日ノ大会ハ代表大会トシ遊行ヲ禁シタル旨説明アリタリ

右師長ノ通知ハ徹底シテ行ハレ各学校ニ来集ノ生徒モ黙禱ノ式ヲ挙行後何レモ直ニ帰宅ヲ命セラレ本日是非トモ大示威行列ヲ行フヘシト敦圉キ居タル華僑互助社モ其計画ヲ阻止セラレタリ会場ノ内外及付近ヨリ当館ニ至ル街路ノ要所ニハ武装巡警ヲ立ツルト共ニ絶エス巡邏隊ヲ徘徊セシメ居タリ

以上ノ如クニ本夕迄何等ノ事故ナク市中特別ノ反日的催シナカリシヲ以テ当館ニ保護中ノ邦人婦女子ニ対シテモ希望者ニハ署員ヲ付シ任意帰宅セシムルコトトセリ右不取敢前電ノ通転電セリ

75

昭和6年9月(28)日　在香港吉田総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

香港、九竜地区の事態平静化について

香港
本省　9月28日後着

第九〇号（暗）
往電第八七号（六七文書）ニ関シ

二十七日ハ軍隊出動セル為数件ノ小事件以外大体ニ於テ無事ニシテ目下ノ処漸次鎮静ニ赴クモノト観測セラル九竜方面ノ邦人ハ警察官練習所、三井住宅、浅間丸及廬山丸ニ収容保護ヲ加ヘツツアリ湾仔方面ノ邦人ニシテ小学校ニ避難中ノ者モ一部ハ軍隊ノ出動ニ安堵シ二十七日夜帰宅セリ公使ヨリ上海南京ニ転報アリタシ

北平ヨリ奉天ニ転電アリタシ

支、北平ニ転電シ広東厦門汕頭ニ暗送セリ

76

昭和6年9月28日　湯地（秀生）馬公要港部司令官より
小林海軍次官他宛（電報）

香港における日本人の避難状況について

馬公　9月28日後2時45分
9月28日後3時58分

馬要第五六七番電　至急
香港情報（二十八日嵯峨）

一、目下日本人小学校ニハ約八〇名（主トシテ婦女子）引揚ゲ居リ一部ノ邦人ハ日本商船ニ避難シツツアリト

二、英国ハ昨夜来約一五〇名ノ陸兵ヲ以テ九竜側ヲ警戒シツツアリト云フモ邦人ノ危険尚去ラザル模様ナリ

（午前十一時香港富士製紙公司ヨリ電話）

訂正

馬要第五六四番電中「ア参事官」ハ「宛次官」ノ誤リ

（編注）本電報は、小林海軍次官のほか「次長、佐鎮長官、一、二遣司令官、在支各地武官」に発電された。

77

昭和6年9月28日　幣原外務大臣より
在英国松平大使宛（電報）

香港在留日本人の保護を英国政府に申入れについて

本省　9月28日後11時30分発

第一八七号（暗）

香港在留民ノ保護ニ関スル件

香港在留民保護方ニ関シ往電合第六九五号ノ通取計置キタルニ付テハ貴官ヨリモ英国政府当局ニ対シ此上トモ同地在留邦人保護手配方可然申入レ置カレタシ

香港、支、北平へ転電セリ

78

昭和6年9月28日　幣原外務大臣より
在英国松平大使他宛（電報）

中国における日本人保護と事変の不拡大方針について

本省　9月28日前0時35分発

合第六六八号　暗、至急

時局ニ際シ在支居留民保護措置ニ関スル件

今次事変後政府ニ於テハ直ニ本邦在留中国人保護ノ手配ヲ講スルト共ニ中国在留邦人ノ保護方ニ付テモ在支公使ヲ通シ出先領事ヲシテ夫々必要ノ措置ヲ執ラシメタル次第ハ累次往電ニテ御承知ノ通ニシテ其後モ事態ヲ此ノ上拡大セシメサル既定ノ方針ニテ一貫シ軍ノ行動モ満鉄ニ対スル当面ノ危害ノ排除付属地ノ防護及付属地ニ近接セル地方ノ居留民保護ノ為必要止ムヲ得サル程度ニ止メ既報帝国政府「ス

テートメント」第三項及第四項ノ趣旨ニ依リ漸次之ヲ事件前ノ状態ニ復セシムルト共ニ現下ノ難局ヲ出来得ル限リ速ニ収拾スルノ方針ニテ鋭意努力シ居ル次第ナル処間島及北満方面ノ状勢不安ヲ告ケ居留民ヨリハ頻ニ出兵ニ拠ル現地保護ノ要請アリ政府トシテモ是等地方ノ状態相当憂慮スヘキモノアルヲ認メタルモ大局上前記方針ヲ貫徹スルノ見地ヨリ何レモ出兵セサルコトニ決定シ（万止ヲ得サル場合ニハ朝鮮総督府又ハ関東庁ヨリ警察官ノ応援派遣ヲ求メルコトトシ）間島ニ於テハ我総領事館ニ於テ中国側ト連絡協調シ極力警戒保護ニ努メ今日マテ何等重大ナル事故ノ発生ヲ見ス又哈爾賓地方ハ万一ノ場合孤立無援ニ陥ルノ惧アル土地柄右不出兵ノ決定ヲ知ルヤ居留民ノ動揺特ニ甚敷ク同地総領事モ出兵方ニツキ政府ノ再考ヲ禀申セサルヲ得サル立場ニ陥リタルモ之ニ対シテハ往電合第六六〇号ノ通回訓シ居留民ノ保護及人心ノ安定ニ関シ大局ヲ謬サル様処置セシムルコトトセリ又既電ノ如ク長江及南支方面ノ排日運動ハ漸次悪化ノ情勢アルニ鑑ミ在支公使ヲシテ差当リ往電合第六四八号ノ措置ヲ執ラシムルト共ニ最悪ノ場合ニハ往電合第六五四号ノ方針ヲ以テ善処スルコトニ決定シタル次第ニシテ以上ハ何レモ本月十九日ノ閣議決定及同二十四日ノ「ステートメント」ノ趣旨ニ依リ此上事態ヲ拡大セシメサル方針ニ出テタルニ外ナラス右我方ノ厳正ナル態度ハ機会アル毎ニ連盟及関係国側ニ徹底セシメ置カルルコト時宜ニ適スト存シ重複ヲ顧ス電報ス尚今日迄判明セル所ニ拠レハ安全地帯ニ引揚ヲ了セル邦人満州方面約八百名、長江方面約百二十名合計約九百二十名ナリ御参考マテ

在支公使、北平、奉天、吉林、長春、哈爾賓、間島、青島、上海、広東ニ転電セリ

（英ヘハ在欧各大使ニ転電アリ度シ）

（編注） 本電報は、在英国松平大使のほか「在米大使、在ジュネーヴ全権」に発電された。

79 香港在留日本人の保護に関し英国大使に申入れについて

昭和6年9月28日　幣原外務大臣より
在英国松平大使他宛（電報）

本省　9月28日後11時30分発

合第六九五号（暗）

香港在留民ノ保護ニ関スル件

二十八日本大臣英国大使ノ来訪ヲ求メ今次事件後ニ於ケル香港ノ状況ヲ説明シ従来政庁側カ在留邦人保護ニ付執レル措置ハ我方ノ深ク多トスル所ナルカ数日前ヨリ同地方ノ事態著シク悪化シ九竜ニ於テハ軍隊ノ出動ヲ見タルモ遠隔ノ地点ニ居住スル邦人六名ハ遂ニ虐殺セラルルニ至リタルコトヲ指摘シ香港市中ニ於テハ邦人全部ヲ日本人小学校ニ集中避難セシメ居ルモ危険ニシテ未タ帰宅セシムルコト能ハサル状況ニアリ在留民ノ親族友人等ヨリ事態ヲ憂慮シテ頻頻トシテ安否ヲ問合セ保護方ヲ陳情シ来ル有様ナルニ就テハ政庁側ニ於テ今後一層警戒保護ノ措置ヲ講シ貰ハレ間敷ヤト申入レタル処英国大使ハ実ハ本日ノ新聞ニテ事態ノ悪化ヲ知リ既ニ政庁ニ対シ事情問合セ置キタルモ貴大臣ノ当然ナル御求ハ早速之ヲ香港総督ニ伝達スヘキ旨ヲ答ヘタリ

本電宛先　英、支、北平、香港

支ヨリ南京、福州、厦門、汕頭ヘ、香港ヨリ広東ヘ転電アリタシ

80 在香港居留民保護に関するレディング英外相への申入れについて

昭和6年9月29日　在英国松平大使より
幣原外務大臣宛（電報）

ロンドン　9月29日後発
本省　9月30日前着

第三六〇号（暗）

九月二十九日「レディング」卿ニ会見シ香港居留民保護方ニ関シ貴電合第六九五号ノ趣旨ヲ述ヘタル処同卿ハ本件ニ関シテハ既ニ在本邦英国大使ヨリ電報ノ次第モアリ香港総督ニ対シ電報ヲ発シタル旨ヲ述ヘタリ

81 成都反日宣伝隊の市中行進の状況について

昭和6年9月(29)日　※在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

上海
本省　9月29日後着

第一〇六七号（暗）

重慶発本使宛電報

第一一四号

成都発本官宛電報

第二六号

大臣ヘ転電アリタシ

第四号
往電第二五号ニ関シ
成都反日宣伝隊約二百名ハ二十六日「反日救国、打倒日本帝国主義及成都大宣伝隊」等ノ大旗ヲ先頭トシ標語ヲ記シタル小旗ヲ各自携帯主催者音頭ヲ取リ隊員之ニ唱和シ「倭奴ノ魔窟ニ殺歩、満鮮被難同胞ノ復仇ヲ為セ、日貨ヲ買フモノハ亡国奴ト為ス、在華日本軍警ヲ駆逐セヨ、在華日本一切ノ特権ヲ回収セヨ、対日経済絶交ヲ実行ス、日本帝国主義ヲ打倒ス、政府ヲ監督シテ革命外交ヲ実行ス」ノ標語ヲ合唱呼号シテ市中ヲ遊行午後四時当館前ニ来リ当館ニ向テ整列同様右標語ヲ大声呼号スルコト約十五分最後ニ民国万歳ヲ唱ヘテ引揚ケタルカ城防司令部警戒ノ為右宣伝隊ノ前後ニ武装兵三、四十名ヲ付ケ共ニ遊行セリ
右宣伝隊引揚後当館付近ニアリタルモノ三、四十名館内ニ入込ミ当館傭人等ニ対シ洋奴ハ打殺スソト威嚇シ間モナク退散シタルカ当館雇傭人等ハ極度ニ怖レ居リ今朝モ青年等三々五々当館前ヲ来往シテ口々ニ嘲リ形勢益々悪化ノ模様アルヲ以テ本日当局ニ対シ当館内ニ七八名ノ武装兵配置方ヲ申入置キタレハ其結果ヲ見タル上尚形勢険悪当館ノ引揚ヲ要ストセハ更ニ電請スヘキモ重慶発閣下宛往電第一六四号及其他為念御回示請フ
大臣、支ヘ転電セリ

82　昭和6年9月29日　在上海重光公使より　幣原外務大臣宛（電報）

在留日本人保護に関する上海商工会議所の強硬建議について

上海　9月29日後発
本省　9月30日後着

第一〇七二号（暗）
二十九日当地商工会議所ヨリ閣下宛建議トシテ濫リニ在留邦人ノ引揚ヲ行ハス保護ノ責任カ民国側ニアルコトヲ強ク印象シ万一ノ場合我自衛権ノ発動ニ依ルヘシトノ趣旨ノ電報ヲ発シタル由ナルカ関係者ノ説明ニ依レハ右ハ元来当地商工会議所会頭米里（日清汽船重役）カ主トナリ其平素ノ主張ニ基キ此際国交断絶若ハ開戦ノ手掛リヲ求ムル為政府ニ於テ強硬ノ態度ニテ民国側ニ臨マンコトヲ勧説スル趣旨ニ出テタルモノノ由ナリ右ニ対シ本使ハ政府ノ方針及本使ノ態度等ヲ詳細説明シ斯ノ如キ通電ハ却テ上海商工会議所

ノ態度トシテ誤解ヲ招クコトトナルヘキヲ以テ中止スル方宜シカラント勧告セルカ既ニ発電済ナリトノコトナリシニ付尚今後トモ充分慎重ナル態度ヲ執ル様説示シ置ケリ
北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、広東、漢口、南京ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

83　昭和6年9月29日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

上海における学生救国会の活動について

上海　9月29日後発
本省　9月30日前着

第五六四号
往電第五六一号ニ関シ
当地学生救国会ノ策動ハ愈尖鋭化シ来ル傾向アリ二十七日南京ニ赴キタル第一回請願団ノ大部分昨朝帰滬シタルモ其ノ一部復旦交通等四大学代表ハ政府ノ確答ヲ得ル迄ハ離京セストテ依然南京ニ頑張リ居リ之ヲ声援ノ為昨二十八日夜更ニ第二回ノ請願団約千五百名ヲ上京セシムルコトトナリ之ヲ送ル為三千ノ学生団ハ昨夜十一時滬寧停車場ニ集合シタルカ中央ニ於テハ王正廷遭難事件等ノ発生ニ鑑ミ学生ノ上京ヲ阻止センコトシ総司令部ヨリ張市長宛乗車監視方急電アリ市政府ハ公安教育社会ノ三局長ヲ停車場ニ急派シ赴京中止方極力勧告セシメタルモ学生団之ニ応セス頑強ニ鉄路当局ニ発車ヲ迫リ形勢一時ハ険悪トナリシカ一時頃南京ヨリ発車許可ノ電話アリ漸ク無事出発シタリ尚同団ハ五人ノ代表ヲ広東ニ派シ汪精衛ニ内争ヲ熄メ一致国難ニ当ランコトヲ勧告スルニ決シ右一行モ本二十九日出発ノ筈
公使ニ転報シ北平、奉天、広東、南京ヘ転電セリ

84　昭和6年9月29日　在済南西田総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

韓山東省主席の日本人保護に関する決意について

済南　9月29日前発
本省　9月29日前着

第一九八号（暗）
往電第一九六号ニ関シ
本二十八日本官韓主席ニ会見ノ際当地ハ今日迄ノ所何等事故ナク平静ナル処最近ノ新聞ニ依レハ党部等ニ於テ種々反日決議等ヲナセル模様ニテ本官トシテハ何等問題ヲ惹起セ

サルヤヲ懸念セル次第ナリト述ヘタルニ対シ韓ハ目下下級党部及学生側カ南京上海方面ヲ真似テ種々申出アルモ自分治安維持ノ責任者タルト共ニ当地及山東カ他省ト地位ヲ異ニセルヲ以テ断乎トシテ野外集合及游行等ノ禁止ヲ言渡シ軽挙妄動ヲ戒メ貴国人ノ保護ニハ充分手配シ居ルニ付安心アリタシト述ヘタル上日本政府ノ此上事態ヲ拡大セシメサル方針ナルハ自分モ承知セル故日本軍艦ノ廻航ニ付テモ種種ナル謡言アルモ之ヲ信セサルカ青島或ハ芝罘ニハ謡言誤解ヲ避クル為ナルヘク上陸セサル様充分御注意ヲ煩ハシ度シ

公使ヨリ上海、漢口ニ転電アリタシ

公使、北平、青島、奉天、天津、広東、南京ニ転電シ芝罘、坊子、博山、張店ニ転電セリ

85　昭和6年9月29日　在福州田村総領事より幣原外務大臣宛（電報）

福州における反日運動および台湾籍民の動向について

福州　9月29日後発
本省　9月29日後着

第八六号（暗）

一、当館宿舎居留民会入口等ニ「コールター」ニテ落書セル日人撲殺等ノ文字其他邦人居住区域ノ反日懸ケ幕「ポスター」類ハ我方水兵ノ上陸来往ニ異常ノ刺戟ヲ与ヘ相互ノ為好マシカラサルニ付即時撤去方所轄警察署ニ申入レシメタル処案外素直ニ私服巡警ヲシテ全部剝取ラシメタリ

一、台湾籍民中ニハ不良分子モアルニ付予テ戒告シ置キタルニ拘ラス二十八日夜省防司令ヨリ対岸青年会付近ニテ台湾人ト支那人トノ刃傷事件アリ時節柄直ニ保安隊ヲ出動セシメテ取鎮メタリトテ当館警察派員方申来レルニ付直ニ部長ト巡査ヲ現場ニ派セル処右ハ台湾籍民無頼漢同士ナリシコト判明シタルカ往年日支大衝突事件発生セル台湾人居住区域ノコトトテ注目ヲ惹ケルモ支那側ノ取締宜シキヲ得タルト籍民間ノコトト判明シテ事ナキヲ得タリ

一、反日会ノ行動ニ付特ニ注意中今日迄ノ処拡大ノ模様ナク却テ商人側ニテ自発的ニ対日経済絶交ヲ提唱シ居リ油断ナラス所轄支那警察ニテハ其後引続キ邦人居住区域ニ

ハ私服ヲ配置シテ保護警戒ニ努メ居ル様子ナリ

在支公使及厦門ヘ転電セリ

86　昭和6年9月(29)日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

砲艦嵯峨の香港向け回航について

広東
本省　9月29日後着

第四七五号（暗）

往電第四七四号ニ関シ

二十九日午前四時馬公司令官ヨリ軍艦嵯峨ニ対シ至急香港ニ赴キ実状視察スヘキ旨ノ命令アリタルヲ以テ午前六時出港スル趣同艦艦長ヨリ本官ニ通知越シタルヲ以テ本官ヨリ司令官ニ対シ左ノ通再応申入レ置キタリ

昨二十八日夜陳友仁ヨリ本官ニ対シ電話ニテ南京上海方面ニ於ケル王正廷反対運動抬頭当方面民衆ヲ刺戟スル懸念モアリ一方当政府ハ和平商議ヲ有利ニ導ヒカンカ為反日工作ヲ黙認スル筈ナルニ付此際充分注意アリ度キ旨内報ノ次第モアリ旁嵯峨ノ離広ハ絶対ニ面白カラスト存セラル就テハ是非御再考相煩ハシ度ク結果何分ノ儀折返シ御電示相成度シ

然ルニ馬公司令官ヨリ出港迄ニ返電ナカリシヲ以テ嵯峨ハ予定通リ香港ニ向ケ出港セリ

公使ニ転電シ香港ニ暗送セリ

87　昭和6年9月29日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

学生の排日運動と南京政府の態度について

南京　9月29日後発
本省　9月29日後着

第六〇三号（暗）

往電第六〇一号ニ関シ

学生ノ運動ハ日本ニ対スル宣戦布告請願ノ為ニシテ上海ノ学生団体ハ主張ヲ貫徹スル迄ハ続々代表ヲ南京ニ送ルヘク右ニ依ルモ効果ナキ時ハ暴動ヲ起シテモ開戦ニ導クノ計画ナリトノ趣ニテ南京政府モ之カ慰撫ニ手古摺リ居ル趣ナリ冒頭前電ノ通リ転電セリ

88　昭和6年9月29日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

学生の排日運動に対し衛戍司令部の領事館保護について

南京　9月29日前発
本省　9月29日後着

第六〇七号（暗）
往電第六〇三号（八七文書）ニ関シ
本二十九日中ニ上海ヨリ更ニ二個列車ニテ数千名ノ学生来京スル趣ニテ衛戍司令部ハ今朝来約二百名ノ武装軍警ヲ当館ニ派シ一層警戒ヲ厳重ニセルカ先刻谷司令ヨリ本官ニ対シ電話ヲ以テ特ニ蔣主席ヨリモ命令アリ学生ノ領事館侵入ニ付テハ飽迄阻止スヘキニ付安心アリタキ旨申越セリ
冒頭往電ノ通転電セリ

89　昭和6年9月(29)日　在香港吉田総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

嵯峨の香港来航がもたらす悪影響について

香港
本省　9月29日後着

第九五号（暗）
広東発閣下宛電報第四七四号ニ関シ
(一)既ニ政府側モ非常手段ヲ執リ軍隊ヲ出動セシメ厳重警戒ノ決意ヲ示シ居ルニモ拘ラス此際帝国軍艦ノ来航ハ英国側ニ対スル不信ヲ表示スルモノトノ誤解ヲ招キ同官辺ニ面白カラサル心証ヲ与ヘ従テ本官今後ノ交渉ニモ支障ヲ来スコトナキヲ保セス
(二)支那人側ノ感情ヲ徒ニ刺戟シ且ツ悪宣伝ノ材料トナルヤ明カナリ
(三)事態ハ既ニ峠ヲ越エタリトノ感ヲ以テ漸ヤク恐怖感ヲ鎮静セントスル在留邦人ニ対シテモ軍艦来航ハ或ハ事態悪化ノ虞アルニアラスヤト想像セシムルコトアルヘシ
(四)仮リニ軍艦派遣ノ必要アル場合ヲ想像スルモ在留民収容ノ為以外ニ其必要ナク嵯峨ニテハ其目的ヲ達スル能ハス要スルニ此際軍艦派遣ハ徒ニ彼我人民ヲ刺戟シ悪宣伝材料タルノミナラス英官憲ノ感情ヲ害シ延イテハ取締リニ悪影響アルモ保セサルニ付自重方軍部当局ヘ御申入レ方御取計ヲ請フ
支、広東ヘ転電セリ

90　昭和6年9月29日　在シンガポール伊藤総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

シンガポールにおける排日状況悪化と日本人保護について

シンガポール　9月29日後発
本省　9月29日後着

第二九号（暗）
今次事件ノ発展ニ伴ヒ本官ハ予メ情勢ノ悪化ヲ慮リ管下在留邦人保護方ニ付当該官憲ト随時非公式ニ連絡ヲ保チ来レルカ香港事件ノ発生以来当地ノ形勢亦頓ニ悪化ノ徴アリ二十七日以来今日迄本邦人ノ殴打セラレタル者九件ニ上リ事態益々憂慮スヘキモノアルヤニ認メラレタルヲ以テ本日本官ハ当地民政長官及警察当局ニ対シ前記事件ヲ指摘シ此上共保護方配慮アリタキ旨申入置キタリ
華人ノ日貨取引及対邦商取引ハ目下殆ト杜絶状態ナリ

91　昭和6年9月29日　在上海田代公使館付武官より二宮参謀次長宛（電報）

上海における学生反日運動の内情について

9月29日前10時0分発
9月30日後5時20分着

支第三一五号（其一、二）（秘）
前電ノ如ク一両日以来当地ノ人心ハ稍々平静ニ赴カントスル傾向ニアルモ曩ニ党部ヲ襲撃シ之ト絶縁セル学生団体ハ南京ノ学生団体ト相呼応シテ過激ナル反日運動ヲ開始セリ
王正廷襲撃ニハ上海ノ学生代表モ参加シアルノミナラス昨二十八日夕当地ノ学生約四千名ハ南京ニ赴キ蔣介石ニ対シ「直ニ対日宣戦ヲ布告セヨ否ラサレハ上海ノ日本居留民ヲ殺害スヘシ」トノ脅迫的要求ヲナサンカ為ニ官憲側ノ阻止アルニ拘ラス列車ニ搭乗シテ出発セリ此学生運動ハ市党部及抗日会等全然別個ノ立場ニ於テ予テノ主張ナル国民党打倒ノ目的ヲ達センカ為学生ヲ煽動セルモノニシテ之ニ参加セル学校ノ数ハ四十二校ニ及フモ其ノ指導ニハ復旦及南洋大学ノ教授連之ニ任シアリ而シテ其運動ニ関シ一部共産党ノ加入アルモ主トシテ中国青年党（国家主義青年団）カ今次ノ事件ヲ利用シ其手段トシテ実現不可能ナル対日宣戦ヲ南京政府ニ要求シ之ヲ「スローガン」トシテ蔣介石ヲ倒サントシツツアルモノノ如シ
本運動ノ内情ニ関シテハ尚内偵ニ努ムヘキモ其将来ハ相当注目ヲ要スルモノト認メラル而シテ南京政府ハ此種愛国運動ニ対シ弾圧ヲ加フルコトハ殆ント不可能ナルカ故ニ余程

ノ窮境ニ在リト察セラル尚復旦大学ハ中国青年党ノ本部ニシテ同大学及南洋大学ノ教授連中ハ同党ノ幹部ナリ尚南京政府部内要人連中ニモ中国青年党ノ主張ニ共鳴スルモノ尠カラサル由ナリ

北平、天津、済南、奉天済

92　昭和6年9月29日　海軍省田結（穣）中佐電話要旨

香港出動の嵯峨艦に対する措置について

香港ニ帝国軍艦派遣ノ件

九月二十九日午後三時半海軍省田結中佐ヨリ電話ノ要旨左ノ如シ

馬港司令官ヨリ香港ノ情勢ニ鑑ミ広東在泊軍艦嵯峨ヲ同地ニ派シ邦人ノ動静ヲ視察セシムルコトトスヘキ旨電申アリタルニ付直チニ出動見合方回電シタルニ間ニ合ハス行キ違ヒニ今朝六時広東出発八時香港到着ノ報ニ接シタルヲ以テ出動見合方電示済ノ次第ヲ告ケタル上香港ニ入港済ナラハ致方無キモ外務大臣ヨリハ在本邦英国大使ニ邦人保護方充分依頼シ置キタルコトニモアリ又政庁官憲モ全力ヲ竭シテ警護ニ努メ居ル模様ナレハ滞泊ノ必要無シト認ムルニ付総領事ト克ク相談シテ一応ノ視察ヲ了シタラハ政庁側ニモ従来ノ保護手配ニ対シ相当謝意ヲ述ヘ今後ヲ依頼シテ出来得ル限リ速カニ出港広東ニ帰航スヘキ旨唯今嵯峨艦長ニ電報方手配中ナリ

以上

93　昭和6年9月29日　上海日本商工会議所より幣原外務大臣宛（電報）

日本人の引揚げはわが経済上の基礎を破壊するにつき阻止方建議について

上海　9月29日後発
本省　9月30日前着

最近帝国政府ハ一般形勢ノ悪化ニ伴ヒ事態急迫セハ長江奥地ノ在留邦人ヲ上海漢口ニ引揚ケシメ同地ニ於テ保護スルコトニ決定シタリトノコトナルカ在留邦人引揚問題ニ付テハ今次事態ノ性質ニ鑑ミ漫然前例ニ依ルヘキモノニ非ストノ思考ス即チ昭和二年四三事件ハ共産党ノ長江進出ニ依リ一般的排外行動ニ依ル危険アリタルモノ又昭和三年済南事件ハ南北戦争ニ依リ其側杖ヲ蒙ル危険アリタルニ依ルモノニテ何レモ日支両国間直接ノ関係ニ非スシテ其危険モ亦邦人ノミニ限ラレタルニ非ス従テ一時危険期ヲ過クレハ原地復

帰ノ望アリタルモノナレハ在留邦人避難ニ付テモ引揚主義又ハ現地保護主義ヲ執リタルモノナルカ今回ノ事態ハ全然其性質ヲ異ニシ日支両国直接ノ関係ニシテ国交破裂ニ至ラサル限リ支那官憲ハ在留邦人ノ生命財産ハ勿論居住営業ノ自由ヲ完全ニ保護スヘキ義務ヲ有スルコト明カナリ殊ニ今回ハ事態ノ性質上一旦引揚クレハ容易ニ原地復帰ノ機ナカルヘク従テ在留邦人カ漫然引揚ヲ為スハ自ラ権利ヲ抛棄シ知ラス識ラス支那側ノ術中ニ陥リ多年努力ノ結晶タル我経済上ノ基礎ヲ破壊スル結果トナルヘシ故ニ帝国政府ハ万已ムヲ得サル場合ノ外在留邦人ヲ引揚ケセシメサル方針ニ出テ中央及現地支那官憲ヲシテ邦人ノ生命財産ハ勿論居住営業ノ自由ヲ完全ニ保護セシムルト同時ニ其結果ニ付テモ全責任ヲ以テ保障セシメ万一ノ場合ハ我自衛権ノ発動ニ対シ言議ノ余地ナカラシムル様充分釘ヲ打チ置クコト絶対ニ必要ナリト認ム

94　昭和6年9月30日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平における排日状況と各大学学生の強硬態度について

北平　9月30日後発
本省　9月30日後着

第四八九号（暗）

往電第四五九号ニ関シ

二十八日朝大和殿前広場ニ於テ市民大会開催セラレ参会者約二万（漢字紙ハ二十万ト称ス）演説及決議ヲナセル後直ニ三隊ニ分レ示威遊行ニ移リ其一部ハ官憲ノ制止ニ拘ハラス予定ヲ変更シ邦人ノ多キ東単ニ出テ日本小学校前及東交民巷入口ニ於テ示威運動ヲナセリ午後各大学生約一千対日開戦等ニ付請願ノ為副司令部ニ押掛ケ参謀長戴翼翹代テ面接セルカ解散ニ際シ「学良ハ日本ノ走狗トナリ満州ヲ売レリ」「王正廷ヲ打倒セヨ」等呼号セル由

決議事項中主ナルモノ左ノ通

一、国民政府ニ対シ対日強硬策ヲ執リ最短期間内ニ円満ナル回答ナキトキハ即時宣戦方電請ス

二、広東ニ対シ偽政府ヲ取消シ一致日本ニ当ル様電報ス

三、東北地方政府ニ対シ日本暴行下ニ於テ直接交渉セサル様電請ス

四、副司令ニ此ノ上無抵抗主義ヲ執リ国土ヲ失フコトナキ

様申請ス
五、国際連盟ニ於テ日本ニ対シ暴行ノ制裁ヲ執ル能ハサルニ於テハ即時脱退宣布方政府ニ申請ス
六、王正廷ノ免職懲弁方中央ニ電請ス
七、中日間一切ノ不平等条約ノ無効ヲ宣布方中央ニ電請ス
東北民衆団体及個人カ日本人ト政治団体ヲ組織スルコト無キ様警告ス
当日一邦人前記遊行団体ト関係ナキ支那人ニ殴打セラレタル事件ノ外ニ事故ナカリシモ邦人ノ不安ハ尚薄ラクニ至ラス
尚当日学良ノ邸宅承王府前ニハ塹壕ヲ設ケ機関銃ヲ据付ケ警戒セル由
支、南京、奉天ニ転電シ天津ニ暗送セリ

95　昭和6年9月30日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

抗日団による邦商被害事件の発生について

上海　9月30日後発
本省　10月1日前着

第五六九号（暗）
往電第四六〇号ニ関シ
反日会検査隊ノ組織替ヘ公安局側ノ取締励行等ハ邦商荷動キ減少ト相俟テ其後邦商ノ直接被害事件発生セサリシ処九月二十九日午後四時半頃共同租界西北隅蘇州河（対岸ハ支那町）ニ於テ船積中ノ三井洋行外一邦商ノ麩ニ対シ学生風ノ者ヲ混ヘタル抗日団ノ抑留事件アリ右報告ニ依リ時遇々同所ニ近キ内外綿工場ニ赴ク為用意セラレ居リタル陸戦隊ノ装甲自動車其他ニ依リ武装セル我陸戦隊二個分隊馳セ付ケ当館警察官モ現場ニ到リタルニ抗日団ハ怖レヲ為シ既ニ彼等ノ「トラック」ニ積込ミタル三井ノ麩百二十俵計リヲ持逃ケ事ナキヲ得タルカ「ライター」十七隻ニ積メル麩ハ租界警察並中国公安局水上署等ノ保護ニ依リ翌朝無事積出スコトヲ得タリ又同日同時刻頃共同租界東「ブロードウエイ」ニ於テ一邦商カ支那人ヲシテ運搬セシメ居リタル綿布五個ヲ強奪セントセル無頼漢（検査隊員ニハ非サルカ如シ）アリシモ邦人カ現場ニ赴クヤ逸早ク荷物ヲ其儘ニシ逃走セル事件発生セリ
右二件共今次事変後当地トシテ最初ノ排貨直接被害事件ナルニ付不取敢

公使ヘ転報シ北平、天津、奉天、青島、漢口、広東、南京ヘ転電セリ

96　昭和6年9月30日　在済南西田総領事より幣原外務大臣宛（電報）

韓山東省主席の時局に関する談話について

済南　9月30日後発
本省　9月30日後着

第二〇二号（暗）
二十八日本官韓主席ニ会見ノ際韓ハ時局ニ関シ全然私談トシテ左ノ通内話セリ（外部ニ漏レサル様致度シ）
一、南北抗争ヲ止メ国内ノ統一ハ一般ノ輿論ニシテ自分モ過日広東政府要人ニ対シ中央ニ協調方ヲ打電シ置キタル処由来中国人ハ遺憾乍ラ表面ハ兎ニ角国家ノ大局ヨリモ自己又ハ自派ノ利益ニ重キヲ置ク陋習脱却セサル者多キニ付実際的ノ妥協ハ至難ニシテ幸ニ妥協ストモ又々議論百出シ容易ニ一致ヲ見ル事得難キニ鑑ミ満州事変ニ依リ蔣張ノ連合更ニ密接トナランモ浙江派ト広東派トノ内争ハ絶エサルヘキニ付統一ノ実力アル中央政府カ急ニ完成スル事至難ナランカ然リトテ北方ニ於テ反蔣反張ノ団結モ亦困難ナル事情アリ此ノ儘推移センカ或ハ共産党ノ勢力増大ヲ来タス結果ヲ招来センカト懸念セラル
二、山東方面ニ於ケル治安維持並ニ貴国民ノ保護ニ関シテハ累次言明シ居ル通リ責任ヲ以テ実行スヘク満州事件ハ此ノ上拡大セシメサル御方針ト承知シ居リ中国側ニ於テモ素ヨリ拡大ヲ欲セサルカ中国人中ニハ本件発生ニ刺戟セラレ既ニ南京上海ヲ中心トシ長江一帯ヨリ各地ニ反日運動起リ党部学生等カ血気ノ勇ニ任セ国家ノ大局及中日関係ヲ顧念セス真ノ愛国的熱情ノ迸リト思ハレサル行為ニ出ツルハ容赦シ難キ処ナルニ付近ク卑見ヲ中央ニ打電セン考ナリ
反日運動ニ基ク各種激烈ナル決議等ニハ其背後ニ各派各様ノ意向又ハ目的アリ必スシモ一致シ居ラス従来ノ例ニ依ルモ多クハ一時的ニテ実行力ナカルヘク政府トシテハ斯ル軽挙ニ盲従スル事ナク慎重ナル態度ニ出ツル事勿論ナランカ若シ不幸ニシテ反日風潮カ全国的トナリ勢ヒノ赴ク処貴国側現時ノ方針ニモ何等カノ変化ヲ来シ万一ニモ国交断絶宣戦布告等ノ事態ニ至リタル場合自分トシテハ政府ノ命令ニ従フ外ナキモ戦争ニ直接関係ナキ一般人

民ニ対シテハ相互ニ充分保護ヲ要スル次第ニ付当地貴国人ニ対シテモ勿論充分ノ保護ニ努ムルニ付御安心アリタシ云々

支ヨリ上海及漢口ヘ転報アリタシ

支、北平、青島、奉天、天津、広東、南京ヘ転電セリ

芝罘ヘ暗送セリ

97　昭和6年9月(30)日　在南京上村領事より　幣原外務大臣宛（電報）

国民政府の在留日本人に対する保護方発令に関する新聞報道について

南京　9月30日後発
本省　9月30日後着

第六〇八号（暗）

本官発在支公使宛電報第五六八号ニ関シ

三十日ノ新聞ハ大要左ノ通在留邦人保護方発令セル旨報道シ居レリ

国民政府ハ災患未タ治ラス外侮日ニ迫レル際国民ハ飽ク迄隠忍冷却ナル態度ヲ持シ軌外行動ヲ避ケ反動派ニ乗セラレ口実ヲ与ヘ大局ヲ誤マルコトナキ様勗ムル要アリト認メ既ニ各地方政府ニ対シ日本人保護ニ注意方命令セル外軍政部ニ命シ各軍師旅ニ転飭シ所属ヲシテ厳密注意シ日本人ヲ保護セシムルト共ニ人民ニ対シ秩序ヲ守リ政府ノ正当ナル解決ヲ俟ツ様切実ニ勧諭セシム

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州、蘇州、杭州、九江、重慶、厦門、香港、汕頭ヘ転電セリ

98　昭和6年9月30日　在南京上村領事より　幣原外務大臣宛（電報）

上海より来京の学生群に対する蔣主席の説諭について

南京　9月30日後発
本省　9月30日後着

第六一〇号
往電第六〇七号（八八文書）ニ関シ

二十九日上海ヨリ来京セル学生ハ約三千人ニ達セルカ蔣介石ハ同日午後学生ヲ軍官学校講堂ニ集メ学生等カ同一ノ請願ニ付学業ヲ廃シ多数屢々来京シ政府ノ対外画策ニ要スル時間ト精力ヲ空費セシムルコトハ愛国ノ意思ニ反スル旨懇ニ説諭シタル後学生ニシテ此際兵士タルコトヲ希望スル者

ハ義勇軍ニ加入シテ訓練ヲ受ケ差支ナク又兵士タルコトヲ欲セス上海ニ帰リ度キ者ハ国民政府ニ於テ列車ヲ準備シアルニ付至急離京スヘシト告ケタル趣ナルカ学生ノ大部分ハ尚残留シ居ルノミナラス本三十日モ上海ヨリ学生続々来京シツツアル状勢ナリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

99　昭和6年9月30日　在南京上村領事より　幣原外務大臣宛（電報）

学生の領事館襲撃計画と中国側の警戒振りおよび重要書類の一時移転について

南京　9月30日後発
本省　9月30日後着

第六一一号（暗）
往電第六〇七号（八八文書）ニ関シ

上海ヨリ来京セル学生益々増加シ当館焼打ノ計画サヘ伝ヘラレタル為二十九日ハ衛戍司令部及警察庁ヨリ憲兵及保安隊約二百五十名ヲ当館ニ派遣シ厳重警戒スルト共ニ放火ニ備フル為別ニ数十名ノ消防隊ト消防「ポンプ」三台ヲ派遣越セルカ同日ハ何事モナク経過セリ

本三十日ハ警戒多少緩和セラレ軍警及消防隊合計約百名ニテ警戒中ナリ市中ハ比較的平（穏）ナルカ在留民ハ尚「ハルク」ニ在リ又当館重要書類ハ万一ノ場合ヲ慮リ一時「ハルク」ニ移スコトトセリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

100　昭和6年9月30日　在南京上村領事より　幣原外務大臣宛（電報）

学生団の不穏行動に関し領事館保護のため海軍側との協議について

南京　9月30日後発
本省　9月30日後着

第六一三号（暗、至急）
往電第六一一号（九九文書）ニ関シ

上海ヨリ来京セル学生団ハ既ニ数千ニ上リ居ル処其一部ハ広東政府ニ依リ操縦セラレ上海ノ一部商人ヨリ財的援助ヲ受ケ居ルノミナラス共産系ノモノモ混シ居リ是等一部ノモノハ此際南京ニ於テ事端ヲ惹起シ国民政府ヲ苦境ニ陥レン

方針ノ下ニ内部ヨリ学生団ヲ煽動シツツアル趣ナルカ南京政府ハ此事情ヲ知リツツ之ヲ敵トスルコトヲ恐レ学生団ノ上海ヨリノ来京ヲ差止メ若ハ強制帰還セシムルカ如キ断然タル処置ヲ執リ得ス僅ニ之ヲ慰撫シ軌外ノ行動ニ出テサル様指導ニ力メ居ルニ過キス目下ノ処政府ノ取締宜シキヲ得外交部襲撃事件以来左シタル不穏ノ兆見エサルモ今後学生ノ来京更ニ増加スルニ於テハ不逞分子モ益々混入スルコトトナリ危険愈々増大スヘシト存セラル他方当館ノ保護ニ付テハ衛戍司令警察庁長ノ如キ首脳部ハ勿論誠心誠意努力シ居リ本官ニ対シテモ暴徒襲撃ノ際ハ発砲スルモ差支ナシト命令セルニ付安心アリタシト述ヘ居ルモ当館ニ派遣セラレ居ル巡警及憲兵ノ如キハ自ラ「打倒日本」等ト楽書シ居ル位ナレハ暴徒襲撃ノ際果シテ飽迄之カ防止ニ当ルヤ否ヤ疑問ナキ能ハス海軍側ハ右事情ニ顧ミ万一ノ際ハ巡警ノ頼ムニ足ラストノ見地ヨリ陸戦隊ノ揚陸ヲ主張シ居ルモ予メ揚陸シ置クコトハ到底中国側ニ於テ承知セス将又事変ノ報ニ依リ我兵下関ヨリ急行スルモ中国軍憲ノ空気前記ノ通ナルニ依リ陸戦隊上陸ノ報ヲ得ルヤ当館護衛兵ハ却テ鋒ヲ逆ニシ館員ニ危害ヲ加フルノ虞ナキニ非ス依リテ本官ハ海軍側ニ対シテハ右事情ヲ説明ノ上本官ノ要求ナキ限リ陸戦隊ヲ揚陸セサル様申聞カセ居ルモ海軍側ハ万一領事館襲撃セラレタルニ拘ラス遂ニ陸戦隊ヲ揚クルノ機会ナカリシカ如キコトアラハ海軍トシテノ責任立タスト主張シ結局海軍側ノ責任ヲ軽減スルノ見地ヨリ当地海軍武官ヨリ領事館ヲ汽船若ハ「ハルク」ニ移スヲ可トスル旨海軍省ニ対シ意見稟申ノ次第アリタルニ付右事情御含置アリタシ

支、北平ニ転電セリ

101　昭和6年9月30日　在杭州米内山領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

杭州における反日学生の領事館来襲および王外交部長の寓居襲撃について

杭州　9月30日後発
本省　9月30日後着
第四一号（暗）

九月二十九日高級中学学生約八百名領事館ニ来襲示威運動シ更ニ王正廷ノ寓居ト目セラルル杜荘外二ケ所ヲ襲ヒ窓硝子等ヲ破壊シ引揚ケタリ（王正廷ハ昨夜当地着杜荘ニ泊リ居リシカ学生来襲ノ際ハ他ニ避難シタリト伝ヘラル真偽尚

不明）領事館ハ急遽馳付ケシ多数巡警ノ保護ノ下ニ事ナキヲ得タリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

南京、蘇州へ転電セリ

102　昭和6年9月(30)日　※在厦門三浦領事より幣原外務大臣宛（電報）

厦門の治安維持に関する林知淵司令との会談について

厦門
本省　9月30日後着
第八九号（暗）

福州発大臣宛電報第八四号（五七文書）末段ニ関シ林知淵二十八日当地着二十九日本官ヲ来訪厦門ハ台湾トノ関係深ク貴国民モ多数在留シ居ル関係上主席楊樹荘ハ奉天事件ニ関連シテ深ク厦門ノ治安ヲ心配シ居リ台湾人ニ知己多キ自分ヲ当地ニ派遣シタルモノナリト前提シ自分今回ノ来厦ハ一、党部及民衆運動ノ取締ニ関シ林司令トノ間ニ充分ナル措置弁法ヲ講スルコト二、党部職員ノ態度ニ付注意ヲ与フルコト三、台湾公会方面ノ有力ナル知己ニ会見シ中日両国ノ誤解衝突ヲ避クル為協議ヲ遂ケルコトノ三任務ヲ有スルモノナルカ何分ニモ貴官ノ援助ヲ請ハサルヘカラスト述ヘタルニ付本官ハ楊主席ノ厦門治安ニ対スル関心並手配ヲ謝シタル上民衆運動ハ其ノ高潮ニ達セサル以前ニ取締ル必要アル所以ヲ説明シ厦門カ南支ニ於テ最モ静謐ナルハ林司令カ常ニ先手ヲ打チテ各種運動ヲ取締ラレタル結果ニ外ナラスシテ本官ノ深ク多トシ居ル処ナルカ今後ニ於テモ同様ノ方針ニ依ラルルコトト致度ク尚実数一万ニ近キ台湾人ノ取締ニ付テハ此際本官ノ特ニ意ヲ用ヒ居ル処ナルカ仮令民衆運動行ハレストスルモ各新聞紙カ誇大且煽動的記事ヲ掲ケ人心ヲ激動セシムルニ於テハ自然台湾人ニモ反響シ或ハ不測ノ事変発生ノ虞ナシトセス此点ニ関シテモ林司令ハ良ク諒解シ居ラルル模様ナルモ此上共遺憾ナキヲ期セラレタシト申入タルニ右ハ自分ニ於テモ気付キ居リ現ニ自分ハ之ヨリ当地各新聞記者ヲ召集シ本件ニ関シ厳重ナル注意ヲ与フル筈ナル旨ヲ述ヘ尚漳州ニハ相当多数ノ台湾人居住シ居ルニ付明三十日同地ニ赴キ第四十九師長張泥ニ面接シ民衆運動取締方ニ付篤ト協議スル筈ナリト語リタルニ付所謂排日ヲ職業トスル徒輩ハ当方面ノ取締厳重ナル為奥地ニ

移ルモノ鮮カラサル旨聞込アル由ヲ告ケ充分手配方依頼シ置ケリ
支、北平、奉天、上海、南京、広東、福州、汕頭ヘ転電セリ

103 昭和6年9月30日 幣原外務大臣より在シンガポール伊藤総領事代理宛（電報）

シンガポールにおける日本人保護申入れについて

第二〇号（暗）
新嘉坡在留民保護ノ件
貴電第二九号（九〇文書）ニ関シ
往電第一九号会談ノ際本大臣ヨリ香港ニ於ケル暴動カ貴地ニモ波及スル虞アルコトヲ指摘シ貴地総督ニ於テ邦人保護ノ措置ヲ講セラルル様手配アリ度旨申入レタル処同大使ハ之ヲ了承シ其旨貴地総督ヘ伝達スヘシト答ヘタリ就テハ民政長官等ニ対シ既ニ御申入ノ次第ハアルモ今後モ一層貴地当局ヲ督励セラレ邦人保護方手配アリタキ旨申入ラレタシ

104 昭和6年10月1日 在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（電報）

雲陽丸の重慶繋留解除について

第一八一号（暗）　重慶 10月1日前発　本省 10月2日前着
今回宜昌ヨリ呼寄セタル雲陽丸ニハ爾来当地繋留ヲ求メ在留婦女子ノ多クハ二十八日以来同船内ニ起臥シ居ル次第ノ処右永引クニ於テハ之ニ対スル支払額愈々嵩ムト共ニ一方病人発生ノ懸念モアルニ付㈠日清汽船会社カ好意的且自発的ニ同船ヲ当地ニ繋留セシムル場合ニハ不日来航スル筈ノ長風丸（上海発本官宛電報第一〇号）ニテ任意引揚ケノ婦女子等ヲ出発セシメ㈡然ラサル場合ニハ右当地繋留ノ求メヲ解キテ引揚者ヲ同船ニ乗セテ下航セシムル様取計ヒ度ク（蓋シ宜昌当地間同会社船ノ定期航行ハ反日運動ニテ客貨ヲ得難キ為過般来休止中ニテ又支那人水先ノ下船ニ依リ宜昌発漢口宛電報第三三号ノ始末ニテ唯一隻ノミヲ動カサレ得ル現状ナルニ加ヘ冒頭拙電ノ通ノ事情モアリ在留民全部ハ能フヘクンハ雲陽丸ノ当地繋留ヲ希望シ居ル次第ナルカ右ノ如クニシテ婦女子等カ引揚ケタル後ノ残留者ハ四十名

内外トナリ万一ノ場合ニハ軍艦ニ便乗シ得ルヲ以テ特ニ諸経費節減ノ此際多額ノ金ヲ支払フテ迄モ同船ヲ留メ置クコトハ如何ニヤト考慮セラル）日清本社ト然ル可ク御交渉ノ上何分ノ儀御指図相成様致シタシ
上海ヨリ公使ヘ転報アリタシ
上海ヘ転電セリ

105 昭和6年10月1日 在シンガポール伊藤総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

シンガポールにおける邦人被害状況について

シンガポール 10月1日前発　本省 10月1日後着
第三〇号（暗）
貴電第二〇号（一〇三文書）ニ関シ
事件発生以来昨三十日迄ニ当館ニ報告セラレタル当地邦人被害状況ヲ見ルニ大人ノ殴打セラレタルモノ十二件内軽傷二件小学生ノ殴打セラレタルモノ百三件（人員八十三）内軽傷二件其他家屋等ニ投石セラレタルモノ数件（半島方面ニ於テハ単ニ投石セラレタル程度）アリ漸次被害増加ノ傾向アリタルニ付三十日午後再ヒ民政長官ヲ訪ヒ右数字ヲ示シ今後暴動化スルノ惧ナキニアラサルヲ以テ之カ動機ト認メラルル漢字紙ノ記事取締及号外発行禁止方等ニ付懇談シ今後一層当該官憲ニ対シ厳重ナル取締及邦人保護方手配アリ度キ旨依頼セリ民政長官ハ総督及当該官憲トモ打合セ既ニ充分取締ヲナシ居ルモ此際尚凡ユル手段ヲ講シ邦人ノ保護ニ尽スヘキニ付安心アリ度シト答ヘタリ昨夕ヨリ今朝ニカケ警戒モ一層厳重ヲ加ヘ漢字紙ノ頻繁ナル号外発行モ止ミ一漢字紙ハ本日ヨリ発行停止セラルヘシトモ伝ヘラレ目下幾分鎮静模様ナルヤニ見受ケラル

106 昭和6年10月（1日） 在サイゴン河面（繁松）領事館事務代理より幣原外務大臣宛（電報）

サイゴンにおける華僑の排日暴動取締に関する知事との会談について

サイゴン　本省 10月1日前着
第一一号（暗）
香港ニ於ケル暴動事件ノ入報ニ依リ当地在留華僑ノ動静憂慮スヘキ傾向アルヲ看取シタルヲ以テ三十日午前交趾支那知事ヲ往訪シ本官ヨリ貴電合第五九五号御来示ノ趣旨ヲ説

明シ事実ヲ闡明スルト同時ニ本件発生以来特ニ支那新聞紙ノ悪宣伝ニ依ル誇大ノ報道日毎ニ伝ヘラレ在留華僑ヲ煽動スルコトナキヤヲ憂フル旨ヲ伝ヘ従来トモ支那新聞ノ検閲取締ハ相当厳重ニ行ハレ本邦ニ関スル論説ニシテ抹消サレアルモノヲ見ルコト一再ナラス是全ク取締ニ依ル結果トシテ本官等ノ常ニ感謝セル処ナルノミナラス其都度東京政府ヘ報告シ来レル処ナルカ一昨日ハ香港ニ於テ支那排日暴動アリ当領ニ於テモ「ショロン」市ヲ中心トシテ二十数万ノ華僑在住セルコトニモアリ何時排日暴動突発センモ計リ難ク在留本邦人生命財産ノ保護ニ関シ此上トモ充分ノ御取締ヲ希望スト述ヘタル処知事ハ御(2)依頼迄モナク当交趾支那ニ関スル限リ排日暴動ハ固ヨリ暴動ヲ計画セル者サヘモ発見次第検挙スル様厳重訓令シ居レルノミナラス新聞紙ノ検閲取締ヲモ一層励行セシムヘシトテ検閲係主任ヲ呼寄セ本官面前ニ於テ新聞紙取締方針ニ関シ重ネテ詳細ノ訓令ヲ与ヘタリ斯クテ会談約三十分ニ亘リ辞去ニ際シ知事ハ重ネテ本官ニ対シ「当領ニ関スル限リ及ハス乍ラ充分責任ヲ持ツニ付自分ヲ信頼セラレ度ク尚且ツ一層取締ヲ励行スルタメ此際重ネテ訓令ヲ発スヘキニ付極メテ簡単ナル「ノート」ニテ宜敷ク自分宛送付シ置カレタシ」ト語リタルニ付右ヲ約シ辞去セリ

尚目下ノ処「ショロン」市支那人間ニ於テ一二回伝単ヲ頒布シタルモノアルヤニ聞込ミタルモ取締厳重ノ為何等ノ事態ヲモ発生セス在留本邦人モ謹慎シテ業務ニ従事中ナリ

委細公信

仏、河内ヘ暗送セリ

107 昭和6年10月2日 在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

上海における学生救国会その他排日運動の発展について

上海 10月2日後発
本省 10月3日前着

第五七六号（暗）

往電第五二六号ニ関シ(二八文書)

一、学生救国会ノ連中ハ二十九日来罷課シ専ラ排日宣伝ノ拡大ニ努メ居タルカ街頭及電車「バス」等ニ貼ラレタル反日的「ポスター」又ハ標語ハ其後更ニ増加シ且時々貼リ替ヘラレツツアリ尤モ右学生ノ排日運動参加ハ一般ヨリ最モ危険視サレ居ル処市長張群ハ昨一日管下各学校長ヲ召集シ訓達シタル由ニテ各校共来週ヨリ復課スル筈ナリト

二、排日観念カ漸次下層支那人ニ迄入リ込ミタリト見ヘ邦人ニ対スル投石、殴打、唾掛ケ等反感的事故日々数件発生シツツアリ昨一日ニハ反日「ポスター」剝取中ノ工部局邦人警官ニ対シ投石負傷セシメタル事故発生セリ尤モ日本人通学児童ニ対スル嫌カラセハ通学路ノ警戒ト共ニ其後減少セリ

三、排日運動指導者側ノ所謂細胞組織ニ依ル対日経済絶交ハ日ヲ逐ツテ実現シ既報ノ外一日ヨリハ「ネイチブバンク」ノ邦人関係取引停止、標金交易所ノ邦商出入禁止、江南「ドツク」ノ本邦人船舶等ノ修理中止並ニ船具同業組合材木商組合ノ対日取引停止等伝ヘラレ既ニ一部ニ於テ実行ヲ見ツツアル由

四、対日経済絶交ハ更ニ対日本人絶交ニ迄進メントシ邦人商社ノ買弁及雇傭支那人ニ対スル脅迫並ニ迫害ハ漸次露骨トナリタル結果退職ヲ申出ツル者続出シツツアリ又民国日報ノ如キハ之等未退職者ニ対スル密告ヲ募リ居レリ

五、郵便物ノ配達ニ対スル悪評ハ郵務当局ヘノ注意喚起ニ依リ稍々減リタルカ如キモ最近電話「サービス」極端ニ不良トナリ殊ニ南京トノ通話ニ於テ偏頗アルカ如シ右ハ当地ノ女学生及婦人団体等ノ発起ニ依リ今回上海婦女救国会ナルモノ成立シタルニ付交換手カ之ニ策応シ始メタルモノト認メラル

尚上海郵務管理局在勤ノ邦人郵務官ハ時局以来支那人従業員カ侮蔑的態度ニ出ツル為執務不能トナレル由

北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、南京ヘ転電シ支ヘ転報セリ

108 昭和6年10月2日 ※在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

宜昌より婦女子の帰国について

漢口 10月2日後発
本省 10月3日前着

第六九〇号（暗）

宜昌発本官宛電報

第四七号

大臣、公使ヘ転電アリタシ

時局ニ関シ婦人子供十七名自発的ニ帰国ニ決シ二十七日当陽丸ニテ出発セリ残余婦女子ハ尚在泊汽船ニ収容ス

109 昭和6年10月2日 在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

武漢反日救国会の対日経済絶交宣言について

漢口 10月2日後発
本省 10月3日前着

第六九五号（暗）

往電第六七七号ニ関シ

武漢反日救国会ハ客月下旬以来十月一日ヨリ対日経済絶交ノ実行ヲ宣言シ党部ヲ通シ総商会ニ対シ救国基金トシテ従価五割見当ノ禁止的日貨登記料徴収方ヲ厳談シ居タルカ総商会側トシテハ右ニ拘ラス日和見的態度ヲ持シ居タル処九月三十日総商会ヲ代表シテ反日救国会ニ出席セル総商会側委員ハ党部反日会側ノ圧迫漸次加ハレル上武漢警備司令部葉参謀長ヨリ脅迫セラレ遂ニ同席上ニ於テ

一、十月四日ヨリ対日経済絶交ヲ実行ス

二、中国商ノ約定セル日貨ニシテ未タ引取ラサルモノハ破約スヘク之カ売買ヲ許サス

三、既ニ引取リタル日貨ハ数量ヲ一纏メトシテ登記ヲ為シ登記料ヲ即時支払ハシムル様強制ス

四、手持日貨ハ十月四日ヨリ向フ二十日間以内ニ処分スルヲ要シ二十五日以後ハ登記ヲ経タルモノト雖没収ス

五、十月四日午前八時ヨリ検査員ヲ市中ニ派遣検査セシムノ五ケ条ヲ承認スルニ至リ昨一日総商会会議ノ席上主席賀衡夫ヨリ之ヲ発表スルト共ニ従来ノ排貨運動ハ官界商界双方ノ反則続出ニ依リ兎角徹底ヲ欠キタルモ今回ハ特ニ規則ヲ厳重ニシテ之ヲ防ク一方登記料ノ如キモ特ニ高率トスルノ必要ヲ認メ最初党部側ヨリ五割税ノ提案アリタルモ商会側委員ノ要請ニ依リ一割五分ニ決定シタルヲ以テ現在市中ノ日貨ヲ三百万両ト見積リ約四十五万両ノ救国資金ヲ得ル訳ナリト報告セル趣ナリ

右報告ハ当地中国商ニ異常ノ「センセイション」ヲ捲起シ居ル模様ナルカ総商会ハ之カ金融市場ニ及ボス影響ヲ考慮シ本二日各同業組合毎ノ会合ヲ催シ(イ)手持日貨ノ数量(ロ)右日貨引取ノ為銭荘ヨリ借入レタル資金ヲ夫々商会ニ報告セシムルコトトシ商会ニ於テ之ヲ取纏メ近日中ニ省政府何主席ニ提出シ前記排貨条件ノ即時実施ニ依リテ起ルヘキ市中

金融上ノ恐慌ヲ防止スヘキ緩和弁法ヲ講セラレタキ旨歎願スルニ決定セリトノコトナリ

尚賀主席ノ右報告中ニ市党部側委員ハ救国会会議ニ於テ登記料収入ハ排日排貨ニ依ル失業工人救済ニ資スル外中国人経営ノ各工場ヲシテ工場法規定ノ八時間制ヲ実施セシメ之ニ依リテ生スル工人ノ不足ハ日本人工場（泰安紡績）在勤工人ヲ以テ補充スル計画ナリト発表セリトノ一句アリタル由

支ヨリ上海、南京へ転報シ北平、奉天、天津、広東へ転電ヲ請フ、例ノ通暗送セリ

110 昭和6年10月2日 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛（電報）

国民政府の学生運動取締の意向および居留民領事館の保護について

南京 10月2日後発
本省 10月2日後着

第六二五号（暗）

往電第六一三号（一〇〇文書）ニ関シ

一、衛成司令外交部等ノ説明ニ依レハ南京政府ハ愈学生運動取締ノ決心ヲ固メ秩序維持ニ関スル政府令（往電第六二〇号）ヲ発スルト共ニ学校ノ校長其他責任者ニ対シ右ノ趣旨ヲ説明シ学生ニ訓示セシメ政府ノ決心ヲ徹底セシムルニ努メツツアリ他方上海ヨリノ学生団ニ対シテハ蔣主席ヨリ此際真ニ国家ノ為戦ハントノ決心アラハ軍籍ニ編入スヘキニ付所定ノ手続ニ依リ申出ツヘク学生トシテ留マラントスル者ハ須ク学事ニ専念スヘキ旨諭告セル為僅少ノ例外ヲ除キ全部上海ニ引揚ケタル趣ニテ昨一日以来当地ノ形勢頓ニ平静トナリ本二日ニハ当館護衛ノ軍憲モ五十名ニ減少セラレタリ

二、二日谷正倫ト会見シ居留民及当館保護ノ方法ニ付協議セルカ前記ノ形勢ニ鑑ミ当館ノ護衛兵ハ更ニ十名位ニ減スルト共ニ要所ニ哨兵ヲ配置シ遊行等アル場合ニ於テモ途中ニ於テ之ヲ阻止シ当館付近ニハ近付カサル様処置スルコトトナシ又今後ハ護衛兵ノ排日落書等ニ顧ミ人選ヲ厳ニスルコトトセリ

三、海軍側ニ於テハ今尚領事館ノ「ハルク」又ハ汽船ニ引移方慫慂シ居リ（「ハルク」ハ手狭ナル上目下在留民避難シ居レリ）海軍武官ヨリ谷正倫ニ対シテモ其必要ヲ力

説セルカ谷ハ本官ニ対シ現在ノ状況ニテハ領事館ノ移転ハ時期尚早ナリト認ムル旨述ヘ居タリ

右最近ノ形勢為念報告ス

公使、北平ニ転電セリ

111 昭和6年10月2日 ※在重慶清野領事より 幣原外務大臣宛（電報）

成都領事館に貼られた不穏の標語撤去方省主席に申入れについて

重慶 10月2日後発
本省 10月2日後着

第一八四号（暗）

成都発本官宛電報第三一号

大臣（第二九号）公使（第七号）へ転電アリタシ

大臣宛往電第一一八号ノ通当館表一面ニ貼ラレタル不穏ナル標語ハ著シク行人ノ注目ヲ惹キ往来ノモノ皆立留リ悪罵シ或ハ投石スルモノアルモ警備ノ軍警制止セス形勢不穏ニ付昨三十日小官再ヒ省主席ニ対シ右当館ニ貼ラレタル標語ノ取除ケ方及共産党分子蠢動ノ折柄当館保護ノ万全ヲ期セラレタキ旨申入レタル処今朝李副官長ヲ当館ニ派シ両国ノ国交決裂セサル限リ領事館ノ保護ハ責任ヲ以テ完全ニ致スヘク又領事館ノ表ニ貼ラレタル標語ハ国民愛国ノ発露ナレハ急ニ取去ルコトハ却テ面白カラサルニ付尚二日間待レタク四日ニハ軍部ヨリ兵ヲ派シ剝キ取ラシムヘキ旨申出アリタリ尚十日国慶紀念日ニモ亦民衆ノ游行アル筈ナルモ其際ハ又厳重警戒スヘキ旨語レリ就テハ満州事件ノ我軍事行動進展セサル限リ其裡ニハ追々民心モ静マルヘシト思ハル

大臣、公使へ転電セリ

112 昭和6年10月2日 在香港吉田総領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

香港の排日暴動に関し政庁側の態度について

香港 10月2日後発
本省 10月2日後着

第一〇四号（暗）

今次当地ノ排日暴動ニ関シ連日政庁当局ト接シ其結果得タル本官ノ印象何等御参考迄左ノ通

政庁ハ先年ノ対英「ボイコツト」以来当地支那人並広東ニ対シ相当気兼シ居ルハ勿論時ニ露骨ナル迎合的行為ニスラ出ツルコトアルハ周知ノ事実ナル処現総督ハ任ニ在ルコト

漸ク一年余リ経タルニ過キス且華僑ニ接シタル経験アリト雖支那及本来ノ支那人ニ接スルハ今回カ始メテノコトトテ支那ニ対スル手心当ヲ得サルノ感ヲ与フルコト屢々ニシテ殊ニ漢字新聞取締ニ関シ其感ヲ深クスルモノアリシ処今度モ当初ヨリ弾圧ヲ加ヘンカ或ハ政庁トシテ支那人ノ感情ヲ害スルコトアルヘシト恐レタルモノノ如ク能フ限リ尋常ナル警察力限リヲ以テ鎮定セントノ寧ロ消極的方針ニ出テ即チ只管支那人排日激情カ英人側ニ方向転換セラルルヲ避ケントシタル嫌ナキニアラス加之警察当局モ当初事態ヲ稍軽視シ其暴行振リヨリ全ク組織ナキ群集ノ悪戯ト見做シ警察力ヲ以テ充分一両日内ニ抑圧シ得ヘキモノト見込居リシカ如クナリシカ二十三日夜ニ突発セル暴行ハ二十五日午後ニ至ルモ鎮静セス且其ノ行動ヨリ推シテ裏面ニ何者カ潜メル嫌疑濃厚ニシテ事態漸ク悪化ノ徴アリシニモ拘ラス政庁警察共ニ弾圧ヲ決意セス同日午後本官カ民政長官並ニ警務局長官ニ軍隊出動ヲ「サゼスト」シタル際ニモ其時期ニ非ラス之レ以上悪化ノ虞ナカルヘシト述ヘ居タル折柄二十六日ハ愈々悪化シ死者ヲサヘ出シタル為断然軍隊ノ出動トナレルモノナルカ要スルニ今次ノ事変ニ付テハ取締当局ノ見込違ヒト政庁年来ノ支那及支那人ニ対スル格段ナル接近政策ニ加フルニ事件ノ当初ニ於テ断乎タル機宜ノ処置ヲ為ササリシ為メ大事ニ至ラシメタルモノト思考セラル

公使ヨリ上海、南京へ転報アリタシ

北平ヨリ奉天へ転報アリタシ

公使、北平へ転電シ広東、厦門、汕頭ニ暗送セリ

113 昭和6年10月2日 在香港吉田総領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

九竜にて死亡の日本人遺体の処置について

香港 10月2日後発
本省 10月2日後着

第一〇八号（暗）

貴電第二一号ニ関シ

山下夫婦ノ死体ハ同人弟其他関係者ヲシテ確認セシメタル後入院後死亡ノ四名ノ死体ト共ニ政庁付属九竜病院死体室ニ二十八日迄安置セルカ同日本官九竜山下宅現場検分ノ帰途警察側ト引取ノ手筈ヲ協議シ同日夜日本人会役員並ニ関係者等ノ手ニ依リ政庁側提供ノ棺ニ死体ヲ納メ警察官護衛ノ下ニ特別仕立ノ水上警察小蒸気ニテ日本人会付属火葬場

ニ運ヒ三十日午前八時迄ニ全部ノ火葬及納骨ヲ終レリ此ノ間警官警衛ス遺骨ハ本願寺ニ移シ本官及日本人会ノ手ニ依リ一応簡単ナル法会ヲ営ミ置キタルカ事件鎮静後葬儀ヲ催ス筈ニテ総督ヨリ本官ニ右日取決定次第通知アリ度キ旨申入アリタリ

被害者住宅ハ実地検証ノ必要上其儘ノ状態ヲ保タシメ兵卒三名ニテ警戒シ居レルカ一両日中ニ後始末開始ノ見込

在支公使へ転電セリ

114　昭和6年10月2日　幣原外務大臣より
在上海重光公使宛（電報）

南京領事館の一時避難について

第四〇四号　暗、至急

南京領事館避難方ノ件

南京発本大臣宛電報第六一三号（一〇〇文書）ニ関シ

南京ノ排日状況益々悪化ノ状況アリ

居留民全部城内ヨリ避難済ナル今日領事館ノミ多大ノ危険ヲ冒シテ此上現状ヲ維持スル必要無シト認メラルルニ付貴官ヨリ南京政府ノ配下ニ於ケル各地ノ排日状況ニ付同政府ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ南京領事館ヲ一時安全地帯ニ避難セシムルノ已ムヲ得サル次第ヲ通告セラレタル上南京領事ニ対シ残留財産ノ安全ニ関スル手配其他必要ノ措置ヲ指示セラレタル上適当ノ時機ニ領事館ヲ一時下関ニ於テ海軍側ノ保護ノ行届キ得ル適当ノ旅館又ハ家屋ニ移サシメラレタシ（此際直チニ日清「ハルク」ニ移ルコトハ不便ナルヘシ）

訓令トシテ南京ニ転電シ長江及南支各領事館ニ転電又ハ転報アリ度

北平、天津、青島、済南、奉天、在欧米各大使、寿府ニ転電セリ

115　昭和6年10月3日　在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

国民政府の学生運動取締状況と領事館の移転問題について

第六二九号（暗、至急）

本官発支宛電報

第五九二号

大臣発貴公使宛電報第四〇四号（一一四文書）ニ関シ

南京政府カ学生運動ノ厳重取締ヲ決意シテ以来当地ノ不安頓ニ平静トナリタル次第ハ本官発大臣宛電報第六二五号ノ通ニシテ本三日モ南京全学生大会開催セラレタル為万一ヲ慮リ消防隊ヲ当館ニ派遣シ来リタルカ大規模ノ遊行等ハ禁止セラレタルヲ以テ気勢挙ラス左シタル騒キヲ見スシテ終リタリ

右ノ通リ当地治安昨今漸ク平静ニ帰シタル折柄ナルニ依リ此際当館ヲ下関ニ移スハ時機ヲ得サルモノナリト存セラルルニ付テハ大臣ヨリ御訓令ノ次第ハアルモ之カ実行ハ今後再ヒ事態ノ悪化ヲ見ル迄差控フル方然ルヘシト存セラル尚移転スヘキ際ノ行先ニ付テハ追テ当方ノ意見申進スヘキニ付御含置相成度シ

大臣へ転電セリ

116　昭和6年10月3日　在汕頭戸根木領事館事務代理より
幣原外務大臣宛（電報）

汕頭における対日経済絶交運動の状況について

汕頭　10月3日前発
本省　10月3日後着

第二九号（暗）

往電第二八号（七四文書）ニ関シ

一、客月二十八日ノ示威大会決議ニ依リ同三十日市党部ハ民衆抗日会委員会ニ参加スヘキ所定ノ各団体代表ヲ招集第一回委員会ヲ開催ノ結果対日経済絶交ニ関シ往電第二八号ノ第二、第三項ノ十月一日ヨリ実施ノ事ヲ決定即チ㈠各商店ノ日貨売買停止㈡日貨ノ輸入運搬停止㈢日本人使用日本旅館ヘノ投宿禁止㈣日本人使用ノ（脱？）即日離職㈤日本船ノ荷役停止㈥日本品ニ対スル荷役停止等ヲ宣布別ニ罰則五項ヲ発表セルカ尚一日ヨリ調査隊ノ出動ヲ開始セリ

二、一日大連ヨリ入港ノ関東州復州炭五千噸及天津ヨリ入港ノ同地産洋灰三千樽ハ何レモ中国人ノ貨物ナルカ（石炭ハ三井洋行売込）邦船ヲ使用セリトノ理由ニテ荷役ヲ禁セラレ二日入港ノ商船「デリー」丸ニ対スル荷役モ不能ニ終レリ

三、各団体ハ党部ノ命ニ依リ夫々団体内部ニ於テ対日経済絶交会ヲ組織中ニテ既ニ成立セルモノ多数アリ

四、二日ニ至リ舢舨モ動カス同日「デリー」丸ニテ来汕ノ

中国人三十名ハ一時下船スル能ハサリシカ付近ヲ走レル中国「ランチ」ニテ上陸セリ

五、邦人ヨリ日貨購入ノ中国人ニシテ巡警ヨリ身柄並ニ品物ヲ差押ヘラレ罰金（脱税ノ理由）ヲ課セラレ当館届出ニ接シタル分二件邦人使用中国人ニシテ貨物輸送ノ途巡警ニ拘留セラレタルモノ一件アリ其他邦船ニ出向カントスル舢舨「ライター」等モ巡警監視ニ依リ出足ヲ止メ居ル旨報告ニ接シタルヲ以テ（新聞紙ハ一日関係工会邦人抵制ヲ決定ノ旨報シ居レリ）二日駆逐艦長ト共ニ市長代理（市長ハ目下広東）ニ会見中国官憲ノ排日参加ハ通商条約ノ本義ニ戻リ邦人使用人不法拘留ハ条約ノ規定ニ違反セルモノニ付厳重取締リ方要求シタルカ市長代理ハ右申入レニ基キ不法巡警ハ取調ヘノ上処分スヘキ旨ヲ述ヘ広東総領事代理発閣下宛電報第四八二号省政府ノ訓令モ二十八日午後接到此ノ上共邦人保護ニ尽スヘシト申シ居タリ尚今次ノ排日ハ民衆ノ底意極テ強ク為ニ邦人ニ対スル工作ハ関係中国人頗ル（脱？）一般民衆ニ気兼シ居ルカ如ク「ライター」舢舨モ此ノ儘邦人ノ搭載荷役ヲ停止スルモノト認メラルルニ付市長代理ニ対シテハ居留民会並ニ商船出張所使用ノ舢舨ハ如何ナル場合ニ於テモ継続使用セシムル様申入レ置キタリ不取敢前電ノ通転電セリ

117 昭和6年10月3日 在雲南橋丸（大吉）領事館事務代理より幣原外務大臣宛（電報）

雲南における反日運動について

雲南 10月3日後発
本省 10月9日前着

第一〇号（暗、大至急）

三日反日運動ノ群ニ依リ当地ノ邦人ニ商店破壊セラレタルカ死傷者ナシ目下支那側軍隊ニ依リ邦人各戸毎ニ保護セシメツツアリ

支、河内へ転電セリ

118 昭和6年10月3日 在南京田代公使館付武官より杉山陸軍次官宛（電報）

南京における反日運動の平静化について

10月3日後7時発
10月3日後9時着

支第三五六号（秘）

南京報（二日発）

当地ノ反日運動ハ学生ノ請願運動ニ刺激セラレ一時悪化ノ傾向アリシモ政府要人ノ学生ニ対スル態度ノ円満王正廷ノ負傷及辞職並ニ軍警ノ至厳ナル警戒ニ依リ平穏ニ通過シ本日ノ連合請願明三日ノ遊街運動モ制止ノ意向ニテ一時激昂セシ民衆及学生等モ次第ニ鎮静ニ向フ模様ナルモ当局者ハ左傾分子ノ突発的暴行ヲ警戒シアリテ我カ領事館ノ軍隊警戒ハ尚継続セラレアリ学生等ノ軍事教練ハ徒手ニテ形式的ニ毎早朝一時間位実行セラレアルヲ見ル

119 昭和6年10月3日 上海日本商工会議所より幣原外務大臣宛（電報）

国民政府に対日経済絶交運動の禁止方要求について

上海 10月3日後発
本省 10月3日後着

支那ノ排日運動ハ最近益々険悪トナリ日貨ノ売買禁止ハ勿論邦人トノ一切ノ取引ヲ防遏シ既存契約ノ破棄、邦人所有貨物ノ略奪ヲ行フノミナラス原料及一切ノ物品ヲ日本人ニ供給セス、進ンテ我商社銀行等ノ買弁ヲ放火虐殺ノ脅迫ヲ以テ辞職セシメ、剰サヘ郵便電信電話等ノ通信ヲモ妨害シ急速ニ経済絶交ノ徹底ヲ期シツツアリ

斯クノ如キハ我国ヲ敵国トシ国ヲ挙ケテ抗争セントスルモノニテ所謂「ボイコツト」トハ決シテ同一視スヘキニ非ス、仮令砲火ヲ用キスト雖モ其動機ト手段ハ正シク戦闘行為ト言ハサル可カラス、然ルニ市内官憲ハ在留邦人ノ生命財産ハ勿論居住営業ノ自由ヲ保護スヘキ義務ヲ有スルニ拘ラス是等敵対行為ニ対シ何等ノ取締ヲ為サス、却テ之ヲ煽動シツツアルハ明ニ条約並ニ国際信義ヲ無視スルノミナラス最近満州事変ニ関スル国際連盟理事会決議第五項ニ認ムル処ノ両国政府カ形勢ノ重大化、事件ノ拡大ヲ防ク可ク凡ユル必要ナル手段ヲ執ルヘシトノ保障ニ背叛スル行為ニシテ断シテ許容スヘキニ非ス、故ニ帝国政府ハ事態ノ重大ニ鑑ミ南京政府ニ対シ対日経済絶交運動ノ即日禁止ヲ要求シ、万一之ニ応セサルニ於テハ直ニ断乎トシテ南京政府ノ責ヲ問フ外ナシト信ス

120 昭和6年10月3日 幣原外務大臣より在英国松平大使他宛（電報）

時局のため在中国邦人の引揚げ避難状況に

ついて

本省　10月3日後8時25分発

合第七五三号（暗）

在留民引揚状況

時局ノ為在支邦人ノ引揚又ハ避難シタル状況今日迄判明シタル所左ノ通

㈠満州

「哈爾賓」内地人婦女子六四〇名長春ヘ

「東支線東部地方」各地在留内地人二五名哈爾賓ヘ

「博克図」（Puo-ko-tu, 東支線西部）札免公司員七名哈爾賓ヘ

「斉々哈爾」満鉄社員一九名哈爾賓ヘ

「吉林」内地人婦女子二三〇名長春ヘ

「伊通」（I-tung, 長春管内）内地人全部（二〇名）長春ヘ

「洮南」内地人全部（約三〇名）鄭家屯ヘ

「通遼」内地人全部（約二八名）鄭家屯ヘ

「鄭家屯」内地人婦女子全部（約七五名ト推定）四平街ヘ

「昌図」（Chang-tu, 鉄嶺管内）内地人婦女子一七名昌図付属地ヘ

「法庫」（Fa-ku, 鉄嶺管内）鮮人約一〇〇名鉄嶺ヘ

「海竜」及「掏鹿」管内各地在留内地人約五五名鮮人約二八名吉林又ハ開原ヘ

「新邱」（Hsin-chiu, 新民府管内）内地人全部（二三名）新民府ヘ

「錦州」内地人全部（約四〇名）奉天ヘ

「牛荘城」（営口管内）内地人婦女子（約一六名ト推定）海城ヘ

「局子街」内地人婦女子二〇名同地分館ヘ収容中

㈡北支地方

「唐山」（Tang-shan）全部（九名）天津ヘ

「灤州」（Lwan-chow）及「昌黎」（Chang-li）全部（約二六名）山海関ヘ

㈢中南支地方

「南京」婦女子全部上海ヘ残留者ハ下関日清汽船「ハルク」ヘ避難

「杭州」全部（三〇名）上海ヘ

「蘇州」一部（一〇名）上海ヘ

「蕪湖」婦女子ノ一部（二六名）上海ヘ残留者ハ日清汽船「ハルク」ヘ避難

「長沙」婦女子全部（約三〇名）同地安全地帯ヘ収容中

「宜昌」婦女子一七名漢口ヘ残余ノ婦女子ハ在泊汽船ニ収容中

「重慶」婦女子大部分在泊汽船ニ収容中

「鄭州」全部（一五名）漢口ヘ

「汕頭」婦女子全部（約八五名）領事館ヘ収容シ任意引揚シム

「香港」市内避難所ヘ収容中ノモノ香港側五〇〇名九竜側一九七名

寿府ヨリ英ヲ除ク在欧各大公使ニ転電アリ度

米ヨリ加奈陀、紐育、桑港、市俄古ニ転電アリ度

（編注）本電報は、在英国松平大使のほか「在米大使、在ジュネーヴ連盟帝国事務局」に発電された。

121

昭和6年10月3日　幣原外務大臣より在漢口坂根総領事宛（電報）

沙市居留日本人の保護に関する措置について

本省　10月3日後6時5分発

第九一号（暗）

沙市在留民保護ノ件

沙市ヘ転電アリタシ

第三号

貴電第一五号ニ関シ

貴地今後ノ情勢ニ依リ在留民ノ現地避難ニテ猶安全ヲ期シ難キニ至ラハ下流方面ニ引揚ケシムルコト已ムヲ得サルヘシ但シ貴地ソノモノ情勢危急ヲ告ケサル限リ上流方面居留民ノ引揚アリタリトテ直チニ之ニ倣フ必要無キ次第ナルニ付今後一層中国側ヲ督励シテ警戒保護ニ任セシムルト共ニ海軍側ト協力シテ情勢ニ応シ機宜ノ措置ヲ講セラレ度尤モ貴館員家族ハ貴官ノ裁量ニ依リ適当ノ時機ニ引揚ケシメラレ差支ナシ（帰朝セシメラルル場合ニハ之ヲ許可ス）又事態更ニ悪化シテ貴館ノ現状維持ヲ許ササルニ至ラハ残留財産安全ニ関スル適当ノ措置及其他ノ後始末ヲ付ケラレタル上館員全部一時漢口ニ引揚ラレ差支無シ

支、上海、北平ヘ転電セリ

122　昭和6年10月3日　幣原外務大臣より
在重慶清野領事宛（電報）

重慶における反日会の本邦船圧迫について

本省　10月3日後9時40分発

第三六号　暗、至急
貴電第一八五号ニ関シ
重慶反日会長風丸圧迫ノ件
海軍省トモ協議シタルカ貴見ノ通リ本邦人ノ生命ニ関セサル限リ海軍力ヲ用フルコトハ貴地ノ実状ニモ顧ミ成ル可ク之ヲ避ケ度キモ万一国旗凌辱事件ヲ発生スル如キコトアラハ影響スル所重大ナルニ付貴官ハ予メ中国側当局ニ対シ保護方ヲ要求シ特ニ国旗凌辱事件ヲ起スカ如キコトナキ様厳重先方ノ注意ヲ喚起セラルルト共ニ軍艦側トモ打合セ成ル可ク長風丸ヲ軍艦ノ間近ニ碇泊セシムル等機宜ノ方法ヲ講セラレ若シ右ニモ拘ラス暴徒カ国旗ニ手ヲ触ルル虞アル形勢アラハ一時国旗ヲ適当ノ場所ニ格納セシムル等臨機ノ手段ヲ執ラシメラレ度
公使、上海ニ転電セリ

123　昭和6年10月4日　幣原外務大臣より
在英国松平大使他宛（電報）

香港における邦人殺害事件に関し在本邦英国大使遺憾の意表明について

本省　10月4日後3時50分発

合第七六九号（暗）
香港在留民殺害ノ件
三日英国大使ヨリ本大臣宛書翰ヲ以テ香港ニ於ケル帝国臣民ノ殺害ニ対シ英国政府ノ深甚ナル遺憾ノ意ヲ帝国政府ニ伝達スヘキ旨本国外務大臣ヨリ電訓ニ接シタル趣並ニ同大使個人トシテモ今回ノ不幸ナル出来事ニ対シ深ク遺憾ノ意ヲ表スル旨申越セリ
香港ヨリ広東、厦門、汕頭、福州ヘ転電又ハ転報アリタシ
在支公使ヨリ上海、南京ニ転電又ハ転報アリ度
（編注）本電報は在英国松平大使のほか「在支公使、奉天、北平、香港各公館長」にも発電された。

124　昭和6年10月（5日）　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海紡績勤務日本婦人に対する殴打事件発生

について

上海
本省　10月5日後着

第五八九号
上海紡績ノ教婦沢田ミツ及山田スエノ両名昨四日午後五時頃社宅ヨリ工場ヘ徒歩通勤ノ途中龍江路斉々哈爾路交叉点ニ於テ待伏セ居タル学生風ノ支那人ニ竹製「ステツキ」ニテ殴打サレ治療三週間ヲ要スル重傷ヲ負ハサレタリ右ハ目下工部局警察ニテ犯人捜索中ナルカ犯行ノ原因ハ邦人教婦ニ対スル私怨ヲ晴ラスタメ他ヨリ使嗾セラレタルニ非スヤトノ疑アリ
又同時刻頃文路「ピアースアパート」居住鉄道省駐在員平山テイサイノ三女（六才）中庭ニテ遊戯中下顎外方ニ二針ノ縫合ヲ要スル負傷ヲナシ本人ハ同「アパート」ノ「エレベーターボーイ」カ棒切ニテ打チ逃ケ去レリト称シ居ル由ナルモ或ハ転倒ノ際何物カニ打当リ裂傷ヲ受ケタルモノナランカトノ説アリ工部局警察ノ処置振注意中
右時節柄御参考迄

125　昭和6年10月（5日）　在広東須磨総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

特派員の誤報打電に対する戒告について

広東
本省　10月5日後着

第四九九号（暗）
本官発香港宛電報
第二六号
貴電第四五号（二二七文書）ニ関シ
当地大朝森ハ香港ヨリ帰来セル者ノ謡言ヲ其儘九竜千鳥、末広等襲撃セラレ数名ノ婦女子惨殺セラレタル旨香港ヨリ打電シタルコト判明セルニ付同人ヲ篤ト戒告シ置キタリ
大臣、支、南京ヘ転電セリ

126　昭和6年10月（5日）　在香港吉田総領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

香港、九竜における避難日本人の帰宅について

香港
本省　10月5日後着

第一一四号（暗）

往電第一一二号ニ関シ
四日事態引続キ静穏香港側避難民ノ帰宅スル者相次キ両三日中ニハ極ク一少部分ヲ除キ全部引取ラシメ得ル見込、九竜側モ十一家族帰宅往電第一〇七号入院者中三名全治退院本電往電第一一〇号及第一一二号ト共ニ公使ヨリ南京、上海ヘ北平ヨリ奉天ヘ転報アリタシ
支、北平ヘ転電シ広東、厦門、汕頭ヘ暗送セリ

127 昭和6年10月5日（10月5日）在香港吉田総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

香港における婦女子被害に関する虚報の出所取調について

香港 本省 10月5日後着

第一一五号（暗）
本官発広東宛電報
第四五号
本官発大臣宛電報第一〇七号ニ関シ
大阪朝日ヨリ連合当地支局ニ対シ香港特電トシテ更ニ婦女子数名惨殺ノ報アルモ其真偽如何ノ問合アリタル処右ハ全ク無根ノ説ナルカ当地ニハ朝日通信員在勤セス或ハ貴地森通信員カ香港特電トシテ通信シタルニ非スヤト推察セラルルニ付御取調ノ上同人ノ所為ナルニ於テハ然ル可ク御説示相成度シ
公使ヨリ南京、上海ヘ転報アリタシ
大臣、支ヘ転電セリ

128 昭和6年10月6日（10月6日）在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

陸戦隊の増員および大型軍艦の派遣を稟請の場合は現地公館側と協議方海軍側へ申入れについて

上海 本省 10月6日後着

第一〇九五号（暗）
六日北岡海軍武官ノ報告ニ依レハ
一、五日当地柴山陸戦隊指揮官ハ当地陸戦隊ノ増員ヲ一遣司令官ニ電請セル由又
二、北岡武官ハ五日海軍省ニ対シ此際大型軍艦ノ派遣ヲ適当ト認ムル旨意見ヲ上申セル由ナリ

本使ハ㈠ニ付テハ陸戦隊指揮官ハ総領事ノ意見ヲ徴セリヤヲ問ヒタルニ返答曖昧ナリシヲ以テ武官ニ於テ指揮官ニ対シ斯ル場合ニハ必ス事前ニ総領事ト協議スヘキ事ヲ厳重ニ伝達スヘキ事ヲ求メ又㈡ニ付テハ海軍武官カ必要ニ応シ特ニ事変ノ為軍艦ヲ派遣スル等ノ事ヲ公使館付武官トシテ上申ノ場合ハ篤ト本使ト協議スヘキ事ヲ注意シタル上昨今ノ如キ時局機微ノ際ニハ外交当局ト軍部トノ密接ナル連絡ヲ要ス又万一外交当局ト其他トノ意見合ハサル場合ニハ別ニ之ヲ処理シ得ル方法モアルヘキ旨申聞ケ置ケリ
当地商工会議所方面ハ盛ニ開戦論ヲ以テ策動シ居リ北岡武官ノ前記海軍省宛上申ニ付テモ種々議論ヲ闘ハシ之ヲ支持スルノ決議ヲ為シ右ヲ通電セントスルノ主張多カリシ実情ナリ
当地海軍側ニ対シテハ北岡武官ヲ通シ外部ニ対シ充分冷静ノ態度ヲ持スヘキ旨更ニ伝達シ置キタリ
尚本使トシテハ今直ニ大型軍艦ヲ派遣スル事ハ時期尚早ト認メ居レリ

129 昭和6年10月6日　在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

上海の事態緩和のため張公権の斡旋について

上海 10月6日後発 本省 10月7日前着

第一〇九六号（暗、極秘）
（部外絶対秘）
予テ満州視察中ナリシ張公権ハ数日前当地ニ帰来シタルカ上海ヲ中心トスル日民両国側ノ険悪ナル空気ヲ見此儘ニ放任スル時ハ遂ニハ由々シキ結果ヲ生スヘシト考ヘ私カニ張群李石曾其他当地在住ノ最主ナル人々ヲ会合シ先ツ第一ニ政府及党部ヲシテ排日運動ヲ取締ラシメテ空気ヲ緩和スルノ必要ヲ説キ結局政府側ハ張群党部側ハ李石曾ニ於テ之カ斡旋ニ当ルコトトナレリ右ハ張公権カ船（津）ニ内話シタル処ニシテ時局柄本使以外ニハ何人ニモ洩ササル様伝言シタル由
南京、奉天、北平ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

130 昭和6年10月6日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海在留邦商の対中国人取引の苦境について

上海 10月6日後発

本省　10月6日後着

第五九八号（暗）
往電第五四六号（四五文書）ニ関シ
当地邦商ノ対中国人取引ハ其後皆無ノ状態ニテ僅ニ日本向並他地方向輸出貨物少量（之トテモ新ナル取引ニ依ルモノニアラス既約品ノミナリ）ノ荷動キヲ見ツツアリタルノミナル処輸出入貨物積取運搬ニ従事スル艀業者ハ其組合ノ決議ニ依リ邦商貨物ノ取扱ヲ拒絶スルコトトナリ各邦商専属ノ艀人足ハ組合並救国会ノ脅迫ニ怖ケ五日午後ヨリ断然右決議実行ニ取掛リタル為三井、東洋棉花其他各商社共六日ヨリ輸出入共荷捌運搬全ク不可能トナレリ商店使用人並工場職工ノ動揺ハ全般的ニハ未タ之ナキモ紡績工場ノ如キ製品荷捌ナキ際此儘何時迄引続キ維持シ行クコトヲ得ルヤ悲観スル向多ク現ニ一皮革工場ハ閉鎖シ燐寸其他工場ニシテ閉鎖ニ瀕セルモノ一方小資本ノ商人ニシテ深刻ナル排日行動ノ直接影響ヲ蒙リ苦境ニ陥リツツアルモノ多数アル模様ナリ
北平、天津、奉天、青島、漢口、南京、広東へ転電シ在支公使へ転報セリ

131　昭和6年10月6日　幣原外務大臣より在重慶清野領事宛（電報）

重慶居留日本人の引揚げについて

本省　10月6日後2時30分発

第三八号（暗）
重慶在留民ノ引揚ニ関スル件
貴電第一八一号（一〇四文書）ニ関シ
日清本社ト交渉シタル処雲陽丸ノ貴地繋留ニ関シ同社側ニテハ貴電(一)ノ如キ意向ヲ有セサルモノト認メラルルニ付此上永ク婦女子ノ同船内収容ヲ続ケサルヘカラサル状況ナルニ於テハ貴電(二)ノ通リ残留者及成都引揚ノ場合ニ於ケル同地引揚者ハ軍艦ニ収容スルコトトシ婦女子ハ成ルヘク下江セシムルコト然ルヘシト認ム
尚雲陽丸ノ貴地繋留ニ関シ費用ノ点ニテ日清側ト貴官トノ間ニ何等条件等ヲ定メラレタルコトアラハ右折返シ回電アリタシ
支、漢口へ転電セリ支ヨリ上海へ転報シ漢口ヨリ宜昌、沙市へ転電セシム

132　昭和6年10月7日　在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

事態緩和ならびに治安維持に関し張上海市長との談話について

上海　10月7日後発
本省　10月7日後着

第一一〇三号（暗）
七日張群本使ヲ来訪シ当面ノ時局ニ対シ種々談話ヲ試ミタルカ帰着スル処ハ要スルニ上海付近ノ治安維持ニ関シテハ同市長ニ於テ苦心惨憺シ居レルカ充分責任ヲ以テ治安ヲ維持スルノ自信アリ之カ為ニハ南京ヘノ往復ヲモ一時中止シテ専心之ニ従事セル次第ナリトテ詳細説明ヲ加ヘ此際日本側ニ於テモ事端ヲ醸ササル様冷静ナル態度ヲ維持セラレタシトノ趣旨ニテ陸戦隊ノ増員軍艦ノ派遣等カ痛ク民国側ノ神経ヲ刺戟シ居ル旨ヲ述ヘ居タリ依テ本使ヨリ適宜説明ヲ加ヘ今回排日運動ノ極端ナル手段ヲ指摘シ特ニ両陛下ノ御写真ニ対スル不敬事件ノ如キ政府及当地総領事館ノ迅速ナル記事差止ノ措置ニモ拘ラス邦人間ニ伝ヘラレ如何ニ其神経ヲ刺戟セルヤハ蓋シ想像ニ余アリ尚銀行取引ノ停止其他極端ナル手段ニ訴フルカ如キ対日経済戦争ヲ挑メル如キハ日本実業家中最穏健ナル分子ヲモ駆ツテ強硬論者タラシメツツアリテ此儘放任センカ前途真ニ憂フヘキモノアルヘキヲ指摘シ注意ヲ促シ置キタリ
張群ハ日華双方ノ大局ノ問題処理ニ付テハ自分ハ殆ト手ノ着ケ様無ク専ラ最モ喫緊事タル上海ノ治安維持ニ全力ヲ注キ其見据付キタル上ニテ日華間ノ難局打開ニ力ヲ尽シ度キ旨話シ居タルカ今後蔣介石ヲ中心トスル中央政府ノ存続スル限リ話ノ緒ヲ作ルニハ張群ノ如キ人物ヲ外ニシテ考ヘ得ラレサル次第ナルヲ以テ本使ハ彼ニ対シ上海ノ治安維持ハ勿論ナルカ日華ノ大局収拾上ニモ充分ノ努力ヲ促シ置キタリ
尚張群ノ口吻ニ依レハ袁良モ多分上海ニ留マリ日華関係ニ努力スルコトトナレル模様ナリ
北平、奉天、南京へ転電シ上海へ転報セリ

133　昭和6年10月7日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海在留邦人に対する侮辱暴行事件の増加について

上海　10月7日後発

本省　10月7日後着

第六〇六号（暗）

一、通学児童ニ対スル迫害事件ハ一時ヨリ減シタルカ一般邦人ニ対スル罵詈侮辱暴行ハ逐日増加シツツアリ

二、往電第五八九号紡績教婦傷害事件ノ犯人ハ未タ逮捕ニ至ラサルカ紡績会社側ハ両婦人ハ個人的怨恨ヲ受ケル様ナモノニアラス又邦人教婦ハ常ニ支那女工ヨリ感謝サレ居リコソスレ怨マルルモノニアラサルヲ以テ本事件ハ排日熱ニ駆ラレタルモノノ所為ナリト看做シ居レリ

三、抗日救国会ノ脅迫監視ニ依リ米炭其他日用品ノ不売モ漸次行ハレ牛乳新聞ノ不配達モ弗々出現セリ

四、救国会ノ中日商人間ノ商取引ニ対スル圧迫ハ今ヤ総テノ営業ニ行渡リ逐日熾烈トナリ新規取引止ミ既存契約ノ破棄迄モ頻出シ在滬邦人薬種商ト取引シ居タル支那薬種商ノ如キハ代金未払ノ分ニ対シテハ現品ヲ返還シ来リ居レリ

五、玩具商新発公司ハ最近城内ニ支店ヲ設ケタルカ時局ノ突発ニ依リ商品及備品ヲ置キタル儘店ヲ閉鎖シ置キタル処去ル一日救国会員ニ全部掠奪セラレタル旨届出アリ目下交渉中

公使ニ転報シ奉天、北平、天津、青島、漢口、広東、南京ヘ転電セリ

134　昭和6年10月7日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

上海共同租界における日本人および中国人に対する略奪暴行事件の発生について

上海　10月7日後発
本省　10月7日後着

第六〇八号（暗）

(一)七日午前十一時半頃当地邦商文進洋行ハ新聞紙一俵（価格約百円）ヲ支那人ノ小車ニ積ミ邦人印刷所ヘ運搬中共同租界内欧嘉ニ於テ抗日会員ト称スル支那人三名ノ為小車共差押ヘラレ同租界内ノ華商紙業公会ニ持チ去ラレタル旨ノ届出ニ依リ当館警察官ハ工部局外人警部等ト共ニ右紙業公会ニ急行其ノ不法ヲ詰問シ荷物返還方申聞ケタルニ紙業公会ノ日貨検査員ト覚シキ支那人三十余名居合セ日貨カ否カ調査ノ要アリト称シ即時返還ヲ拒ミタルモ警官一行ハ断然タル態度ヲ示シ小車共ニ取戻シ来レリ

(二)同日午後五時頃租界内武昌路東本願寺前ニテ上海日報夕刊配達中ノ一支那人ハ多数ノ支那学生ヨリ暴行ヲ加ヘラレタ刊百部計リヲ強奪サレタリ

右事故二件ハ白昼而モ租界内ニ於テ発生セルモノナルニ付工部局ニ対シ一層取締方注意シ置キタリ

公使ヘ転報セリ

北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、広東ヘ転電セリ

135　昭和6年10月7日（7日）　在汕頭戸根木領事館事務代理より　幣原外務大臣宛（電報）

汕頭における全市学生連合示威遊行大会の状況について

汕頭
本省　10月7日後着

第三一号（暗）

往電第三〇号ニ関シ

一、本日ノ全市学生連合示威遊行大会ハ五十校約一万ノ中小学校生徒参加午前十時中山公園ニ勢揃ヒノ上先ツ同所ニテ反日演説会ニ次キ蔣介石張学良ノ下野促進並ニ反日ニ関スル六項ノ決議ヲ行ヒタル後十時半ヨリ出発日貨密売ノ一中国人ヲ示衆処分ノ為先頭ニ立テ午後一時迄市街ヲ遊行シ途中邦人商店前ニ差懸ル毎ニ打倒日本帝国主義ト呼号シ居タルカ軍部ヨリ軍隊四十名ヲ差向ケ巡行ノ途中ヲ警戒セシメ邦人ノ警衛ニ付テハ前回通リノ措置ヲ執リタル為博愛病院ニ対スル投石一件アリシノミニテ先ツ事ナク終了セリ尚邦人婦女子ハ当館ニ一時避難セシメタリ

二、各会抗日救国会ハ往電第二九号ノ決議ノ通リ邦人使用中国人罷業画策中ニシテ両三日来洋務工ヲシテ之等使用人ノ給料、家庭ノ事情等取調中ナル一方中国商人側ハ全ク邦商トノ取引ヲ中止シ居リ食料品等モ邦人直接ノ買入レヲ避ケ中国人ヲ中間ニ立テ売渡シノ風アリ事態悪化ノ懸念アルヲ以テ中国官憲ニ対シ更ニ本官ヨリ警告ヲ発スル所存ナリ

三、十日ノ双十節ニハ更ニ各会ノ大示威遊行行ハルル筈ナリ不取敢

支ヨリ上海、南京ヘ転電アリタシ

136　昭和6年10月7日　幣原外務大臣より　在上海重光公使宛（電報）

雲南領事館の引揚げについて

本省　10月7日後3時20分発

第四一二号　暗、至急

雲南領事館引揚ノ件

北平発貴官宛第四二三号及河内発本大臣宛電報第一四号ニ関シ

在雲南領事代理ニ対シ領事館ノ引揚モ已ムヲ得サルニ至ラハ河内ヘ引揚ゲ追而何分ノ指令アル迄同地ニ滞在シ現地ノ情勢ヲ見送ルト共ニ在留民ノ世話ヲナスベキ旨可然通信方法ニ依リ回訓セラレ度ク尚領事館引揚ノ際ハ重要財産ニ封印ヲ施スト共ニ別ニ財産目録二通ヲ作製シ出来得レバ中国官憲立会ノ上之ヲ検証シ双方捺印ノ上一通ヲ先方ニ渡シ之ガ保護ヲ依頼スルト共ニ万一ノ場合損害賠償ノ証トナシ得ル様処置スベキ旨並電信コード及機密文書ニ関シテハ成都宛往電第四号ニ依リ処理スヘキ旨併而訓令セラレ度シ

137　昭和6年10月7日　幣原外務大臣より在重慶清野領事宛（電報）

重慶および成都居留日本人の引揚げに関する措置について

本省　10月7日後10時40分発

第四〇号（暗）

重慶租界及居留民防護方ノ件

貴電第一九六号ニ関シ

貴地情勢悪化ノ場合ニ於ケル政府ノ方針ハ在支公使宛往電第三八三号前段ニヨリ御承知ノ通ニシテ海軍側ニ於テモ右ノ場合ニ於テハ政府ハ居留民ヲ漢口方面ニ引揚シムルノ方針ナルコトヲ一遣司令官ニ対シ極秘内報済ノ趣ナルカ今後中国民衆カ租界ニ侵入スルカ如キ場合ニハ居留民ノ残留スル以上警備艦トシテハ勢ヒ実力阻止ノ已ムヲ得サルニ至リ自然前記方針ニ反スル結果ヲ来スヘキニ付斯カル場合ニハ早目ニ居留民ハ勿論貴館員全部下流ニ引揚クルヲ得策ト認メ貴方ニ於テ何時ニテモ右ノ措置ヲ執リ得ルヤウ成都ニ対シ往電第五号ノ通訓令シタル次第ナリ就テハ同地領事館館員並在留民ノ貴地引揚ニ付テハ貴方ヨリモ必要ノ助力ヲ与ヘラルルト共ニ其ノ到着ヲ待チ予メ租界並残留財産ノ安全其他ノ跡仕末ニ付必要ノ措置ヲ講セラレ貴地居留民ハ成ルヘク早目ニ下流ニ引揚ケシメタル上貴館員ノ撤退ニ付テモ時機ヲ誤ラサル様警備艦側トモ協力シ情勢ニ応シ機宜ノ措

置ヲ執ラレ度（以上海軍側ト打合済）尚貴館引揚ノ場合ハ一先漢口ニ留マリテ何分ノ指令ヲ俟タルル様致度

在支公使、上海、漢口、宜昌、沙市ニ転電セリ

成都ニ転電アリ度

138　昭和6年10月7日　幣原外務大臣より在重慶清野領事宛（電報）

成都総領事館の引揚げについて

本省　10月7日後10時40分発

第四一号　暗、至急

成都領事館ノ引揚ニ関スル件

成都ニ転電アリタシ

第五号

其後貴地情勢ハ今俄カニ引揚ヲ要スル迄ニ至ラサルヤニ認メラルル処重慶ニ於テ事態急変シタル場合ニモ貴館員等残留スル限リ引揚ケ得サル破目ニ陥リ之カ為メ警備艦ノ行動上モ極メテ困難ナル結果ヲ生スヘキニ付此際貴館員並在留民ハ早キニ臨ンテ重慶ニ引揚ケ在留民ハ一先ツ下流安全地帯ヘ引揚ケシメ貴官及館員ハ重慶領事館員ト行動ヲ共ニセラルルコト諸般ノ関係上得策ナリト認ム就テハ本大臣発重慶宛電報第四〇号ノ次第ヲモ御含ノ上貴館及残留財産ノ安全其他ノ跡仕末ヲ著ケラルルト共ニ途中身辺ノ安全ニ付適当ノ方法ヲ講セラレタル上在留民中ノ引揚希望者ト共ニ速ニ重慶迄引揚ケラレ同地ニ於テ更ニ何分ノ指令ヲ俟タルルコトト致度

在支公使、上海、漢口、宜昌、沙市ニ転電セリ

139　昭和6年10月（8日）　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

対日経済絶交運動取締りに関する張上海市長との会談について

上海

本省　10月8日後着

第六一一号（暗）

中国[1]官憲ハ邦人ノ生命財産直接ノ危害防止又ハ邦人所有貨物ノ抑留阻止ニハ我方ノ要求ニ応シ相当努力シ居ルモ最近急速ニ発展シ来レル所謂経済絶交運動ハ之ヲ放任シ居ル模様ナルニ鑑ミ昨七日本官張市長ヲ往訪抗議文（十月七日付機密第一二〇三号）ヲ手交スルト同時ニ人命財産ノ直接危害ニ対スル保護ハ勿論ナルカ経済絶交モ抗日救国会員等ノ

脅迫暴行煽動等ノ不法手段ニ依リ支持ノ為関連セル運動ニシテ到底之ヲ以テ各個人ノ自由意思ニ依ル合法的行為ト看做スヲ得ス兵力コソ使用セサレ純然タル敵対行為ナリト云フヘク仮令右ハ中国政府ノ関与セサルモノナリトスルモ政府カ友好国ニ対スル民衆ノ斯カル運動ヲ黙過スルハ不都合ナルノミナラス中国政府ハ条約上日本人ノ居住営業ノ自由ヲ保障スル義務アルヲ以テ本運動ヲモ厳重取締ラレタシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ張ハ何分事件カ大キカリシ為反動モ大ナル訳ニテ取締ニ困難ヲ感シ居レルカ自分トシテハ出来得ル限リ尽力シ居リ殊ニ生命財産ノ保護ニ付テハ厳重責任ヲ執ルヘク又其自信モアルニ付安心アリタシト答ヘタルヲ以テ本官ハ更ニ其点ニ付テハ本官モ貴市長ニ信頼シ居ルカ経(2)済絶交ハ取締リ得サルヤト反問セルニ自分トシテハ随分八釜敷各方面ヲ抑ヘ居リ之カ為過激分子ノ恨ミヲ買ヒ学生間ニハ自分ヲ暗殺スル計画モアル程ニテ此方ニハ差シ当リ手ヲ付ケカヌル状態ナリ其辺ハ御諒察アリ度シト述ヘタリ之ニ対シ本官ハ貴官ノ立場ハ充分諒解シ同情スルモサレハトテ然ラハ其取締リハナサルルニ及ハスト云フ能ハス前述ノ通リ日本人ハ之ヲ敵対行為ト見感情頗ル昂フリツツアレハ其永続波及ハ由々シキ大事ヲ引起ス惧アルニ付兎ニ角出来得ル限リ取締リニ努メラレ度シト述ヘ置キタリ

右会談中張ハ何等経済絶交運動ヲ弁護スルカ如キ口吻ヲ漏サス而モ差当リ之ニハ手ヲ付ケ得スト述ヘタルハ如何ニモ本運動カ執拗ニシテ真ニ官憲ノ力及ハサルカ如キ感シヲ与フルモ生命財産ノ直接保護ニ付テハ如何ニモ自信アルカ如キ云ヒ振リナリシニ顧ミ少シク腑ニ落チサルモノアリ本官ハ右ハ寧ロ支那当局カ混沌タル政局ニ気迷ヒノ姿ニテ本運動ニ対スル態度ヲ決シカネ居ルカ為ナラント想像シ居レリ公使ヘ転報シ北平、天津、南京、奉天、青島、済南、漢口、福州、厦門、広東、香港ヘ転電セリ

140　昭和6年10月8日　※在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

長沙付近における反日運動について

漢口　10月8日後発
本省　10月9日後着

第七〇七号（暗）

長沙発本官宛電報第八八号

大臣ヘ転電アリタシ

一、本月一日常徳ニ於テ反日游行挙行セラレ日清汽船及戴生昌ノ代理店ニ暴徒闖入シ器物ヲ破壊シタル揚句日清使用「ボーイ」一名ヲ拉致シタル事件アリ次イテ三日湘潭ニ於テモ亦同様反日游行隊カ日清代理店ヲ襲撃シ狼藉ヲ働キタル処右ハ何レモ邦人ノ居住者ナク損害ノ程度モ軽微ナリシニ付其都度公文ヲ以テ省政府宛邦商ノ保護排日運動ノ取締方ヲ申入ルルト共ニ四日総指揮部ニ何健ヲ往訪シタルモ不在ニ付参謀長ニ面会取締保護方ヲ求メタルニ直ニ警備司令部ニ打電スヘシト答ヘ又五日省政府楊秘書ニ面会同様申入レタルニ楊ハ右ハ長沙警備ニ追ハレ地方ヘノ訓令暇取リタル為此失態ヲ演シタルモノニテ早速厳重取締方手配済ニ付安心アリタシトテ遺憾ノ意ヲ表スル所アリ尚何健ニ於テモ誠意ヲ以テ取締ノ任ニ当リ居リ現ニ最近反日会ノ執行委員会其他反日団体ノ代表者ヲ招致シ警備司令及公安局長列席ノ上中央党部及国民政府ノ訓令ヲ示シ経済絶交ノ名ニ於テ邦人ノ生命及財産ニ危害ヲ加フル行為使用人ノ禁止食料品ノ供給禁止人力車夫渡船ノ常傭禁止ノ如キ越軌行動ニ出ツヘカラサルコト学生ノ休校宣伝「ビラ」ノ頒布等不穏ノ行動ヲ慎ム様懇々訓戒シタル程ナレハ最早是以上事態ノ悪化スル懸念ナカルヘシト内話セリ

二、新聞ハ依然上海方面ノ「ニュース」ニ尾鰭ヲ付シ荒唐無稽ノ記事ヲ捏造シ侮辱的宣伝ヲ行ヒ盛ニ人心ノ煽動ニ努ムルト共ニ反日救国会ハ往電第六五号申進ノ経済絶交公約ヲ修正シ躍起トナリテ気勢ヲ揚クルコトニ努メ居ル処前ノモノト大同小異ニシテ一般民衆ニ既ニ耳朶ニ狎レ市中ノ空気ニ変リナキモ日貨排斥ハ反日会ノ検査没収行ハレ焼棄ヲ決議スル等漸次深刻化シツツアリ

三、中ノ島避難所ヨリ帰宅シタル日清「ハルク」付近居住邦人婦女子モ其後何等ノ事故ナク一時憂慮セラレタル邦人ニ対スル直接危害丈ハ漸ク不安ノ域ヲ脱スルニ至レリ支ヨリ北平ヘ転電シ南京ヘ転報アリタシ

支ヘ転電アリタシ

141　昭和6年10月（8日）　在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

我が軍艦の派遣に関連し上海で日中間に衝突の虞れありとの風説について

南京

本省　10月8日前着

第六三六号（暗）

最近上海ニ帝国軍艦増派セラレタルコトニ関連シ当地ニ於テハ今ニモ上海ニテ日本陸戦隊ト中国側トノ間ニ衝突ヲ起スヤノ風説盛ニ伝ヘラレ六日来外交部ヨリ屢電話ヲ以テ右実否聞合セ越セルニ付当館ニテハ何等斯ル情報ニ接セサル旨答ヘ置キタル処七日外交部情報司科長本官ヲ来訪重ネテ前記風説ノ実否ヲ確ムルト共ニ兎ニ角当地ニ於テハ一般ニ右風説ヲ確信シ対日（脱？）悪化シ居ルニ付在留邦人外出ハ成ルヘク見合セラレタキ旨申出タリ

尚中国時局緊張ノ折柄ニモアリ在留民ニ対シテハ特ニ注意ヲ与ヘ居レリ

公使、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州、杭州、蘇州ヘ転電セリ

142　昭和6年10月8日　在香港吉田総領事代理より　幣原外務大臣宛（電報）

香港における排日暴動の邦商に対する影響について

香港　10月8日後発

本省　10月9日前2時30分発

合第八一二号（暗）

鄭州、雲南、成都、重慶各領事館ノ引揚ニ関スル件

今次事変ノ結果既ニ帝国領事館ノ引揚ヲ行ヒ又ハ引揚方発令済ノモノ左ノ如シ

㈠鄭州（館員及家族五、在留民一〇）

党部及軍部ノ排日運動頗ル熾烈トナリ万一ノ場合避難ノ途塞カルル虞アリタルヲ以テ領事館員及残留邦人全部九月二十八日同地ヲ引揚ケ三十日漢口ニ到着

㈡雲南（館員及家族三、在留民二五）

事変以来中国官憲ハ同地領事宛電報一切ヲ差押ヘ居タル為不安甚シカリシ処情勢益々険悪ヲ加ヘタル為メ同地領事ハ十月五日（ト推定）在留民中一五名ヲ河内ニ引揚ケシメ（十月七日着）タルヲ以テ同領事ニ対シテハ今後ノ情勢ニ依リテハ領事館並残留財産ノ安全其他必要ナル跡始末ヲ付ケタル上河内ニ引揚ケ同地ニ於テ引揚在留民ノ世話ヲナスヘキ旨七日訓令済ナリ

㈢重慶（館員及家族一五、在留民八〇）

本省　10月8日後着

第一二一号（暗）

当地排日暴動ノ邦商ニ対スル影響左ノ通

日本品取扱支那商ニ対シ脅迫甚シク此方面ノ新規契約殆トナシ既約ノ分モ当地引取リ際ノ危険ヲ虞レ積出差控ヘ方手配セル者多シ外人筋ハ荷役不能ヲ慮リ邦船ニ依ル輸入差止タル由ナルモ目下邦船ノ荷役ニ支障ヲ見ス尤モ邦船ハ当地ニ於テ支那人側ノ積荷船客共ニ皆無ナリ各倉庫在庫本邦品ハ当地揚四万八千噸他地揚一万二千噸ナル処当地「ストック」ハ平常ニ於テ四万四、五千噸見当ナルヲ以テ差詰メ事変ニ依ル滞貨ハ一万数千噸ト看做サル

邦人大会社ニハ差当リ大影響ナキモ小資本社ニ於テハ開店不能ノ為従来ノ売掛回収ノ途モ無ク金融逼迫前途懸念セラル手形拒絶ハ五千円位ナルモ支払延期十二万五千円アリ

公使ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ

支ヘ転電シ広東、厦門、汕頭ヘ暗送セリ

143　昭和6年10月9日　幣原外務大臣より　在英国松平大使他宛（電報）

鄭州、雲南、成都、重慶各領事館の引揚げについて

目下帝国警備艦（砲艦）一隻及汽船一隻（在留民避難用）碇泊中ナルカ民衆ノ排日運動熾烈ヲ加ヘ何時租界ニ侵入スルヤモ計リ難キ情勢トナレルヲ以テ往電合第六四八号及合第六五五号ノ方針ニ依リ早目ニ居留民ヲ下流ニ引揚ケシムルト共ニ在成都総領事館員及在留民ノ到着ヲ待チ必要ニ応シ領事館員ヲモ漢口ニ引揚ケシムルコトトシ右ノ方針ニ依リ情勢判断ヲ誤ラサル様訓令済ナリ

㈣成都（館員及家族五、在留民五）

同地ノ情勢ハ今俄カニ引揚ヲ要スル迄ニハ至リ居ラサル模様ナルモ同地総領事館及居留民ノ残留スル限リ重慶ニ於テ事態急変ノ場合ニモ引揚等行動ノ自由ヲ失フコトトナルヘキニ付同地館員並在留民ハ早キニ臨ンテ重慶ニ引揚ケシメ在留民ヲ一先ツ下流安全地ニ下航セシメタル上館員ハ重慶館員ト行動ヲ共ニセシムルコトニ七日訓令済ナリ

㈤南京ニ付テハ往電合第四〇四号ノ通取計ヒタルモ合第七七二号ノ事情アリ同地領事館ハ未タ移動セス今後情勢ニ応シ下関ニ引揚クル場合ノ用意ヲ為シツツアルコト往電合第七九七号ノ通ナリ

巴里連盟ヨリ在欧各大公使（英ヲ除ク）ニ転電又ハ転報アリ度
米ヨリ紐育、市俄古、桑港、加奈陀ニ転電又ハ転報アリ度

144　昭和6年10月10日　※在上海重光公使より 幣原外務大臣宛（電報）

重慶領事館引揚げの場合中国側に租界回収の既成事実を与えぬよう措置について

上海　10月10日後発
本省　10月10日後着

第一一一八号（暗）
重慶発本使宛電報
第一二〇号（三十日後発）
大臣へ転電アリタシ
第一八〇号
昭和二年引揚ノ際ニハ問題トナラサリシモ今回万一当館カ引揚クルトキハ中国側ハ租界行政権拋棄ナリト藉口シテ回収ノ既成事実ヲ作ラスヤト思考セラルル事情アリ而シテ之カ防止ノ為引揚ニ当リ当地官憲ニ対シ特ニ声明書様ノモノヲ送ルハ却テ右ノ事実ヲ早メスヤト考ヘラルル点モアルニ付テハ本件措置方予メ御電訓仰キ置キタシ

145　昭和6年10月10日　※在上海重光公使より 幣原外務大臣宛（電報）

成都総領事館の引揚げについて

上海　10月10日後発
本省　10月10日後着

第一一一九号（暗）
重慶発本使宛電報
第一二二号
外務大臣へ転電アリタシ
第一八三号
本官発成都宛電報
第四七号
貴電第二九号ニ関シ
警戒ノ兵士既ニ頼ミ難シト御認ノ上ハ大臣発貴官宛電報第三号（当館発第四四号）ノ訓電ニ照シ御引揚ヲ断行セラレテハ如何ニヤ
大臣、支へ転電セリ

146　昭和6年10月10日　在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

排日ポスターに対する工部局の取締りおよび抗日会の対日経済絶交提唱に対する中国側の態度について

上海　10月10日後発
本省　10月10日後着

第六二二号（暗）
往電第六〇九号後段工部局ノ「ポスター」取締リニ関シ警視総監ハ㈠外国人巡査監督ノ下ニ夜間苦力ヲ使用シテ剝キ取ルコト㈡日本人巡査ハ不敬其他特ニ嫌悪スヘキ「ポスター」ヲ発見シタル時ハ其所在ヲ随時報告スルコト㈢店内ニ貼付セル此ノ種「ポスター」ニ対シテハ剝キ取リ方ヲ警告スルコト若シ警告ニ応セサル時ハ法院ニ告発方ヲ考量スルニ付報告スヘシ云々ト訓令セル旨田島ヨリ内報アリ
右ニ関連シ市参事会議長ヨリ希望モアリ其斡旋ニ依リ福島及岡本ハ昨八日午後支那人議員ノ虞洽卿徐新六ト会見シタル処虞等モ「ポスター」ノ取締リハ是非之ヲ行フ要アリト認メ居ルモ事実仲々厄介ナ問題ニテ困リ居ル次第ナリトテ愛国的ノモノハ大目ニ見テ貰ヒ度キコトヲ述ヘタルカ福島等ハ「ポスター」ヲ抗日的及愛国的ニ分チテ取扱フコトノ不徹底ナルヲ説示シタル処結局租界内ニ於テハ両種共撤去スルコトニ異存ナキニ付租界外ニ於ケル愛国的ノモノハ我慢アリ度シト希望シ又租界内店内ニ貼付ノモノニ付困難生シタル時ハ告発等セス自分等ニ通知アラハ必ス善処スヘシト述ヘタル由更ニ一般排日運動ニ関シ福島等ヨリ支那側ニ於テハ incident サヘ起サヌ様ニセハ足ルモノト思惟シ居ルカ如キモ右ノ如キ取締リ振リハ誠ニ不満足ナリ対日経済絶交ニ関スル抗日会ノ圧迫暴行其他契約ノ破棄等ハ対日宣戦ノ行為ト看做サルル処之ヲ此ノ儘ニ放任シ置ク時ハ日本一致セルノ国論ニモ顧ミ重大ナル結果ヲ招ク惧ナシトセストテ同会ノ如キハ速ニ解散セシメ事態ヲ緩和スルコト肝要ナリト説示シタル処虞等モ之ヲ首肯シ同会ニ対シテハ既ニ内部ニ於テサヘ反対ノ声モ起リ居リ自分等モ何トカセネハナラヌト考ヘ居ル処抗日会ノ前身タル反日援僑会ハ最初党部之ヲ指導シタルカ間モナク関係ヲ断チ其後商人ノミノ団体ニ化シ結局骨抜キトセルカ今回モ類似ノ方法ニ依リ骨抜キニセンカトモ考ヘ居ル次第ナリトテ自ラノ立場ヲ縷々説明シタルカ福島等ハ斯ル姑息手段ニ依ルコトノ非ヲ諭シ断

乎トシテ解散セシメ経済関係ヲ常態ニ復帰セシムルノ急務ナル事ヲ力説シタルニ虞等モ之ヲ首肯シ張群南京ヨリ帰滬次第篤ト相談スヘシト答ヘ会談ノ機会ヲ得タルコトヲ非常ニ喜ヒ今後モ頻繁ニ会合シテ腹蔵ナキ意見交換ヲ致シ度シト述ヘタル由ナリ

老獪極リナキ虞洽卿ノ事ナレハ其言辞ノ如キモ大イニ割引キシテ聞ク要アル処支那側ニ於テ日本側ノ今迄ニナキ強硬ナル態度ニ怖気付キ抗日反対ノ気運抬頭セルコトハ事実ナリト認メラル

公使ニ転報セリ

北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、広東ニ転電セリ

147　昭和6年10月(10)日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

邦人に対する暴行事件発生について

上海
本省　10月10日後着

第六三〇号

本十日午前十時半頃邦人八名満鉄埠頭入口付近ノ楊樹浦路上ニ於テ平涼路市場付近ニ集合セル群集ノ流レニ遭遇シ夫夫暴行強奪ニ遭ヒタルカ工部局警察ノ為ニ救出セラレ大事ニ到ラスシテ済ミタリ

公使へ転報シ、北平、奉天、天津、漢口、南京、広東へ転電セリ

148　昭和6年10月10日　在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（電報）

反日会の租界回収運動激化により重慶領事館引揚げ決定について

重慶　10月10日前発
本省　10月10日後着

第二〇三号（暗、至急）

貴電第四〇号(1)（一三七文書）ニ関シ

一、七日ノ租界隣接地ニ於ケル反日会ノ示威行列（本日ノ新聞紙ニ依リ「租界回収運動大会」ナリシコトヲ知レリ）ハ市政府側ハ其制止ニ依リテ取止メタリト云ヒシモ実ハ回収委員会ノ改組ノ為延期シタルニ過キス従テ近ク開催セラルヘシトノコトナリ

二、右委員会ハ昨八日三十余名集合シ(イ)同委員会ヲ反日会内ノ特別委員会トスルコトトシ(ロ)巴県知事馮均逸ヲ主席委員ニ游仕勃（租界居住ノ低利資金関係開源銭荘主）ヲ会計主任ニ李サンジョ（巴県団防隊幹部ノ一人）ヲ調査主任ニ定メタル以外ノ決議ハ不明ナルモ九日租界隣接地ニ不穏ノ宣伝「ビラ」ヲ多数貼リ出セリ全文次ノ如シ

租界ハ中華民国ノ領土吾等一致連合シテ自働的ニ日本租界ヲ回収セヨ、国権ノ喪失ハ莫大ナル恥辱、租界内ノ同胞ヨ青天白日旗ヲ高ク掲ケテ起テ、貪リテ飽クナキ日本帝国主義者ヲ打倒セヨ、租界ノ巡捕ニナツテ居ル民国人ヲ殺セ、毫モ勇気ナキ政府官吏ヲ打倒セヨ、日本人ノ走狗トナツテ居ル奴ヲ打倒セヨ（巴県知事ノ起草ニ係ルト云フ）

彼等ノ眼中既ニ外交部無キカ如シ

三、(2)往電第一九七号市長潘文華ハ六日外交討論会（劉湘自身会長トナリ主要官吏ヲ以テ組織シ時局外交ニ関シ意見交換ヲ目的トスルモノ）ニ於テ官吏ハ政府ノ訓令ニ抵触シタル民衆ノ輿論ニ従フテ行動スルモノニ非ストノ議論ヲ以テ暗ニ巴県知事ヲ誹謗シタルモ多数ノ賛成ヲ得サリシ由ニテ又之カ為劉湘ハ反日会関係事件ノ処理ヲ全部同人ニ押付ケタル趣ナル処一方最近改組セラレタル反日会ノ各委員ノ顔触ハ当地第二流ノ文武官多数ヲ網羅シ尚劉湘ハ同会ニ月額二百元ノ補助ヲモ為シ居ル由ナレハ潘文華一人ノ力ヲ以テ反日会ヲ抑ユルコト覚束ナカルヘク現ニ往電第一八九号ノ件ハ未タニ埒明カサルナリ

四、状況右ノ如ク租界ニ対スル暴行ハ必至ノ勢ニテ単ニ時間ノ問題ノミト観察セラルルニ付冒頭貴電ノ御訓令ニ基キ警備艦側トモ協議ノ末本日一般在留民ニ対シ引揚ノ勧告ヲ発シ当館ハ成都一行ノ来着ヲ待テ引揚クルコトニ決定セリ

右御承認ヲ請フ

追テ数日来城内ト租界間ノ民船ハ邦人ノ傭ニ応セス日清ノ小蒸気使用モ船夫カ脅迫ニ恐レテ八日退出シタル為来往ニ多大ノ困難ヲ感シ居レリ

支、漢口、宜昌へ転電セリ

149　昭和6年10月10日　幣原外務大臣より在上海村井総領事他宛（電報）

揚子江および華南方面日本人引揚数および要救済者数の調査について

本省　10月10日後9時40分発

合第八三四号　暗、至急

長江、南支在留民引揚数及要救護者数調査方ノ件

貴管内在留民中（鮮人及台湾籍民ヲ含ム）今次事変ノ結果引揚、現地避難其他ノ事由ニヨリ生活困難ニ陥レル者ニ対シ救護ヲ行フ必要起ルヘキヲ予想シ当方準備上参考トシタキニ付十月十日現在ニ於ケル左記事項調査至急回電アリタク尚其以後ノ分ニ付テモ随時追報セラレ度

(一)(イ)事変発生以来他地ヘ引揚ケタル者（引揚先記入ノコト）

(ロ)現地ニ於テ安全地帯ヘ避難セルモノ

(ハ)自宅残留者

ノ三者ニ付成人男子、婦女子ノ別及数

(二)前項(イ)(ロ)中館員家族、俸給生活者並其ノ家族等救護ヲ要セスト認メラルル者ヲ控除シタル残余ノモノノ数並家族関係（一、世帯主 二、家族ニ付(イ)同居ノ妻、(ロ)十二歳以上 (ハ)十二歳未満四歳以上 (ニ)四歳未満 三、雇人ノ各項ニ分チ員数ヲ記入ノコト）

上海ヨリ訓令トシテ杭州、蘇州、南京、蕪湖、九江ヘ転電シ参考トシテ在支公使ヘ転報アリ度

漢口ヨリ訓令トシテ長沙、沙市、宜昌、重慶ニ転電鄭州ニ転報シ重慶ヲシテ成都ニ（成都領事重慶引揚ヲ俟テ）転報セシメラレ度

福州ヨリ訓令トシテ厦門、汕頭、広東、香港ニ転電アリ度

150　昭和6年10月10日　※在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（郵送）

成都領事館警備兵の動静および同領事館の引揚げについて

重慶　10月10日後発
本省　10月28日前着

郵第七号（暗）

成都発本官宛電報

第三九号

外務大臣ヘ転電アリタシ

第三六号

在支公使ヘ転電アリタシ

第五号

九月二十六日以降当館内ニ派遣セル二十四軍ノ所属兵ハ昨八日午後所属営長ノ命ニ依ル趣以テ全部ヲ引揚ケタルニ付直ニ劉文輝ニ対シ十日ノ民衆行列終了迄派遣方申入タル結果今又十名派遣シ来リタルカ右ノ如ク突然引揚ケタル理由ヲ質シタルニ頃日反日不良分子ヨリ頻リニ右警備兵及所属営長ニ対シ悪罵或ハ威嚇的ノ書面ヲ送リ之カ為警備兵ハ何レモ恐怖不快ノ念ニ駆ラレ居タル為彼等ハ劉軍長ニハ無断ニテ引揚ケタルモノノ如クニテ反日悪化ノ一斑ヲ窺フニ足ルモノアルモ右派遣兵ニ対シテハ我方ニ於テ食事等一切ヲ支給シアルタメ長ク留メ置クコトハ経費許ササルニ付十日ノ游行後ノ形勢ヲ見タル上尚危険去ラサルニ於テハ一時重慶迄引揚クルノ外ナシト認メラル

151　昭和6年10月11日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

広東における日貨販売の華商に対する反日学生団の暴行事件発生および日本人居留民の保護について

広東　10月11日後発
本省　10月11日後着

第三〇九号（暗）

十日夜八時頃市内永漢馬路雑貨商新世界（華商）ヘ同店カ日貨ヲ販売ストノ理由ニテ百余ノ反日学生団闖入店舗内ノ商品器物等ヲ手当リ次第ニ破壊シ更ニ所謂日貨ヲ路上ニ取出シテ焼却シ始メタル事件アリ急ヲ聞キタル同所公安分局ハ直ニ多数警官ヲ派出シ制止ニ努メタルモ果サス群衆ハ却テ同分局ヲ襲ヒタルニ付已ムナク発砲シ（群衆中ヨリモ発砲セシモノアリシ由）死傷者数十名（中死者二名ト称セラル）ヲ出シテ辛ウシテ退散セシメタリ然レトモ事態ハ依然険悪公安局長ハ警察力ニテハ到底鎮圧不可能ナリトテ遂ニ保安隊ヲ出動今尚引続キ同所一帯ヲ警戒セシメ居レリ

市内商店ノ約三分ノ二ハ本邦品ヲ取扱居ル一方学生運動ニハ共産党ノ手モ廻リ居ル趣ニ付今後ノ推移ハ極メテ注意ヲ要シ旁市内居留民ヲ一時沙面ニ引揚ケシメタリ英国総領事モ十一日早クモ来訪シ本官ト租界ノ警備我カ居留民収容方等ニ付打合セヲ遂ケタリ右不取敢電報ス

公使ヨリ上海漢口ヘ転報ヲ請フ

支、北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、済南、南京ニ転電シ香港ニ暗送セリ

152　昭和6年10月11日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

広東における反日学生団による日貨焼却事件

の猖獗状況について

広東　10月11日後発
本省　10月11日後着

第三一二号（暗）
往電第三〇九号ニ関シ（一五一文書）

事件ニ関連セル学生ハ多数省政府ニ押シ掛ケ㈠公安局長陳慶雲ヲ免職シ㈡直接責任者タル分局長ヲ銃殺ニ処スル事ヲ要求シ居ル趣ナル処右ニ関シ十一日午後三時陳友仁ハ本官ニ対シ今般ノ日貨焼打事件ハ甚タ不幸事ナルカ当政府ニ於テハ断然タル処置ヲ執リ場合ニ依リテハ軍隊ヲ出動セシムル筈ナリト語リタルカ本官ハ陳往訪ノ途上現場ヲ通過セル際モ盛ニ日貨ヲ焼却シ居リ付近ハ群衆ニ埋マリ警官等ノ姿ヲ見ス其ノ一角殆ト無警察状態ナルヨリ察シ暴挙ヲ取締ル事頗ル困難ナルヤニ認メラル

公使ヨリ上海、漢口ヘ転報アリ度シ

在支公使、北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、済南、南京、福州、汕頭、厦門ヘ転電セリ

153　昭和6年10月11日　在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（電報）

重慶居留日本人および領事館署員の引揚げについて

重慶　10月11日後発
本省　10月11日後着

第二〇八号（暗）

貴電第四三号及拙電第二〇七号ニ鑑ミ本官及館署員各一名軍艦ニ移リテ成都一行ヲ待チ居留民一同及其他ノ館署員ヲ可成速ニ出発引揚ケシムルコトトセリ（予定ハ十五日出航）

公使、上海、南京、漢口、宜昌ニ転電セリ

154　昭和6年10月11日　在汕頭戸根木領事館事務代理より幣原外務大臣宛（電報）

日貨差押取締に関する市政府への申入れについて

汕頭　10月11日後発
本省　10月12日前着

第三二号（暗）
往電第三一号ニ関シ（一三五文書）

其後ノ状況左ノ通

一、十日午前十時各界ハ光天議院ニ於テ双十節紀念代表大会ヲ開催千余名ノ参加者アリ別段ノ事無ク一時間余ニシテ解散同日機器工会員五十名ノ游行アリタルカ各界ハ参加セス同夜市内ニ反日宣伝ヲ兼ネ学生ノ演説アリタルモ一般ニ平静ニ経過但午前十一時過当館正面ヨリ館内ニ投石硝子ヲ破リタルモノアリ署員犯人ヲ押ヘ警戒中ノ巡警ニ引渡シタルカ所轄公安分局ヨリ同夜之カ処罰方ニ付当方ノ意向ヲ照会シ来レルヲ以テ最近同種事件頻発ニ鑑ミ殊更事端ヲ惹起セシメントスル斯ル徒輩ノ見セシメニ中国法律ノ許ス範囲ニ於テノ処罰方要求シ置キタリ

二、（欠）

三、排日風潮発生以来巡警ノ日貨取押或ハ邦商使用中国人ノ買入ノ食料品ヲ途中ニテ差押ヘル等ノ行為アリシヲ以テ救国会方面ノ邦人使用中国人罷工計画ニ対スル警告ヲ兼ネ十日市政府ニ至リ市長代理ト会見左ノ通取締ヲ為スコトヲ言明セシメタリ

㈠本邦人使用ノ中国人ヲシテ工会其他ノ団体ニ於テ罷工セシムル挙措ハ即時取締ルコト㈡市政府及公安局首脳部ノ命令巡警ニ徹底セス彼等ニ公然反日行為アルヲ以テ厳重之ヲ取締ルコト㈢舢板ヲ動カスコト（市政府ハ既ニ工会ニ命令シアル由）㈣食料品ノ購入困難ナル場合本邦人必要ノ食料ハ市政府ニ於テ購入ノ方法ヲ講スルコト㈤以上ノ諸取締ハ勿論必要ナルモ広東官憲ノ行ヒ居ルカ如キ反日運動ノ一般的取締ヲ為スコト

右ハ何レモ市政府ニ於テ之ヲ承諾セルモ其背後ニ実力無ク且独立第二師政訓処ニ於テハ既ニ満州事件ニ関スル伝単民衆ニ告クルノ書等ヲ発シ居ル事情モアリ官憲ノ取締上ノ実効期待セラレス一般的対日感情険悪ナリ

四、広東発閣下宛電報第四九九号ノ事実ニ付八日当地郵便局長「ジョン」（英人）ノ語ル所ニ依レハ当地ニ於テハ未タ斯ル事実無キモ郵務工会ニ於テ反日標語ノ「スタンプ」ヲ郵便物ニ押サントシタルヲ以テ之ヲ差止メントセルカ聞容レス依テ中国人発受ノモノニ対シテハ之ヲ黙認シ居ル趣ナリ尚邦人ノ郵便物ニシテ未着物アラハ如何様ニシテモ取調ヘ厳重処罰スヘキニ付申出アリタシト語レリ

前電ノ通転電セリ

155　昭和6年10月（11）日　在香港吉田総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

双十節当日における香港政庁の警戒ぶりについて

香港
本省　10月11日後着

第一二三号（暗）
往電第一二二号ニ関シ
予テヨリ気遣ハレタル双十節モ何等事故ナク無事ニ終レリ
此日政庁側ハ警察力ニ依ル警戒ノ外陸兵及海軍陸戦隊等千余名ヲシテ武装ノ上香港及九竜側ニ亘リ示威行進ヲセシメタリ
支へ転電セリ

156　昭和6年10月11日　※在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（郵送）

成都における反日会の活動と領事館の保護について

重慶　10月11日前発
本省　10月28日後着

郵第六号（暗）
成都発本官宛電報
第三八号
大臣へ転電アリタシ
第三五号
公使へ転電アリタシ
第一三号
当地反日会ハ明九日百組二千名ノ宣伝隊ヲ出動セシメ更ニ大々的反日ヲ宣伝スル街路宣伝用大幕五十及伝単二万標語一万枚ヲ既ニ印刷準備セラレタル由ナルカ同会ニテハ別ニ省政府及三軍ニ対シ(一)四川全民衆ノ武装準備(二)前線軍隊ノ検閲(三)対日宣戦準備(四)成都及重慶ノ日本領事及居留民ノ即日駆逐(五)重慶日本租界ノ即刻回収(六)日貨販売者ノ厳罰等ヲ声明シタリト云フ尚十日ノ大示威行列ニハ成都ノ全学生及全市民参加スル由ニテ十万人ヲ越ユヘシトノコトニ付例ニヨリ政府当局ニ対シ特ニ当館ノ保護方申入置キタリ
南京へ転電アリタシ

157　昭和6年10月12日　※在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

九江における排日状況悪化と日本人居留民の保護について

第一一二六号（暗）
九江発本使宛電報（九日後）
第八五号
大臣へ転電アリタシ
第一〇六号
時局ニ関スル情報左ノ通リ
一、両三日来当地ニ於ケル排日風潮ハ漸次濃厚トナリ来リ「ポスター」ノ貼付モ逐日増加シツツアル処停車場入口ニ「ペンキ」ニテ対日宣戦ト大書シタルモノ及町内各所ニ街幅一杯ノ白布ヲ用ヒ打倒日本帝国主義、死ヲ誓テ日兵ヲ駆逐シ東四省ヲ恢復セヨ等ト大書シタルモノハ相当人心ヲ刺戟シツツアリ
尚右ノ外街上標語ニハ曩ニ共匪討伐ニ用ヒタル宣伝用語ヲ其儘使用シツツアル外各店頭ニハ先般反日救国会委員会ニテ決定シ対日案解決迄継続スルコトトナリタル藍地ニ抗日救国ト染抜キタル旗幟ヲ掲ケ居リ誓復国仇ト白書シタル黒布ヲ左腕ニ巻付ケタル市民ノ往来亦尠カラス

上海　10月12日後発
本省　10月12日後着

二、明日ノ双十節ニハ党部学生工人等ノ国慶紀念祝賀会兼反日大会開催セラレ閉会後遊行運動ヲ挙行スルコトトナリタルニ付特ニ館員ヲシテ当地警備司令其他主要官憲ヲ往訪セシメ遊行ノ際越軌ノ行動ナキ様警告セシムルト共ニ重ネテ在留邦人ノ保護方申入レシメタルニ先方ニ於テモ此際事端ヲ発生セシメサル様苦心シ居リ明日ハ特ニ日本人住宅区域ニ巡警ヲ増派シ保護スルコトトナリ居ル旨語レリ
三、事件発生以来比較的平穏ナリシ経過ニ顧ミ此際在留民ヲ無益ニ動揺セシムルコトモ如何カト存シ双十節当日ハ各自ノ外出ヲ差控ヘシムル程度ニ止ムル意向ナリシモ本朝以来不穏ノ気市中ニ横溢シ来レルニ付全部日清ニ集合セシメ早朝ヨリ小蒸気ヲ準備シ何時ニテモ軍艦ニ避難シ得ル様手筈ヲ為シ置ケリ
上海へ転報アリタシ
漢口へ転電シ南京、長沙、蕪湖へ暗送セリ

158　昭和6年10月12日　※在漢口坂根総領事より幣原外務大臣宛（電報）

沙市における反日救亡大運動会の概況につい

て

漢口　10月12日後発
本省　10月13日前着

第七一七号（暗）
沙市発本官宛電報
第三一号（八日後）
大臣へ転電アリタシ
第一八号

往電第二九号（大臣宛電報第一七号）所報ノ荊沙反日救亡大運動会ハ七日午前十一時ヨリ沙市童家花園ニ於テ開催セラレタルカ其概況左ノ通

一、参集者約二千（主トシテ軍部員、兵卒、公安局員、巡警、党部員及無職ノ徒、学生等ニテ実業家側ノ参会者ハ比較的少数）郭司令開会ノ辞ヲ述ヘ同時ニ対日交渉ハ中央政府行フヘキニ付在留日本人ニ対シ直接行動ニ出ツル勿レト前置シ乍ラ極メテ激越ナル口調ヲ以テ排日ヲ煽動シ市民ノ気慨ナキヲ罵リ排（日）宣伝游行ヲ行フヘシト説キ其他党部員、県知事学生等立チテ何レモ悲憤慷慨排日煽動的演説ヲ為シ午後一時半散会セリト

二、右散会後郭ハ大游行ヲ行ハントシテ勧説ニ努メタルモ市民有力者之ニ反対シ唯学生ノ一部カ市中ヲ游行シタルノミニテ本邦人居住ノ区域ニハ来ラス四時頃散会セリト云フ

三、本八日右大会ノ一般民衆心裡ニ及ホセル影響ヲ見ルニ一般ニ頓ニ対日感情悪化セルモノノ如ク本邦人通行ニ際シ悪罵嘲笑ヲ浴セ掛クルニ至リタルカ殊ニ無智ナル兵卒等ハ対日宣戦セハ無給ニテ差支ナシト高言シ居リ心アル支那人ハ本邦人使用支那人ニ対スル迫害ヲ予想シ之ニ対シ余リ外出セサル様注意シツツアリ

四、游行ニ対シ市中有力者中ヨリ反対アリタル消息ニ付テハ市民カ当館ヨリ郭司令ニ対シ排日取締及本邦人ニ対スル暴行警戒方ニ関シ厳重警告ヲ発シタルコトヲ周知セルト一方我方トシテハ仮令如何ナル示威游行ヲ行フトモ其目標ヲ失ヒ気抜セシメンカ為且又事端発生予防ノ為当館海軍側ト協力シテ其準備ヲ為シ在留民ヲ軍艦ニ収容シ静ニ形勢ノ推移ヲ傍観シツツ厳重ナル警戒ヲ為シ居リタルコトヲ目撃（当館及海軍側ノ行動ハ絶エス内偵セシメアルモノノ如シ）シタルカ為万一ヲ慮リ有力支那人間ニハ

相当恐怖心昂マリ郭ニ対シ強硬反対シタルカ為ナリト云フ

五、郭ハ昨日示威游行ヲ敢行シ得サリシムシヤクシヤ紛レカ本八日午前其部下軍隊ヲシテ排日標語ヲ書キタル赤青ノ旗ヲ掲ケシメ市中目抜ノ場所ヲ游行セシメタリ尚来ル十日双十節ニモ排日大会アル趣ナリ御参考迄

公使ヨリ上海、南京へ転報アリタシ
公使ヨリ北平、奉天へ転電アリタシ
公使へ転電アリタシ

159　昭和6年10月12日　※在漢口坂根総領事より幣原外務大臣宛（電報）

沙市における対日感情悪化の諸状況について

漢口　10月12日後発
本省　10月13日前着

第七一九号（暗）
沙市発本官宛電報
第三二号
大臣へ電報アリタシ
第一九号

当地反日感情ハ遽ニ悪化ノ傾向アルモ未タ在留本邦人ニ対シ直接危害ヲ加ヘントスルカ如キコトナキモ（在留邦人少ク従テ市中邦人通行ノ稀（ナル）カ為カ）彼等ノ慣用手段タル消極的戦法排貨及経済絶交ハ当地軍部ノ後楯ト党部ノ強要ニ依リ漸ク酷烈ナラントシ楽観ヲ許ササルモノアルカ之カ影響ヲ見ルニ日貨ノ輸入ニ付テハ今日ニテハ日貨ノ荷揚殆ト絶ユルニ至リ又市中支那人雑貨商ノ大部分ハ日貨ヲ取扱ヒ居ルモノナルカ之亦商品ノ欠乏ヲ来シ資金ノ運用意ノ如クナラス何レモ困難ノ態ナリ輸出ニ付テハ既ニ土貨取引期ニ入リタル今日水災ノ為棉花雑穀ノ出廻払底ナルト加フルニ支那商人側ニ於テ後日反日会ノ迫害ヲ恐レ全然日本商人トノ取引ヲ中止シ居レルカ仮令取引ヲ為シ得タリトスルモ銀行及銭荘ニ於テ邦商トノ為替取組ヲ拒絶シ居ル等ノ事実アリ旁々当地邦人輸出商（当地ニハ輸出邦商以外邦商ナシ）ハ全ク四苦八苦ノ雑境（ママ）ニ墜ルノ已ムヲ得サル状態ニアルモノノ如シ既ニ吉田洋行（漢口吉田洋行出張所）日華洋行（漢口日華製油会社出張所）ノ二商店ハ取引出来サル為機ヲ見計ヒ漢口ヘ引揚一時休業スヘキ様内命アリタルモノノ如ク又邦人医師一名モ患者ノ減少ヲ来シ居レルカ当分

回復ノ見込立タス経営困難ニ至ルヘキヲ見越シ近ク上海ヘ引揚ノ準備中ナリ
御参考迄
公使ヨリ上海、南京ヘ転報シ北平、奉天ヘ転電アリタシ
公使ヘ転電アリタシ

160 昭和6年10月12日 在福州田村総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

福州における反日運動の激化と日本人居留民の保護について

福州 10月12日前発
本省 10月12日後着
第九一号（暗）
党部工作ノ下ニ各学校ニ於テ反日会ヲ組織シ八、九、十ノ三日間ニ亘リ女学生サヘ混リテ市内各所ニ於テ対日経済断交ノ路傍演説ヲ為シ宣伝「ビラ」ヲ撒布シ三々五々反日唱歌ヲ高唱シ歩ケルカ十日ハ党部主催ニテ公共体育場ニ於テ双十節祝賀大会アリ学生ヲ主トシテ会集四千宛然反日大会ノ観アリ党部省政府各代表ノ激越ナル演説アリ国際連盟ノ助力ヲ請フヲ以テ東北長官ニ於テ占領地ノ回復国交断絶宣戦準備国内統一、一致討日蔣介石軍権統一、対日宣戦、胡漢民出廬広東要人赴京シテ国事ヲ議スルコト中央ニテ奸商厳罰条例公布要請等八項ヲ議決シ無事解散游行ヲ為サス省政府ニテハ前日特ニ党部及軍部連席会議ヲ開キ警戒方ニ付協議シ折柄当館ノ申入モアリ主要街路ニハ軍隊及武装巡警ヲ以テ厳密警戒シ当館民会、台湾公会ニハ海軍陸戦隊ヨリ約六十名ヲ派シテ警戒シ邦人居住区域ハ自転車巡察隊ヲ以テ巡視警戒セリ軍艦矢矧ヨリ兵員二十五名ト軽機関銃三門ヲ上陸シ夜間警備ニ当レリ
市中多数ノ宣伝「ビラ」アリ中ニハ日人尽殺等不穏ノモノアルモ大体ニ於テ御祭リ騒キノ如ク市中平穏邦人支那人間ノ取引杜絶シ大阪商船各船共支那人ノ積荷皆無辛シテ荷役ハ継続シ居レリ
省政府当局ハ在留邦人ノ生命財産ニ対スル直接危害ニ対シテハ相当取締ラントシ居ルモ対日経済絶交ニ付テハ専ラ党部指揮ノ下ニ之ヲ奨励シ居ルカ如キ態度ナリ
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
支、北平、南京、厦門、汕頭、広東ヘ転電セリ

161 昭和6年10月12日 幣原外務大臣より 在重慶清野領事宛（電報）

重慶租界保全に関する中国側への申入れについて

本省 10月12日後6時30分発
第四四号 暗、至急
重慶租界保全方等ニ関スル件
貴電第一八〇号ニ関シ
貴館引揚後ニ於テ中国側カ我租界ニ対シ何等不軌ノ行動ニ出ツルコトアルヘキモ直接防止ノ途無キタメ実際上致方無カルヘキモ之ニ依リ租界回収ノ既成事実ヲ作ラシメサル為ニハ引揚ニ際シ在支公使宛往電第三八三号前段ノ趣旨ニ依リ予メ国民政府及地方官憲ニ対シ反日運動悪化シテ居留民及領事館ニ危険切迫シタル為一時引揚ノ已ムヲ得サルニ至リタルモ右ハ租界ヲ拋棄シテ撤退セムトスルモノニハ非サル旨ノ意思表示ヲ為スト共ニ若シ引揚後ニ於テ中国側カ擅ニ租界ヲ蹂躙スルカ如キコトアラハ我ニ於テモ適当ノ報復手段ニ出ツルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク之カ為生スヘキ重大ナル結果ニ付テハ中国側ニ於テ全責任ヲ負ハサルヘカラサルコトヲ厳ニ警告シ置クノ必要ヲ認ムル次第ナリ
就テハ愈々引揚ニ決セラレタル場合ニハ前以テ居留民及貴館ノ残留財産目録ニ対シ中国官憲ノ検証ヲ求ムルト同時ニ公文ヲ以テ租界保全方ニ関スル前記趣旨ノ申入ヲ為シ右ノ次第ハ遅滞ナク在支公使及南京領事ニ電報セラレ度
尚居留民ノ引揚費用ニ関シ貴電第二〇四号ヲ以テ御申出ノ次第アル処引揚ノ結果困窮ニ陥レル者等ノ救護方ニ対シテハ他地方ノ分トモ一括シ目下考究中ナルモ居留民トシテハ今回ノ如キ場合ニハ政府ノ命令ヲ俟ツ迄モナク夫々自ラ身ノ安全ヲ計ルヘキ筋合ニシテ之カ為汽船ノ繋留マテ手配シ居ル次第ニモアリ初メヨリ依頼心ヲ起スカ如キ不心得無キ様充分戒メラレタル上引揚費用ニ窮スル者ニ対シテハ民会ヨリ一時立替ヘシムルカ又ハ船賃等ハ後日清算スルコトニ日清側トモ話合ヲ付ケラルル等臨機ノ手配ヲ講セラレ度支、南京ヘ転電セリ

162 昭和6年10月13日 在南京重光公使より 幣原外務大臣宛（電報）

排日運動の対処方に関し海軍側の自重要望について

南京 10月13日後発

本省　10月13日後着

第一一三六号（暗）

排日運動ニ伴ヒ感情昂フリ我海軍側ノ如キハ態度極メテ硬化セル模様ナリ

然ルニ一般外国人ハ民国側カ差当リ厳重民衆ヲ制シ事件ノ勃発ニ注意シ居ルヲ認メ居ル状況ナルカ排日運動取締ヲ促進スルタメニ我方ニ於テ適当ニ威力ヲ示スコトハ必要ナルモ此上突然事件ノ起ラサル様我海軍側ニ於テモ充分自重スルノ要アリ

本使ハ艦隊司令官トモ此点ニ関シ連絡ヲ取ルヘキモ政府ニ於テハ充分御打合ヲ願ヒ置キ度シ

北平、奉天ヘ転電セリ

上海、南京ヘ転報セリ

163　張学良の排日運動取締りに関するランプソン英公使との会談について

昭和6年10月13日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

北平　10月13日後発
本省　10月14日前着

第五三九号（暗）

十二日「ランプソン」ト会談ノ際「ラ」ハ学良ヲ反日ト見ラルルヤト問ヒタルニ付本官ハ必スシモ然ラス実ハ今回ノ時局ニ於ケル同人ノ態度ト当地排日運動取締振ニハ敬服シ居レリ従来満州方面ニ於テ日支間ニ種々不愉快ナル問題起リシハ必スシモ学良ノ意ニ基ケルモノニモアラサルヘク上級ノ真意カ下級ニ徹底セサリシ場合モアルヘシト述ヘタルニ「ラ」ハ之ヲ首肯シ自分モ学良ノ人物ニハ敬服シ居レリ実ハ今回事件突発後再三学良ニ対シ若シ北平地方ニ問題起ラハ事態ハ収拾スヘカラサルニ至リ学良自身ノ為ニモ不利益ニ付排日運動等モ極端ニ亘ラサル様厳重取締ノ必要アル旨再三忠告シ置ケリ幸ヒ学良カ自分ノ言ヲ容レ北平カ平穏ナルハ欣快ニ堪ヘスト述ヘ頻リニ学良ノ態度ヲ褒メ日本ノ一部ニ於テ学良ニ絶対反対ノ説アルニ対シ承服シ居ラサルカ如キ印象ヲ与ヘタリ

公使、南京、奉天、天津ヘ転電セリ

164　日本人居留民保護申入れに対する張学良の回答について

昭和6年10月13日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

北平　10月13日後発
本省　10月13日後着

第五四〇号（暗）

貴電第九五号ニ関シ

十三日張学良ヲ往訪シ御来訓ノ次第篤ト申入レタル処張ハ左ノ通答ヘタリ

一、御申出ノ次第ハ直ニ同地軍憲ニ対シ電報スヘシ貴国軍隊側ニ於テモ充分自重セラルル様御訓達願タシ

二、王以哲軍ハ極テ殺気立チ居ルニ付之ヲ都会ニ駐屯セシムルハ危険ナルニ付辺鄙ナルナンコー方面ニ移動スル事トシ目下鉄路輸送中ニテ山海関移駐説ノ如キハ謡言ニ過キス現ニ同地ニハ何旅団ノ一個旅駐屯シ居ルノミニテ之以上増兵ノ意志ナシ同旅長ハ日本留学出身ニテ天津香椎司令官トハ師弟ノ間柄ナルヤニ聞及ヒ居ルニ付貴国居留民保護等ニ付テハ在山海関日本駐屯隊長ニ於テ適宜同旅長ト接洽セラルル様致シタク自分ヨリモ同旅長ニ申遣ルヘシ

三、又此ノ際御注意致シタキハ目下新民打虎山ノ中間ナル厲家窩舗付近及グンリョンジョウ付近ニ五、六百名一団ノ土匪出没シ軍隊ノ不在ニ乗シ跳梁シ居リ之カ討伐ノ為軍隊出動ノ筈ニ付何等誤解ナキ様軍側ニ御伝ヘアリタシ

要スルニ自分ハ自己ノ勢力範囲内ニ於ケル日本居留民保護及排日取締其他ノ事端防止ノ為全力ヲ尽シ居ル次第ナルハ御承知ノ通ニテ尚此ノ上共努力スヘキニ付何卒貴国側一般軍民ニ於テモ事端ヲ醸ササル様自重方切望ニ耐ヘス云々

尚錦州事件ニ対シ本官ヨリ一応ノ説明ヲナセルニ対シ張ハ苦笑ヲ漏シツツ錦州ニハ高射砲ノ設備モナク歩兵銃ニテ射撃スル等ノ事ハ有リ得サル旨述ヘ居タリ

支、南京、広東、奉天ヘ転電セリ

165　福州における学生の排日示威行進の状況について

昭和6年10月(13)日　在福州田村総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

福州
本省　10月13日後着

第九二号（暗）

双十節大会ヲ最後ニ市中ハ宣伝「ビラ」カ目立ツノミニテ平穏ニ帰セル処十二日午前十一時過英国領事ヨリ協和大学（米国系）学生約百五十名英語ニテ打倒日本ノ口号ヲ叫ヒツツ同館前ニテ気勢ヲ揚ケ当館ノ方向ニ向ヒタル旨電話アリ直ニ所轄支那警察ニ解散方要求中突如反対側ヨリ当館正門前ニ至リ打倒日本帝国主義ノ小旗ヲ振翳シ英語ニテ「世界平和ノ撹乱者ヲ倒セ」トノ口号ヲ高唱シツツ通過セルカ当館前面ノ宿舎ニハ警備艦ヨリ二十名程水兵ヲ上陸セシメアルコトトテ一時ハ相当緊張セルモ無事経過セリ本件自体ハ過日来学生宣伝ノ一行動トシテ左シテ重大視スルニ当ラサルモ該游行カ専ラ外人ヲ目標ニ本邦人ノ多数居住セル倉前山ヲ游行セルト態ト当館門前ニ至リ気勢ヲ揚ケタルカ如キハ従来ナキコトニシテ支那側カ該方面ニハ絶対ニ游行セシメストノ言明ヲモ裏切リ且付近ニハ多数ノ英米教会系学校存在シ動モスレハ普通ノ支那学校生徒以上ニ反日騒キヲ為ス傾向モアルニ付省政府ニ対シテハ即時厳重ナル取締方交渉スルト共ニ英米領事ニモ夫々学校当局ニ注意方申入レ置キタリ

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

公使、南京、厦門へ転電セリ

166

昭和6年10月13日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

日本人保護に関する在広東英国総領事との会談について

広東　10月13日後発
本省　10月13日後着

第五一四号（暗、極秘）

一、十三日当地英国総領事本官ヲ来訪シ十一日以来多数ノ日本人沙面ニ引揚ケ来リタル処其人数ハ予想外ニ多ク当地英国海軍司令官ノ意見ニ依レハ万一ノ場合ハ其輩下ノ兵力ヲ以テハ保護シ切レサル虞モアルヲ以テ婦女子等ヲ日本ニ引揚ケシメ邦人数ヲ今少シ減少セシメラレ間敷ヤト申出テタルヲ以テ本官ハ広東政府ヨリ邦人ノ生命財産ハ絶対ニ保護スル旨ノ言質ヲ取リ又現ニ当局ハ多数巡警ヲシテ邦人ノ留守宅ヲ護衛シ居ル等有ラユル方法ヲ取リツツアルヲ以テ万々間違無シト信シ居レルカ唯十日夜民衆巡警衝突事件ニ依ル民衆ノ昂奮カ冷却スル迄一時邦人ヲ沙面ニ引揚ケシムルコトトシタルニ過キサレハ暴徒カ

沙面ヲ襲撃スル等ノ不祥事ハ今ノ所想像シ得スト答ヘ置キタリ

二、尚其際同総領事ハ日華開戦ノ気勢ヲ感スル向アル処貴見如何ト述ヘタルヲ以テ本官ハ連盟ニ於ケル帝国政府ノ声明ニ基キ此上満州事件ヲ拡大セサルコトトナリ居ルヲ以テ開戦ノ如キハ杞憂ナラント一笑ニ付シ置キタリ

三、右ハ香港事件ニ懲リテノ申出ナラント思考セラル右御含置迄

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

公使、北平、南京へ転電シ香港へ暗送セリ

167

昭和6年10月13日　在北平永津公使館付武官輔佐官より二宮参謀次長宛（電報）

日本軍の軍事行動に対する外交団、中国官界の反応について

10月13日後発
10月13日後着

北平第二一号（其一、二）（秘）

前電ノ如ク英国武官ハ南京上海ノ「ボイコット」其ノモノニ対シ日本カ直ニ武力占領ヲ企テアルニアラサルヤヲ心配シアルハ事実ナリ当地歩兵隊カ旧オーストリヤ兵営ノ周囲ニ鉄条網ノ演習ヲナスヤ支那側ハ日本ノ攻勢意志ノ表示ナリト宣伝シ英公使、和蘭公使モ亦日本軍カ攻勢的意志アルモノノ如クツマラヌコトヲ重大視シツツアリ要スルニ南京ニ対スル抗議、錦州ノ爆撃ハ多大ノ衝撃ヲ外交団ニモ与ヘタリ

特ニ南京、北平ノ支那官界ニテハ先年隠忍シテ侮辱ヲ甘受セシ日本海軍ハ南京事件ノ報復心ニ燃ヘツツアリトノ想像ヲ以テ日本軍カ上海南京等ノ領土占領ヲ行フモノト判断シアルカ如シ之ニ対シ小官ハ日本ハ支那政府カ有効ナル取締ヲ実行スルヲ希望シ若シ日本人カ危険迫害ヲ加ヘラルレハ日本軍ハ之ヲ掩護スル方法ヲ取ラサルヘカラス

領土侵害ノ宣伝ハ支那ノ自由ナリ之ニ対シテ第三国ノ無責任ナル干渉ニ応シテ直ニ撤兵スルコトハ全然出来サルコトナリト応酬シツツアリ

関東、天津、済南、上海スミ

168

昭和6年10月13日　※在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（郵送）

成都における軍隊および学生の示威運動等に

ついて

重慶　10月13日前発
本省　10月28日後着

郵第八号（暗）
成都発本官宛電報第四一号
大臣へ転電アリタシ
第三七号
公使へ転電アリタシ
第一五号
十日ハ当地練兵場ニテ三軍（ママ）部ノ軍隊二万余ノ閲兵式アリ終テ全軍隊ハ銃剣ノ先ニ反日標語ヲ記シタル小旗ヲ付ケ標語ヲ呼号シツツ市中ヲ游行セリ別ニ各学校ノ学生宣伝隊四十組標語ヲ呼号シ或ハ大道演説ヲナシ終日宣伝セリ
尚同夜九時頃多数ノ中国人当館ニ押寄セ市政府ノ派員ト称シ開門ヲ迫リ之ニ応セサリシ為盛ニ門及屋根ニ投石シ瓦約百枚ヲ壊シタルカ構内警備隊ノ威嚇発砲ニ依リ漸ク退散シタリ
八日発貴電第六四号ハ十日夕刻接到セルヲ以テ今朝船ノ雇入方手配中ニテ遅クモ十四日ニハ出発ノ筈（途中反日盛ニテ陸路ハ危険ニ付比較的安全ト認メ水路出発ニ決セリ）

169　昭和6年10月（14）日　在上海重光公使より
幣原外務大臣宛（電報）

陸戦隊増遣部隊の上海到着について

上海　10月14日後着
本省

第一一三八号（暗）
貴電第四一九号ニ関シ
常磐ハ十日当地着同艦搭乗ノ陸戦隊二百三十名ハ従来ノ隊員ノ補充トシテ同日夕刻上陸兵舎ニ入レリ
在支各領事、香港、米、連盟全権へ転電セリ

170　昭和6年10月14日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

張学良および北平市政府の抗日運動取締振りについて

北平　10月14日後発
本省　10月15日前着

第五三六号
一、各界抗日会学生抗日会等ハ引続キ活動シ在留邦人ノ不安尚去ラサルモ当局ノ取締厳重ナル為比較的平穏ニシテ双十節当日モ小規模ナル学生ノ講演会乃至示威游行アリシニ過キス
二、張学良ハ三日付ヲ以テ重ネテ管下各地方当局ニ対シ国際連盟ハ十月十四日迄休会シ日本ニ撤兵及原状回復ノ期間ヲ与ヘタルカ其間ニ於テ事端ヲ起シ右決議ニ影響ヲ及ボササル様充分日本在留民保護方訓令セル由
三、市政府ハ教育局並公安局ヲシテ管下中小学校学生ノ運動ヲ取締ラシムルト共ニ各大学当局ニ対シ学生ノ越軌行動取締方申入レタルカ（往電第四三七号）党部ニ対シテモ密接ナル連絡ヲ取リ集会示威游行ノ阻止ニ努メ且職員中ノ過激分子ヲ順次放逐スルノ方針ヲ実行シ更ニ八日夜（貴族院視察団着平ノ前夜）巡警ヲシテ全市ニ於ケル排日標語「ポスター」等ヲ全部剝取リ又ハ抹殺セシメタリ
四、事件以来日本人ノ多数居住セル東城方面ニハ巡警ヲ増派シタル外私服ヲ派シテ邦人住宅店舗ヲ警備セシメタルカ九月二十八日以後ハ更ニ保安隊ヲモ派遣シ公安局長ハ連日不眠不休ニテ治安維持及邦人ノ保護ニ努力シ居レル処殊ニ貴族院視察団（九日ヨリ十二日迄滞在）ニ対シテハ自動車及自転車ニ乗レル巡警約十数名ヲ終始随行セシムルト共ニ各行先ニモ特ニ巡警ヲ派スル等未曾有ノ保護ヲ加ヘタリ
公使ヨリ上海へ転報アリタシ
公使、南京、奉天、天津、赤峰、張家口へ転電セリ

171　昭和6年10月14日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

中国官兵の邦人殴打取締りに関し張学良に申入れについて

北平　10月14日後発
本省　10月15日前着

第五四一号（暗）
天津発閣下宛電報第三九三号ニ関シ
十三日張学良ト会見ノ際張ヨリ本件ニ言及シ実ハ本日周龍光ヲ貴館ニ派シ貴国民ノ支那服着用ハ取締上種々ノ不便多キニ付此際成ルヘク支那服ヲ着用セサル様申入ルル所存ナリシト述ヘタルニ付本官ハ冒頭電報ニ依リ事実ヲ説明シタル上仮令支那服ヲ着用セルニセヨ日本人ナルコト明白ナルニ拘ラス何等領事館又ハ軍隊側ニ電話通知スル等ノ方法ニ

出テス多数ノ貴国官兵カ之ヲ営内ニ引摺リ込ミ殴打重傷ヲ蒙ラシムルカ如キハ乱暴極マル旨強ク応酬シ部下軍隊ニ対シ厳重訓令方重ネテ申入置ケリ

公使ヨリ上海ヘ転報アリタシ

公使、南京、奉天、青島、天津、漢口ヘ転電セリ

172 昭和6年10月(14)日 在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

排日運動取締りに関する陳友仁への申入れについて

広東 10月14日後着
本省 10月14日後着

第五一六号（暗）

往電第五一三号ニ関シ(1)

一、国民政府ニ於テハ排日暴動ニ対シ生温キ手段ヲ執リ陳慶雲ヲ罷免シ香翰屏ヲ臨時戒厳司令兼公安局長ニ任命シ愛国精神ハ人民及党部ノ合作ニ依リ発揚セシメ越軌的行動ヲ避ケシムルノ方針ヲ立テタル趣ニテ両日来抗日会ノ魔手ハ邦人関係苦力組合ニ伸ヒ大阪商船及日清汽船ノ所属船ハ何レモ荷揚不可能ニ陥リタル一方冒頭往電二ノ後段罷工ノ噂モアリタルヲ以テ十三日陳友仁及市長ニ対シ更ニ厳重ナル警告ヲ与ヘタル処何レモ極力取締ルヘキ旨回答セルカ其際陳ハ人民及党部合作シテ愛国運動ヲ発揚スヘシトノ方針ハ従来ノ排日運動ハ指導者ヲ欠キタル為越軌的行動ニ走ル惧少カラサリシヲ以テ今次ノ事件ヲ機会ニ今後ハ党部ニ於テ之ヲ節制監督スルノ謂ニ外ナラスト弁解シ居タリ

二、(2)尚本官ハ今回ノ暴動ニ関シ国民政府ハ余リ弱腰ニテ抗日会ト代表者等ヲ接見シ其ノ意ヲ迎ヘルカ如キ布告又ハ通電ヲ出シタルカ如キハ抗日会ヲシテ益々図ニ乗ラシムル懸念アリ元来本件ノ如キハ市政府乃至省政府ニテ断乎タル取締ヲ施セハ足ルヘク民衆ヲ斯ク付ケ上ラシムルニ於テハ排日直接運動ノ取締等思モ寄ラス引イテハ南京ニ於ケル這般ノ王正廷ノ殴打事件ヲ繰返シムル事モアルヘシト述ヘタルニ対シ陳ハ今回ノ煽動者中ニハ共産党及蔣介石ノ廻シ者モ居リ旁省政府ニ於テ然ルヘク之ヲ取扱ヒタル次第ナルカ何レニシテモ “dying nation but not completely” ノ中国人カ最後ニ大憤起セル所謂愛国運動ニ対シテハ実ノ所徹底的取締ヲ加フル事能ハサル次第ナ

リト極メテ沈痛ナル面持ニテ苦衷ヲ洩シタル上兎モ角貴国人ノ保護並ニ排日直接運動取締ニハ新公安局長ヲシテ一層努力セシムル筈ナリト語リタリ

支ヨリ上海ヘ転電アリ度シ

支、北平、奉天、南京、汕頭、漢口ヘ転電セリ

173 昭和6年10月14日 ※在重慶清野領事より幣原外務大臣宛（電報）

成都居留日本人一行の引揚げについて

重慶 10月14日前発
本省 10月15日後着

第二一六号（暗）

成都発本官宛電報

第四四号

大臣ヘ転電アリタシ

第八六号（十三日午前）

小官一行六名本日船ニ乗込ミ明早朝出発ス小官等ノ到着ヲ待ツ為特ニ警備艦カ数日間碇泊セラルルハ感謝ニ堪ヘス

葉山及小官子供ハ残留ノ筈ナリシモ情勢険悪ニ付共ニ引揚ケ之ニテ当地在留民ハ中国人ノ妻トナリ居ルモノ六名残留スルノミ

当館ノ建物及残留財産ノ保護ニ付テハ本日二十四日軍ヨリ排長以下五名構内ニ駐泊警備スルコトトセリ

支、漢口、南京ヘ転電セリ

174 昭和6年10月14日 湯地馬公要港部司令官より小林海軍次官他宛（電報）

広東在留日本人婦女子の引揚げにつき英国海軍主席指揮官より申出について

10月14日前2時0分発
10月14日前3時58分着

機密第一七三番電（秘）（嵯峨報）

本日英国海軍主席指揮官ヨリ時局ニ関シ相談致度ニ付来艦望ム旨申出デタルヲ以テ訪問シタル所沙面ノ防備甚ダ薄弱ナルヲ以テ此ノ際日本婦女子ハ引揚ゲテハ如何トノ事ナリ依テ本職ハ引揚ゲノ事ハ総領事ノ意志ニ依ルモノナルコト並ニ支那官憲ガ全力ヲ尽シテ邦人ノ生命財産保護ヲ保障シアルヲ以テ安心シ居ル旨回答セリ

英国総領事ヨリ日本総領事ニモ同様口頭申出アリタルヲ以テ婉曲ニ拒絶シ置キタリト言フ

右ハ香港事件ニ懲リテ渦中ニ投ズルヲ惧レ責任ヲ回避センストスル意向ナリト思ハル

（編注）本電報は、小林海軍次官のほか「次長、一、二遣司令官、在支各地武官、呉鎮、佐鎮長官」に発電された。

175 昭和6年10月15日 在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

中国各地における排日排貨運動の激化と邦人の引揚状況および被害について

上海 10月15日後発
本省 10月15日後着

第一一四〇号（暗）

(1)本官発連盟宛電報第五号

排日排貨運動ハ満州事件以来南京、上海ヲ始メ長江一帯及南支ノ各都市トモ頓ニ激烈トナリ各地党部指導ノ下ニ商務総会銀行公会郵務工会婦人会其他各界代表者及軍人学生等モ之ニ参与シ居レルカ右状勢ハ各地トモ殆ト同様ニシテ其手段亦揆ヲ一ニス（脱）中央地方党部ノ統制アル結果ナリ大要左ノ如シ（政府ハ国際連盟等ノ関係ヨリ出来得ル丈ケ日本人ニ対スル表面的迫害ヲ取締リ口実ヲ与ヘサル方針ニ全力ヲ注ク）

一、新聞紙ノ宣伝、悪辣暴戻ナル大見出シノ文章ヲ以テ事件ヲ誇大ニ報告シ特ニ激越ナル語気ヲ以テ民衆ノ反日気勢ヲ煽動ス日本人トシテ読ムニ堪ヘス

二、反（又ハ抗）日救国会ノ設立、南京、上海、漢口以下各地ニ九月二十一日頃ヨリ三、四日ノ間ニ右救国会成立シ排日排貨ノ綱領ヲ決議シ直ニ実行ニ移レリ

三、反日市民大会挙行、九月二十五日国恥記念日ヲ期シ（双十節ニモ同様）各地ニ市民大会開カレ各界代表及学生軍人等並ニ市民加ハリ排日決議ヲ為シタル後市内ヲ游行シ打倒日本帝国主義其他ノ排日標語ヲ呼号シ又激越ナル排日「ポスター」排日宣伝文ヲ目立チタル個所ニ無数ニ貼付ス游行団体ハ日本領事館前ニ於テ特ニ一時停止シテ打倒帝国主義等ノ口号ヲ数回繰返スヲ常トセリ（各地ニ於テ決議セラレタル決議ハ一律ニ(一)日貨ヲ買ハス(二)日貨ヲ用ヒス(三)日貨ヲ積マス(四)日幣ヲ用ヒス(五)日船ニ乗ラス(六)日人ト往来セス(七)日人ノ為ニ労役セス(八)日本ノ銀行ニ預金セス(九)(2)日人ニ食糧ヲ供給セス(十)日本ニ赴キテ商売

又ハ学術ノ研究ヲセスト云フニ在リ（之ヲ対日不合作十戒ト称シ厳罰ヲ以テ之カ実行ヲ強制ス）斯ノ如クシテ日本人ニ対シテハ「テロリズム」ヲ現出シ営業ハ勿論居住滞留ヲ殆ト不可能ナラシム民国官憲ハ政府ノ命令ニ依リ日本人ノ殺害等ノ国際問題ヲ惹キ起スコトハ極力之ヲ避ケ其他ノ有ユル方法ヲ以テ右「テロリズム」ノ現出ニ努ム

四、日本人トノ一切ノ経済関係断絶、九月二十四日以後反日救国会ノ決議ニ基キ

(イ)日本人商社ノ買弁及其他ノ使用人ハ強制ヲ受ケテ漸次雇傭関係ヲ絶チ為ニ商社ハ業務ヲ行フコトヲ得サルニ至レリ

(ロ)銭荘ハ日本人トノ取引日貨担保ノ貸出日貨取扱民国人モ貸出等ヲ禁セラレ延イテ銀行取引ヲ不可能ナラシム

(ハ)埠頭苦力ハ日本船ノ荷役、日貨ノ取扱ニ従事セス之ニ従事セントスルモ民国巡警等ハ干渉シテ之ヲ止メシム（主トシテ広東、天津、汕頭、福州等上海ハ目下大体無事）

「パイロット」ニ付テモ同様

(ニ)居留民ニ対スル電話ノ「サービス」ハ妨害ヲ受ケ殆ト用ヲ為ササル所多シ日本人発受ノ電信、郵便亦或ハ抑留セラレ或ハ故意ニ遅延セシメラル

五、日本人ニ対スル暴行、市内通行ノ日本人殊ニ婦人子供ニ民衆ノ投石又ハ悪罵ヲ加フルモノ多ク又各地ニ於テ通学中ノ児童危害ヲ受ク尚各地共日本人ヲ撲殺セヨ等ノ標語現ハレ居留民ハ安ンシテ其業ニアルコトヲ得ス反日会ノ游行等ノ場合ニハ一団トナリテ「ハルク」商船等安全地帯ニ避難ス

(3)九月二十七日、八日以後ニ於テハ民国人ノ侮日的態度各地ニ於テ益々露骨トナリ遂ニ引揚ノ已ムナキニ至リタルモノ十月十四日現在左ノ如シ（括弧内ハ引揚人数）

(イ)領事以下在留民全部引揚ケタル箇所鄭州（八）雲南（二〇）成都（九）赤峰（二〇）

(ロ)大部分ノ在留婦女子ノ引揚ケタル箇所（在留邦人モ多クハ安全地帯ニ避難シ事態ノ緩和ヲ待チ居レリ）南京（副島立法院顧問陸軍軍事教官ヲ含ム）（約一〇〇）杭州（一一）鄭州（一〇）蕪湖（三六）温州（一四）九江（婦女子約四十名中大部分引揚ク）沙市（七）宜昌（一七）重慶（五五）長沙（在留民全部何時ニテモ引揚ケ得ル様中ノ島ニ避難中）尚重慶ハ成都引揚ノ一行到着ト共ニ領事

以下残留者（約四十名）全部引揚ノ筈

(ハ)其他漢口（大冶等ヲ含ム）鎮江湘潭万県等ノ長江沿岸並ニ福州厦門汕頭等ノ南支各地ニ於テモ婦女ノ引揚クルモノ多ク又満州各地特ニ斉々哈爾、哈爾賓、長春、吉林、通遼、敦化、新民府、海龍等及其近接地ニテモ多数在留民ノ引揚アリ（尚満州ニ於テ開原等ニテ敗兵ニ殺戮セラレタルモノノ内屍体（主トシテ朝鮮人）判明ノ分約九十名外負傷者多数又死者ノ実数モ右以上ニ上ル見込又香港ノ状況ハ別項ノ通）

六、以上ノ外各地具体的事例ノ主ナルモノ左ノ如シ

(一)南京在留日本人宛郵便物ハ勿論日本領事館宛ノ郵便物モ党部等ニ依リ開披セラレ上海トノ電話ハ交換手等ノ妨害ニ依リ全然用ヲ為サス上海及日本ノ邦字新聞ハ全部差押ヲ受ク鎮江ノ如キハ兵士ニ依リテ排日「ポスター」貼付セラル

(二)[4]上海

(イ)通学児童ニ対スル其他ノ悪戯多キハ日ニ数十件ニ及フ

(ロ)一般邦人ニ対スル殴打八件投石五件住宅ヘノ投石其他ノ暴行十二件（九月二十二日ヨリ十月五日迄）

(ハ)郵便局現業員ハ故意ニ邦人郵便物ヲ配達受付ケス日本新聞ノ郵送ハ警備司令部ニテ一切禁止ス（十月八日少シク緩和セラル）

(ニ)電話交換手ハ邦人電話ヲ連絡セス又ハ通話中ニ悪口ヲナシ或ハ通話ヲ切ル等ノ妨害ヲ為ス

(ホ)陛下ノ御真影ヲ路上ニ倒ニ曝シ紙製ノ青龍刀ヲ擬ス

(ヘ)日本品ノ不買没収日本人雇傭者ニ対スル脅迫等熾ニシテ之ニ従ハサル者ニハ貨物没収拘禁街頭ノ引廻シ売国賊衣ヲ着セ写真ニ撮リテ公衆ニ曝シ又ハ財産ノ没収等ヲナス(a)三井其他ノ邦商商品ノ掠奪件数多数(b)民国人ノ財産没収三千元乃至一万元ニ及フモノ数件(c)王一亭始メ日本銀行商社ノ買弁其他ノ職員ハ悉ク退社ヲ余儀ナクセラレ上海自然化学研究所民国人研究員モ退職ヲ強要セラル(d)艀人足ハ六日ヨリ罷業ス

(ト)蘇州、新聞其他ノ郵便物概ネ不着ナリ

(チ)鄭州、九月末以来日本人宛封書ハ党部ニ依リテ開披セラレ右措置ハ領事館宛公文書等ニ迄及ヘリ

(リ)蕪湖、九月二十日以後日本領事館発受電報ヲ差押ヘ発送ヲ遅延セシメ又ハ電文ヲ改竄ス

(ヌ)[5]漢口、日清汽船及戴生昌代理店ニ暴徒闖入シ器物ヲ破壊シタル上日清汽船会社使用人タル「ボーイ」一名ヲ拉致ス湘潭ニ於テモ遊行隊日清汽船代理店ヲ襲撃ス

(ル)重慶、五日南陽丸買入ノ食糧品同六日軍艦ノ食糧品ノ運搬阻止セラル十月十日暴徒租界警察署ニ向ケ数発発砲ス

(ヲ)雲南、三日迄反日運動ノ群集邦人商店ヲ破壊ス

(ワ)汕頭、十月三日前後邦人ヨリ日貨ヲ購入セル中国人二人巡警ニ依リ抑留罰金ニ処セラル邦人使用ノ中国人巡警ニ依リテ拘留セラル邦船ニ赴カントスル苦力全部水上警察ニ依リ抑制セラル

(カ)広東、十日夜永漢馬路華商ニ反日学生団侵入日貨ヲ路上ニ持出シ焼棄ス

香港

(イ)九月二十四日及二十六日学生其他ノ暴民数百名香港湾仔居住邦人店舗ヲ襲ヒ軒並ニ「ショウウインドウ」ヲ破壊ス依テ香港及九龍居留民全部（一千名以上）ヲ避難セシム

(ロ)九月二十五日九龍通行中ノ日本人ニ対シ民国人ノ暴行ヲ加ヘタルモノ十数件アリ邦人商店ニ投石又ハ襲撃ス二十六日日本人六名惨殺セラル外ニ負傷者五名

(ハ)九月三十日以後埠頭苦力ハ荷役ニ応セス十月四日ニ到リテ小学校ニ避難中ノ居留民ノ大部分ハ帰宅セリ

(ニ)青島管内海州ニ於テ九月末来中国汽船乗込ノ邦人高級船員ヲ武装巡警ニ於テ拉致セントシ船長等身ヲ以テ逃ル元敬号及永生号船長等モ同様ノ危険ニ遭ヘリ

在米大使ヘ転電アリタシ

御裁量ニ依リ在欧各公館ヘ転電又ハ転報アリタシ

大臣ヘ転電セリ

北平、奉天、南京、広東、上海ヘ暗送セリ

176　昭和6年10月15日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における排日状況激化と日本人居留民の保護について

上海　10月15日後発
本省　10月16日前着

第六六七号（暗）

往電第六〇六号（一三三文書）ニ関シ

一、七日以来支那街一部ニ布カレ居タル戒厳令ハ江南兵工

廠付近ヲ除キ解カレ又流言蜚語モ漸ク減リタル為支那人ノ支那街ヨリノ避難者ハ昨十四日来減少市面ハ表面概シテ平穏ナリ

二、十四日夜半邦人十数名ノ一団ハ北四川路筋其他ノ排日「ポスター」ノ剝取ニ従事中支那民衆ト衝突シ大事ニ至ラントシタル際陸戦隊巡邏兵廻リ合セ事無キヲ得タリ其他邦人児童及住宅ニ対スル投石等ノ事故ハ未タ後ヲ絶ツニ至ラス

三、排日ノ積極化ト共ニ邦人商社ノ支那人事務員及「ボーイ」等ニ対スル脅迫ハ一両日来急ニ熾烈トナリタルモノノ如ク退出スル者続出セル由ナルカ此等退出者ハ抗日会ニ赴キ登記スルコトトナリ居レリト

四、更ニ抗日会ハ邦人困ラセノ方法トシテ米薪炭等ノ小売及卸売阻止ノ悪辣手段ニ出テ来リ居ル処彼等ハ最近主トシテ邦人相手ノ二、三米屋ヲ襲ヒ店主ヲ拘禁シタル為遽ニ不売実行ヲ見ルニ至レルモノノ如ク既ニ一部区域ニ於テハ購入困難トナレリ

尚在留民ノ糧食自給策ニ付テハ目下委員会ヲ設ケ考究中ナリ

公使へ転報シ北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、南京、広東、香港へ転電セリ

～～～

本省　10月16日後着

第六六二号
（一四九文書）
貴電合第八三四号ニ関シ
甲、内地人
(一)(イ)上海ヘ引揚ケタルモノ
成年男子　一六
未成年男子　一七
女子　四〇
日本内地ヘ引揚ケタルモノ
成年男子　二六（顧問及軍事教官ヲ含ム）
未成年男子　一一
女子　二四
(ロ)成年男子　九（日清「ハルク」）
女子　二（産婆及其娘三星洋行内）
(ハ)成年男子　三四
未成年男子　五
女子　八
(二)一、所帯主　一
二、ノ(イ)妻　一（上海ヘ避難）
乙、台湾人
(一)(イ)日本ヘ引揚ケタルモノ
成年男子　三
(ロ)　ナシ
(ハ)成年男子　九
未成年男子　四
女子　九
朝鮮人ニ対シテハ詳細判明セス
二、鎮江在留民ニ関シテハ追テ電報ス
公使ヘ転電セリ

622

180
昭和6年10月16日　在厦門三浦領事より
幣原外務大臣宛（電報）

厦門の治安維持に関する林警備司令の立場について

厦門　10月16日後発
本省　10月17日後着

第一〇一号（暗）
往電第一〇〇号ノ通厦門ノ治安カ徹底的ニ維持セラレツツアルハ全ク林警備司令ノ異常ナル努力ノ結果ニ外ナラサル処厦門ハ福建海軍派唯一ノ財源地ニシテ且ツ厦門ニ於ケル各官職ハ郵便局ニ至ル迄福州人ヲ以テ堅メ其ノ総数四千ト称セラレ居ル関係モアリ時局緊切ノ此ノ際事端ヲ醸シ殊ニ日本海軍ニ占領セラルルカ如キ事トモナラハ（此ノ点ヲ最モ恐レ居ルモノノ如シ）福建海軍ノ面目並ニ財源ハ全ク失ハルル而已ナラス平素ヨリ全然言ヲ異ニスル厦門人ヨリ嫉視セラレ居ル一方当方面ニ於ケル陸軍派ノ柱石ヲ以テ自任スル漳州ノ張貞ハ機会アラハ取テ代ラント虎視耽々タルモノアリ旁厦門カ再ヒ彼等海軍派ノ手ニ帰スル事モ到底望無ク一味徒党ハ永久ニ職ヲ失フニ至ルヘキヲ見越シ成ルヘク厦門人ノ好感ヲ迎ヘントスル平素ノ慾気ヲ離レ治安維持ニ専念シ居ルモノト認メラレ曩ニ林知淵カ当地ニ特派サレ又楊樹荘南京行ニ際シ秘ニ林知淵ヲ同行シ当方面ノ実情ヲ説明セシメ諒解ヲ求メタルモ此ノ理由ニ外ナラサルモノト認メラル
当館トシテハ前記ノ機微ナル関係ヲ利用シ林司令ヲ窮地ニ陥レサル範囲ニ於テ取締励行ニ努メシムルト同時ニ動モスレハ蠢動セントスル台湾人武力派ヲ抑制シ事端ノ発生ヲ防止セントシツツアル次第ナルカ表面ハ兎モ角内面的ニハ対日感情日一日ト悪化スルハ到底免レ得サル所ニシテ殊ニ平素ヨリ林司令ト善カラサル建築公会幹部其他ノ排日関係団体ノ林司令ニ対スル反感ハ相当高マリツツアル模様ニモアリ且ツ又他ノ土地ニ於テハ現ニ熾烈ナル排日ノ行ハレツツアル状況ニモ顧ミ林司令ハ余程困難ナル立場ニアルハ勿論ニシテ何時迄現状ヲ維持サレ得ヘキヤ近ク時局収拾ノ見据付カサル限リ頗ル不安ヲ感セサルヲ得サル次第ナリ
前電ノ通転電及暗送セリ

181
昭和6年10月16日　在香港吉田総領事代理より
幣原外務大臣宛

香港における中国人の排日暴行の経過について

香港　10月16日付
本省　10月27日着

機密公第三六五号
昭和六年十月十六日
在香港
総領事代理領事　吉田丹一郎（印）
外務大臣男爵　幣原喜重郎殿

623

香港ニ於ケル支那人ノ排日暴行報告

暴行ノ経過ニ関スル件

香港ニ於ケル今回ノ所謂排日暴行ハ全ク突発的ニ発生セル感アリ前日迄ハ反日大会又ハ行列等何等「デモンストレーション」ニ類スルコトナク暴行発生ノ九月二十三日ニ於テモ日常ノ業務其他支那人ノ対邦人態度等モ何等異状ナカリシモ市中支那人商戸カ中央党部ノ命ヲ奉シテ半旗ヲ掲ケ漢字紙中一二ノモノハ藍刷版ヲ出シ或ハ近ク「ボイコット」アルヘシ等ト取沙汰セラレ物情何トナク不穏ナラムトスルノ傾向アルヤヲ感知セシメラレタル程度ナリシカ遇々煽動者現ハレ毎夜湾仔空地ニ開カルル夜店ニ雲集スル民衆ニ目ヲ付ケ同日夜之ヲ煽動シテ邦人商店ニ対シ投石暴行ヲナサシムルニ至レルモノナリ然ルニ取締ノ警察側モ事唐突ノ余リ更ニ準備ナク単ニ之ヲ四散セシメタルノミニシテ同夜暴行者ノ逮捕セラレタル者僅ニ四名ニスキサリシ為煽動者及民衆ハ所謂図ニ乗リタル嫌ヒナキニアラス斯クテ暴行ノ続クニ従ヒ次第ニ組織立チ且兇暴大胆ノ度ヲ増シ来リ終ニ二十六日仲秋節ノ夜ニ於テハ兇暴ノ限リヲ尽スニ至リ二十七日終ニ政庁ヲシテ非常事態ノ声明、軍隊ノ出動ヲ余儀ナクスルニ到ラシメタルモノナリ暴行突発ノ九月二十三日以来毎日ノ暴行状態ハ其都度電信ヲ以テ報告致シ置タルモ猶別紙ノ通之ヲ取纏メ追補ノ上報告申進ス可然御査閲相成度シ

本信写送付先　在中国公使　北平参事官　上海　奉天
天津　青島　済南　漢口　福州各総領事
広東総領事代理
南京　厦門各領事　汕頭事務代理
台湾総督

（別紙）

九月二十三日

所謂満州事件殉難中国軍民追悼日ナル趣ヲ以テ且中央党部ヨリ命令ノ次第モアル由ヲ以テ市内中国人商社、団体等ハ半旗ヲ掲ケ又青年ヲ中心トスル南華、華人、中華、香港政庁中国吏員等ノ諸倶楽部ハ何レモ此日運動場ヲ閉鎖シ且会員ノ歌舞音曲等ヲ禁シタルカ特ニ中華倶楽部ニ於テハ其倶楽部ニ主ナル会員集合シ正午ヲ期シテ一分間ノ黙禱ヲ為シ又中国綿糸布組合員ハ同日排日貨ニ関シ夫夫意見ノ交換ヲ為シタル由ナリ

香港皇后大道目抜ノ位置ニアル商務印書館支店ハ其ノ

「ショーウインド」ニ満州ヲ赤色ニ染メタル十呎平方大ノ世界地図ヲ掲ケ侵略日本又ハ満州既ニ我有ニ非ス等ト書シ排日的書籍多数ヲ陳列シテ排日風潮ニ乗シ盛ニ排日的書籍ノ販売ヲ試ミタリ

連日排日的記事ヲ掲ケタル一部漢字紙ハ此日更ニ追悼ノ意ヲ以テ紙面ノ一部又ハ全部ヲ藍刷トシ悲憤慷慨ノ文字ヲ列ネ排日ヲ強調セルカ就中工商日報ハ最モ過激ナル記事ヲ掲ケ中国民衆ノ排日指導ニ努メタル感アリ

同日午后香港市内通行中ノ小学児童四名ハ支那人数名ニ暴行ヲ受ケ又一邦人婦人ハ侮辱ヲ受ケ他ノ一婦人ハ投石セラレタリ

香港湾仔埋立空地ニハ毎夜群衆蝟集スルノ常ナルカ予テ之ニ目ヲ著ケ居タル煽動者ノ入込ミタルモノノ如ク同夜八時頃同地ニ集合セル群集ニ対シ排日煽動ノ演説ヲ為シ以テ日本商店襲撃ヲ使嗾シタルモノアリ煽動セラレタル数百名ノ群衆ハ突如同空地ニ面セル「ジョンストン」路ニ向ツテ殺到シ同区域ニ在ル邦人商店ニ煉瓦小石ヲ盛ニ投シテ軒並ニ「ショーウインド」硝子戸等ヲ破壊シ一時非常ナル事態ヲ現出シタルカ所轄第二警察署ノ急速厳重ナル手配ニ依リ約二、三十分ニシテ是等群衆ノ大部分ハ四散シ更ニ非番警官ヲ招集シ同区域一帯ニ巡邏隊ヲ遊行セシメタル為同夜ハ右以上事ナキヲ得タリ

同夜ノ暴行ニ依ル邦人商店被害ハ「ジョンストン」路ノ一区域十一軒ニ止マリ主トシテ投石ニ依ル「ショーウインド」、窓硝子ノ破壊ニシテ損害額約一千弗ナリキ

九月二十四日

当日ハ秋季皇霊祭ナルヲ以テ日本人小学校ハ休校シ日英両国国旗ヲ校門ニ掲揚シ置キタル処午后一時過右ノ中日本国旗ノミハ何者ニカ取卸サレ且焼ケツツアルヲ発見セル事件アリ

湾仔空地ニハ夕刻ヨリ又モ群衆次第ニ集合シタルカ同八時頃群衆中ニ在ツテ邦人商店襲撃ヲ使嗾セルモノアリタルカ如ク又モ数百ノ群衆ハ喊声ヲ挙ケテ同北側「ヘネッシー」路ノ邦人商店四戸ニ殺到投石ヲ逞フセリ同地域ノ邦人商店ハ前夜ノ暴行ニ懲リ充分ノ警戒ヲ為シ居タルヲ以テ暴行振ノ猛烈執拗ナリシニ比シ被害程度僅少ニ止マリ身体ニ危害ヲ受ケタルモノ無カリキ当日警察当局ハ特ニ警戒ヲ厳重ニシテ同空地付近ニハ多数警官ヲ配シ巡邏

隊ヲ遊行セシメ居タルカ群衆ノ襲撃ハ巧ニ警官ノ手薄ニ乗シ繰返サレタリ右暴行ハ九時過鎮圧其後事ナキヲ得タリ

九月二十五日

香港島側中国人暴行ハ愈々露骨且大胆ト成リ此日午前、午后ニ亘リ通行中ヲ暴徒ニ包囲襲撃セラレ暴行ヲ受ケタルモノ八、九件ニ及ヒ殆ト外出ノ自由ヲサエ奪ハレタルノ感アルニ至レリ

湾仔空地ニ支那人群衆ヲ集合セシムルコトハ又々暴挙ヲ繰返サシムル素因タルヘキコトヲ慮リ当局ハ同空地立入ヲ厳禁シタル処前夜同様夕刻ヨリ又モ同方面ニ出掛クモノ刻々増加シ警察ハ之カ警戒ニ全力ヲ尽シタルカ群衆ハ警官巡行並警戒ノ裏ヲ掻キ各所ノ小路又ハ横丁ニ集マリ又モ「ジョンストン」路ヲ中心ニ主トシテ前夜及前々夜襲ハレタル邦人商店ニ重ネテ投石ハ元ヨリ大ナル石、棒ヲ以テ出入口ノ破壊ヲ企ツルニ至タリ暴行ハ愈々悪化危険性ヲ増スニ至レルカ十時頃漸ク鎮静ニ帰シタリ

九月二十六日

暴行ハ漸ク香港領全部ニ亘タリ僅ニ香港中央商業区域ニ本支店ヲ有スルモノノミ平常ノ通リ執務シ得ラルルニ過キス前日迄ハ白昼邦人商店ニ暴行ヲ企ツルモノ極メテ稀ナリシカ此日ハ仲秋節休日ノ関係モアリ午前中ヨリ各所商店ニ投石又ハ出入口ノ破壊等ヲ試タルモノアリ更ニ通行中中国人群衆ニ包囲暴行ヲ受ケ負傷スルモノ数人ヲ出スニ至レリ

九竜側ハ香港島側カ二十三日以来連日暴行アリシニモ拘ラス表面極メテ静穏ノ如ク見受ケラレタルカ此日ニハ午前中ニ同地邦人商店中ニ投石ノ厄ニ遭フモノアリ又遇々通行中ノ邦人ニシテ暴徒ノ襲撃ニ会シタルモノ二、三アリ警察力ハ之ヲ防止スルヲ得ス邦人ノ外出ハ全ク危険ト見ラルルニ至レリ斯ル状態ニテ遂ニ邦人ノ生命ノ安全ヲスラ保シ難キヤニ見受ケラレタルヲ以テ二十六日午后三時予而政庁当局トノ打合ニ基キ最モ危険ト見ラルル湾仔方面ノ婦女子小児ヲ先ツ避難セシムルコトニ決意シ警察側ノ自動車四台ヲ以テ警官ノ厳重ナル護衛ノ下ニ随所ニ散在セル邦人ヲ収容シ二十七日午前四時迄ニ殆ト危険地ニ於ケル救出希望者ノ全部ヲ日本人小学校ニ避難セシメタリ

何分右収容ハ暴徒ノ襲撃及ヒ絶ヘサル投石ノ危険ヲ冒シ乍ラ警戒シテ出入口ヲ固ク閉鎖シ居ルモノヲ捜出スルモノナルヲ以テ甚シキ困難ヲ感シタリ

九竜方面ハ夜ニ入リ支那人暴徒ノ襲撃各所ニ波及シ中ニハ棍棒刃物等ヲ携帯シ居ルモノアリ其ノ行動ハ著シク赤化的徴候ヲ表スニ至レリ

午后八時旧九竜城市山下澄次郎一家ハ暴徒数百名ノ来襲ヲ受ケタルカ暴徒ハ厳重ナル出入口ヲ破壊屋内ニ闖入シテ掠奪ヲ擅ニシタル後更ニ屋上ニ難ヲ逃レ居タル一家八人ヲ殺傷スルニ至レリ其他九竜方面ニ於ケル暴行ハ兇暴ニシテ邦人ニシテ暴徒ノ為負傷ヲ被リ入院ノ余儀ナキニ至レルモノ八名ヲ出シタリ同日午后九竜ニ居住スル邦人ノ一部分ハ同地三井物産社員住宅（二ケ所）三菱社宅其他ニ夫々避難シタルカ暴徒ハ更ニ避難後ノ留守宅ニ侵入掠奪ヲ為シ又家財道具類ヲ搬出焼棄シタルモノ二件住宅ニ放火シタルモノ一件アリタリ

九月二十七日

此日当局ハ前日ノ九竜惨事ニ顧ミ日曜ニモ不拘総督官邸ニ於テ朝来熟議ヲ重ネタル結果非常事態ノ声明ヲ為シ暴徒取締ニ関スル厳然タル決心ヲ示シ陸、海軍隊ヲ以テ各要所ヲ警戒シ更ニ邦人避難所ノ警備ニ当テタリ九竜側居住者ニシテ尚避難セサルモノニ対シテハ保護ノ必要上一所ニ集中ノコトトシ警察ノ手ニ依リ各所ニ残留スル邦人ノ救出収容ニ努メタリ斯クテ九竜地方居住邦人モ全部二十七日夜迄ニ之ヲ前掲三ケ所ノ外警察官練習所、浅間丸、崙山丸其他ニ避難セシメタリ

香港、九竜両地ノ警備手配ノ充実並暴徒ニ対スル当局ノ断然タル処置振ニ依ツテ再ヒ暴徒ノ集合困難トナリ邦人側ニ対スル危害ハナカリシカ夜ニ入リ暴徒ノ一群ハ筲箕湾並「ウェスト、ポイント」等比較的警備手薄ナル地域ニ在ル日貨取扱支那商ヲ襲ヒ其商品ヲ破棄スルニ至レリ此日湾仔邦人住居区域警備ノ為当局ハ従来ノ警察力ニ加フルニ軍隊六十名ヲ同地ニ配置「シーメンスクラブ」ヲ屯所ニ当テ以テ同地域（邦人商店約二十軒アリ）ノ安全保証サレタルニヨリ折柄ノ小学校避難ノ混雑ヲ緩和スル為同地域居住ノ男子ノミヲ一先ツ帰宅セシメ更ニ一方軍隊又ハ警官ヲ以テ厳重警備セル千歳、松原旅館ニ約九十名ヲ分宿セシメタリ

九月二十八日
軍隊並警察ノ警戒厳重ニシテ特ニ市内邦人商店及主要住宅地域ニハ夫々護衛ヲ配シ留守宅ノ盗難其他ニ備ヘタルカ之等警護ニ依リ窃盗ノ現場ニ於テ犯行中射殺サレタルモノ数人アリタリ
斯ル状態ニテ一般支那人ハ警戒シテ外出スルモノ尠ク市内ハ頗ル寂莫ノ感ヲ呈セリ
「ウェスト、ポイント」ニ於ケル日貨取扱支那商ノ一部ハ又モ暴徒ニ依リ投石セラレタルカ大事ニ至ラスシテ鎮圧セラル
山下澄次郎家族六人ノ死体ハ九竜水上警察ヨリ引取リ同警察護衛ノ下ニ日本人会付属火葬場ニ送リ午后九時ヨリ火葬ニ付ス
九月二十九日
領内各地共静穏ニ赴キ日貨取扱支那商ニ対スル暴行モナシ
当局ハ今次暴動ノ煽動者、暴行犯人並不穏分子ノ検挙ニ努メ漢字新聞、支那人経営ノ学校、娯楽場其他支那人ノ集合機関ノ取締ヲ厳重ニシテ排日乃至暴動煽動的事実ノ検挙ニ努メタリ
湾仔「シーメンス、クラブ」ヲ中心トスル約二十戸ノ邦人家族中帰宅スルモノ五十三名ナリ
九月三十日
朝来降雨アリ群衆ノ出足ヲ挫キタルト警戒厳重ニ依リ邦人ニ関スル限リ何等ノ事故ヲ見ス
夜八時頃又モ「ウェスト、ポイント」ノ日貨取扱支那商ヲ襲ハントシタル暴徒ノ一団アリタルモ気勢揚ラス何等為スコトナク解散ス此日総督、民政長官、警視総監ハ香港側避難所ヲ見舞ヘリ
十月一日
事件突発ト共ニ邦人家庭雇傭支那人ハ外部ヨリノ脅迫ニ依リ又ハ危険ヲ恐レ其大部分ハ引揚クルニ至リ且一部支那商ハ邦人ノ購買ニ応セサルモノアリ旁々日用食料品ノ買入ニ困難ヲ免レス二十七日夜香港側避難者ハ小学校、千歳旅館、本願寺三ケ所ニ九百余名ヲ収容シタルカ現在五〇〇名ニ減ス
十月二日
警戒依然厳重ニシテ市内外事故ナシ荷役苦力罷業ノ企図モ当局ノ弾圧ニヨリ具体化セス
湾仔方面ノ外出ハ既ニ不安去リ小学校避難者中帰宅スルモノ八十余名アリタリ
十月三日
表面極メテ平穏ニシテ各地共事故ヲ見ス只謡言ハ尚盛ニシテ一般支那人ノ出足稀ナリ警察当局ニ於テハ本日正午ヲ期シ支那人暴徒ノ日貨取扱支那商襲撃ノ企テアルコトヲ聞込特ニ関係方面ヘ警告スルト共ニ警戒ヲ厳ニシタルカ何等事故ナカリキ
警察官ノ手不足ヲ補フ為南支沿岸船舶搭乗ノ露国人「ガード」三十名ヲシテ陸上ノ必要警備ニ当ラシムルコトトナレリ
十月四日――九日
引続キ軍隊並警察ノ厳重ナル警戒ノ下ニ事態静穏ヲ保チ居リ香港側避難民モ続々帰宅シ五十余名ヲ残スニスキス九竜側ニ対シテハ猶慎重ニ考慮シ最モ安全ト思惟セラルル十一家族ニ帰宅ヲ許シタルノミニシテ他ハ其儘ニテ双十節ヲ過スコトトセリ
十月十日
双十節ニ於ケル民衆ノ盲動アルヤモ計ラレストハ一般ニ憂慮セラレ居タル所ニシテ煽動者ニトリテモ絶好ノ機会ナルヘシト認メラレタル為政庁側ハ此日軍隊ノ市中示威行進ヲ行フコトトシ午前十時ヨリ香港、九竜双方側ニ於テ陸海軍千余名ヲ出動夫々示威行進ヲ為シ市中主ナル個所ニ於テハ交通遮断通行人ノ検査ヲモ為シタリ
右ノ示威成功シ当日ハ何等事故ナク翌十一日ノ日曜日モ無事ニスキタリ
十月十二日
事態一応静穏ニ帰シタルモノト見做シ香港、九竜市内各所ニ駐屯セシ軍隊ハ一先ツ夫々営舎ニ復帰セシメ警察力ノミヲ以テ警戒ニ当ルコトトセリ
此日警察側ニ於テモ差支ナシト認メタルニ付香港九竜両方面ニ於ケル避難所ヲ閉鎖シ夫々帰宅セシメタリ尤モ甚シク遠隔ノ地ニシテ警備手薄ノ地ニ在ル者ハ安全ナル地ニ暫時滞留セシメ置クコトニ取計ラヒ置タリ

182
昭和6年10月17日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）
上海における対日経済絶交運動の状況に

ついて

上海　10月17日後発
本省　10月18日前着

第六八〇号（暗）

本官発連盟事務局長宛電報第三号

在華公使発往電第五号及本官発往電第二号ニ関シ

目下当地ニ行ハルル排日運動ハ支那側ノ宣伝スルカ如ク各自ノ自由意思ニ依リテ行ハルル普通ノ「ボイコット」ニアラスシテ「テロリズム」ニ依リ維持セラルル一切ノ経済絶交運動ナリ即チ其特色ハ抗日救国会ノ如キ私人団（政府ト関係アル紳商並党部員等ヲ包含シ表面政府ト関係無キヲ装ヒ居ルモ事実ハ党部ノ指導ノ下ニアルハ疑ヲ容レス）脅迫、貨物ノ抑留強奪没収商人ノ不法監禁、巨額ノ罰金賦課ノ如キ不法手段ヲ用ヒ商民ヲ恐怖ニ陥ラシメ之ニ依リ日本人トノ取引ハ勿論、私経済関係サヘモ杜絶セシメントシツツアルモノナルノミナラス以上ノ不法行為殊ニ白昼公然行ハルル貨物ノ抑留商人ノ不法監禁ノ如キモノニ対シテスラ支那官憲ハ何等ノ取締ヲ為ササルノミナラス未タ曾テ犯人ヲ処罰セルコトモ無ク全ク公認ノ「テロリズム」ト云フノ外ナシ唯直接ノ被害者カ支那人ナル為後難ヲ恐レ反対ノ声ヲ揚ケス又官憲ノ保護ヲ求メサル為（之ヲ求ムルモ取上ケラレサルカ如シ）兎角欧米人ニ看過セラルルヲ遺憾トス因ニ日貨ノ強制抑留ハ朝鮮事件ニ依リ勃発セル排日運動ノ際ニハ日本人所有貨物ニ付テモ頻繁ニ起リ物議ヲ醸シ終ニハ我海軍ニ於テ実力阻止ヲ試ミタル為終熄スルニ至リタルカ今回モ支那側ハ此方ニハ充分注意シ居レルヲ以テ最近ハ殆ト其事例ナキ次第ナリ為念

連盟ヨリ在米大使及在欧各大使ニ転電アリタシ

外務大臣、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、南京、福州、厦門、広東、香港ヘ転電シ在支公使ヘ転報セリ

183

昭和6年10月18日　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海の内外綿会社工場および社宅に対する暴行事件発生について

上海　10月18日後発
本省　10月18日後着

第六九五号（暗、至急）

今十八日午前十時半約二百名ノ反日団上海西部共同租界内West Soo Chow Road ノ内外綿会社第五工場付近ニ伝単ヲ撒布シ同工場門前ニ置キアリタル邦人所有自動車ヲ破壊シテ運転不能ニ陥ラシメ次テ第五、六工場及社宅ニ投石シ窓硝子ヲ破壊セリ其後（午後一時頃）Robinson Road 及Ferry Road ノ交叉点（川村記念塔ノアル広辻ニシテ「デモンストレーション」屢々行ハルル処）ヲ中心トシテ数千人ノ群集蠢動シ付近ノ邦人洗濯屋ヲ襲ヒタリ工部局ハ武装セル Reserve unit ヲ出動セシメ陸戦隊ヨリモ一個小隊ヲ派シ群集ノ解散ニ努メ此間警官二名負傷セル由他方Ichang Road ノ同社宅ハ朝来投石ノ難ニ遭ヒタルカ午後二時頃約三十名ノ暴漢門ヲ破リテ内部ニ闖入セリ依テ急派セル陸戦隊及工部局警官ハ之ヲ追ヒ払ヒ（此間数名ノ暴徒ヲ殴リ付ケタルニ付負傷セル者アルヤモ知レスト）タルカ外部ニハ今尚数百ノ群集ワイワイ騒キ居レリ（午後三時半）

連盟ヨリ在米大使並ニ在欧大使ニ転電セラレタシ

連盟局長、北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、済南、南京、漢口、福州、厦門、広東、香港ヘ転電セリ

支ヘ転報セリ

184

昭和6年10月18日　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

内外綿会社社宅前の反日示威について

上海　10月18日後発
本省　10月18日後着

第六九六号（暗、至急）

往電第六九五号（一八三文書）ニ関シ

宜昌路社宅前ノ群集ハ其後二三千ニ達シ形勢一時極メテ険悪ニ陥リタルカ幸ヒ大事ニ至ラス午後四時半退散シ付近一帯大体沈静ニ帰セルカ陸戦隊ハ終夜警戒ニ当ル由（午後六時）

連盟ヨリ在欧米大使ニ転電セラレタシ

長春、北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、済南、南京、漢口、福州、厦門、広東、香港ヘ転電シ支ヘ転報セリ

185

昭和6年10月19日　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海日本人中要救済者の増加について

上海　10月19日後発
本省　10月20日前着

第六九七号（暗）
貴電合第八三四号ニ関シテハ追テ回電スヘキモ当地在留者ノ内地引揚者ハ概ネ中産階級ノモノノ家族ニシテ其概数ハ二百名ナルカ排日ノ影響ニ依ル邦人失業者ハ（硝子、護謨、魔法瓶、琺瑯鉄器、友禅染其他ノ日支人小工場ノ職工、ターマン等）日々増加シ之迄ノ失業無職者ヲ併セ現在約二百名アル処此種失業者並ニ営業困難ニ基ク小商人等ノ数ハ今後日ヲ経ルニ従ヒ逓増シ若シ現状ニシテ此処三、四ケ月モ継続セハ結局在留民ノ約一割（三千人）ハ救済ヲ要スルコトトナリ十万円足ラスノ救済金ヲ必要トスルニ至ルヘキ見込ナリ目下民団ヲシテ考究セシメツツアルカ何レ補助ヲ仰カサルヘカラサルニ至ルヘキニ付予メ御考慮置キアリタシ
北平へ転電シ支へ転報セリ

186
昭和6年10月19日　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海内外綿会社工場および社宅の被害について

上海　10月19日後発
本省　10月20日前着

第六九九号（暗）
往電第六九六号（一八四文書）ニ関シ
暴徒ノ投石ニ依リ第五工場ノ窓硝子数十枚宜昌路社宅十八戸ノ南面窓硝子殆ト全部破壊セラレ居リ又居住者中ニハ幸ヒ負傷者無カリシカ右ハ居住者ノ大部分カ付近ノ日本人小学校ニテ朝ヨリ催セル運動会ニ赴キ不在ナリシニ依ル又会社支那工人ハ日曜ニ付午前午後休ミナリシカ暴行ニ参加シタル模様無ク且夜業ニハ就業シ何等動揺ノ色ヲ示ササリキ尚陸戦隊指揮官ハ出動部隊ニ対シ必要ニ際シテハ断乎タル措置ヲ執リ差支無キ事ヲ命令セル由ナルカ宜昌路社宅保護ニ向ヘル一個小隊ハ着剣突撃ヲ以テ暴徒ヲ退散セシメ又我装甲車ハ Ferry Road 巡邏中群集ヨリ盛ニ投石ヲ受ケタルニ依リ機銃一発（故障ノ為一発シカ出テサリシト）ヲ放チタル処群衆ハ之ニ驚キ直ニ四散セル由
連盟ヨリ在米大使及在欧州各大使へ転電アリ度シ
（前電ノ通転報及転電セリ）

187
昭和6年10月19日　在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

漢口総領事館管轄内日本人の引揚者数について

漢口　10月19日後発
本省　10月19日後着

第七三六号（暗、至急）
貴電合第八三四号ノ件左ノ通
一、(イ)内地へ引揚成年男二二婦女子九六計一一八上海へ引揚ケ成年男六婦女子二計八
(ロ)成年男子一八帰女子三三計五一
(ハ)成年男子七〇九婦女子八三一計一五四〇右ハ武漢三鎮ノミノ調査ニシテ大冶及武穴ノ分ハ第二項ト共ニ追報ス支へ転電セリ

188
昭和6年10月19日　在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

管内各地における日本人引揚者数および要救済者数について

漢口　10月19日後発
本省　10月19日後着

第七三七号（暗、至急）
往電第七三六号（一八七文書）ニ関シ
左ノ通追報ス
二、武漢三鎮ニ於ケル自宅残留民ニシテ救助ヲ要スルモノ
世帯数一八世帯主一八同居ノ妻八、十二歳以上ノ子女六、十二歳未満四歳以上ノ子女一一、四歳未満ノ女子三、雇人無シ
管内大冶ニ於ケル分左ノ通
(一)(イ)内地へ引揚成年男子二婦女子八計一〇
漢口へ引揚成年男子無シ婦女子四計四
(ロ)該当者無シ
(ハ)成年男子一一婦女子一計一二
(二)救助ヲ要スルモノ無シ
管内武穴ニ於ケル分左ノ通
一、(イ)内地へ引揚成年男子無シ婦女子六計六(ロ)該当者無シ(ハ)成年男子一二婦女子無シ計一二
二、救助ヲ要スルモノ無シ
在支公使へ転電セリ

189
昭和6年10月19日　在杭州米内山領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

杭州における日本商品取扱中国商人の被害について

杭州　10月19日後発
本省　10月19日後着

第四六号（暗）
本官発支宛電報
第三〇号
杭州国貨陳列館内漢錦泰洋品店主人漢錦宝ハ日本品ヲ取扱ヒタリトノ理由ヲ以テ本日木ノ檻ニ入レラレ目抜ノ大道ニ曝サレツツアリ御参考迄ニ報告ス
公使ヨリ上海ニ転報アリタシ
大臣、南京、北平ヘ転電セリ

190　昭和6年10月(19)日　在厦門三浦領事より幣原外務大臣宛（電報）

厦門領事官邸および同警察署に対する爆弾投入事件について

厦門
本省　10月19日後着

第一〇七号（暗、至急）（福州故障ノ為遅延）
十八日午後七時五十分本官官邸裏建物内ニ爆弾一個ヲ投入シタル者アリ又殆ト同時刻ニ厦門側当館警察署ニ爆弾一個ヲ投入シタル者アリ何レモ不発ニ終リ何等ノ被害ナカリシカ直ニ工部局警察及厦門公安局ニ通報非常警戒方ヲ申入レ尚更ニ使者ヲ公安局長ノ下ニ派シ居留民ノ生命財産ノ完全ナル保護ヲ要求シ且ツ若シ不可能ナラハ直ニ陸戦隊ヲ上陸セシムヘキ旨ヲ申入レシメタルニ同局長ハ責任ヲ以テ完全ナル保護ヲナスヘキ旨ヲ言明シタリ一方駆逐艦竹ハ当館ヨリノ無電通報ニ接スルヤ時ヲ移サス陸戦隊十五名ヲ当館ニ派シ警戒ニ就キ尚工部局警察最近手薄ニ付当館警察ト協力シ鼓浪嶼在留邦人ノ警戒ニ任シタリ其後唯今十一時迄ノ所何等異常ナシ尚公安局長ハ前記当館使者ニ対シ同局ニテハ先刻無政府共産党厦門分同盟ノ名ニテ「日本機関強制破壊」ト題スル宣伝ビラヲ入手シタルニ付此ノ事件ハ全ク共産党ノ所為ナルヘシト語リタル趣ナリ
（海軍無電ニ依ル）（厦門領事発）
公使、北平、奉天、上海、南京、福州、汕頭、広東、台湾
総督ニ転電アリタシ

191　昭和6年10月19日　在厦門三浦領事より幣原外務大臣宛（電報）

厦門領事官邸および同警察署に対する爆弾投入事件に関し居留民保護について

厦門　10月19日後発
本省　10月19日後着

第一〇八号（暗）
往電第一〇七号（一九〇文書）ニ関シ
我警察官ヲシテ邦人全部ヲ見廻ラシメタルニ厦門及鼓浪嶼共ニ異状無シ支那側ノ警戒厳重ナリ公安局ハ中華中学ヲ包囲犯人ノ検挙ニ努メシカ夜明ヲ俟テ更ニ厦門大学手入ノ筈（十九日午前二時）
支、北平、奉天、上海、南京、広東、福州、汕頭、台湾総督ヘ転電セリ

192　昭和6年10月19日　幣原外務大臣より在英国松平大使他宛（電報）

成都、重慶、雲南、張家口、赤峰、チチハル各領事館ならびに在留民の引揚について

本省　10月19日後10時20分発
合第一〇六八号
成都、重慶、雲南、張家口、赤峰、斉々哈爾
各領事館ノ引揚ニ関スル件
往電合第八一二号（一四三文書）ニ関シ
其後ノ状況左ノ通リ
(一)成都　総領事館員及館員家族並在留民（計六名）十四日水路重慶ニ向ヘリ、中国人ノ妻トナリ居ル邦人婦女六名残留ス
(二)重慶　領事及館員二名ヲ除ク在留官民合計九八名十五日雲陽丸ニテ引揚ノ途ニ付キ途中万県在留民全部（三名）ヲ収容下航セリ領事ハ成都一行ノ来着（二十一日ノ予定）次第領事館ヲ閉チ下航ノ筈
(三)雲南　同地領事事務代理ハ十六日閉館引揚十八日夕河内ヘ到着ノ見込ナリ
(四)張家口　敗残軍平綏線方面移駐ニ伴ヒ同地方ノ形勢漸次危険ニ瀕シタルヲ以テ近々巡査二名護送ノ下ニ在留民及館員家族(計約二〇名)ヲ北平ニ引揚シムルコトトナルヘク領事館モ情勢ニ応シ引揚差支無キ旨十七日訓令済ナリ
(五)赤峰　開魯（熱河東部）方面ニハ相当部隊ノ馬賊アル模

様ニシテ同地ヨリ鄭家屯方面ヘノ引揚ハ到底不可能ナルニ加ヘ奉軍敗兵ノ北平方面移動ニ伴ヒ同方面ノ形勢漸次悪化シ来リ時機ヲ失セハ退路ヲ遮断セラルルノ惧アリ在留民全部（一二名）ハ既ニ十五日出発十七日北平ニ到着セルカ地方状況更ニ悪化シ邦人振出シ小切手ヲ全然受付ケス領事館ノ維持困難トナリシヲ以テ領事館員一同ニ対シテモ一先ツ北平ヘ引揚方十八日訓令済ナリ

(ハ)斉々哈爾　往電合第一〇一八号以後張海鵬軍ニ対スル黒竜江省政府ノ態度硬化シ戦禍同地ニ波及ノ虞アルニ至レルヲ以テ領事ハ十六日夜館員一同及残留内鮮人（計約七〇名）ト共ニ一時哈爾賓ニ引揚ケ同地ニ於テ執務シツツアリ

寿府ヨリ英ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ

米ヨリ加奈陀、紐育、桑港、市俄古ニ転電アリ度

193

昭和6年10月20日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海内外綿会社に対する暴行事件に関し張市長に取締り方申入れについて

上海　10月20日後発
本省　10月20日後着
第七〇〇号（暗）
往電第六九五号ニ関シ（一八三文書）
本官ハ十九日張市長ヲ訪問シ事件ハ租界内ニ起レルヲ以テ現地ノ取締等ニ付テハ貴方ノ責任ヲ問フ次第ニアラサルモ宣伝隊支那街ヨリ入リ込ミタル模様ニモアリ今後一層取締ヲ厳ニセラレ度ク又暴徒ハ工部局警察カ五三十事件以来容易ニ発砲セサルコトヲ知リ居ル為警官決死ノ尽力ニモ拘ラス容易ニ退散セサルノミナラス却テ益々険悪トナリ遂ニハ現場ヘ出動セル我装甲自動車ニ対シテスラ投石スルニ至レルヲ以テ我兵士ハ遂ニ発砲シ（負傷者ナシ）漸ク之ヲ逐ヒ散ラセルカ今後暴徒ニシテ我軍隊ニ対シ斯ル侮辱的乃至攻撃的態度ニ出ツルカ若ハ邦人ノ生命財産危険ニ瀕シ租界警察ノ制止効ナキニ至ラハ我軍隊ハ発砲スルノ已ムナキニ至ルヘク租界警察ト同視セハ大間違ヒニ付右一般ニ周知セシメ将来事端ヲ醸ササル様切実措置セラレ度キ旨申入レタル処張ハ斯ルコトヲ一般ニ周知セシムルコト却テ其激昂ヲ来スヘク或ハ之ヲ恫喝ト解セラレ又ハ共産党ニ乗セラルル惧アリトテ之ヲ肯セス只管陸戦隊出動ヲ忌避シ工部局警察ニ

依ル取締ヲ主張シタルニ付本官モ固ヨリ主義上右ニ異存ナク租界当局トモ充分協議スル積リナルカ現状ニテ全然陸戦隊出動ヲ阻止スル能ハサレハ今述ヘタルコトヨク注意アリ度シト警告シ置キタリ尚同日工部局当局ニモ取締励行方要求シ置ケリ

公使ヘ転報シ北平、奉天、青島、天津、済南、漢口、南京、福州、広東、香港ヘ転電セリ

194

昭和6年10月20日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京における救国会の日貨取扱商に対する厳罰振りについて

南京　10月20日後発
本省　10月20日後着
第六七二号
本月五日救国会ハ日貨ヲ取扱ヒタリトノ理由ニ依リ見セシメノ為支那商人三名ノ市中引廻シヲ実行シタル為（往電第六三六号）関係支那商ニ大恐慌ヲ与ヘタル折柄国民政府ヨリ我方ニ宛テタル回答ニ於テ貨物購入ノ選定ハ個人ノ基本的権利ナリト述ヘタル次第アリ為ニ救国会ハ益々増長シ往電第六六六号ノ如キ規則ヲ擅ニ作成公表スルト共ニ最近木製檻二個ヲ作リ当地目抜ノ場所ニ配置シ商人ヲ威嚇シ居レリ然ルニ官憲ハ救国会ノ背後ニ党部ノ勢力アルニ怯エ全然取締ノ勇気無ク法律ヲ全然無視シ死刑迄モ規定セル前記救国会ノ規定公表ニ対シテモ唯傍観シ居ル始末ナリ尤モ当館及在留邦人ノ生命財産保護ニ対シテハ連盟等ニ於ケル反響ヲ懸念シ有ユル努力ヲ尽シ居ル為目下ノ所兎ニ角平穏ニ経過シツツアリ

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転報アリタシ

公使、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、米、連盟ヘ転電セリ

195

昭和6年10月20日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京における全市学生大会の動向と領事館の警戒について

南京　10月20日後発
本省　10月20日後着
第六七三号
当地各学校ノ義勇軍及一般学生約一万人ハ本二十日午前八

時国民政府付近ノ鐘南中學体操場ニ集合全市学生大会ヲ開キ満州事件ニ関スル激越ナル演説アリタル後中央ニ対シ㈠義勇軍ニ武器ヲ交付スル事㈡和平統一ノ促進㈢日支直接交渉反対㈣軍事的準備ノ完成㈤民衆運動ノ回復㈥反乱分子ノ厳罰㈦露支国交回復ノ七項ヲ実現方請願スル事ヲ決議シ隊伍ヲ組ミ楽隊付ニテ先ツ国民政府ニ押寄セ更ニ中央党部ニ赴キ請願シ午後二時無事散会セリ

当日衛戍司令部及警察庁ハ多数ノ軍警及騎馬巡査ヲ当館一帯ニ配置シ尚万一学生カ当館ニ押寄セタル場合ニハ先ツ放水シテ退散セシムル計画ニテ付近ノ用水池ニ「ポンプ」二台ヲ据付ケ警戒セルカ何等事故ナク過キタリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、広東、漢口へ転電セリ

196　昭和6年10月20日　在厦門三浦領事より　幣原外務大臣宛（電報）

厦門爆弾事件に対する措置に関し公安局長と会談について

厦門　10月20日前発
本省　10月20日後着

第一一一号（暗）

当地各新聞社ハ今回ノ爆弾事件ハ日本カ陸戦隊上陸ノ口実ヲ捏造シタルモノナリト逆宣伝ヲ行ハントスル形跡アリトノ情報ニ接シタルニ付直ニ分署長ヲ公安局長ノ許ニ派シ本件ハ支那当局ノ鑑定通リ共産分子ノ所為ト認メラルル処右ハ林司令カ共産党取締リノ理由ノ下ニ戒厳令ヲ布キ治安維持ニ努メ居ラルル事カ極メテ妥当ナリシヲ現実ニ立証シタルモノニシテ本件ノ発生ハ将来取締励行上ヨリ却テ好都合ナリトモ考ヘ得ラルル次第ナリ然ルニ前記ノ如ク逆宣伝ヲナサシムル事ハ共産党一味ニ対シ更ニ乗スル機会ヲ与フルノミナラス両国民ノ感情上重大ナル結果ヲ招来スル惧アル旨ヲ説示セシメタルニ局長ハ実ハ当方ニ於テモ同様ノ聞込ミアリ直ニ調査シタルニ一部記者間ニ其話合ヒアリタル事実ヲ確カメタルニ付唯今各新聞社ニ対シ捏造記事ヲ掲載スヘカラサル旨戒告ヲ加ヘタル処ナルカ御申入レノ次第モアルニ付再応注意ヲ与ヘ厳重取締ルヘキ旨答ヘタル趣ナリ（十九日午後九時）

支、北平、奉天、上海、南京、広東、福州、汕頭へ転電セリ

香港へ暗送セリ

197　昭和6年10月20日　幣原外務大臣より　在上海重光公使宛（電報）

重慶日本租界保全方について

本省　10月20日後9時10分発

第四三八号　暗、至急

重慶租界保全方ノ件

重慶発本大臣宛電報第二一七号ニ関シ貴官ヨリ在重慶領事ニ対シ稟請通リ措置シ差支無キ旨並市長宛公文ニ対シテモ先方ノ回答ヲ取付クヘキ旨回訓セラレ度ク尚往電第四二四号ノ趣旨ニ依リ右在重慶領事ノ処置ニ呼応シ貴方ヨリモ国民政府ニ対シ同様ノ趣旨ヲ申入レ同政府ノ回答ヲ取付ケラレ度シ

198　昭和6年10月(21)日　在上海重光公使より　幣原外務大臣宛（電報）

重慶日本租界保全に関する市長あての申入れ承認について

上海
本省　10月21日後着

第一一六九号（暗）

本使発漢口宛電報

第五八号（至急）

重慶へ転電アリタシ

第九号

大臣宛貴電第二一七号ニ関シ貴官稟請ノ通リ措置シ差支ナシ尚市長宛公文ニ対シテモ先方ノ回答ヲ取付ケ置カレタシ本使ヨリノ外交部宛申入（大臣来電第四二四号ニ基ク）ハ二十二日上村ヨリ手交セシムル筈

大臣、南京へ転電セリ

199　昭和6年10月21日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

内外綿会社暴行事件に関する上海工部局の措置について

上海　10月21日　発
本省　10月22日前着

第七〇二号
（一八六文書）
往電第六九九号ニ関シ

当日逮捕セル犯人ハ六名（何レモ邦人ニ於テ逮捕シ工部局警察ニ引渡シタルモノナルカ内五名ハ内外綿社宅構内ニ闖入シ暴行セルモノナリ）ニシテ邦人弁護士等ハ右等ハ何レモ秩序妨害罪ヲ以テ処断スルニ価スルモノト考ヘ居ル処工部局ハ内三名ヲ未成年者ノ故ヲ以テ説諭ノ上放免シ他ノ三名ヲ傷害罪又ハ器物毀損罪ニ依リ翌十九日特区法院 first special district court ニ起訴シ法院ハ被告及証人各一名ニ付簡単ナル訊問ヲ為シタル後罰金墨銀三弗ニ処シタリ右工部局及法院ノ措置ハ租界ノ秩序維持上何レモ不当ノモノト認メラレ内外人ノ注意ヲ惹キ居レリ

尚工部局ニ於テハ各方面ノ非難ニモ顧ミ再審要請方考慮中ノ由

連盟ヨリ在米大使及在欧各大使ニ転電アリ度シ

支へ転報セリ

奉天、南京へ転電セリ

200　昭和6年10月21日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

内外綿会社暴行事件に関する善後措置について

上海　10月21日後発
本省　10月21日後着

第七〇四号（暗）
（一八六文書）
往電第六九九号ニ関シ

十八日滬西方面特ニ内外棉社宅襲撃事件ニ関スル諸情報ヲ綜合スルニ工部局警察ニ於テ暴徒ノ数少数ナリシ間ニ適当ノ処置ヲ執リ同（所）ニ於テハ事件ノ拡大ヲ見サリシモノト認メラレ又襲撃セラレタル社宅ニ馳付ケタル警官ハ陸戦隊ニ於テ突撃スル迄何等積極的措置ニ出テス総シテ工部局警察ノ処置振遺憾ノ点多キニ依リ西部方面ハ多少疎ニナリ居タルヤニモ思ハルルカ兎ニ角今後充分注（意）セシムヘシト答ヘタリ然ルニ其後工部局側ヨリ福島及岡本ニ希望申出アリ二十日工部局ニ於テ日本側ヨリ本官、陸戦隊参謀、福島、岡本、工部局側ヨリ「マ」議長及「フエ」理事長「マーチン」総監、田島出席会合シ警備上ニ関シ腹蔵ナキ意見ヲ交換シ今後陸戦隊ト警察トノ連絡ヲ更ニ密接ナラシムルコトニ話合ヲ遂ケタリ但シ我海軍独自ノ立場ニ累ヲ及ホササル様釘ヲ打チ置キタリ

支へ転報セリ

201　昭和6年10月21日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海市商会より各国商業会議所あての排日貨に関する回章について

上海　10月21日後発
本省　10月22日前着

第七一〇号

上海市商会（City Chamber of Commerce of Greater Shanghai）ハ十五日付回章ヲ上海ニ於ケル英、米、仏、伊、和、白、独、露、諾威ノ各国商業会議所ニ送付シ全国民衆カ一致シテ排日貨ヲ実行シ居ル際日本商人ヲ援助スルカ如キコトナカランコトヲ要求セルカ其要旨左ノ通

今次事件ニ関スル中国民衆ノ憤激ハ頗ル甚タシク従来日本ヨリ輸入セル各種貨物ハ今後悉ク他ノ友邦ヨリ購入スルコトトナリタリ右ニ関シ注意スヘキハ仮令日本以外ノ外国ヨリ輸入シ来レルモノト雖若シ日本船ニ依リ積ミ来レルモノ又ハ日本船ニ依ラサルモ上海到着ノ際日本商社ノ「ワーフ」ニ碇泊スル時ハ人心激昂ノ余リ必スヤ種々「トラブル」ヲ惹起スヘキヲ以テ貴商業会議所ヨリ上海ニ於ケル貴国商人及本国各製造工業ニ対シ特ニ以上ノ状況ヲ回避スル様注意アリ以テ中国トノ国交並ニ経済関係ヲ維持セラレ度ク尚現ニ日本貨物ニシテ他国貨物ヲ装ヒ上海ニ輸入セラレ居ルモノ鮮カラサル由ナル処右ハ勿論大多数日本人ノ仕業ナルヘキモ日本人ニ利用セラレ居ル者ノ行為亦鮮カラサルヘキニ付之亦貴会議所ヨリ上海及本国各商人ニ注意シ之カ矯正ニ努力セラレンコトヲ希望ス云々

寿府ヨリ米、在欧各大使ニ転電アリ度シ

北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州、香港、南京、寿府ニ転電セリ

202　昭和6年10月21日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

日本人居留民婦女子および館署員家族の日本への引揚げについて

広東　10月21日後発
本省　10月21日後着

第五四三号

戒厳下ノ市中ニハ何ノ事故無キモ物情依然不安自然当地在留邦人婦女子約百名ハ本月二十八日香港発秩父丸ニテ自発

的ニ本邦ヘ引揚クル事トナリタル処沙面内ハ英仏両租界官憲ノ厳重ナル警戒ノ為極メテ安全ナルモ租界外ヘノ外出ハ危険ナル上食料等婦女子ノ生活ニハ著シク不便アルニ付テハ館署員ノ家族モ右便船ニテ一先ツ帰朝セシムル事トセルヲ以テ右ニ御含置キアリ度シ

支、南京、香港ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

203 昭和6年10月21日 幣原外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

事変による引揚げ邦人の復帰について

本省 10月21日後11時40分発

第一二五号（暗）

時局ニ因ル引揚邦人ノ復帰方ニ関スル件

今次事変ニ因リ在支邦人（朝鮮人ヲ含ム）ノ安全地帯ニ引揚ケタルモノノ概算数ハ今日迄ノ処満州方面三、〇〇〇名北支地方五〇名長江流域七〇〇名南支地方七〇名計約三、九〇〇名ニ達シ領事館ノ引揚ケ又ハ引揚用意中ノモノ往電合第一、〇六八号ノ通リ成都、雲南、重慶、鄭州、張家口、赤峰、斉々哈爾ノ七館ニ達スル処是等引揚者ノ原住地復帰ハ昭和二年南京漢口両事件後ノ長江動乱ニ基ク在留民引揚ノ例ニ鑑ミルモ頗ル困難且長日月ヲ要スヘキモノト想像セラル即チ昭和二年ニ於テハ上海ヲ除ク長江一帯在留民約三、一〇〇名中ノ八割即チ約二、七〇〇名ハ同年五月中旬迄ニ上海方面ニ避難シ（其ノ大部分ハ更ニ内地ニ引揚ク）上海在留民二〇、五〇〇名中内地ニ帰還セルモノ亦約五、四〇〇名ニ達シ此等引揚者並残留者中失業徒食ノ悲境ニ陥レルモノ約四、〇〇〇名ヲ算シ領事館モ漢口、九江、南京、杭州、上海ノ外全部引揚ケタルカ政府ハ動乱状態ノ鎮定ヲ俟チ右引揚者中困窮者ニ対シ救済金及復帰旅費ヲ給与シ復業資金ヲ貸与スル等極力復帰促進ニ力メタルモ民心ノ不安ハ容易ニ去ラス同年十二月迄ニ復帰セルモノ僅々八〇〇名（残留者ト合セテ約一、二〇〇名）ニ止マリ引揚当時ニ於ケル居留民数ニ比スレハ未タ其ノ三分ノ一ニ過キサリシ状況ニシテ爾後数年ヲ経テ漸ク引揚当時ノ原状ニ近キタル次第ナリ（殊ニ漢口ノ如キハ約三五〇名ノ残留者ヲ除キ引揚者約一、八五〇名中同年十二月初迄ニ復帰セルモノ僅ニ四五〇名ニ過キス）殊ニ今回ハ事変ノ影響全支ニ及ヒ排日運動モ其ノ深刻ニシテ執拗ナルコト昭和二年当時ノ比ニアラス従ツテ経済上ノ打撃モ甚大ニシテ之ニ対シテハ相当ノ救済ノ要モアルヘク又在満鮮人ニシテ敗兵等ノ為殺害セラレタル者約百四十名ニ上リ之カ救恤ノ途モ講セサル可ラス且支那人ノ気風モ今回ハ容易ニ改善セラレサルヘシト思考セラルルニ鑑ミ引揚者ノ復帰モ仮令政府ニ於テ鋭意之カ促進ノ方法ヲ講スルモ到底短日月ニハ之ヲ期待シ得サルヘシト認メラルル次第ナリ

在欧各大使ニ転電アリ度

米ニ転電セリ

204 昭和6年10月21日 在南京上村領事より幣原外務大臣宛

首都各界抗日救国会制定の検査日貨懲戒条例について

普通送第七五四号

昭和六年十月二十一日

在南京領事 上村 伸一

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

検査日貨懲戒条例訳送ノ件

首都各界抗日救国会ノ制定シタル本件条例昨十八日ノ当地新聞ニ発表セラレタルニ付キ茲ニ別紙ノ通リ訳報ス

本信写送付先 公使、北平、上海、広東、天津、漢口

（別紙）

検査日貨懲戒条例

（首都各界抗日会ノ制定セルモノ）

第一条 本条例ハ首都各界抗日救国会懲戒委員会組織条例第六条規定ニ基キテ之ヲ訂正ス

第二条 本市各商店ノ日貨登記ニ当リ隠蔽等ノ事情アリタル際ハ該日貨ヲ没収スル外同品値段ノ二倍以上ノ罰金ヲ科ス

第三条 本市各商店カ日貨ノ登記ヲ拒ミ又ハ故意ニ登記ヲ遅延スルモノアル場合ハ日貨ノ全部ヲ没収スル外同品価額ノ三倍以上ノ罰金ヲ科ス

第四条 本市各商店ノ本会ノ日貨検査ヲ拒ムモノアル場合ハ同店ヲ封閉シ且ツ其財産ヲ没収スル外同店ノ責任者ヲ抗日会ニ連行シ遊街示衆ノ処分ニ付ス

第五条 本市各商店ノ本会指定ノ期日ニ於テ指定ノ地点ニ登記済ノ日貨ヲ運搬貯蔵セサルモノアル場合ハ全部ノ日

貨ヲ没収スル外価額ノ一倍以上ノ罰金ヲ科ス
第六条　本市各商店ノ登記後日貨ノ一部分ヲ私蔵スルモノアル場合ハ同品ヲ没収シ且ツ価額ノ三倍以上ノ罰金ヲ科ス外同店ノ責任者ヲ捕ヘ遊街示衆ノ処分ニ付ス
第七条　日貨ノ運輸ヲ庇護シ中間利得ヲ貪ル奸商アル場合ハ死刑ニ処スル外ソノ全部ノ財産ヲ没収ス
第八条　日貨ヲ販運スルモノアル場合ハソノ財産全部ヲ没収スル外右商人ヲ捕ヘ遊街及坐木籠示衆ノ処分ニ付ス
第九条　国貨中ニ日貨ヲ混シ国貨又ハ洋貨ニ改装スルモノアル場合ハ一律没収シ且ツ価額ノ三倍以上ノ罰金ヲ科ス
第十条　日貨ノ販運ヲ協助スルモノアル場合ハ適宜罰金ヲ科ス外遊行及坐木籠示衆ノ処分ニ付ス
第十一条　日本人ニ代リテ各種物品ヲ製造スルモノアル場合ハ同品ヲ没収シ且ツ財産全部ノ百分ノ一以上ノ罰金ヲ科ス、右物品カ禁制品ナルトキハソノ刑罰ヲ加重ス
第十二条　凡ソ日本産原料ヲ使用シテ国貨ヲ製造スルモノハソノ既製又ハ未製ナルトヲ問ハス一律没収ス
第十三条　凡ソ日貨ニ加工シテソノ識別ヲ困難ナラシメタルモノハ右品ヲ没収スル外加工者ノ財産全部ノ百分ノ五以上ノ罰金ヲ科ス
第十四条　凡ソ工務員カ又ハ本条例ノ上記各項ヲ累犯シタルモノハ処罰ヲ倍加ス
第十五条　懲戒事項ニ関シテハ懲戒委員会ニ於テ決定シタル後首都各界抗日救国会ヨリ議決執行ス
第十六条　本条例ニ疑義アル場合ハ首都各界抗日救国会ニ於テ之ヲ解釈ス
第十七条　本条例ニ不備ナル点アル場合ハ本会委員三人以上ノ提議ニ依ツテ委員会ニ於テ之ヲ修正ス
第十八条　本条例ハ委員会ヲ通過後市党部ニ備案施行方呈請ス

（以上）

205　昭和6年10月22日　※在上海重光公使より幣原外務大臣宛（電報）

重慶領事館を閉鎖し成都総領事館一行と共に下江の予定について

上海　10月22日後発
本省　10月22日後着
第一一七六号（暗）

重慶発本使宛電報
第一五三号
大臣ヘ転電アリタシ
第二二二号
成都一行ハ二十日来着シ又長風丸モ往電第二二三号ノ通リ出航シ得ルコトトナリタルニ付御紋章ヲ取外シ国旗ヲ引降シテ当館ヲ閉シ一同長風丸ニ乗船シ明二十二日早朝軍艦比良ト共ニ下江ノ途ニ就クヘシ
漢口ヘ転電セリ

206　昭和6年10月22日　在上海田代公使館付武官より二宮参謀次長宛（電報）

南京における反日学生運動の再燃について

10月22日後5時50分発
10月23日後2時20分着
支第五五四号（其一、二）（秘）
南京報（二十一日発）
本市ニ於ケル学生運動ハ一時終熄ノ態ナリシカ昨二十日午前八時再学生大会開カレ参会スル者男女学生一万余抗日救国ニ関スル具体的弁法ヲ討論セル後先ツ国民政府ニ赴キ

一、義勇軍ニ武器ヲ支給スヘシ
二、和平統一ヲ促進スヘシ
三、軍事ノ準備ヲ一層励行セヨ
四、直接交渉反対
五、民衆運動ノ恢復
六、穏健分子ヲ処罰セヨ
七、蘇支国交ノ恢復

ヲ請願ス孔祥熙接見シ右ノ意見ヲ容レ全力ヲ以テ実行スヘキ旨答フ、学生団ハ更ニ国民党部ニ赴キ同様請願スル所アリ党部モ亦其意ニ副フ可ク努力スル旨答ヘ且学生ハ救国運動ニ奔走スルモ猶勉学ヲ忘ルル勿レトノ意ヲ訓話シ解散セシメタリ、本運動殊ニ游行ハ前数回ニ行ハレタルモノニ比シ秩序整然タルモノアリキ是学生ノ精神一般ニ鎮静ニ帰セシ外軍教間ノ統制アリシ為ナリ此日市中ハ静穏ナリ
北平、天津、済南、奉天スミ

207　昭和6年10月23日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

事変発生以来一ヶ月間の上海における邦人被害者数について

上海　10月23日後発
本省　10月23日後着
第七二三号
満州事件発生以来十月十八日ニ至ル一箇月間ニ本邦人ノ支那人ヨリ暴行迫害侮辱ヲ受ケタル件数ハ百九十八件ニシテ被害者ニ百八十七人（内女四十八人）アリ学生ノ通学途中ノ被害者ハ右以外ナルカ其数三百九十四人ナリ
寿府連盟へ転電シ支へ転報セリ

208　昭和6年10月(23)日　在厦門三浦領事より　幣原外務大臣宛（電報）

日本海軍水兵による厦門領事館警護について

厦門　10月23日後着
本省
第一一六号（暗）
往電第一一四号ニ関シ
残留ノ兵員モ二十二日帰艦シタルカ一方厦門側ノ警戒厳重ナル為一部共産分子ハ比較的警備手薄ナル鼓浪嶼側ニ於テ策動スヘシトノ聞込モアリ又乗組兵員保健ノ為ニモ好都合ナルニ付今後当分警固旁連絡将校一名水兵十名位宛毎夕上陸散歩後当館ニ来泊スルコトトナレリ
尚当初ノ十五名ハ丸腰ニテ上陸シ当館備付ノ武器ヲ以テ館内ノ警備ニ任シタルモノニシテ厳格ナル意味ニ於テ陸戦隊ト称スヘキモノニアラス鼓浪嶼ハ共同租界ニシテ且租界章程補則第十七条ノ規定ハアルモ海軍側ニ於テハ特ニ右ノ点ニ留意シ居ルニ付為念

209　昭和6年10月23日　幣原外務大臣より　在天津桑島総領事宛（電報）

日本人居留民の引揚および避難者数調査について

本省　10月23日後5時10分発
第八〇号（暗）
在留民引揚数調査方ノ件
貴管内在留民中（鮮人及台湾人ヲ含ム）今次事変ノ結果（従ツテ事変後）他地へ引揚ケタルモノ並現地ニ於テ安全地帯へ避難セルモノノ両者ニ付夫々引揚又ハ避難先、性別、員数及家族関係（一、世帯主　二、家族ニ付(イ)同居ノ妻(ロ)十二歳以上(ハ)十二歳未満四歳以上(ニ)四歳未満三、雇人ノ各項ニ分チ員数ヲ記入ノコト）調査ノ上随時報告アリタシ

訓令トシテ張家口ニ参考トシテ済南、青島、芝罘ニ転電シ済南ヨリ張店博山ヘ青島ヨリ坊子ヘ転報セシメラレ度

210　昭和6年10月24日　在上海重光公使より　幣原外務大臣宛（電報）

排日運動と国民党・国民政府の関連について

上海　10月24日後発
本省　10月24日後着
第一一八四号（暗）
本官(1)発連盟宛電報
第一〇号
一、排日暴行運動ノ現状ハ累次往電ノ通ナルカ右運動ノ根本思想ハ孫文ノ遺訓タル三民主義就中民族主義達成ノ手段トシテ経済絶交排外運動ヲ唯一ノ武器ト認メテ奨励シタルニ出ツ
孫文ノ遺訓ナルモノハ国民党ノ憲法ニシテ国民政府ハ国民党執行委員ヨリ専任セラル、本一九三一年五月中華民国訓政時期約法第七十二条「党ハ政府ノ上ニ在リテ」政府ハ全テ党ノ方針ニ依リ左右セラルル次第ナリ条約ヲ無視（支那側ハ不平等条約ト称シ自己ニ不便ナル条約ヲ総括ス）シ又ハ自己ノ対外要求ヲ貫徹スルニハ公然経済絶交及排外運動ノ手段ニ訴フ
二、経済絶交及排外運動ハ右ノ通国民党及国民政府ノ公然認メタル手段ニシテ軍隊内部、学校教育ハ（教科書ハ無論ノコト）素ヨリ到ル処ノ団体組織ニ於テ其訓練ヲ見ル外部ニ現ハルル手段トシテハ新聞雑誌等ニ猛烈ナル宣伝ヲ為シ激烈ナル「ポスター」ヲ貼リ出シ強制的不買同盟ヲ行ヒ或ハ「ストライキ」ヲ煽動シ事実「テロリズム」ヲ以テ其目的ノ達成ヲ期ス従テ直接武力行使ニ非ラサル一種ノ非常手段ニシテ或ハ武力以上ノ惨害ヲ相手ニ与フルモノトス
三、(2)右ノ通リ該行為ハ国家機関カ対外的手段トシテ之ヲ承認スルモノニシテ従テ政府ニ於テ相当ノ「コントロール」ヲ有ス現ニ今回ノ排日ニ於テ日本ノ武力ニ口実ヲ与ヘサル為且世界ノ輿論ヲ不利ニ導カサル為日本人ノ生命財産ノ直接ノ保護ニハ力ヲ用ヒ居レリ到ル所及各機関内ニ組織セラレタル抗日救国会ノ極端ナル経済絶交ノ手段（例ヘハ私刑等）ニハ何等干渉セス然レニ政府ニ於テ排外運動ヲ止メント欲セハ何時ニテモ止メ得ル有力ナル事

例トシテハ済南事件解決ノ際排日阻止ニ関スル約束ヲ為シタルコトナリ（尤モ時局不安ノ結果政府ニ於テ一旦煽動セル排外運動ニハ其後ニ於テ充分ノ「コントロール」ヲ失フ場合モ多シ）

四、条約ノ無視及排外運動ノ非常手段ハ民国成立ノ基本ニ関係スルモノニシテ右ハ赤露ノ思想ヲ取入レタル部分多シ其運用ノ組織方法ニ至リテハ殆ト露国ノ「コッピー」ナリ之等ノ根本問題ニ対シテハ列国ハ永ラク共同ノ被害者タリシ次第ニシテ今回支那ハ最モ密接ナル関係ヲ有スル日本ノ満州ニ於ケル重大ナル権益ヲ否認スルカ為全国的排日運動ヲ起シタル次第ニシテ其方法ノ激烈ナル想像ニ難カラサルヘシ

外部ニ対スル説明材料トシテ電報ス

連盟ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ

在米大使ヨリ御裁量ニ依リ各地ヘ転電アリタシ

大臣、北平、奉天、南京及米ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

211　昭和6年10月24日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

張学良の管下各機関への日本人保護に関する命令について

北平　10月24日後発
本省　10月24日後着

第五八五号（暗）

二十日副司令(注)ハ行政院ノ訓令ニ基キ管下各機関ニ対シ左ノ通命令セル由

一、日本人ノ商店工場医院日支合弁事業所在地並ニ日本人ト取引関係アル場所ハ公安局ニ於テ調査ノ上巡警ヲ増派シ且巡邏隊ヲ巡邏セシム民衆ノ投石又ハ家屋ノ破壊ヲ防クヘシ

二、長江ニ於ケル日本人系ノ汽船碼頭ニ対シテモ巡警ヲ増派シテ汽船発着ノ際乗客又ハ乗組員ニ投石シ又ハ殴打凌辱ヲ加ヘシメサル様警戒セシム

三、民衆ノ日本人ニ対スル無益ナル罵詈ヲ防止シ租界ニ隣接スル市街又ハ日本児童ノ登校ニ対シ特ニ注意スヘシ

四、日本人乗客ト人力車夫トノ間ニ事故発生セル場合ハ車夫ヲ抑制シ又民衆ヲシテ日本人ヲ袋叩キ等ヲナサシムヘカラス朝鮮人ニモ同様注意スヘシ

五、事態険悪トナリタル場合ハ巡警ハ日本町ニアル日本人

ノ行動ヲ所轄署ニ報告シ特務警察ヲ派シテ民衆トノ衝突ヲ防止スヘシ

公使ヨリ上海ニ転報アリ度シ

公使、南京、天津、青島、張家口、奉天ニ転電セリ

（編注）陸海空軍副司令は張学良である。

212　昭和6年10月24日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平における各界抗日会の排日行動について

北平　10月24日後発
本省　10月25日前着

第五八六号（暗）

往電第五七八号ニ関シ

一、各界抗日会ハ二十五日ヨリ愈各商店ノ日貨ヲ封鎖セシムルコトトシ二十二日重ネテ其旨各商店ニ通告セルカ他方二十一日ノ会議ニ於テハ官民懲処条例及検査隊組織条例ヲ議決シ又各学校ニ対シ検査隊ヲ派遣シ各商店ノ日貨封鎖監視方通告セル処各学校学生ニシテ検査隊参加ヲ申込メルモノ二万ニ達シ夫々区域ヲ定メ検査スルコトトナレル由

二、右ニ対シ北平市商会側ニテハ日貨封鎖ハ自発的ニ行フヘク断シテ第三者ノ干渉又ハ脅迫ヲ受クヘキニ非ストノ趣旨ニテ従来党部其他ト接衝セルモ遂ニ諒解成立ニ至ラサル処一方公安局長ニ於テモ事態ノ紛糾ヲ恐レ二十四日商会及党部ニ対シ注意セルモ商会側ハ飽迄第三者ノ干渉ヲ受ケサルヘキヲ主張シ党部側亦表面検査隊ト関係ナキニ付其行動ニ付テハ責任ヲ負フ能ハサル旨言明セル由ナリ

三、事情右ノ如クニテ商人ト検査隊トノ間ニ事端発生ノ惧少カラサル処他方各大学学生ニ依リ組織セラルル義勇隊ハ同日全体市内游行ヲ為スヘシトノ報アリ且共産党ノ暴動説モ伝ヘラレ在留民ノミナラス一般市民モ相当不安ニ襲ハレ居レリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、南京、奉天、天津、張家口ヘ転電セリ

213　昭和6年10月25日　在漢口坂根総領事より幣原外務大臣宛（電報）

泰安紡績工場休業措置をめぐる事態緊迫の状況について

漢口　10月25日　発
本省　10月26日前着

第七五一号（暗、至急）
往電第七一三号ニ関シ
泰安紡績ハ正金側トノ当面ノ金融ニ関スル話合付カサリシ為已ムナク二十六日限リ一時操業ヲ休止スルコトニ内定セルカ既ニ其趣ヲ探知セル工人側ハ之カ対策トシテ同日ヨリ工場内ニ籠城シ工場内居住邦人ニ対スル食糧供給及使用中国人ノ「サービス」ヲ断ツコト等ヨリ不穏ノ計画ヲ立テ何トカ会社側ヲ強要シテ多額ノ解職手当ヲ搾取セントスルノ気勢ヲ示シ居ル処会社側トシテハ此ノ際引続キ操業シタキ意向ナルモ最近救国会ノ中国人取引先圧迫ニ依リ製品ノ滞積甚タシク資金涸渇シ居リタル為已ムヲ得サル措置トシテ臨時休業スルノミニテ工場ヲ閉鎖スル儀ニ非ストノ建前ニテ之ヲ一蹴セントスル手筈ナルニ対シ工人側ハ「ロックアウト」ト看做シテ無理ニモ労働争議ヲ起サント試ムヘキ惧アリ多少ノ紛糾ハ免カレサルヘキ見込ナルニ依リ明二十五日午後ヨリ特ニ工場内外ノ警戒ヲ厳ニシテ工人ヲ取締ルト共ニ工場内ニ残存スヘキ邦人ノ生命財産保護方並ニ工場財産ノ保全方ニ関シ充分責任ヲ以テ遺漏ナキ手配ヲ為ス様明二十五日早朝厳重夏斗寅ニ申入ルル手筈ニテ警備司令部昨今ノ遣口ニ鑑ミ多分有効ナル取締ノ実ヲ挙ケ得ヘシト存スルモ万一其力及ハスシテ会社及邦人ノ身体財産ノ侵サルルカ如キ事態ヲ発生セハ海軍側ニテ時機ヲ逸セス漢水ヲ経由シ兵員ヲ派遣スル必要ヲ見ルヘク場合ニ依リテハ当地一般ニ亘リ相当紛擾ノ端緒トナルヤモ知レス依テ今ヨリ海軍側ト種々打合ヲ了シ内密ニ諸般ノ準備ヲ進メ居ルモ事情予メ御含置ヲ請フ
支ヨリ上海ヘ転報シ北平、南京ヘ転電アリタシ
支ヘ転電セリ

214
昭和6年10月25日　在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

武漢地方における反日運動の状況について

漢口　10月25日後発
本省　10月26日前着

第七五四号（暗）
今次満州事件ニ依ル武漢地方ノ反日運動ハ主トシテ党部ヲ中心トスル反日機関ニ依リ大体組織的秩序的ニ行ハレ居ル処之ヲ大別セハ武漢学生抗日救国会（往電第七三九号ノ学生運動機関）ト武漢反日救国会ノ二ニ分レ両者相俟テ邦商ノ営業妨害及我対支貿易ノ破壊ニ努メ前者ハ之カ目的貫徹ノ為宣伝及監視方面ヲ又後者ハ其実行方面ヲ掌リ其反日方法ハ対日不合作ト称シ従来ノ対日経済絶交ニ更ニ一歩ヲ進メ友好的友人ノ往来、食料供給、渡日営業及日本留学ノ禁止等ヲ主張セリ
右反日機関ハ之等ヲ一般市民ニ強制センカ為ニ一面各種ノ規則及標語伝単等ヲ発表撒布シ或ハ各関係支那人ニ脅迫状ヲ郵送シテ之カ履行ヲ強要スルト共ニ他面之ニ従ハサル者ハ暗殺セラルヘシト謡言ヲ放チテ親日支那人及日貨取扱者ヲ畏縮セシメ或ハ糾察隊類似ノ監視員ヲ配置シテ不履行者ヲ直接脅迫セシメ居レルカ排日貨方法トシテハ内部ニ於ケル党部対商人側ノ軋轢ハ別トシ表面ハ少クトモ約定品ニシテ未タ引取ラサル日貨ノ荷揚及倉出シヲ一切禁止シ唯手持日貨ニ限リ従価百分ノ五（但シ船腹渡値ニ付百分ノ五見当トナル由）ノ救国捐ヲ徴シテ登記セシメタル上販売ヲ許可セントスルモノニシテ之ニ違反シタル者ハ初犯ハ追登記再犯ハ没収及罰金トシ糾察隊ヲシテ未登記日貨ノ差押ニ当ラシメ中国汽船ノ日貨積込通関業者ノ日貨通関、新聞ノ日貨広告ヲ禁止シ更ニ最近ニ至リテハ本邦回送業及運搬業者雇傭ニ係ル人足ノ罷業ヲ煽動シツツアリ
之カ結果トシテ本邦品ノ輸入貿易ハ既ニ全然杜絶シ土貨ノ本邦向輸出亦困難ヲ極メ其量ニ大激減ヲ来シ邦人経営各工場ハ製品ノ販路ヲ絶タレ維持困難ニ陥リ本邦汽船ノ積荷乗客ハ殆ト皆無ノ状態トナレリ加之右反日団体ハ新手ノ排日方法トシテ中国側金融業者ニ対シ対日取引ヲ禁止シテ邦商ノ対中国側銀行及銭荘トノ取引及為替決済ヲ停止ノ状態ニ陥レ極秘裡ニ外国銀行ヲ通セサル限リ邦人ノ金銭授受ヲ不可能ナラシムルニ至レリ邦商使用ノ中国人ハ外部ヨリ種々ノ脅迫ヲ受ケ甚タシキ不安ニ襲ハレ居ル処買弁及事務員等ハ既ニ大部分退職又ハ欠勤シ顧客ハ最近邦商ヨリノ来訪及通信ヲ迷惑トシテ之ヲ回避スルニ至レリ
而シテ右ノ反日運動ハ表面未タ暴動化スルニ至ラスト雖支那官憲カ邦人ノ生命財産ノ消極的保護ニノミ拘泥シテ根本的ニ排日ノ取締ヲ為ササル以上中国人取扱ノ日貨没収其他中国人ニ対スル迫害暴行次第ニ増加スヘク現在ノ所内面的ノ各種排日運動ハ概シテ愈深刻味ヲ加ヘツツアルモノト認

メラルル実状ナリ
公使ヨリ上海、南京ヘ転報シ北平、奉天、天津、広東ヘ転電アリタシ
例ノ通リ暗送セリ
支ヘ転電セリ

215 昭和6年10月25日 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛（電報）

在重慶日本人居留民不動産の保護に関し外交部長より申越しについて

南京 10月25日前発
本省 10月25日後着

第六八二号（暗）
本官発支宛電報
第六三九号
往電第六三三号ニ関シ
外交部長ヨリ貴公使宛二十四日付公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ
外第六七号貴翰閲悉査スルニ中国在留ノ外人財産ノ保護方ニ関シテハ中国政府ニ於テ屢次明令ヲ以テ訓令シアリ在重慶日本居留民ノ財産モ亦当然保護スヘキモノトス曩ニ重慶地方官ヨリ「同地ハ頗ル平穏ナル処日本領事ヨリ両三日中ニ全在留民ヲ率ヒ退去スヘキニ付護照ヲ発給シ且ツ同地ニ於ケル不動産ヲ保護アリタキ旨書面ヲ以テ申出アリタルニ依リ余リニ懸念スル必要ナキ旨告ケ置キタルカ日本人ノ不動産ニ対シテハ当然相当ノ保護ヲ与フヘキ旨」報告アリタリ右ハ貴国官民カ自発的ニ重慶ヲ退去セリト雖同地官憲ハ其財産ニ相当ノ保護ヲ与ヘ其職責ヲ尽シ居レリ然ルニ貴翰中報復手段云々ノ一節ハ本国政府ノ甚タ奇怪トスル所ニシテ万一日本側ニ於テ何等手段ヲ講スルコトニ依リ重要ナル結果ヲ発生スル時ハ貴国政府ハ完全ニ其責任ヲ負フヘキモノニシテ右回答旁此段声明ス云々
大臣ヘ転電セリ

216 昭和6年10月26日 在済南西田総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

学生義勇軍の検閲に関し韓山東省主席と会談について

済南 10月26日後発
本省 10月26日後着

第二二六号（暗）
二十三日本官韓主席ニ面会ノ際本官ハ当地ノ学生義勇軍二十五日検閲ノ挙アルヲ事前ニ仄聞セル故右ノ事実ヲ質シタルニ韓ハ下級党部又ハ学生側ヨリ種々集合ノ申出アルモ反日ノ野外集合遊行等ハ絶対ニ禁止セルカ右学生義勇軍ノ組織ハ中央政府ヨリノ訓令ニ基クモノナレハ時々検閲訓話位スル筈ナリト述ヘタルニ付本官ハ上海北平其他ニ於ケル学生集団ノ暴動行為ノ例ヲ述ヘ不祥事件ハ往々来会ノ際又ハ帰途ニ勃発スヘシト予メ注意ヲ喚起シ置キタルニ韓ハ右ニ付テハ何教育庁長ヲシテ各学校長ニ責任ヲ負ハシメ充分注意セシメ且軍警ヲシテ警戒セシムルニ付御安心アリタシト答ヘ居タル処学生義勇軍ノ検閲ハ昨二十五日城外運動場ニテ挙行セラレ主トシテ中学以上ノ生徒約二千名ノ学生参集シ韓主席何庁長ヨリ夫々訓話アリ韓ハ満州事件ヨリ上海其他各地ニ種々ナル紛擾アルモ結局妄動ニ過キスシテ国家ニ効果ナク中日両国ハ未タ決裂セルニ非ラス各自ハ学生ノ境遇ニ応シ勉強シテ身体ノ鍛練ヲ計ルヘキ旨穏健ナル訓話ヲナシタルカ（訓話郵送）正午何等事故ナク終了セリ
支ヨリ上海、漢口ヘ転報アリタシ
支、北平、青島、広東ヘ転電シ奉天、天津、南京及芝罘ヘ暗送セリ

217 昭和6年10月26日 ※在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

重慶清野領事の漢口到着について

漢口 10月26日後発
本省 10月26日後着

第七五七号
清野ヨリ
第二二四号
本官二十五日夜漢口ニ着シ日本租界西小路一三号ノ一家屋ヲ借入レ二十六日ヨリ仮事務所ヲ開設セリ
公使ヘ転電セリ

218 昭和6年10月26日 ※在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

成都総領事館館員一行の漢口到着について

漢口 10月26日後発
本省 10月26日後着

第七五八号

阿部ヨリ
小官一行六名二十五日漢口着中在留民一名ハ上海ヘ館員ノ妻ハ内地ヘ向ヘリ事務所ハ二十六日以降一時重慶領事館仮事務所内ニ置クコトトセリ
公使ヘ転電セリ

219 昭和6年10月28日 在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

上海における日本人居留民の内地への引揚げについて

上海 10月28日後発
本省 10月28日後着

第七四〇号（暗）
貴電合第八三四号（二四九文書）ニ関シ
㈠㈠内地ヘ引揚ケタル者成年男子五四、婦女子一四一、計一九五
㈡㈠九（所帯主三、十二才以上四、四才未満二）
右ノ外ニ十月十五日上海ニ引揚ケ来レル温州在留民全部一四名ノ内訳左ノ通
成年男子八
婦女子六
尚現地救護ヲ要スル者ハ往電第六九七号所報ノ通ナリ

220 昭和6年10月28日 在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

日清汽船より長沙湘潭航路の運航停止申出について

漢口 10月28日後発
本省 10月29日後着

第七六七号（暗）
本官発長沙宛電報
第九三号
当地日清汽船ヨリ長沙湘潭航路ハ排日以来積荷乗客共殆ト皆無ノ為同航路ニ就航セル阮江及湘江ノ二隻ハ之ヲ繋船スルコトニ逓信省ノ諒解ヲ得タル処目下ノ減水状況ニテハ来月十日前後ヨリ同航路ハ航行不能トナルヘキニ付夫レ迄ハ犠牲ヲ忍ヒテ定期航行スヘキ旨並ニ例年減水期中ハ曳船ヲ以テ「スティールライター」ヲ運航セルモ本年ハ之ヲ廃止スヘキ旨申出テタリ尤モ時局関係ニテ貴地居留民引揚等ノ場合ニハ貴官ヨリ要求アリ次第臨時運転スヘシトノコトナリ

大臣、公使、北平、南京ヘ転電アリタシ
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

221 昭和6年10月28日 在広東須磨総領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

広東における今次排日ボイコットの特異なる状況について

広東 10月28日後発
本省 10月28日後着

第五六四号（暗）
往電第五四五号ニ関シ
二十八日三井山崎カ本官ヲ来訪シ今次日貨抵制ノ特異ナル状況ニ関シ語ル所左ノ通
一、従来ノ排日「ボイコット」ニ於テハ石炭タケハ除外サレタルニ今回ハ之ヲモ含メリ尤モ元来当地需要炭毎月約四万噸ノ大部分ハ撫順炭ナレハ今急ニ之ヲ開平炭及「ボルネオ」炭ニ代フルハ至大ノ不便不利アル為中国当業者ハ大イニ困惑シ居リ内々三井側ト連絡シテ「ボルネオ」炭ノ輸入ヲ差控ヘ（開平炭ハ上海方面ニ奪ハレ今ノ所到底当地ニ供給及ハサル実状ナリ）当地電燈会社其他市民カ来月末頃ニ至リ石炭欠乏ノ為遂ニ屈服スルヲ待ツテ日本炭ヲ従来通リ排貨中ヨリ除外セシムル計画アルモノノ如シ
二、従来ハ中国貨物（主ナル物生絲）ノ買入レニハ何等差支ナカリシニ今回ハ生絲ノ如キモ日本人ニハ売ラサルコトトナレリ然ルニ三井ハ当地輸出生絲ノ六割ヲ取扱ヒ来レル実状ナル一方当地外国人生絲業者ハ近年ノ不況ノ結果殆ト破産シ買付不能ノ状態ナレハ結局三井側ニ売ルヨリ外ニ打開策ナカランモ今ノ所三井ニ対シ売込ノ申出ナシ
三、従来ハ中国銀行ノミハ日本人ト取引シ居リタルニ今回ハ全ク杜絶セリ
四、従来ハ既往契約ノ取消又ハ之ニ依ル貨物ノ引取拒絶等ノ如キコトナカリシモ今回ハ此ノ種ノ破約申出頻出ノ有様ナリ
右御参考迄
公使ヨリ上海ヘ転報アリ度シ
公使北平南京奉天ニ転電シ香港ニ暗送セリ

222 昭和6年10月29日 在香港吉田総領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

広東および香港在留日本人の帰国について

香港　10月29日後発
本省　10月29日後着

第一三九号

広東発外務大臣宛電報第五四三号(二〇二文書)ニ関シ

二十八日秩父丸ニテ広東ヨリノ七十九名ノ外香港在留者（主トシテ女子及子供）五十七名帰国セリ

支ヘ転電シ広東ヘ暗送セリ

223　昭和6年10月30日　在蘇州川南領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

上海学生宣伝隊の蘇州における活動について

蘇州　10月30日後発
本省　10月30日後着

第四八号（暗）

二十九日抗日運動ノ為上海ヨリ学生宣伝隊約四百名来蘇各戸別ニ「ポスター」伝単ヲ撒布シ市内目抜ノ場所ニテ夫々悲憤慷慨ノ演説ヲ為セリ尚当地学生モ市街ノ各地ニテ宣伝ニ従事中ナルカ最近学生ノ活動ニ刺戟セラレタル為カ一時鎮静ヲ保テル反日情勢頓ニ昂進セル感アリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

人工会ヲ懐柔セシムルト共ニ右反日救国会ノ如キハ努メテ積極的活動ヲナサシメス今日迄時々委員会ヲ召集スル程度ニテ御茶ヲ濁サセ居レリ

三、曩ニ義勇隊ノ編成ヲ禁止シタルモ林司令ノ省政府ニ対スル呈請ニ依ルコト判明セリ

四、党部執行委員高峰ハ従来反日救国会ニ対スル党ノ代表者タリシカ二十八日上級党部ノ命ニ依ル趣ヲ以テ之カ代表者タル事ヲ取消サレタル処右ハ高カ党部内及社団側ニ余リ人望ナカリシ為反日運動ヲ煽動且利用シテ自己ノ立場ヲ作ラントセル風アリシニ依リ右ノ処置ニ出テタルモノナリ

五、新聞記事ノ取締モ可成リ厳重ニ行ハレ居ルコト既電ノ通ナルカ二十八日各新聞社代表者約三十名集合シ官憲ノ取締厳重ナル為民衆ノ愛国運動ヲ充分表現シ得サルヲ遺憾トシ其対策ヲ協議セルカ結局日本紙使用ノ停止及一般民衆ノ反日記事投書ヲ歓迎シ努メテ之ヲ掲載ス等ヲ決議セル程度ニ終レリ

右(2)ノ如キ状態ニテ市面ハ極メテ平穏ニテ往電第一〇〇号ノ状況ト変化ナキ処本官ニ於テモ林司令カ従来ノ態度ヲ維持スル限リ之ヲ援助スル方針ヲ取リ彼等ノ最モ恐レツツアル台湾人ノ蠢動ヲモ努メテ抑制シ居ル次第ナルカ一面最近ニ於ケル共産党分子ノ潜行的活動相当活潑ニシテ現ニ本三十日本官ニ対シ三日以内ニ当館ヲ襲撃スヘキ旨ノ脅迫状ヲ寄セ又鼓浪嶼工部局ノ探偵長ニ対シテモ同様手段ニ出テタルカ如キ有様ニテ兎ニ角此方面ハ最モ警戒ヲ要スヘキモノナリト思考セラル

尚今回ノ排日運動ニ付特異ナル点ハ党部側ノ態度ニシテ従来上海ニ排日運動起ルヤ南支中率先シテ之ニ倣ヒ居タルニ今回ハ之ニ反シ前記ノ如ク殆ト行政部ト一心同体トナリ事実上排日運動ノ抑圧ニ努メツツアル処此原因ハ目下党部ノ実権ヲ握リ且社団方面ニ人望勢力アル唐素豪カ親日ト迄ハ言ヒ得サルヘキモ可ナリ事理ヲ弁ヘタル人物ナルト林司令カ自分ノ方針ヲ貫クニハ如何ニシテモ党部ヲ「コントロール」スル必要アル為各種ノ手段ニテ党ヲ抱込ミ又省党部及省政府側ニモ厦門ノ特殊ノ立場ヲ良ク諒解セント自己ノ方針ヲ支持セシメ居ル結果ナリト観測セラル

公使、北平、奉天、上海、南京、福州、広東、汕頭ヘ転電シ香港ヘ暗送セリ

支、北平、南京ヘ転電シ杭州ヘ暗送セリ

224　昭和6年10月(31)日　在厦門三浦領事より幣原外務大臣宛（電報）

厦門における林司令の排日運動抑圧に関する態度について

厦門
本省　10月31日後着

第一二七号（暗）

当地林司令ハ(1)依然絶対治安維持主義ヲ確守シ市内ノ警備邦人ノ保護ニハ全力ヲ挙ケ居ルノミナラス党部ト密接ナル連絡ヲ取リ可成リ徹底的ニ排日運動ノ抑圧ニカメ居レリ

一、曩ニ成立ヲ阻止セラレタル民衆救国会及教育会反日救国会（二十三日全省学界反日運動厦門分会ト改称ス）ハ更ニ党部側ニ厳重ナル抗議及談判ヲナシタルモ党部側ヲシテ既ニ党部ノ主宰スル反日会アル故不統一ニ流ルル虞アリトノ理由ヲ以テ之ヲ拒否セシメ（但シ前記各団体ハ各其名義ヲ用ヒテ反日ノ宣言書台湾同胞ニ告クルノ書等ヲ新聞ニ発表シ或ハ委員会ヲ開ク等今尚蠢動シ居レリ）

二、而シテ党部ヲシテ常ニ排日ノ先頭ニ立ツ有力団体益同

225　昭和6年11月1日　在天津桑島総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

天津における日貨検査隊の活動に対する中国商人の反応について

天津　11月1日前発
本省　11月1日前着

第四五七号（暗）

往電第四四五号ニ関シ

其後支那側商店ニ於テハ自発的ニ日貨ノ封鎖ヲ行ヒタルモノ極メテ少数ニシテ又市政府ヨリハ日貨ノ封鎖及検査ヲ為サシメサル方針ヲ以テ弁法攻究中ナルカ取敢ス学生ノ出動ヲ差止ムヘキ旨回答シ来リ局面次第ニ緩和スルヤニ見受ケラレタルニ拘ラス本三十一日朝ニ至リ連合会ハ約百五十名ノ学生ヲ出動セシメ各商店ニ就キ検査ヲ開始シ未封鎖ノ日貨ニ対シ封印ヲ強制スルニ至リシヲ以テ市政府ニ対シ厳重抗議シ（学銘ハ本官トノ面会ヲ避ケ北平ニ赴ケリ）検査隊ノ即時撤退ヲ要求シタル処命令ノ不徹底ナリシヲ謝シ午後二時ヨリ巡警ヲ派シ右検査隊ヲ解散セシメツツアリ尚市、省政府ハ目下連合会等ノ反日運動緩和策ニ付協議中ナルカ反日運動取締ノ対償トシテ商会側ヨリ軍費ヲ搾取リタキ腹ナルヤニ察セラル追テ支那商人ニハ排日排貨ノ意思ナク党部及救国会ノ行動ニ少カラス憎悪ノ念ヲ抱キ居ルモ上海トハ趣ヲ異ニシ之ニ反抗スルニ足ル組織及中心人物ナキ為一ニ当館ノ厳重ナル交渉ニ縋リ居ル奇現象ヲ呈シ居レリ

支ヨリ上海、南京へ転電アリタシ

支、北平、奉天、青島へ転電セリ

226　昭和6年11月2日　在天津桑島総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

学生の日貨検査等に対する天津市当局の取締について

天津　11月2日後発
本省　11月3日前着

第四五九号（暗）

往電第四五六号ニ関シ

我方屢次ノ抗議ノ結果「日本人ノ利益ニ対シ責任ヲ竭シテ特ニ保護ヲ加フヘク且法律範囲ヲ超エタル愛国運動ハ相当取締ルヘキ」旨公文ヲ以テ声明スルト共ニ公安局ヲシテ特務隊五十名保安五十組（一組五名）ヲ全市ニ分派シ学生ノ

日貨検査及封鎖ヲ阻止シ尚肯セサルモノハ地方秩序妨害罪ニ依リ処罰シ一方教育当局ヲシテ各学校ニ訓令シ学生ノ工作参加ヲ阻止セシメタルカ中央政府直轄ノ北洋大学、法商学院若ハ留日帰国学生等ニシテ救国連合会ノ命ヲ受ケ警戒ヲ潜リ検査ヲ強行シ而モ教育庁ノ代表等ヲ殴打負傷セシメタルモノアリシ為市政府ニ於テハ之ヲ理由トシ本二日愈々連合会自体ヲ解散シ一切ノ反日工作ヲ禁止スルコトニ衆議決定セル由尤モ之ニ対シ党部ニ於テハ連合会ノ名義ヲ残シ日貨封鎖ノ実行ヲ不取敢十六日迄延期スル形式ヲ執リ且既ニ封鎖済ノ日貨ノ荷動キヲ許サスト主張シ居ル趣ニテ目下関係者ノ間ニ妥協弁法協議中ナリト

支ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ

支、北平、奉天、青島ニ転電セリ

227　昭和6年11月2日　在福州田村総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

福州における反日会の活動と公安局の態度について

福州　11月2日後発
本省　11月2日後着

第九八号（暗）

当地寄港邦船ハ何レモ積荷殆ト皆無ナルカ反日会ニテハ更ニ艀ノ邦貨荷役迄差止ムルニ至リ辛フシテ継続シ居ル邦人名義トナリ居ル二隻ノ持主支那人ヲモ拉致シ公安局ニ押送セル趣ニテ斯クテハ船頭等モ恐レテ従業ヲ肯セサル惧アル旨願出アリ二十八日省政府ニ陳培錕ヲ訪ヒ居留民ヲ恰モ戦時ノ敵国人扱ヲナシ真綿ニテ首ヲ締メ糧道ヲモ絶ツカ如キ遣口ヲ省政府ハ啻ニ黙認スルノミナラス治安維持ノ責任当局タル公安局カ却テ之ニ加担スルカ如キ不法ヲ指摘シ省政府部内ニテモ㈠民政庁ハ曩ニ管下各県長ニ対シ反日運動指導ニ関スル訓令ヲ発シ庁長自ラ反日大会ニ於テ最激烈ナル排日演説ヲナシ又聞ク処ニ依レハ庁長以下各科長カ団長トナリテ対日経済絶交十人団ナルモノヲ組織シテ規約ノ申合ヲナシ㈡教育庁ニテハ之亦庁長率先シテ各学校長職員等ヲ使嗾シテ年端モ行カサル男女学生ヲシテ数日ニ亘リ学業ヲ放棄シテ対日経済絶交宣伝ニ狂奔セシメ義勇軍ト称シテ廃銃及弾薬迄モ持タサセ一途ニ対日敵愾心ノ挑発ニ努メ今ヤ市中ノ反日「ポスター」ノ如キ殆ド全部彼等学生ノ仕業トナリ中ニ撲殺日人殺人倭奴等ノ文句サヘ見受ケラレ又最近

邦人請負者ノ手ニテ竣工セル万寿橋上ニハ永久対日国交断絶トカ日本ヲ一押ニテ押倒シ倭奴ヲ一蹴リニテ蹴飛ス等ノ掛幕（後者ハ基督教青年会中学校掲出ニ付知合ノ米人顧問ニ注意セリ）アリ又㈢省党部ニテハ曩ニ対日経済絶交大綱並ニ奸商裁判条例ナルモノヲ公布シテ省内各県党部ニ極力之カ指導ヲナスヘキ旨ノ訓令ヲナセル等ノ事実ヲ掲ケ斯ノ如クンハ省政府当局累次ノ言明モ畢竟何等意味ヲ為サス其誠意スラ疑ハサルヲ得ストテ一層取締方ヲ要望シ置キタルカ越ヘテ三十日艀二隻丈ケハ邦人生活上ノ必要ヲ顧慮シ反日会其他ニ於テ妨礙ヲ加ヘサル様取計ヒタル旨電話アリ一般ノ情勢ハ欧州大戦当時ノ対敵取引禁止ヲ政府ニ代リテ反日会ヲシテ一切代行セシメ居ル状態ニテ生命所持品ニ対スル直接危害丈ケ取締ルト云フカ中国側ノ真意ナルヘシ

公使ヨリ上海へ転報アリタシ

公使、厦門、汕頭、広東へ転電セリ

228

昭和6年11月2日　在蘇州川南領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

蘇州における抗日救国会員の邦人殴打事件について

蘇州　11月2日後発
本省　11月3日前着

第五〇号（暗）

当地久孚洋行出張所員（本店上海）上妻勝ハ商用ノ為無錫ニ赴キ滞在中一日朝取引先ニ於テ抗日救国会員ノ為故無ク殴打セラレ同会本部ニ連行ヲ受ケタル後公安局ニ引渡サレタルカ同局ニ於テハ保護ヲ加ヘ（本人ハ護照ヲ携帯セリ）同夜発ノ列車ニテ出発セシムヘク巡警付添停車場ニ赴キタル処再ヒ救国会員ニ殴打セラレ遂ニ乗車出来ス公安局ニ収容セラレタル後汽船ニテ巡警二名ニ保護セラレ二日当館ニ送致セラレタリ（別ニ負傷ナシ）無錫ニハ邦人一名紡績工場技師トシテ雇ハレ居リタルニ上海ニ引揚ケ目下在留者ナシ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平、南京へ転電セリ

229

昭和6年11月5日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における排日の諸状況について

上海　11月5日後発

本省　11月5日後着

第七七一号（暗）

当地[1]ニ於ケル其後ノ排日状況及影響等左ノ通

一、日清汽船ハ打続キ積荷ハ皆無ナルモ唯僅少ノ乗客（日本汽船タルコトヲ知ラス又ハ已ムヲ得ス乗船スル支那人ヲ含ム）アル為各航路ヲ継続シ来レル処其欠損ノ甚大ナルニ鑑ミ逓信当局ニ具陳ノ結果上海漢口線ノ就航船八隻ノ内四隻（各三、四千噸級）ヲ十一月一日ヨリ繋船シ従来ノ航行回数月十二、十三回ヲ十回ニ減航（漢口ニハ非常避難用トシテ一隻ヲ常置スヘシト）セルカ之レニテ同社ハ四十五隻中十三隻ヲ繋船スルコトトナレリ右繋船ノ為邦人及支那船員ノ一部ヲ待命トシ約四百名（大部分支那人）ノ従業員ヲ解職スル由ナリ尚上流、南支、北支ノ各航路ハ目下尚従前通リ就航シ居ルモ此ノ分ニテハ減航スルノ余儀ナキニ至ルヘシト

二、去ル一日多数ノ抗日会員ハ邦人経営ノ同興紡績第二工場付近ニ於テ支那工人ノ出勤ヲ途上ニ擁シ此ノ際「ストライキ」ヲ断行セハ抗日会側ヨリ生活費ヲ支給スルカ又ハ日貨抵制ノ為作業ヲ復活スル華商厚生沙廠ニ於テ採用スヘシ若[2]シ然ラサレハ日本側紡績ノ「ロックアウト」ニ遭フモ保護セサルヘシト宣伝シテ工人ノ入廠ヲ阻止シ他方工人幹部連ヲ抗日会ニ呼出シ脅迫セル為同工場ハ一日夜勤ヨリ約半数四千名ノ欠勤者ヲ出シ又日華紡工場モ抗日会ノ策動ニ依リ同日夜勤ヲ停止セリ

三、抗日会ノ手ニ依リ市商会内ノ奸商監禁所ニ拘禁セラレシ支那商人ハ其後釈放又ハ何レカニ移サレタルモノノ如ク従来同所ノ見張ヲ為シ居リシ支那公安局巡捕ハ此程撤退セリ又抗日会ニ睨マレシ為行衛ヲ晦マセル支那商人ニ対シ抗日会ハ懸賞ヲ付シテ逮捕方手配シ日貨ヲ取扱ヘル奸商ノ密告ヲ募リ居レル由

四、抗日会ハ十五日来当地租界内外ノ各所ニ救国義勇軍申込所ヲ設ケ居リシカ約一千名（大学生最多シ）ノ応募者アリ一日宣誓式ヲ挙行セルカ中央ニ於テハ右訓練主任ニ前軍長王柏齢ヲ任用スル趣ナリ

五[3]、市内ニ於ケル反日「ポスター」類ハ其後別ニ増加セル模様ナク又共同租界ノ西部方面ハ過般ノ内外棉襲撃事件以来工部局ニ於テ取締ヲ厳ニシ居ル関係モアリ反日的事故比較的減少セルモ最近党部方面ノ邦人紡績工場地帯ニ

於テ抗日会ノ策動熄マス邦人ノ電車及「バス」ヘノ乗車ヲ阻害セシ事例頻出セリ

六、支那商所有ノ日貨ノ抑留ハ尚引続キ実行セラレツツアリ工部局警察情報ニ依ルモ毎日一、二件宛報告アリ又租界内外支那商店各戸ニ付実施シ居ル日貨ノ検査並ニ封存モ着々進行シ居ルモノノ如シ

七、十月十三日三友漁輪公司ハ日本人乗組員アルニ於テハ漁業鑑札ヲ受クル能ハスト称シ其所属漁船乗組日本人八名ヲ全部解雇セリ又海通公司ニ於テモ十月三十一日反日会ノ圧迫ニ依リ所属汽船静順号ノ船長以下六名ノ日本船員ヲ全部突然下船セシメタリ

公使ヘ転報シ北平、青島、奉天、天津、済南、漢口、南京、広東、福州ヘ転電セリ

広東ヨリ香港ヘ転報アリタシ

230　昭和6年11月5日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における対日経済絶交運動に対する邦人紡績会社の閉鎖措置について

上海　11月5日後発
本省　11月5日後着
第七七二号

往電第七二八号末段ニ関シ

邦人紡績ハ大体平穏裡ニ操業継続中ナルカ巷間邦人一般商工業者カ排日ニ依リ苦境ニ沈淪シ居ル際独リ紡績ノミ商売モナキニ拘ラス操業シ二十余万ノ支那人ニ衣食ノ道ヲ供シ居ルハ不可解ナリ此ノ際支那人ノ対日経済絶交ニ対抗シテ我紡績ハ一斉ニ「ロックアウト」ヲ断行シテ支那人ニ対シ経済絶交ハ天ニ向ツテ唾ヲスルニ等シキコトヲ如実ニ知ラシメ其反省ヲ促スヘシトノ議論行ハレ加フルニ共産党ハ紡績工場ノ罷業実現ノ機会ヲ窺ヒ策動ヲ怠ラサル次第モアリ南京政府筋ニ於テハ我工場ノ閉鎖ヲ非常ニ恐レ居ル模様ナルカ紡績側ニ於テハ製品ノ取引全然皆無ナルヲ以テ出来得レハ一斉ニ閉鎖シ度キモ閉鎖ニハ各社夫々異レル金融関係並ニ糸屋トノ取引関係モアルノミナラス契約済原綿並ニ熟練工及特殊工ノ処置モ付ケサルヘカラサル事情モアリ過般来本問題ヲ審議シ居タルカ去ル二十四日ノ会議ニ於テ閉鎖断行ノ時期ハ之ヲ定メサルモ今後之ヲ余儀ナクセラレタル場合（例ヘハ国策遂行上閉鎖ヲ必要トスル場合或ハ罷業発

生ノ場合等）ニハ一斉閉鎖シ得ル様各紡績ニ於テ準備ヲ整ヘルコトニ打合セヲ遂ケタル趣ナリ

尚陸軍側ノ得タル情報ニ依レハ広東派ハ南京側ヲ困ラス為邦人紡績工場ノ罷工誘発ニ着手セリトノコトナリ

公使ニ転報シ北平、奉天、天津、青島、南京、漢口、広東ニ転電セリ

231　昭和6年11月6日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京における排日の諸状況について

南京　11月6日後発
本省　11月7日前着
第七一四号

当地ニ於ケル其後ノ排日状況左ノ通

一、従来紙又ハ布ニ書キタル過激ナル標語ハ風雨ノ為自然毀損シ其後新ニ貼リ出サレタルモノ少ナキ処市党部ハ最近鉄力板ニ一致団結又ハ雪恥救国等ト書ケル反永久的標語ヲ各所ニ掲ケ居レリ

二、学生又ハ民衆ノ示威游行ハナキモ義勇軍ノ訓練ハ相当熱心ニ実行セラレツツアリ現在青年義勇軍（中学以上ノ男女学生及教職員並ニ使用人）四九一三人、同志義勇軍一五八九人、救護隊七七一人アル趣ナルカ教育部及訓練総監部ハ十月三十日付ヲ以テ新ニ学生義勇軍訓練弁法ヲ公布シ第一期訓練トシテ南京、上海、漢口（以上ハ訓練総監部ニ於テ直接組織シ経費ヲ負担ス）天津、北平、杭州及京滬沿線各都市ニ之ヲ実施シ毎日二時間六ケ月間訓練スルコトトナレリ

三、予テ計画中ノ全国学生抗日救国連合会ハ五日正式大会ヲ開キ対日作戦案及対日経済絶交案ノ外国民政府ニ対シ㈠連盟ノ決議通リ日本軍ノ無条件撤廃及賠償謝罪ノ要求㈡日本側五原則ノ否認㈢此ノ上日本カ反省セサレハ国交断絶ノ宣布㈣対日政策及交渉経過ノ公表㈤日支間一切ノ不平等条約ノ取消ヲ請願スヘキ旨決議セル趣ナリ

四、首都各界抗日救国会ハ本月一日南京代議院ニ於テ「国難ニ赴ク」外一場ノ仮装演劇ヲ行ヒ排日ヲ鼓吹シ又往電第六六六号日貨検査懲戒条例ヲ中央宣伝部直営ノ中央日報ニ「通告」トシテ堂々告示シ商人ヲ脅迫シ身体虚弱ナルモノニハ市中ノ引廻シヲナササル代リニ商品ノ没収及不当ナル罰金ヲ課シ居レリ尚明七日ヨリ学生隊ト協力封

存日貨ノ総検査ヲ行フ由
五、支那人呉服商ノ手持日貨(約一千五百万元ト称セラル)ノ一半ハ同業組合ニ於テ自発的ニ封存シ一半ハ住宅其他ヘ隠匿シ又雑貨類ハ漸次店頭ヨリ影ヲ潜メツツアル処大福洋行(当地ニ残留セル唯一ノ邦人商人)ハ小包便ニ依リ理髪器具及針類ヲ輸入シ公然販売シ居レリ
六、邦人新聞通信記者ノ通信ハ依然妨害セラレ発電ハ外交部情報司ニ廻送検閲セラルル模様ナリ
公使、奉天、北平、天津、済南、青島、漢口、広東ニ転電セリ

232 昭和6年11月7日 在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛(電報)
上海における対日経済絶交運動の深刻化について
上海 11月7日後発
本省 11月8日前着
第七八二号(暗)
本官発連盟宛電報第一号
邦人迫害事故等ハ著シク減少シ市面稍沈静ノ状アルモ経済絶交運動ハ益々深刻且組織的トナリ日本貨物及対日輸出貨物取引殆ト絶エ荷動キ杜絶セル為事故発生ハ減少セルモ尚全然跡ヲ絶チタルニアラス現ニ十一月四日日華紡績工場綿糸五百俵及五日同工場ヲ稚綿(cotton waste)四十八俵カ呉淞ニテ抗日会検査隊ノ為ニ抑留セラレ交渉ノ結果漸ク釈放セラレタル事件アリ華商関係ノ被害ハ十月十一日ヨリ三十一日迄ニ各検査所カ抑留セル件数トシテ抗日会カ六日公表セル所ノミニテモ
南市(Nansi) 六十一件
閘北(Chapei) 二十九件
浦東(Poutung) 二十五件
西部 三件
呉淞 二十件
特別検査隊(租界内) 九十五件
ノ多数ニ上リ十一月一日以降ニ於テモ工部局警察カ探知シ報告スル所ノミニテモ日々数件ヲ下ラス又商人ノ不法監禁モ大臣宛往電第七二一号ノ通一時中絶セルカ如キモ最近又復極秘裡ニ復活セラレタルカ如ク全体ヨリ見テ何等改善ノ状アルコトナシ在支公使発貴官宛往電第二号ノ次第モアリ

中国側ニテ「ボイコット」終熄ノ宣伝ヲ為ス虞アルニ付為念電報ス
連盟ヨリ在米大使及在欧各大使ヘ転電アリタシ
在支公使ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、南京、福州、広東ヘ転電セリ
広東ヨリ香港ヘ転電アリタシ

233 昭和6年11月7日 在香港吉田総領事代理より 幣原外務大臣宛(電報)
香港在留邦人の帰国者数について
香港 11月7日後発
本省 11月7日後着
第一四三号
九月末暴動以来当地在留者ノ帰国スルモノ(台湾朝鮮ヲ含ム)ハ二百三十二名ニテ内男四十四女九十二子供九十六
支ヨリ上海、南京ヘ転電アリタシ
支ヘ転電セリ

234 昭和6年11月9日 在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛(電報)
東北民衆救国請願団一行の上海到着について
上海 11月9日後発
本省 11月9日後着
第七八八号
奉天憲庸大学校長ヲ始メ奉天商会会長教育会会長等ヲ首脳者トシ男女学生ヲ主トスル東北民衆救国請願団六百余名ハ和平会議代表等ニ統一ヲ計リ一致シテ日本ニ当ランコトヲ請願スル為ト称シ北平ヨリ南下シ来リ七日正午南京発臨時列車ニテ八日午前零時半南停車場ニ来着セルカ当地各学校並ニ中国基督教青年会等ト連絡シテ随所ニ演説会講演等ヲ催シ排日宣伝ニ当ルモノト認メラル
公使ヘ転報シ北平、奉天、天津、青島、済南、南京、漢口、福州ヘ転電セリ

235 昭和6年11月9日 在福州田村総領事より 幣原外務大臣宛(電報)
福州における抗日会員の日貨取扱者捕縛監禁について
福州 11月9日後発
本省 11月10日前着
第一〇四号(暗)

本官発連盟宛電報
第一号
連盟事務局へ
当地大阪商船使用艀持主林雪雪六十五才ハ日貨ノ荷役ヲ為セリトノ理由ヲ以テ十月二十八日税（関）構内ニ於テ抗日会員ノ為ニ捕縛サレ身柄ヲ公安局ニ押送サレタルニ付二十九日本官福建省政府ニ抗議セル処取調ノ上釈放ヲ約セルニ拘ラズ十一月二日同人ニ白木綿着ト奸商ト書セル紙帽子ヲ被ラセ巡警付添市中ヲ引廻シタル後城内省政府ヲ距ル数十歩公安局表門ニ接続セル最モ繁華ナル鼓楼ト称スル十字路上ニ木製鉄張ノ檻ニ入レ約二時間ニ亘リ群集ニ示シタルカ身柄ハ未タ釈放セラレサル趣ナリ当地排日一事例トシテ御参考迄
大臣、支へ転電セリ

236 昭和6年11月9日 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛（電報）

南京居留日本人の引揚げ状況について

南京 11月9日後発
本省 11月10日前着

第七二二号
往電第六六二号（一七九文書）ニ関シ
南京居留内地人ノ状況（十一月九日現在）左ノ通
㈠㈠上海ニ引揚中ノモノ
成年男子七
未成年男子一〇
日本内地へ引揚タルモノ
成年男子二六
未成年男子一八
女子三四
㈡下関「ハルク」ニ避難中ノモノ成年男子四
㈢自宅残留者
成年男子四三
未成年男子五
女子一三
右ニ依リ当地居留内地人ハ館員陸海軍武官及新聞記者ヲ除ケハ医者一名旅館業一名雑貨商二軒（成年男子二名、未成年男子四名、女子四名）合計十二名トナレリ
支ヨリ上海へ転報アリ度シ、支へ転電セリ

237 昭和6年11月11日 在北平矢野参事官より 幣原外務大臣宛（電報）

北平における反日学生運動の再燃について

北平 11月11日後発
本省 11月12日前着

第六四〇号
当地学生ノ反日運動ハ当局ノ厳重ナル取締ト過激分子殊ニ往電第六一五号請願団ノ南下ニ依リ殆ト屏息ノ状態ナリシカ再ヒ活動ヲ開始シ学生抗日救国連合会ハ九日緊急執行委員会ヲ開催シ㈠民衆カ武装シテ日軍ヲ国境外ニ駆逐方通電スルコト（十日発出済）㈡当局ノ無抵抗主義継続ニ反対ス㈢中央ニ対シ即時対日宣戦方電請ス（九日発出済）㈣即日同盟休校方各校ニ通告スルコト等ヲ決議セルカ十日北京大学学生六百名副司令ニ面会シ対日宣戦抗日運動援助武器支給等ニ付請願シ同日師範大学其他ノ各校抗日会モ夫々同様決議ス尚教育部ハ最近北平教育局及各大学ニ対シ学生団ノ南下阻止方並ニ日本帝国主義侵略ニ対スル雪辱ノ見地ヨリ各学校ニテ課外トシテ毎週数時間日本帝国主義ノ中国侵略史教授方夫々訓令シ来レル由
公使ヨリ上海へ転報アリタシ
公使、南京、天津、奉天ニ転電セリ

238 昭和6年11月11日 在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

上海における本邦各汽船会社の排日による影響について

上海 11月11日後発
本省 11月11日後着

第八〇二号（暗）
(1)当地本邦側船会社ニ就キ排日ニ依ル影響ヲ調ヘタル処各社共朝鮮事件以来引続キ積荷激減セル矢先今次事変ニ依リ俄然支那人ノ積荷皆無トナリ各社ノ支那人「コンプラドル」ハ十月初夫々退出シ支那人船客ハ本邦ヨリノ引揚者ヲ除キ殆トナク空船同様ノ航行ヲ為スコト稀ナラス就中打撃ノ甚大ナルハ日清汽船ナリ各社別影響ノ概略左ノ如シ
㈠郵船
イ、日本上海線（支那人貨物ハ平常入貨全体ノ約三割ナルカ昨今絶無トナリ又支那人ノ出貨ハ平常モ殆トナカリシト）ハ入貨ハ七八割出貨ハ五六割減ヲ示シ日本行支那人

船客ハ昨今皆無トナリ日本ヨリハ最近毎船支那人引揚客多ク当地下船客約全体ノ六七割ニ当レルカ引揚ハ大体一段落着キタル模様ニ付今後激減ノ見込

ロ、孟買航路ハ入貨七割減孟買方面行印度商扱日本船積輸出茶ハ支那人茶業組合ノ反日決議ニ依リ出貨不能トナレリ棉花ノ入貨ハ未タ左シタル影響ナキモ支那人紡績ノ日本棉花商ニ対スル不買並邦船積忌避ト在支邦人紡績ノ使用棉花減少ニ連レ今後激減スヘシ

ハ、欧米航路　支那人出貨ハ平常一割見当ノ処最近皆無トナリ入貨ハ減少未タ著シカラサルモ当地支那輸入商ハ各地輸出商ニ対シ日本船積止ヲ打電セルモノ多数アルニ付今後五割以上ノ減少ヲ予測セラル

臨時船天城筑前ノ二隻ヲ十月下旬ヨリ繋船ス上海支店十月分運賃収入ハ例月ニ比シ三十万弗ノ減収ナリ

(二)[2] 日清汽船

イ、上海漢口線ハ毎月二十五六往復航ナリシ処十月ハ二十航ニ減航セルカ支那人積荷絶無ト日本人及外国人積荷半減ノ為九割減トナリ揚荷ハ六割ニ減少セリ又支那人船客ハ毎航八百人内外アリ船客収入ノ大部分ヲ占メ居リタルニ十月ハ毎航平均百人位ノ甲板客ノミトナリ八割六分ノ減少ヲ示セル為就航船八隻ノ内四隻（各三四千噸級）ヲ十一月一日ヨリ繋船シ航行回数ヲ更ニ月十回ニ減セリ

ロ、上海広東線ハ空船同様ニテ九割九分減ヲ示シ支那人船客ハ半減セリ又上海天津線ハ積荷八割六分揚荷七割六分減トナレリ

ハ、同社ハ十月中約七十万弗ノ減収トナレル為二十六隻中十七隻（大部分長江航行用）ヲ繋船セルカ支那人乗組員一千四百名ヲ下船セシメタリ

(三) 大連汽船

日本人及外国人貨物ハ左シタル差異ナキモ従来上海大連航路入貨全体ノ過半ヲ占メシ支那人雑貨ハ事変後七割五分強ノ減少率ヲ示シ一航海全体ノ入貨二百噸ニ充タサル惨状ヲ呈セシコト稀ナラス同社船ニ依ル撫順炭今期輸入量ハ四万噸前年ニ比シ約六割ノ減少ヲ示セリ又輸出貨物ハ積荷ノ過半ヲ占ムル支那人荷主ノ不積ニ依リ各航路共不振ヲ極メ船客ハ前年同期ニ比シ日本人及外人半減支那人八割減ナリ

(四) 大阪商船

台湾天津線ハ出貨毎航七八百噸見当ノ処百噸内外トナリ南支各地ヨリノ入貨殆トナシ（大）型欧州線紐育線及孟買（線）等モ支那人貨物皆無トナリ外商亦邦船積回避ノ傾向著シキニ付今後一層減少ヲ予測セラル

連盟、米、北平、奉天、青島、天津、漢口、南京、広東へ転電シ、支へ転報セリ

239

昭和6年11月12日　在青島川越（茂）総領事より
幣原外務大臣宛

山東居留日本人大会に対する中国側の抗議について

付属書　一一月三日・六日付胡青島市長・在青島川越総領事間往復文書

青島　11月12日付
本省　11月18日着

普通第六五九号

昭和六年十一月十二日

在青島
総領事　川越　茂(印)

外務大臣男爵　幣原喜重郎殿

山東居留民大会ニ関シ中国側抗議ノ件

客月二十八日当地ニ於テ開催セル山東居留民大会（十一月二日付普通第六三六号往信報告）ハ異常ニ中国側ノ神経ヲ刺激シタルモノノ如ク日本在留民ハ之ヲ切ツカケニ事端ノ醸成ヲ図リ青島ノ再占領ヲ実現セシメムト策謀シツツアリ等ノ噂ヲ生ムニ至リタルヲ以テ本官ハ市政府当局ニ対シ適宜其誤解ヲ正シ来タレル次第ナル処市政府ハ本月三日別紙甲号写ノ如ク公文ヲ以テ同大会ニ関連スル我カ在留民ノ言動取締方申出テ来タレルヲ以テ別紙乙号写ノ如ク中国側懸念ノ点ハ全ク杞憂ニ過キサル旨回答シ置ケリ

市政府側ノ臆測各地新聞紙ニモ散見セラルル模様ナルニ付右為念報告ス

本信写送付先　公使、上海、南京、北平、天津、済南、張店、博山、坊子、芝罘

（付属書）

別紙甲号

青島市政府公函外字第八三二四号

逕啓者貴国僑民於十月二十八日下午一時在本市湖北路召集各地代表開山東居留民大会異日閲青島新報掲載該会決議与

宣言文及各代表演説詞稽其内容主張議論劇烈並拠調査該僑民等尤有努力惹起事件之秘密決議査自瀋陽事変発生以来関於本市治安及日僑生命財産迭経飭属尽力維護本府維持苦衷当為

貴館所深悉今貴国僑民竟明目張胆大事集会公然発表種種謬論本府対於此挙実深遺憾万一貴国僑民果如前述之主張将来惹起重大糾紛

貴方応負全責自不待言茲為促起特別注意起見相応剪同該報所載該会各節随函付送請

貴総領事詳加査閲迅即予以適確有効之措置俾免醸成意外並希見復是荷此致

駐青日本総領事川越

胡若愚

中華民国二十年十一月三日

別紙乙号

第二二七号

拝啓陳者本月三日付外字第八三二四号貴函ヲ以テ客月二十八日当地ニ於テ開催セル山東居留民大会ノ件ニ関シ御申越ノ次第有之閲悉本大会ハ其宣言決議等ニ依リ明瞭ナル通リ畢竟排日排日貨等ノ不法行為ノ絶滅ト諸条約ニ基ク権益殊ニ山東条約ニ依リ当地方在留邦人ノ享有スヘキ権益ノ擁護履行ヲ主張スルモノニシテ決シテ貴我両国々交ノ乖離乃至ハ事端惹起ヲ目的トシタルモノニアラサルハ申迄モ無キ義ニ有之殊ニ事件惹起ヲ目的トセル秘密決議ヲ為シタリ云々ノ如キハ全然根拠ナキ流説ニ属シ何等為ニスルモノノ宣伝ニ過キスト確信致候

尚貴翰中将来重大紛糾惹起ノ場合ハ其責全然当方ニアリ云云トノ一節ハ本官ノ殊ニ意外トシ且承認シ難キ処ナルニ付右御了知置相成度尤モ貴市長ニ於テ当地方治安維持ノ為ニ殊ノ外尽力セラレツツアル次第ハ本官ノ諒トシ居ル処ニテ当方ニ於テモ居留邦人ノ逸軌的行動取締ニ付最善ノ注意ヲ払ヒ来リ今後共右方針ヲ以テ進ムコト勿論ノ次第ナルカ貴方ニ於テモ此上共排日取締ノ徹底各種懸案ノ迅速解決等両国民ノ感情融和ノ措置ヲ講セラレ以テ事故発生防止ニ資セラレ度右此段回答旁々得貴意候　敬具

昭和六年十一月六日

在青島

総領事　川越茂

青島市長　胡若愚殿

240

昭和6年11月13日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

東北民衆救国請願団学生の南京行について

上海　11月13日後発
本省　11月14日前着

第八一一号（暗）

往電第七八八号ニ関シ

東北請願団ノ学生等ハ十日午前九時当地発南京ニ赴キタリ又八日着滬セル士官学校留学生四十余名ハ当地各方面ニ排日宣伝ヲ為シタル後十二日夜行列車ニテ南京ニ向ヘリ公使へ転報シ

北平、天津、南京、奉天、青島、済南、漢口、福州、広東へ転電セリ

241

昭和6年11月(15)日　在天津桑島総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

日本人居留民の引揚避難状況等について

天津
本省　11月15日後着

第五四一号

事件発生後在留邦人ニシテ当租界内避難所ニ収容シタル人員百十一名大連又ハ日本方面ニ引揚ケタル者四一四名ニシテ引揚者増加ノ傾向アリ租界内居住中国人モ相当ノ身分ノ者ハ大部分外国租界ニ引揚ケタリ尚当租界及中国街ノ各商店ハ門ヲ鎖シ商取引杜絶シ居レリ事件発生直後ハ租界警備上一時交通ヲ遮断シタルニ依リ野菜類ノ供給ニ困難ヲ来シ価格騰貴シタルモ茲一両日交通多少緩和シタル為多少見直セリ

支、北平へ転電セリ

242

昭和6年11月16日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

上海における邦人に対する暴行事件発生について

上海　11月16日後発
本省　11月17日前着

第八一九号

食料雑貨店鈴木洋行店員二名昨日曜朝商用ニテ租界内平涼路「マーケット」付近ヲ自転車ニ乗リ通行中中国人群集ノ

為「東洋人ダ、殴レ殴レ」ト襲撃セラレ次テ右暴行事件ヲ知己者内ノ者カ襲撃セラレ居ルニ非スヤト様子ヲ見ニ行キタル邦人二名モ亦同シク袋叩キニ遭ヒ何レモ相当ナル重傷ヲ負ヒタリ

支へ転報シ、北平、奉天へ転電セリ

243 昭和6年11月18日 在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）
上海抗日会の活動と市商会との関係について

上海 11月18日後発
本省 11月19日前着

第八二七号（暗）

一、抗日会カ日貨取扱ヒノ廉ヲ以テ支那商民ニ苛酷ナル私刑的罰金及監禁ヲ科シツツアルニ対シ曩ニ上海市商会カ緩和方申入レタル処（往電第八〇五号前段参照）抗日会ハ十七日常務会議ノ結果右様ノ干渉ハ一切容認セサルニ決シ上海抗日会ハ各界ノ重ナルモノヲ網羅スル連合組織ナルヲ以テ其議決セシ事項ハ市民ノ公意ナルニ付被処分者ヨリ再審ヲ求ムル場合ノ外其他ノ団体ノ拘束ハ一切受ケサル旨言明シ居ル趣ナリ

二、又市商会ハ排日ニ依ル金融梗塞ノ為曩ニ支那商ノ手持チ日貨発売弁法ナルモノヲ可決シ新聞ニ広告シタルコトニ付テモ抗日会ハ同会ニ経伺セスシテ発表シタルハ不当ナリ等ト異議ヲ唱ヘ訂正広告方要求中ナルヤニテ未タ封存日貨ノ処分方法ヲ決定スルニ至ラス

三、前記ノ如ク当地抗日会ノ横暴振リハ何等衰ヘサル処之ヲ共同租界工部局ノ報告（発表セサルモノ）及上海「タイムス」等ニ徴スルモ抗日会検査員ハ十四日ニハ租界内上海路及厦門路ノ支那人金物店ヨリ十六日ニハ無錫路（wu sih road）ノ支那呉服店ヨリ日貨ノ故ヲ以テ多量ノ商品ヲ「トラック」積ミトシ閘北（chapei）ノ抗日会倉庫ニ持チ去リ且ツ商品ノ行衛ヲ確ムヘク尾行セシ店員三名ヲ「抗日会奸商拘禁所」ニ連行シ今尚監禁中ナリト

連盟、北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、福州、広東ニ転電シ公使ニ転報セリ

連盟ヨリ米ニ転電アリ度シ

244 昭和6年11月(18)日 在天津桑島総領事より幣原外務大臣宛（電報）
日本人避難引揚者漸次減少の状況について

天津
本省 11月18日後着

第五五八号（暗）

往電第五四一号所報後時局ハ著シク好転シタルヲ以テ軍部トモ打合ノ上十六日午後華街ニ接近セル居住者ヲ除キ帰宅ヲ許シタル結果避難者半減シ現在約四百七十名（内鮮人）ト為レリ尚本邦又ハ大連方面ヘノ引揚モ漸次減少シ目下殆ト皆無ノ姿ニテ前電以後ノ引揚者ハ百五十四名ナリ

支、北平、奉天、南京へ転電セリ

245 昭和6年11月(19)日 ※在漢口坂根総領事より幣原外務大臣宛（電報）
長沙における反日会の排日行動等について

漢口
本省 11月19日後着

第八〇八号（暗）
長沙発本官宛電報
第一〇二号
大臣へ転電アリタシ
第九四号

一、省政府ト反日会トノ関係ハ往電第九三号末段ノ通ナルカ一方商人側ニ於テハ反日会規約ノ登記及登記費（価格ノ千分ノ十）ノ交付ヲ肯セス罷市ヲ以テ対抗セント強硬ナル態度ヲ示シタルモ結局三万元ヲ交付シテ一時折合ヒタルカ最近反日会ハ青年鉄血団及学生団ヲ煽動シ日貨ノ検査ヲ幇助セシメ本月二十四日迄ニ登記ノ実行ヲ強要シ之ニ従ハサル者ハ商店ヲ封鎖シ店主ヲ厳罰ニ処スヘシト教圏キ居レリ

二、邦商ニ対スル反日会ノ監視ハ益々厳重トナリ事故頻出ノ状態ニテ十四日小嶺洋行使用民国人カ商品ヲ運搬中反日会員ニ押ヘラレ商品ト共ニ同会ニ拉致セラレタル事件発生シタルカ当館ヨリ厳重交渉ノ結果即日使用人ヲ放チ貨物ヲ返還セシメ尚前記拙電中島洋行店員家族モ釈放セシメタルカ沅江戴生昌分局ニ対スル学生団ノ暴行事件ニ関シテハ省政府ヨリ同地県長ニ対シ保護取締方ヲ厳命シタルニ拘ラス又復十五日学生団同分局ニ侵入文書類金品ヲ対岸ニ搬出シ焼棄シタル趣ニ付当館ヨリ直ニ厳重抗議中

三、天津事件ノ発生ニ依リ中国側ノ神経尖鋭化シ邦人ノ行

動ニ付注意ヲ怠ラス亦十六日ヨリ連盟理事会開催セラレ其成行ニ依リテハ如何ナル反響アルヤモ計ラレサルニ付万一ヲ懸念シ海軍民会側ト協議ノ上在留民ニ対シ充分警戒方ヲ注意スルト共ニ十六日ヨリ当分婦女子ヲ中ノ島海軍集会所ニ避難セシメタリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

246　昭和6年11月(19)日　在福州田村総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

抗日運動取締振りに対する省政府への警告申入れについて

第一〇六号（暗）　福州　本省　11月19日後着

哨艦円島福州溯江ニ伴フ中国官民動揺モ稍落着キタルニ付十七日本官ハ省政府ニ陳培錕ヲ訪ヒ在留民保護ニ関スル中国側ノ言明モ抗日運動ニ対シテハ更ニ取締ノ誠意ヲ認メ難キノミナラス前来抗議ノ如ク官憲率先シテ之ヲ煽動シ公安局ノ如キハ抗日会ノ暴状ヲ取締ルトコロカ却テ之ト協力シ居ル実例枚挙ニ暇ナシ曩ニ木製檻ニ入レタル大阪商船艀主林某ノ如キ今以テ公安局ニ監禁セラレ六十七才ノ高齢ニテ病ニ瀕シ居ルニ乗シ四千弗ノ巨額ヲ罰金トシテ強要シ結局千弗ニテ折合ヒタリトノ報告スラアリ斯ノ如キハ治安維持ノ責任当局カ土匪ト何等選フ所ナキ不法行為ニ自ラ関与シ居レル証左ニシテ省政府カ本官ニ屢々言明セル越軌行動取締ノ誠意ト実力ニ疑ナキヲ得スト申入レタルニ先方ハ右ハ省党部ノ命令ニ依ルモノト認メラルル処党部ノ行為ニ対シテハ直接之ヲ阻止シ難シトカ又ハ本人ハ中国人ナリ等遁辞ヲ弄セルニ付本人カ中国人タルヤ将日本人タルヤハ問題ニアラス官憲自ラ抗日運動ヲナシ越軌行為アルノ不都合ヲ難詰スルモノニシテ我方ニ於テハ此種行動ハ国際法上ノ抗敵行為ナリト認ムルコト曩ニ帝国政府ノ声明セル通ナリ要スルニ官憲ノ不誠実ニ対シ極度ノ不満足ヲ感スルモノナリト告ケ今後省政府機関ノ此種行動ニ付テハ我方トシテ厳重監視ヲ怠ラサルヘク万一官憲ノ斯ル不法行為ノ為両国民間ニ行違ヲ生シ事故ノ発生ヲ見ルコトアルモ我方ニ於テ其責ニ任シ得スト強硬ナル警告ヲ発シ覚書ヲ手交セリ

右ハ円島溯江ニ付省政府側ニテ狼狽シ居ル際ヲ利用シ抗日運動取締振ニ対スル我方ノ不満ヲ表明警告セルモノナルカ

監禁中ノ船主ハ即夜釈放シ又翌日当館台湾人ヨリ購入セル台湾炭運搬苦力カ抗日会ニ威嚇サレ後難ヲ恐レテ逃ケタル際ノ如キ所轄警察ヲシテ道路掃除ノ苦力ヲシテ搬入セシメタル等今後多少ノ効果アルヘキカト予想サル尚省政府当局カ狼狽ノ極民衆ノ激昂ヲ理由トシ各国領事ヲ歴訪シテ円島ノ溯江ヲ阻止セシメントシタルモ英、米、仏領事トモ相手ニセス却テ税務司カ水先案内ノ供給ヲ拒絶セルヲ非難セリ支ヨリ上海へ転報アリタシ支、厦門ニ転電セリ

247　昭和6年11月20日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

上海における抗日会と市商会との確執について

上海　11月20日後発　本省　11月20日後着

第八三四号（暗）

当地支那商手持ノ所謂封存日貨ノ総額カ大体何ノ位ノ高ナルヤニ付三井側カ中国銀行重役其他ニ付尋ネタル処ニ依レハ約八、九千万弗ニ達スルカ如ク（商務官側ハ約四、五千万弗ト推定シ居レリ）右ハ啻ニ代金ノ回収不能ナルノミナラス担保トモナラス全ク死蔵ニ等シキヲ以テ銀行側ニ先ンシテ商人中ヨリ倒産者ヲ続出スヘク此儘ニテハ当地市場ハ旧年末頃以前ニ一大恐慌ヲ招来スヘシト懸念セラレ支那人実業家識者方面ニテハ日支直接交渉ノ速開ヲ痛感シ居ルモノ鮮カラサルモ能ク之ヲ言ヒ出スモノナキ実状ナリト尚右封存日貨ノ処分ニ付テハ市商会ト抗日会間ニ確執中ナル処（往電第八二八号所報）綿布、砂糖、紙、雑貨等ノ十八同業組合ハ十七日合議ノ結果抗日会ニ対シ大要「現下ノ金融梗塞ニ直面シ此際手持日貨ノ発売ヲ許サスハ上海市場ハ遠カラス破産スヘク延テ全国的恐慌ヲ招来スルニ至ルヘシ抑抑現在実行中ノ経済絶交ハ日本ニ経済的苦痛ヲ与ヘントスルモノナルニ其結果ハ却テ之ニ反スル現象ヲ呈シツツアルニ非スヤ」云々トノ詰問的申入ヲナシタル趣ナリ

連盟、北平、天津、奉天、青島、済南、漢口、南京、広東へ転電シ公使へ転報セリ

連盟ヨリ在米大使へ転電アリタシ

広東ヨリ香港へ転報アリタシ

248　昭和6年11月20日　海軍省

「支那ノ排日状況ト帝国海軍ノ警備」

昭和六年十一月二十日稿

支那ノ排日状況ト帝国海軍ノ警備

目　次

一、支那ノ排日概説
二、警備地域在留邦人分布及引揚数
三、上海ノ排日状況
四、帝国海軍ノ対支警備
五、警備兵力ノ増派ト反響
六、無言ノ威力
七、警備地域小事故一束
八、結言

支那ノ排日状況ト帝国海軍ノ警備

一、支那ノ排日概説

支那ノ排日ハ明治四十一年ノ辰丸事件以来今回迄九回即チ二年ニ一回ノ割合テ行ハレ其ノ方法ハ年ト共ニ巧妙深刻ニナリ殊ニ国民党カ天下ヲ取リマシテ以来「ソ」連邦ノ遣口ヲ真似マシテ党部ノ名ヲ藉リ実ハ政府ノ指導ノ下ニ一層辛辣ヲ極メテ居リマス

而シテ今次ノ排日運動ハ日貨排斥トカ boycott ナトト称スルノハ適当テナク彼等自ラ謂フ所ノ対日経済絶交ヲ強行セントスルモノテ之ニ依リ在留邦人ノ商業ヤ工業ハ固ヨリ生活権ヲモ一切封止セントスルモノ即チ武力ヲ用イサル戦争行為ト称スヘキテアリマス

今次ノ排日ハ七月一日起リマシタ万宝山事件同月五日ノ平壌事件ニ端ヲ発シ九月十八日ノ満州事変ヲ見ルニ至リ上海南京ノ言論界ヲ火元トシテ各地ニ波及致シマシタカ地方ニ依リ政情其ノ他ノ為多少ノ相異ハアリマス

始メ満州事変直後私共ハ直ニ南支各地ニ猛烈ナル排日運動ノ起ルコトヲ予想シマシタカ約一週間ハ案外ニモ平静テアリマシタ是満州ニ於ケル我陸軍ノ疾風迅雷的神速果敢ナル行動ニ驚愕シタ南京政府ハ更ニ中南支ニ於テ帝国海軍ノ攻撃ヲ受クルコトアルヲ恐レマシタルコトト一ハ国際連盟ニ愁訴シ之ニ依リテ解決ヲ計ル為列国ノ同情ヲ失フコトヲ恐レテ対日直接行動ヲ厳ニ抑制シマシタコトニ依ルモノテアリマス

然レトモ此ノ間九月二十三日抗日救国会ヲ組織セシメテ党部及学生間ニ排日運動ノ準備ヲナサシメマシタカ九月二十五日連盟理事会ニ於ケル支那側ノ敗報到達スルヤ右運動ハ白熱状態ニ転化シタノテアリマス南京政府ハ日本側ニ対シ日本人ノ生命財産ハ責任ヲ以テ保護スルケレトモ愛国運動ハ制止スルヲ得スト申シテ居リマスカ之ハ対日直接行動ヲ看過スレハ南方ニ於テ帝国海軍ニ武力行使ノ機会ヲ与フルコトトナルヘク又当時ノ状況反蒋運動ヤ共産党運動ノ台頭ヲ恐レタルニ依ルノテ其ノ取締振ハ従来稀ニ見ル緊張振ヲ示メシタノテアリマスカ裏面ニ於テハ固ヨリ党部及学生ノ経済絶交運動ヲ支持助長シタノテアリマス排日運動ハ全般的ニ申シマスレハ長江方面カ最熾烈テ南支方面之ニ次キ北支ハ比較的平穏テアリマシタカ十一月八日ノ天津事変勃発ニ依リ最近同地在留民約五百名ハ引揚ケマシタ

二、警備地域在留邦人分布及引揚数

海軍警備地域ニ於ケル在留邦人分布ノ状況及引揚ノ状況ハ図示（付表ヲ以テ図ニ代フ）ノ通テアリマス即チ全部引揚ケマシタ所ハ成都、重慶、万県、杭州及温州テアリマシテ成都及重慶、万県ノ官民ハ十月十五日及二十二日ノ二回ニ分カチ政府ノ命令ニ依リ引揚ケ我警備艦比良ハ之カ保護警衛ヲ致シマシタ杭州ハ九月二十三日官民全部引揚ケ温州ノ在留民ハ十月中旬自発的ニ引揚ケマシタ其ノ外各地共多少トモ婦女子等ノ引揚ケサル所ハナク唯上海カ事変前ヨリ在留民カ増ヘテ居リマスノハ上流地方ノ避難者カ同地ニ止マツテ居ルカラテアリマス

三、上海ノ排日状況

排日運動ノ最深刻ニシテ代表的ナル且我国ト重要ナル関係ニ在ル上海ニ就テ申シ上ケマスレハ上海ハ支那ノ外国貿易ノ四十五％ヲ占メ日本ハ上海ノ外国貿易ノ十七％ヲ占メテ居リマスカ今日之ハ徹底的ニ停止シテ居リマス

又同地ニ於テ約二億ノ投資ヲ有スル我紡績業ハ唯運転ヲ持続シテ居ルト云フ丈ノ状態テアリ其ノ他ノ中小工業ニ百余工場モ紡績ニ関係アル数工場ヲ除クノ外ハ皆閉鎖シマシタ

航運業モ亦一ノ載貨ナキ程度ノ打撃ヲ受ケテ居リマス

而シテ経済絶交ノ方法ヲ挙ケマスレハ

㈠日貨ノ排斥

(二)郵便物ニ対スル圧迫、不法取扱
(三)邦人使用ノ支那人ニ対スル脅迫
(四)邦人工業ニ対スル総罷業計画
(五)邦船ニ載貨セス邦船乗組支那人ノ罷業、支那船乗組邦人ノ解雇
(六)日支金融取引拒絶
(七)艀舟業、埠頭苦力ノ罷業
(八)邦人ニ対スル生活必需品ノ不供給

等々テアリマスカ要スルニ在留邦人ニ対スル生活必需品ノ供給ヲモ断ツト云フ一事ヲ申セハ総テヲ御諒察ノコトト思ヒマス

而シテ右強制ノ手段トシテハ違反者ニ極端ナル私刑ヲ加ヘルコト即チ或ハ商品ヲ没収シ罰金ヲ課シ或ハ監禁シ或ハ暴行ヲ加ヘ甚シキハ売国奴ト記セル衣服ヲ着セテ市中ヲ引廻ハシ或ハ木檻ニ入レテ市中ニ晒シ物トスル等ノ手段ヲトツテ居リマスカラ殆ト徹底的ニ実行セラレテ居ル次第テアリマス

斯クシテ尚彼政府ハ国民ノ自愛的愛国運動ト称シテ居ルノテアリマス

九月十九日ヨリ十月十八日ニ至ル一ケ月間ノ邦人被害人数ハ

男二三九人、女四八人、計二八七人ニ達シテ居リマス

又同期間通学中ノ学校生徒被害人数ハ

男二五八人、女一三六人、計三九四人テアリマス

又邦人ニシテ失業ノ為メ窮迫シ総領事館ノ手ニテ帰国セシメタモノハ六十家族、生活補助費ヲ給シ居ルモノ二百二家族ニ達シテ居リマス

以上ノ如ク商売ハ全然ナク生活モ不安ナルカ故ニ在留邦人ハ従来ト異リ此度ハ国策ノ為ニハ如何ナル犠牲ヲモ忍フヘケレハ此ノ機ヲ以テ排日問題ヲモ徹底的ニ解決セラレンコトヲ望ムト悲壮ニモ強キ決心ヲ表明シテ居ルノテアリマス而シテ此ノ決心ハ各地在留民トモ総テ同様テアルノテアリマス

四、帝国海軍ノ対支警備

我海軍ノ対支警備艦ハ年ニ依リ異リマスカ今年度ハ長江方面ニハ第一遣外艦隊ノ巡洋艦平戸、駆逐艦浦風、砲艦十一隻及上海ニ駐屯スル特別陸戦隊六百名テ陸戦隊ニハ装甲自動車数台ヲ有スル

外新式ノ兵装ヲ備ヘテ居リマス

北支方面ニハ第二遣外艦隊ノ巡洋艦球磨及第十六駆逐隊南支方面ニハ馬公要港部所属ノ巡洋艦矢矧、砲艦嵯峨及第二十五駆逐隊ヲ配当セラレテ居リマス

其ノ警備区域ハ長江方面ニ在リテハ支流ヲ合ハセ約千四百浬、南支ハ約千浬、北支ハ約千三百浬ノ広区域ニ亘ツテ居リ各司令官ハ情勢ニ応シ必要ナル場所ニ適当ナル兵力ヲ配置シテ居リマス

（この間約十五行分原文脱落）

南支ハ事態切迫シ居ラサル為メ未タ内地ヨリ特派セラレタル艦ハアリマセヌカ福州ノ如キハ閩江ノ水深浅クシテ軍艦ハ下流十五浬位ノ所ニ碇泊スルノテアリマスカラ馬公カラ敷設艇ノ円島ヲ派遣シ福州市街ノ前迄溯江セシメテ居留民保護ニ当ラセテ居リマス

現在ノ配備ハ南支ニ於テハ広東ニ嵯峨、汕頭ニ梨、厦門ニ竹、福州ニ矢矧及円島、長江ニ於テハ上海ニ常磐、対馬及特別陸戦隊、南京ニ天竜、平戸、漢口ニ塩沢司令官座乗ノ旗艦安宅外六隻、其ノ他各地ニ駆逐艦又ハ砲艦一隻以上ヲ配備シテ居リマス

又北支ニ在リテハ青島ニ駆逐艦二隻、芝栄ニ駆逐艦二隻、白河ノ塘沽ニ駆逐艦二隻、営口ニ駆逐艦一隻ヲ警泊セシメ津田司令官ハ旗艦球磨ヲ率イテ渤海湾ニ行動中テアリマス因ニ目下白河ノ水深ハ天津迄駆逐艦ノ溯江スルコトヲ許シマセヌ

尚此ノ外必要ニ応シ命令一下直ニ出動シ得ル軍艦、駆逐艦、陸戦隊其ノ他ノ兵力ハ多数内地ニ待機致シテ居リマス

五、警備兵力ノ増派ト反響

満州ニ於ケル皇軍ノ疾風迅雷的勇壮ナル行動ニ驚愕シマシタ支那上下ハ更ニ海軍ノ積極的行動ヲ予想シマシテ非常ニ周章狼狽シ種々風声鶴唳的事態ヲ演出シマシタ

即チ平津方面ニ於テハ日本海軍ノ山海関、秦皇島砲撃、陸戦隊ノ海州揚陸等虚報ヲ伝ヘテ戦々恟々タリシカ如キ又南京方面ニ於テハ日本艦隊ノ来航、飛行機ノ襲来等ヲ虚伝シテ或ハ上海ニ避難シ或ハ上海支那街ヨリ外国租界ニ移転スルモノ等相当多数ニ上リマシタルカ如キ其ノ周章ノ状見ルヘキテアリマス

南京政府ニ於キマシテハ我対馬、天竜、常磐及第二十四駆逐隊ノ来航ヲ目撃スルニ及ヒ急遽排日「ポスター」ヲ剝カシ取締ニ一層厳重ヲ加ヘマシタル外

㈠南京ノ飛行場ハ日本ノ飛行機ニ爆撃セラルル虞アリトシテ南京ノ東南十五哩ノ句容ニ飛行場ヲ新設シマシタコト

㈡十月十日ニハ南京、鎮江、江陰、呉淞等ノ各砲台ニ夫夫手投榴弾ヲ配給セシメマシタコト

㈢十月十二日頃ヨリ南京獅子山ニ野砲ヲ引揚ケ又江岸ヨリ市街ニ通スル道路ニハ大砲、機銃ノ陣地ヲ急設シ陸戦隊ノ揚陸ニ備ヘマシタコト

㈣鎮江ニ於テモ右様ノ防備ヲ急設シマシタコト

等ノ事実ハ彼ノ対日海軍恐怖ノ一斑ヲ窺フコトカ出来ルノテアリマス

六、無言ノ威力

前述ノ通リ支那側ハ我海軍ニ武力行使ノ機会ヲ与ヘサルコトニ汲々トシテ居リマシテ今日迄海軍ノ警備地域ニ於テハ大シタ事故カ起ラナカツタノハ畢竟帝国海軍ノ無言ノ威力ニ依ルモノト申スヘキテアリマス全支各地ノ中最

㈠茲ニ遺憾ナルコトハ英国ノ領土テアリ軍港ノ所在地タル香港ニ於テ九月二十六日支那暴徒ノ為邦人六名ノ惨死者ヲ生シタル不祥事テアリマス之ニ対シテハ馬公要港部司令官ハ広東ニ在リシ嵯峨ヲ急航セシメラレマシタカ香港政庁ハ遺憾ノ意ヲ表シ且取締保護ノ誠意ヲ示メシマシタノテ彼ニ信頼シテ広東ニ帰航シタノテアリマス爾後ハ常ニ平静ニ帰シマシタ

㈡広東ニ於テハ同政府ハ其ノ立場上比較的厳重ニ排日取締ヲ行ツテ居リマスカ十月十一日排日暴民ト取締官憲トノ間ニ衝突起リ多数ノ死傷者ヲ出シマシタ然モ之ハ支那人同士ノ出来事テアリマス

㈢厦門テハ十月十八日ニ我領事館ニ爆弾ヲ投シタモノ（共産党）カアリマシタノカ不発テ損害ハナク出先海軍指揮官ヨリモ彼官憲ニ厳重取締ヲ要求シマシタカ彼ハ恐縮シ爾来無事テアリマス

㈣成都、重慶在留邦人九十八名ノ引揚ニ対スル砲艦ノ保護ハ前ニ述ヘマシタ

㈤宜昌ニ於テハ形勢不穏ノタメ十月十日在留民ハ信陽丸ニ避難シマシタカ十一日午前二時折柄留守中ノ我海軍

平穏無事ナルハ青島テアリマスカ同地治安維持ニ当テ居リマス支那東北海軍ハ事変発生ト共ニ帝国海軍ノ出処ニ甚大ノ恐怖ヲ感シマシタモノノ如クテ我第二遣外艦隊司令官ヨリ「此ノ際時局ヲ拡大セシメサル為行動ヲ慎重ニスル様」好意的勧告ヲ致シマシタノニ対シ唯々聴従シ彼艦隊司令ハ其ノ後東北海軍ハ各地形勢ノ如何ニ拘ラス何処迄モ現在ノ日支海軍ノ親善関係ヲ持続シ青島ノ治安維持ニ対シテハ最後迄責任ヲ負フ旨ヲ申出マシタ様ナ次第テ青島ノ治安カ平常ヨリモ却テ克ク維持セラレテ居ルノハ之ニ依ルモノテ且又支那各地中貿易ヤ航運カ平時通ニ行ハレテ居ルノハ此地ノミテアリマス

福州ヤ厦門ノ治安ハ支那海軍ノ者ニ依リテ維持セラレテ居リマスカ現在帝国海軍ト最友好関係ニアル彼海軍ハ従テ我無言ノ威力ヲ熟知シテ居リマス関係上特ニ在留民ノ保護ニハ注意ヲ払ヒ我出先指揮官ノ勧告ヲモ克ク容レマシテ他ニ比シテ無事ノ状況テアリマス

七、警備地域小事故一束

人命ヲ損シタナト云フ所ハ勿論アリマセヌカ各地若干ノ小事故ハアリマシタ即チ

下士官兵集会所ニ放火シタモノカアリマシタノテ警備艦二見ヨリ陸戦隊十一名ヲ揚陸シ中国官憲ト協力之ヲ鎮火スルヲ得マシタ損害トシテハ書記住宅内部全焼其ノ他小損害テアリマシタカ二見艦長ハ直ニ厳重ナル抗議ヲ致シ尚当時沙市ニ在リマシタ砲艦堅田ハ宜昌ニ急航シ十二日領事館ヲ信陽丸ニ移シテ我決意ヲ示メシマシタ所支那官憲ハ我要求全部ヲ承認シ総指揮部長ハ堅田ヲ正式訪問シテ遺憾ノ意ヲ表シ事件落着シマシタ

㈥上海ニ於テハ十月十八日午前内外棉紡績会社ノ邦人宿舎ニ暴徒約二百名押寄セ投石シテ窓硝子二十四枚ヲ破壊シ次テ邦人自動車一及付近ノ邦人洗濯業者ニ損害ヲ与ヘマシタトノ急報ニ依リ陸戦隊ヨリ一小隊ヲ派遣警戒シマシタカ暴徒ハ約三千名ニ増加シ益々暴行ヲ逞ウセントシマシタカラ陸戦隊ヨリハ更ニ装甲自動車ヲ派遣シマシタ所午後三時右装甲自動車ニ投石スルモノカアリマシタノテ威嚇ノ為拳銃一発ヲ発射シマシタ所暴徒ハ四散シマシタ

八、結言

之ヲ要スルニ排日運動―経済絶交ハ支那人ノ愛国運動テ

モ何テモアリマセヌ彼政府カ指導スル所ノ武力ヲ用イサル戦争行為テアリマス従ツテ之カ根絶ヲ期スルコトハ極メテ必要テアリマシテ若シ彼ニ排日ヲ以テ脅威セハ日本ヲ屈服セシムルコト可能ナリトノ観念ヲ与フル時ハ終世日本ハ彼等ノ翻弄スル所トナリマセウ仍チ今次満州事件ノ解決ト同時ニ此ノ多年懸案ノ排日問題ヲモ一併解決スルノ必要アリト考ヘマス一方現在ノ時局ハ尚相当長引クモノト察セラレ今年長江方面未曾有ノ水災ノ影響ハ今後ニ現ハルヘク長江流域ノ共匪ハ益々跳梁ヲ極メテ居リ而南京政府ノ基礎ハ確乎テナイ斯ク考ヘマスレハ今日迄帝国海軍無言ノ威力ニ依リ幸ニ大事ナク経過シテ来マシタ警備地域モ将来楽観ヲ許ササルノミナラス多事多難ヲ予想セラレ任務ハ益々重キモノアリト観セラレマスルノテ各地ノ状勢ニ応シ警備任務遂行ニ万遺算ナキヲ期シ出先及中央共ニ機宜即応ノ準備ヲ整ヘテ時局ノ推移ヲ静観致シテ居ル次第テアリマス

付表

海軍警備地域在留邦人分布及引揚数

（北支方面）

地名	事変前	事変後（十一月一日現在）
安東	一、二三三	同上
営口	一〇、四五四	同上
山海関	一〇二	多少減少セルモ詳細不明
秦皇島	一三	同上
塘沽	七六	同上
天津	五、七六〇	五、〇〇〇
竜口	一〇三	同上
芝罘	二一二	同上
青島	一三、八五五	同上

（中支方面）

地名	事変前	事変後（十一月一日現在）
上海	二六、二六七	二六、五〇三
鎮江	一八	一二
南京	一九一	六一

杭州	三八	三
蕪湖	六九	一九
九江	九八	三二
武穴		一一
大冶	一六	一一
漢口	二、一二九	一、五八八
長沙	七六	六三
沙市	二一	七
宜昌	七五	四二
重慶	九八	
成都	六	二

（南支方面）

地名	事変前	事変後（十一月一日現在）
温州	一五	
福州	三六八	多少減少セルモ詳細不明
厦門	三五四	同右
汕頭	一七九	同右
広東	四六五	同右
香港	一、八六八	同右

対支警備兵力表

第一遣外艦隊

安宅、平戸、宇治、比良、保津、勢多、堅田、鳥羽、伏見、隅田、二見、熱海、浦風、小鷹（以上常備編制）常磐、対馬、天竜、二十四駆逐隊（樫、柳、檜、桃）（以上臨時増派）

陸戦隊　九〇四名（一三六増派）

第二遣外艦隊

球磨、十六駆逐隊（刈萱、芙蓉、朝顔）（以上常備編制）

十三駆逐隊（早苗、早蕨、若竹、呉竹）（以上臨時増派）

馬公要港部所属

矢矧、嵯峨、二十五駆逐隊（梶、梨、竹）

249

昭和6年11月21日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における中国人の日本陸戦隊への侮辱行

為と陸戦隊の制裁処置について

上海　11月21日後発
本省　11月22日前着
第八四〇号

最近支那人ノ我陸戦隊巡邏隊ニ対スル投石罵詈雑言等ノ侮辱行為頻リニアリ之ニ対シ巡邏隊ニ於テ犯人ヲ取押ヘ相当ノ制裁ヲ加ヘタル事件十五日以来十件アル処其中東部方面ニ十六日十七日及二十日ニ起リタル事件ハ一時形勢相当険悪ニ陥リタルモ陸戦隊ノ自重ト工部局警察ノ出動ニ依リ大事ニ至ラスシテ済ミタリ

尚陸戦隊ニ於テハ出来ル丈自制シツツアルモ支那人カ反省セサル限リ適宜其場ニ於テ制裁ヲ加フル腹ナルニ付或ハ勢ノ趨ク処如何ナル事変ヲ惹起セストモ計ラレサルニ依リ工部局側ニ厳重注意セル処工部局ニ於テモ之ヲ重視シ東部方面ニモ露西亜人義勇軍ヲ巡邏セシムルコトトセリ

支へ転報シ北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、福州、広東へ転電セリ

250

昭和6年11月21日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

広東における学生団の政府に対する抗日実行請願運動について

広東　11月21日後発
本省　11月21日後着
第六三三号（暗）

二十一日午前当地国民政府ニ学生ノ一団（約千名）押シ寄セ満州事件責任ノ首魁タル張学良ノ死刑並ニ馬占山軍応援ノ為政府軍隊ノ派遣方ヲ請願シテ退カス依テ政府ハ曩ノ英艦「マロ」事件等ニ鑑ミ孫科ヲシテ之ニ応対セシメ馬占山軍ノ応援ヲ実行セントセハ先ツ軍隊ヲ湖南若ハ江西ヲ通過セシムルヲ要スル処右ニ就テハ蔣介石軍隊トノ衝突共匪軍トノ戦闘ヲ免レス到底不可能ノ事ナリ只諸君ノ熱誠ハ充分汲ミ置クヘシトテ然ルヘク慰撫セシメ之ヲ退散セシメタル趣ナリ

右不取敢

公使ヨリ上海へ転報ヲ乞フ

支、北平、奉天、天津、南京へ転電シ香港へ暗送セリ

251

昭和6年11月21日　幣原外務大臣より在青島川越総領事宛（電報）

青島における日本人浪人等の策動取締りについて

本省　11月21日前2時30分発
第一一三号（暗）

青島ニ於ケル浪人等ノ策動取締ノ件

済南発本大臣宛電報第二五四号及貴電第二六六号ニ関シ満州事変ヲ我方ニ有利ニ収拾スル為メニハ支那ノ他地方殊ニ山東、京津等ニ於テ事端ヲ起ササルコト最モ必要ナルハ申ス迄モ無キ次第ナルカ貴地方居留民中今回ノ事変ヲ利用シテ山東懸案問題ヲモ解決セムトスル要望昂マリツツアルコトハ貴地居留民大会等ノ行動ニ照ラシ想像シ得ラルル所ニシテ特ニ国粋会等従来ノ言動ヨリ推シ此機会ニ貴地方面ニモ出兵セシメ実力援護ノ下ニ各問題ヲ望ム儘ニ片付ケムトスル野望ヲ逞シウシ居ル者無シトセサルヤニ察セラルル処最近満州青年連盟等ニ於テモ同様今次事件ノ善後策トシテ満蒙問題ノミナラス山東諸懸案ヲモ併セテ解決スヘキ旨各方面ニ対シ飛檄宣伝中ニシテ其間連絡アリヤ否ヤハ別問題トシテ之カ為メ貴地在留民中出兵ニヨリ何等利益ヲ予想スル分子ノ妄動及貴地方面ニ一騒動ヲ起シテ出兵ノ口実ヲ作ラムトスル一部浪人等ノ策動ヲ益々挑発スルノ惧アリト認メラル就テハ此点ニ付テ貴方ニ於テ充分留意警戒セラレ居ルコトハ良ク承知シ居ルモ冒頭済南来電ノ如ク支那側ニテモ神経ヲ尖ラシ居ル際ニモアリ今后共一層ノ注意ヲ以テ前記ノ如キ策動ヲ厳戒セラレ必要ニ応シ相当ノ弾圧ヲ加ヘラルル等ノ方法ニ依リ是等ノ分子ニ乗スヘキ機ヲ与ヘサル様鋭意御手配アリタシ

公使、北平、天津、済南、南京ニ転電セリ

関係電ト共ニ奉天ニ転電シ奉天ヲシテ在満各領事館ニ転電セシメラレ度

坊子、博山、張店、芝罘ニ暗送アリタシ

252

昭和6年11月21日　幣原外務大臣より在済南西田総領事宛（電報）

青島に保安隊派遣に関する韓主席への回答振りについて

本省　11月21日前2時30分発
第一八号（暗）

青島方面事態ニ関シ韓復榘ヘ回答ノ件

貴電第二五四号ニ関シ

保安隊青島派遣ノ件ニ付テハ大体青島発貴官宛電報第四六号末段ノ趣旨ニ依リ応酬シ置カルルコト然ルヘキ処中国側カ警察隊ノ配置ヲ如何ニスルカハ我方ニ於テ深ク詮議立スヘキ筋合ニ非サルモ過般天津事件ニ際シ同地保安隊カ正規軍ノ間ニ交リ我租界及軍隊ニ対シ再三敵対行動ニ出テタル経験ニ照ラシ若シ韓ニ於テ青島ニ保安隊ヲ派遣スルナラハ最モ素質訓練ノ良キモノヲ択ヒ其ノ任務ヲ充分徹底セシムルト共ニ我警察側トモ連絡協調ヲ保タシムルコト必要ナル次第ヲ懇切ニ注意シ置カルルノ必要アリト思考ス

坊子、博山、張店ニ暗送アリタシ

青島、公使、北平、奉天、天津、広東、南京ニ転電セリ

253　昭和6年11月23日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における学生抗日救国連合会の東北出兵請願運動について

別電　同日村井総領事より幣原外相宛第八四七号
学生抗日救国連合会より南京政府宛決議書

上海　11月23日後発
本省　11月24日前着

第八四六号（暗）

過日来馬占山後援義捐金募集運動ニ熱中シ居リタル当地官私立各大学生抗日救国連合会ハ出兵請願運動ノ為再ビ大挙南京ニ赴クコトニ付寄々協議中ナリシ処二十二日ノ代表等ノ会合ニ於テ要旨別電第八四七号ノ如キ政府ヲ非難セル政府宛電報決議ヲ発出スルト共ニ各学校ヨリ十名宛代表ヲ挙ゲ総数五百余名ガ二十四日南京ニ赴キ政府ニ請願スルコトニ決定シ又一般学生ハ之ニ応援ノ為同日ヨリ「ストライキ」ノ上示威游行ヲナス筈ナリトノコトニテ当局ハ前回ノコトモアリ之ガ阻止勧説ニ努メ居ルモノノ如キ処本件運動ハ一面排日ヲ目的トスルモノナルコト勿論ナルモ前記電報ノ文句其他ヨリ見ルニ現政府反対乃至国民党反対ヲ表明シ居ル点ニ於テ注意ヲ要スルモノト認メラル殊ニ最近天津方面ヨリ国家社会主義青年運動関係ノ学生十数名当地ニ来着シタルヤノ報道アリ当地青年学生等ノ間ニモ近時国民党反対熱相当勃興シ来リタルモノノ如ク過般共産党事件トシテ中国官憲ノ弾圧スル所トナリタル一大学ノ騒擾事件ハ実ハ三民主義ヲ否定シ孫文ノ肖像ヲ破棄セル等明カニ反国民党ノ運動ナリシ趣ナルト共ニ国民党一党専制ヲ非難スル論文ガ雑

誌ニ公然発表セラルル状態ナリ尤モ青年学生界ニ於ケル汪精衛ノ人気ハ依然衰ヘズ其言論思想ハ学生等渇仰ノ的タルニモ顧ミ本件学生運動ガ広東派一派ニ依リテ操ラレ居レリトノ観察ヲナスモノアリ

北平、奉天、天津、青島、済南、南京、広東、漢口へ転電シ支へ転報セリ

（別　電）

上海　11月23日後発
本省　11月24日前着

第八四七号

別電

上海各大学々生抗日救国連合会発南京政府宛電報要旨

九月十八日ノ事件以来当然責任アル筈ノ政府当局ハ単ニ鎮静ヲ期セヨトテ国民ヲ欺瞞シ国防ノ任ニアル軍人ハ敗北ヲコトトシ居リ東北同胞ハ夷狄ノ民ト化セントスルノ秋国権ヲ統フルトコロノ党ハ分前争ヒニ没頭シ軍ヲ指揮スル将官等ハ遊惰ニ流レツツアルノ実情ニ生等ハ黙視スルヲ得ス対内外策トシテ先ツ政府ニ質問セントス

㈠政府ハ出兵シ戦争スルノ決心アリヤ

㈡張学良ヲ処罰スル具体的手段ヲ考慮シ居ルヤ

右二点ニ就キ即答アリタク更ニ承知シタキハ

㈢馬占山ノ孤軍奮闘ニ対シ政府ハ実際的援助ヲ為シタリヤ

㈣人民ハ国家ノ主体ニシテ国民ニハ請願権アルモノナルニモ拘ラス政府ハ近来妄ニ人民ノ請願ヲ禁止スル命令ヲ発シ人民カ法律上享受シ居ル権利ヲ剝奪セル理由何処ニアリヤ

要スルニ国家存亡ノ秋国家ノ権利ヲ少数者カ壟断シ居ルハ不都合ナリ亡国苦痛ノ直接ノ被害者ハ彼等少数者ニハ非スシテ国民全体タルコトヲ思ハサルヘカラス各種ノ権利ヲ政府ハ勝手ニ国民ヨリ剝奪スルコトヲ得ヘケンモ国民生命ノ自衛権ハ政府ト雖奪フコト能ハサラン生等ハ前項ノ質問ニ対シ政府ノ満足ナル解釈ヲ得ラレサルニ於テハ政府自ラ国民ヲ見捨テタルモノト認メ一般民衆ト共ニ自衛ノ為ニ

㈠政権ヲ人民ニ返還スルコトヲ政府ニ要求シ

㈡罷税、罷工、罷課ヲ以テ対抗シ

㈢自働的ニ抗日本帝国主義団体ヲ組織スルコトノ計画ヲ進ムヘシ

前電通リ転電セリ

254　昭和6年11月23日　在上海田代公使館付武官より二宮参謀次長宛（電報）

中国側の排日に対する対抗策について

11月23日後6時0分発
11月23日後8時30分着

支第八七三号（其一―三）（秘）

満州事件発生以来揚子江一帯ニ於ケル排日ハ日ニ日ニ深刻化スル現状ニ於テ単ニ一片ノ抗議ヲ以テ之ヲ根絶セシムルカ如キハ到底不可能ナリトシ昨二十二日夜総領事官邸ニ於テ公使代理トシテ林出書記官、総領事、陸海軍武官及実業界ノ有力者七名相会シ時局特別委員会ナル名ノ下ニ之カ対策ヲ考究セリ席上北岡大佐及小官ハ此際南京政府ニ対シ前回警告ノ主旨ノ厳重ナル実行ヲ要求シ尚且言ヲ左右ニシテ応セサル場合ハ断然経済封鎖ヲ行ヒ蔣介石及之ヲ囲繞スル国民党ノ勢力ヲ揚子江一帯ヨリ駆逐スルノ外ニ手段ナシト主張セルモ外交官憲側及実業家側ハ経済封鎖ハ多少ノ武力ヲ行使セサルヘカラサルヲ以テ今直ニ之ヲ行フ時ハ列国ノ猜疑ヲ招キ折角好転セル国際連盟ノ空気ヲ悪化セシムル虞アルニ依リ先ツ支那側ノ経済絶交ニ対シ報復手段トシテ大連、営口、安東県及青島ノ税関ヲ差押ヘ以テ上海支那財界ノ「パニック」ヲ促進シ南京政府ノ財政的基礎ヲ破壊セシメ蔣駆逐ノ策ニ出ツルヲ可トスト主張シ今日以後其ノ専門的研究ヲ行ヒ近ク公使ヲ経テ外務大臣ニ対シ意見ヲ具申スルコトトナレリ

本報復手段ノ効果ハ排日ト内債ノ暴落ニ依リ殆ント破産状態ニ瀕セル上海金融界ニ対シ致命的打撃ヲ与フルモノニシテ銀行側ノ調査ニ依レハ其効果ハ現状ニ於テハ殆ント絶対的ノモノナル由尚昨二十二日特別委員会ニ於テ外務大臣ニ対シ連盟ノ調査委員ノ調査ハ単ニ満州ノミニ止マラス支那全般ニ亘リ之ヲ行フヲ要スル旨ノ意見ヲ具申スルト共ニ上海ニ於テハ官民連合シ支那カ断シテ近代国家形式ヲ具ヘサルコト及国民政府現出以来ノ条約無視ノ状況ヲ暴露スル為所有材料ヲ蒐集スルコトニ決議シ直ニ之ニ著手スルヲ以テ若シ之ニ関スル材料アラハ至急送付アリタシ右参考迄奉天スミ

255　昭和6年11月(24)日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

「在支全日本人大会」の開催計画等上海日本人居留民団の動静について

上海
本省　11月24日後着

第八四九号（暗）
本官発厦門宛電報
第九号
貴電第一三号ニ関シ

他地方ノ態度ハ分明セサルモ当地ノ関スル限リ民団又ハ民会トシテハ時局ニ関シ上海日本居留民大会及長江流域日本人連合大会当地ニ於テ挙行セラレ相当過激ナル決議ヲナシタルカ右大会ノ牛耳ヲ執リタルモノハ大体土着派トモ称スヘキモノニシテ所謂会社側ハ既ニ商工会議所ニ於テ外務大臣宛建議ヲナシタル次第モアリ傍観的態度ヲ持シ居タル処其後右大会ノ実行委員ハ山東居留民大会満州青年連盟等ヨリノ慫慂モアリ在支全日本人大会ヲ計画スルニ至リタルヲ以テ会社派側ニ於テハ彼等ノ為スカ儘ニ放置スルハ危険ナリトシ彼等ノ計画ニ参与シ之ヲ指導スルコトトナレルニ付右大会開催ノ上ハ相当権威アル決議出来上ルヘシト期待セラル右内密ノ御参考迄

大臣、福州、汕頭、広東、青島、済南、漢口へ転電シ公使へ転報セリ

256　昭和6年11月24日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における学生出兵請願代表団の南京行について

上海　11月24日後発
本省　11月24日後着

第八五一号（暗）
往電第八四六号（二五三文書）ニ関シ

学生出兵請願代表団ノ南京行ニ付テハ公安局、教育局、市党部等ニ於テ極力阻止ニ努メタルモ制止シ切レス四千六百余名ノ学生等ハ停車場ニ押掛ケ鉄道当局ヲ強制シテ遂ニ二十四日午後五時頃ヨリ臨時列車数列車ニテ当地ヲ出発セリ彼等ハ政府ヨリ満足ナル回答ヲ得ル迄頑張ルヘシト揚言シツツアル趣ナリ

尚示威運動游行ハ南京ハ約三千名、滬北ハ約五百名集リ二十四日午前中比較的平静裡ニ挙行セラレタリ

前電ノ通転電及転報セリ

257　昭和6年11月24日　在漢口坂根総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

重慶領事館引揚後の中国官憲との交渉等について

漢口　11月24日後発
本省　11月24日後着

第八二二号（暗）

重慶領事館引揚ニ先チ清野領事ヨリ同地官憲及在留民引揚者ニ対シ引揚後ニ於ケル同館事務ハ一切在漢口総領事ニ於テ兼弁スヘキ旨通告セル次第ハ曩ニ同領事提出ノ引揚報告書ニ依リ御承知ノ通ナル処其後当地ニ重慶領事館仮事務所開設ヲ見タルモ引揚ニ伴フ残務整理ヲナスノミニテ往電第八〇三号及第八二〇号ノ如キ事件発生ノ場合ニモ差当リノ措置トシテ当館ニ於テ処理スルノ外ナク従テ成ルヘク重慶官憲トノ直接交渉ヲ避ケ便宜本官ニ於テ当地行営主任何成濬ヲ動カシ劉湘若ハ重慶市長ニ伝達セシムルコトニ努メ居レルカ将来場合ニ依リテハ進ンテ重慶官憲ト直接交渉ヲナス必要モ予想セラルル此ノ際（現ニ重慶市長ヨリ反日会ニ監禁セラレタル邦人ノ身分証明方電報ヲ以テ照会ニ接シ不取敢回電セル例モアリ）建前ノ問題トシテ多少疑義ナキ能ハス他方当地ニ於ケル成都総領事館仮事務所モ自然近ク閉鎖トナルヘキニモ鑑ミ其辺ニ関スル本省ノ御方針其他本官トシテ心得置クヘキ条々至急電報ヲ以テ御回示相仰キ度シ公使、北平、南京ニ転電セリ

258　昭和6年11月25日　在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海学生請願団の南京到着について

南京　11月25日後発
本省　11月26日前着

第七八三号

上海発閣下宛第八五一号（二五六文書）ニ関シ

上海学生請願団約六千名ハ四箇列車ニテ本二十四日午後下関着一部ハ市街鉄道ニテ一部ハ徒歩ニテ城内ニ入リ中央大学其他ニ分宿セルカ彼等ハ頻リニ打倒日本帝国主義ヲ高唱セリ

尚其学生輸送ノ列車延着セル為今朝七時二十三分到着スヘキ昨夜上海発特急ハ午後四時過漸ク到着セリ

支、北平、奉天、天津、漢口、広東、青島、済南、蘇州ヘ転電セリ

259　昭和6年11月25日　在蘇州川南領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

蘇州学生請願団の南京行について

蘇州　11月25日後発
本省　11月25日後着

第五五号（暗）

往電第五四号ニ関シ

学生請願団ノ赴京ニ付テハ県政府ニ於テ阻止セルモ効ナク男女中学十三校ノ学生約千五百名予定ノ通リ出発セリ

転電、転報先往電第五四号ノ通リ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

260　昭和6年11月26日　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海抗日会検査員の日貨抑留に対する特別法院の判決について

上海　11月26日後発
本省　11月26日後着

第八五四号

当地抗日会検査員ハ十一月十八日共同租界 Ningpo Road ノ支那人呉服店ヲ襲ヒ日貨販売ノ廉ヲ以テ店員二名ヲ拉致シ去リ其後多額ノ保証金ヲ徴シ釈放シタルカ越エテ二十二日検査員八名ハ同店ヲ再襲シ内四名ノ検査員ハ日本綿布計約千七百弗ノ商品ヲ強奪シ引揚ケタルモ残四名ハ急報ニ依リ駆ケ付ケタル工部局警察ニ逮捕セラレ強盗罪トシテ Special District Court ニ起訴セラレタリ右ハ従来外人方面ニ於テ工部局側ノ日貨抑留犯人ニ対スル措置振手緩シトノ非難アリシニ鑑ミ一般ノ注意ヲ惹キ殊ニ支那側新聞抗日会並ニ支那人納税者会ハ工部局警察カ抗日救国運動ニ干渉シ妄ニ抗日会員ヲ逮捕スルカ如キハ不法ナリトテ租界当局ニ申入レタル程ニテ該裁判ハ内外人一般ノ注目スル処ナリシカ二十五日法院ハ商品ヲ押収シタル事ハ明カニ不法行為ナルモ強盗罪ニハ該当セストシ二十弗ノ罰金刑ニ処シ二ケ年間執行猶予ノ判決ヲ下シ之ニ対シ工部局側ハ控訴スヘシトノ事ナリ尚右判決後傍聴ニ来レル多数ノ抗日会員等ハ法廷外ニ於テ工部局側外支人弁護士ヲ殴打セント犇メキ立チ

タル為弁護士等ハ警官ニ警衛セラレテ退去シ又抗日会ノ全会員ハ右被処分検査員ヲ出迎ヘ爆竹等ヲ鳴ラシテ「エンカレイジ」シタル趣ナリ
連盟ヨリ在米大使ニ転電アリ度シ
連盟、北平、奉天ヘ転電セリ
支、南京ヘ転報セリ

261 昭和6年11月(27)日 在青島川越総領事より 幣原外務大臣宛(電報)

青島への軍艦増派方要望について

青島 本省 11月27日後着

第二六八号(暗)
天津事件再発、錦州方面情勢逼迫ノ折柄ニモアリ且ハ当港在泊東北海軍部内ニモ内紛ヲ生シ居ルヤノ情報モアリ旁当方面情勢必スシモ楽観ヲ許ササル処二遣球磨及駆逐艦五隻ハ北支方面出動中ニテ当分帰港ノ望ナカルヘク従テ当港在泊我軍艦ハ駆逐艦二隻トナルヘキカ右二隻ノミニテハ支那側ニ対スル睨利カサルヤニ思考セラルルニ付事件予防ノ意味ヲ以テ今一隻位軍艦増派方御考慮相煩シ度シ右ハ当地駐在武官ヨリ二遣司令官ニ上申済ナルモ為念
公使、北平、南京、天津、済南ニ転電セリ

262 昭和6年11月27日 在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛(電報)

漢口の反日風潮について

漢口 11月27日後発 本省 11月28日前着

第八三一号(暗)
往電第八一七号ニ関シ
日本海軍ハ本月二十五日ヲ期シ武漢ヲ砲撃スヘシトノ謡言一時行ハレ相当人心ニ動揺ヲ来シタル模様ナリシカ其ノ後モ引続キ此種恐日的謡言盛ニシテ十二月六日ニハ長江各地ニ亘リ日本浪人暴動ヲ起スヘシトカ日本租界当局ハ七十五名ノ浪人ヲ以テ便衣隊ヲ組織シ九江長沙沙市宜昌等ニ放ツテ事ヲ起サシムル一方武漢ニ在リテハ専ラ米国人ヲ暗殺シテ米日両国ノ離間ヲ計ラントシツツアリ等ノ風説次々ニ伝ヘラレ当地中国人ハ為ニ著シク恐怖心ヲ増シ居ルヤニ見受ケラルル処軍警当局モ半信半疑ノ間ニ斯ル場合ヲ考慮シ之カ為ニモ一層警戒ヲ厳ニシ居ルモノノ如クナルカ民間ニテ

ハ強テ恐怖心ヲ紛ラハサントシテカ相変ラス対日宣戦、蔣介石ノ北上要求東北失地武力奪回、連盟脱退、連盟調査派遣員不要等ノ強硬論頻リニ行ハレ之等ハ直接漢字紙ノ論評等ニモ其ノ反影ヲ投シ居ル而已ナラス反日救国会ハ馬占山ニ慰労費五千元ヲ送金シテ其ノ奮戦振ヲ犒ハム事ヲ可決シ総商会ハ先年解散セラレタル商団兵(総商会専属ノ私兵)ノ組織ヲ計画シ曩ニ没収セラレタル武器渡下ヲ申請中ニテ教育庁ニ於テモ学生抗日義勇隊ノ統制ヲ試ミ其ノ訓練ニ当リ銃器ノ操作ヲ教ユルノ議ヲ進メツツアリ別ニ漢口市特別党部ハ漢口市義勇軍ヲ募集シタルニ応募者千七百名ニ達シ昨二十六日市立病院ニ於テ体格検査ヲ施シタル有様ニテ時局来中国官民ノ神経ヲ尖鋭化シ居ル矢先錦州事件天津事件モ誇大ニ宣伝セラレツツアル為当地ハ表面官憲ノ取締相当行届キ居ル事屢次電報ノ通ニシテ中国街方面モ連日至極平静ナルカ如キモ共産党系不逞分子ノ策動モ時々耳ニスル所アリ旁一小事故ヨリ急ニ大事ヲ惹起スル危険鮮カラス概シテ容易ニ安心ヲ許シ難キ状態ナリト認ム為念
支、北平、南京、奉天、広東、済南、天津ヘ転電セリ
長沙、宜昌、沙市、九江、青島、鄭州ヘ暗送セリ

263 昭和6年11月27日 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)

来京学生の請願運動に対する国民政府の措置について

南京 11月27日後発 本省 11月27日後着

第七九〇号
往電第七八三号(二五八文書)ニ関シ
今回来京セル学生ハ既報ノ外北平、蘇州、無錫、常州、鎮江等ノ中学及大学生ヲ加ヘ約一万ニ達スル処彼等ハ当地学生ト共ニ二十六日朝国民政府ニ押掛ケ(一)蔣介石ノ至急北上(二)張学良ヲシテ功ヲ立テ罪ヲ贖ハシムルコトノ二項ヲ請願シタル処于右任学生代表ヲ引見シ政府ハ日本ニ対シ既ニ決心スル処アリ撤兵前ハ如何ナル交渉モセサルニ付安心スヘシト告ケ且午後軍官学校ニ於テ蔣介石ノ訓話アルニ付参集スヘシト言渡セルモ学生等ハ国民政府ニ請願ノ為来京セルモノナルニ付軍官学校ニ請願スル必要ナシトテ聴キ容レス飽迄蔣介石自ラ学生ノ面前ニ於テ前記請願ヲ承知セル旨署名スヘシト頑張リ中学生及女学生等ハ夕刻離京セルモ大学

生約二千名ハ夜ニ入ルモ退散セス政府ハ已ムナク学生ノ要求ニ応シ軍隊用毛布千五百枚ヲ貸与シ事務室三個ヲ空ケテ学生ヲ宿泊セシメタルカ二十七日ノ新聞ニ文官長ノ談話ノ形式ニテ大要左ノ如ク発表セリ

請願学生等ハ強力ヲ以テ汽車ニ乗込ミ駅員ヲ殴打シ其言辞激越ナルモノアリ来京後蔣主席ヨリ軍官学校ニ集マリ訓話ヲ聴クヘシト告ケタルモ聴キ容レス主席ニ対シ学生ノ面前ニテ誓約書ニ署名セシメントセルカ主席カ何時出発スルヤハ事機密ニ属シ他人ノ干渉スヘキ限リニ非ス若シ政府ヲ信任センカ政府ハ全権ヲ以テ処置スヘク若シ信任セサレハ之ニ答フル必要ナシ何ソ学生ノ為ニ脅迫ヲ受ケ署名スル道理アランヤ右学生ノ行動ハ国家ノ元首ヲ侮辱スルノミナラス全国民ノ人格ヲ侮辱スルモノナリ最近多数ノ反動的伝単発見セラレ又共産党ハ近ク南京ニ於テ事ヲ挙ケントスル陰謀アル趣ノ処少数ノ大学生等ハ反動派共産党及売国分子ノ指嗾ヲ受ケ悪辣ナル手段ヲ以テ政府ヲ苦境ニ陥レントスルモノナリ外患日ニ甚シキ時ニ当リ青年学生ハ愛国ノ動機ヲ他人ニ利用セラレサル様猛省スヘシ云々

尚当地軍警ハ右学生ノ行動ニ備フル為二十六日ハ当館ニ消防隊ヲ派シ昼夜警戒セルモ今迄ノ処何等事故ノ発生ナシ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、蘇州へ転電セリ

264 昭和6年11月28日 在天津桑島総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

天津における内地、大連方面および租界内への避難者数について

天津 11月28日後発
本省 11月29日前着

第六二八号（暗）

二十六日事件再発後内地或ハ大連方面ニ引揚ケタル邦人四十七名又我租界内ノ安全地域ニ避難シタルモノ四百八十五名ナリ

支、奉天、北平へ転電セリ

（欄外注記）
（欄外注記）
婦女子ヲ区別スル位ノコトヲ為サヌハ困ツタモノ也

265 昭和6年11月(29)日 在上海村井総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

上海における最近一月間の邦人に対する暴行

事件件数、被害者数について

上海
本省 11月29日前着

第八六二号
往電第七二三号（二〇七文書）ニ関シ

十月十九日ヨリ十一月十八日迄ノ㈠邦人ノ支那人ヨリ受ケタル暴行迫害侮辱事件ハ百四十九件（九月十九日以来ノ累計二百五十件）ニシテ被害者二百十七名（累計五百四名）ナリ又此ノ外ニ㈡児童生徒ノ通学途上ノ被害者百五十三名（累計五百四十七名）アリ

公使ニ転報シ連盟ニ転電セリ

266 昭和6年11月30日 在北平矢野参事官より 幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室構内における爆弾炸裂事件について

北平 11月30日前発
本省 11月30日前着

第六九七号（暗）

二十九日午後六時半当地海軍武官室構内ニ何者カ爆弾（一個）ヲ投入シ弾丸ハ玄関前地上ニ炸裂シ地下三寸余掘レタルカ損害トシテハ破片カ付近物置ノ窓硝子ヲ破リタル外他ニ無シ目下支那側警察ハ犯人厳探中ナリ本官ハ即刻鮑公安局長ニ対シ在留民ノ生命財産保護方ニ付厳重注意ヲ喚起シ置ケリ

支、南京、天津、奉天へ転電セリ

267 昭和6年11月30日 在北平矢野参事官より 幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室構内爆弾事件の善後措置に関する公安局長との話合について

北平 11月30日後発
本省 12月1日前着

第七〇一号（暗）
往電第六九七号（二六六文書）ニ関シ

一、三十日鮑公安局長自ラ来訪シ当面ノ責任者トシテ鄭重ニ遺憾ノ意ヲ表シ且天津事件等ノ関係モアル故此際成ル可ク穏便ニ取計方切望ノ旨述ヘタリ

二、次テ聞ク所ニ依レハ貴方或方面ニテハ本事件発生セル上ハ最早支那側警備ニ信頼シ得サルカ故日本側ニ於テ直

接在留日本人保護ノ方法ヲ講スル要アルヘシトノ意見モアル由ナルカ（此点部外極秘）貴官ニ於テ果シテ右様意向ヲ有セラルル次第ナリヤト問ヒタルニ付本官ハ之ヲ否定シ当方トシテハ従来同様居留民ノ保護ニ付テハ飽ク迄貴官ノ誠意ト努力トニ俟チ居ルモノナルニ付本事件ニモ顧ミ此後一段ノ御努力切望ニ堪エス将来同様ノ事件発生センカ居留民保護ノ責任上本官ノ立場極メテ困難トナルヘシト述ヘタル処局長ハ将来一層努力シ貴官ノ御期待ニ添フヘク目下公安局ニハ一万ノ軍警アルヲ以テ更ニ二百名（合計六百）ヲ日本在留民ノ保護ニ振向ケ保護ノ完璧ヲ期スルコトトスヘキニ付（本夕既ニ実行済ミ）自分ノ誠意ヲ諒解セラレタク自分ハ奉天事件発生以来粉骨砕身北平ノ治安維持ニ当リ居レルカ若シ日本側ニテ本事件ノ為自分ヲ信用セラレストナラハ自分ハ引責辞職ノ外ナシト繰返シ述ヘタリ依テ本官ハ同局長従来ノ努力ヲ多トシ居リ此際其辞職ヲ希望スルカ如キ意思ハ毛頭ナキ旨答ヘタリ

三、本件ハ投弾ノ場所カ海軍武官室（交民巷外）ニテモアリ軽々シク取扱フコトハ勿論不可ナルモ之ヲ重大化スルニ於テハ自然公安局長ノ辞職トナリ居留民モ立騒クニ至ルヘク結局当方面ノ治安ニ好マシカラサル影響ナシト云フヘカラス

就テハ公安局長ニ於テ既ニ本官ニ対シ遺憾ノ意ヲ表シ又犯人ノ捜査ニ厳重手配済ミノミナラス事件ノ再発防止ニ付テハ既ニ措置ヲ講シ居ルコトニモアリ政府カ問題ヲ北支方面ニ拡大セサル方針ニ鑑ミ本件ハ右公安局長ノ陳謝ヲ以テ終結セシムルコト然ルヘシト思料セラルル処右ニテ差支ナキヤ何分ノ儀御回示アリタシ

支、南京、奉天、天津へ転電セリ

268 昭和6年11月30日 在北平矢野参事官より ※幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室構内爆弾事件の軍側陰謀説について

北平 11月30日後発
本省 12月1日前着

第七〇二号（暗、部外絶対極秘）

谷局長ヘ

大臣宛往電第七〇一号（二六七文書）ニ関シ

投弾犯人ハ目下ノ処全然不明ナルカ左ノ諸点為念報告ス

一、三十日公安局長ハ館員ニ対シ過般来日本側ハ海軍武官室ニ爆弾ヲ投シ又ハ公使館門前ニ放火シ問題ヲ起スヘシトノ聞込アル旨語レリ

二、当館警察官ノ聞込ニ依レハ軍側ハ海軍武官室ヲ以テ事ヲ起スニ最恰好ノ場所ナリト称シ居タル由

昨夜事件直後駆付ケタル日本憲兵ハ現場ニテ日本製雷管様ノモノヲ拾ヒ之ヲ隠匿シ（当館警察官ノ現認）居合セタル支那警官モ之ヲ知リ居ル筈

公使ヘ転電セリ

269 昭和6年12月1日 在北平矢野参事官より 幣原外務大臣宛（電報）

海軍武官室構内爆弾事件に関し同武官官舎に護衛兵派遣制止方について

北平 12月1日後発
本省 12月1日後着

第七〇三号（暗、大至急部外絶対極秘）

本官発天津宛電報

第八一号

今次爆弾事件ニ付テハ関係者側ニ於テ頗ル強硬ノ態度ヲ持シ歩兵隊ニテハ支那街ニ在ル海軍武官官舎ヲ護衛兵ニ機関銃ヲ持タセ警備スヘシト称シ居ル処之カ為却テ危険ヲ誘発スルノ虞アルニ付本官ヨリ必要ニ応シ当館警官ヲ派スルコトトシタキ旨ヲ説得中ナルモ或ハ本官ノ不承諾ニモ拘ラス其挙ニ出テ兼ネマシキ気配アルニ付香椎司令官ヨリ本官トノ諒解ナキ限リ歩兵隊ノ公使館区域外行動制止方至急貴官ノ御配慮相煩ハシ度シ

大臣、公使ニ転電セリ

270 昭和6年12月（1）日 在漢口坂根総領事より 幣原外務大臣宛（電報）

日清汽船買弁および斎藤漆公司宜昌出張員の釈放について

漢口
本省 12月1日前着

第八三七号

往電第八二〇号ニ関シ

何成濬ヨリ早速劉湘ニ対シ本官申入ノ通日清汽船買弁ヲ直ニ釈放シ日清ノ業務ニ再ヒ妨害ヲ加フヘカラサル旨反日会

ニ厳命方「電命」シタル旨回答越セリ因ミニ曩ニ重慶反日会ニ抑留セラレ居タル当地斉藤漆公司宜昌出張員モ重慶市長ノ斡旋ニ依リ一昨二十八日無事当地ニ帰還セリ
冒頭往電ノ通転電暗送セリ

271 昭和6年12月1日 在蘇州川南領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

上海反日救国会において日貨封存実行について

蘇州 12月1日後発
本省 12月1日後着

第五六号（暗）
当地反日救国会ニ於テハ日貨抵制ノ徹底ヲ期スル為曩ニ日貨封存ヲ決議セルモ商人側ノ延期請願アリ実行ノ運ニ至ラサリシカ愈々十二月一日ヨリ之ヲ実行スルコトトナリ八日迄ニ完了之ニ応セサルモノハ奸商条例ニ依リ処罰セラレ封存日貨ニ対シテハ検査ヲ行ヒ右検査ニハ学生ノ援助ヲ求メ（中等学校十四校ノ学生参加）反日会員ト共ニ共同動作ヲ執ルコトトナレリ
支ヨリ上海へ転報アリタシ
支、南京へ転電セリ

272 昭和6年12月1日 在北平酒井中国公使館付武官補佐官より 左近司海軍次官他宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件について

12月1日前1時10分発
12月1日前6時48分着

第一一二番電
北平情報
一、本三十日午後八時天津ヨリ北平帰著
二、爆弾ノ投下セラレシハ玄関前ノ広庭ニシテ右側自動車庫ノ硝子大破ノ外損害無キモ破片散乱ノ痕跡ハ長サ約十八米幅約十五米ニ亘リアルヲ以テ相当大ナル爆弾ナリシト判断セラル
三、支那側ニ対スル我要求条件ハ当武官室ノ性質上頗ル大ナルヲ以テ領事館トモ協議ノ上決定セントス
三十日午後十時
（編注）本電報は、左近司海軍次官のほかに「次長、佐鎮参謀長、一、二遣司令官、馬要司令官、在支各地武官」に発電された。

273 昭和6年12月2日 ※在上海重光公使より 幣原外務大臣宛（電報）

九江および南昌における排日運動再燃について

上海 12月2日前発
本省 12月2日前着

第一三六一号（暗）
九江発本使宛電報
第九七号
大臣へ転電アリタシ
第一二五号
九江及南昌ニ於ケル排日運動ハ漸次下火トナリ最近一ケ月間ハ極メテ平穏ニ経過シタルカ北方ニ於ケル馬占山ノ敗退及国際連盟ニ於ケル支那側ノ形勢不利等ニ刺戟セラレ数日来排日再燃ノ兆候アリ尤モ九江ハ当局者ノ取締宜敷シキヲ得居ル為目下ノ処左シタルコト無キモ南昌ニ於テハ各種排日団体ノ日貨検査取調厳重トナリ日々六組ノ検査員ヲ市内外要所ニ派シ日貨ノ出入ヲ監視セシメツツアル処偶々両三日前一支那商カ夜陰ニ乗シ本邦製塩酸ヲ輸入シタルヲ発見セラレ抗日救国会ヨリ四割金五千元ヲ課セラレタル上亡国奴ノ標本トシテ市中目抜ノ大通ヲ引廻ハサレ（各種排日団体及学生等游行参加人数約五千）更ニ三日間檻ニ押シ込メラレ見世物トセラレタルカ如キ事件アリタルカ今後ニ於ケル連盟ノ形勢及北方ニ於ケル軍事ノ展開如何ニ依リテハ更ニ排日運動深刻化スルモノト観測セラル
上海へ転報アリタシ
漢口へ転電シ南京、蕪湖、長沙へ暗送セリ

274 昭和6年12月2日 在北平矢野参事官より 幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室構内爆弾事件解決のため海軍省と打合せ方依頼について

北平 12月2日前発
本省 12月2日前着

第七〇四号（暗、大至急）
往電第七〇一号(1)（二六七文書）ニ関シ
三十日天津ヨリ帰平セル海軍輔佐官ハ本件ヲ非常ニ重視シ㈠当方面ニ於ケル海軍最高武官タル副司令ノ陳謝㈡当該責任者ノ処罰㈢犯人ノ捜査及厳罰㈣損害賠償（留保）等ヲ要

求スルノ必要アル旨ヲ当局ニ電報シ陸軍側モ亦頗ル強硬ノ意見ヲ有スル模様ナリ

本官トシテハ諸般ノ事情ニ顧ミ此際ハ枉ケテ冒頭往電末段ノ程度ニテ解決スルコト機宜ニ適スト思考セルモ前記ノ如ク各方面ノ極メテ強硬ナル態度ニ顧ミ此際更ニ何トカ至急措置セサルニ於テハ如何ナル大事件勃発スルヤモ計ラレサルニ付（本官発天津宛電報第八一号）一日夜八時学良ニ面会シ本件ハ公使館官舎ニ起リタル問題ニシテ其ノ性質極メテ重大ナルノミナラス之ヲ速ニ解決スルニ非サレハ真ニ面倒ナル空気ヲ醸成スル虞アルヲ以テ何等カ貴方ニ於テ誠意アル態度ヲ示サルルコトト致度之カ為ニハ副司令ヨリ陳謝ノ要アリト懇々述ヘタル処学良(2)ハ若シ斯ノ如クナラハ爆弾ノ性質及何人カ投ケタルヤニ付取調ヘ其責任ノ所在ヲ明カニスル必要アリ場合ニ依リテハ貴方ニ不利ナル結果ヲ齎ラスヤモ計リ難キ旨頑強ニ主張シ容易ニ承服セサリシカ本官ヨリ天津及錦州問題カ漸ク解決セントシ当方面ノ空気モ次第ニ緩和セラレントスル此際本件解決不能ナルニ於テハ貴我今日迄ノ努力カ水泡ニ帰スル虞アリ依テ此際些細ナル問題ヲ云為シ又体面等ニ拘泥スルカ如キコトナク大局上虚心坦懐ニ問題ノ急速解決ヲ図ル必要アル旨切言セルニ学良モ漸ク当方ノ意ニ従フコトトナリ明二日副司令部行営代表沈祖同（公使館ニ対シ）及海軍副官（海軍側ニ対シ）ノ二人ヲ当館ニ差向クルコトニ納得セシメタリ

右様ノ次第ナルヲ以テ海軍側要求第一項ハ明日学良側ニ於テ前記実行ノ場合ハ夫レニテ満足シ第二項ハ昨日公安局長自身ニテ来館陳謝シ第三項ハ目下手配中ナレハ本件ハ此程度ニテ解決ノコトニ海軍省ト御打合ノ上何分ノ儀御回示アリタシ

支、天津、奉天ニ転電セリ

275

昭和6年12月2日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室構内爆弾事件に関し軍関係の策動警戒について

北平　12月2日前発
本省　12月2日前着

第七〇五号（暗、極秘）
往電第七〇二号ニ関シ（二六八文書）

満州事件ヲ我方ニ有利ニ解決スル為北支方面ニ問題ヲ起サ

サルヲ必要トスルニ付テハ予テ御訓令ヲ受ケ居リ錦州問題及天津事件モ右大方針ニ基キ措置セラレ居ル次第ニテ本官トシテモ今日迄右御趣旨ニ基キ事件ヲ当方面ニ絶対ニ波及セシメサル様凡ユル努力ヲ為シ居留民ヲ慰撫シテ極力其自重ヲ促スト共ニ支那側当局者トハ最モ密接ナル連絡ヲ取リ万遺漏ナキヲ期シ居タル折柄不幸本件ノ勃発ヲ見タル次第ナルカ之カ内情ニ付テハ種々込入リタル事情アルヤニ思考セラルル処関係方面ニテハ之ヲ切掛ケトシテ少数部隊ヲ海軍武官室ニ派遣シテ何等カノ機会ニ事端ヲ醸サント計画シ居ルヤニ伝ヘラレ（天津宛往電第八一号）他方軍側ヨリノ聞込ニ依レハ今回満州事変ヲ支那事変ト改ムルコトトナリ自然従来ノ任務ニ変更ヲ来スコトトナリタルヤニテ旁天津方面ノ増兵ニ伴ヒ何時不幸ナル事件ノ再発ヲ見ルコトナキヲ保セサル情勢ニ在リ本官トシテハ此上共各方面ノ自重ヲ勧説スルハ勿論ノ儀ナルカ政府ニ於テモ此際関係ノ向ニ対シ夫々充分自重シ時局ヲ静観シ軽挙ヲ慎ム様厳重ナル訓令発出方至急御詮議ヲ得タク特ニ禀請申上ク（部外絶対極秘）

支、天津ヘ転電セリ

276

昭和6年12月2日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室構内爆弾事件に対し張学良より遺憾の意表明について

北平　12月2日後発
本省　12月3日前着

第七〇七号（暗、至急）
往電第七〇四号ニ関シ（二七四文書）

学良ハ二日午後五時本官ノ許ニ又同六時酒井海軍武官ノ許ニ副司令部行営総務処長代理沈祖同及同行営海軍中佐副官郭徳権（唯一ノ海軍武官）ヲ派シ学良ヲ代表シ夫々遺憾ノ意ヲ表セシメタリ（何レモ永津陸軍輔佐官列席）

支、天津、奉天ヘ転電セリ

277

昭和6年12月2日　在天津桑島総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件は日本人の所業との中国紙記事の影響について

天津　12月2日前発
本省　12月2日後着

第六五〇号（暗）

本官発北平宛電報
第六七号

本件ハ三十日ノ邦字新聞ニ簡単ナル記事現ハレタルカ其後貴方警察署長ノ電話ニ依リ掲載ヲ禁止シ居ル処一日ノ外支新聞ニハ何レモ報道アリ殊ニ庸報ハ右ハ日本人ノ仕業ナリトノ誠シヤカナル記事ヲ掲ケタルヲ以テ在留民殊ニ陸戦隊駐屯軍方面ニ於ケル憤慨甚シク相当ノ「センセイション」ヲ捲キ起シ居レリ御参考迄

大臣、在支公使、奉天、南京へ転電セリ

278　昭和6年12月2日　在天津桑島総領事より幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件解決に関する軍部の意向について

天津　12月2日後発
本省　12月2日後着

第六五一号（暗、至急極秘）

本官発北平宛電報
第六八号

貴電第八一号ニ関シ

御申越ノ次第ハ二日早朝大体司令官ノ諒解ヲ求メ置キタルカ其口吻ヨリ察スルニ仮令公使館区域危殆ニアルニモセヨ公使館ノ一部トモ認ムヘキ武官室ノ保護ニ当ルハ貴地歩兵隊当然ノ任務ニシテ保護ノ責任ヲ果ササル以上派兵ハ已ムヲ得サル義ナルモ若貴官ノ御配慮ニ依リ此際出来得レハ文書ヲ以テ最高責任者ノ陳謝及将来ノ保障ヲ取付ケ得ルニ於テハ何モ事ヲ荒立ツル必要モナカルヘシトノ意向ナルヤニ看取セラレタリ

本件解決方ニ付テハ御如才ナキコト乍ラ右様軍部ノ意向モアルニ付御参考迄

大臣、奉天へ転電セリ

279　昭和6年12月2日　在天津桑島総領事より幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室への派兵を制止し得る条約上もしくは法律上の根拠について

天津　12月2日後発
本省　12月3日前着

第六五六号（暗）

本官発北平宛電報

第六九号

往電第六八号（二七八文書）ニ関シ（部外極秘）

駐屯軍ニ於テハ万一学良ノ善後措置特ニ将来ノ保証満足ナラサル場合ハ職責上已ムヲ得スハ武官室ニ派兵スルコトトナル筋合ト思料セラルルニ付其際ハ北平ノ現有兵力ヲ顧念シ当地ヨリ一個小隊位増兵スルコトモアリ得ヘキ旨幕僚ヨリ館員ニ洩シタルヲ以テ事態ヲ静観アリタキ旨一応自重ヲ促シ置キタル由ナルカ右派兵及増兵ヲ制止シ得ヘキ条約上若ハ法律上有効ナル根拠アラハ折返シ御回電アリタシ

大臣、公使へ転電セリ

280　昭和6年12月3日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件解決に関し張学良より文書での回答取付方について

北平　12月3日後発
本省　12月3日後着

第七〇九号（暗、至急）

往電第七〇四号（二七四文書）ニ関シ

陸海軍輔佐官トモ協議ノ上二日学良宛左記趣旨ノ公文ヲ送リ文書ヲ以テノ誠意アル回答取付方折角努力中ナリ

去月二十九日午後七時頃在丁香胡同日本公使館付海軍武官官舎ニ爆弾ヲ投擲セル者アル処本件ハ事件発生場所ノ性質上極メテ重大事件ナリ本件措置方ニ関シ目下帝国政府ニ請訓中ニテ追テ何分ノ儀改メテ申入ルヘキモ不取敢茲ニ本件ノ重大性ニ付貴副司令ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルト共ニ貴副司令ノ誠意アル態度ヲ表示セラレンコトヲ要望ス

支、奉天、天津へ転電セリ

281　昭和6年12月3日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件に関し厳秘扱方について

北平　12月3日後発
本省　12月3日後着

第七一〇号（暗、大至急）

往電第七〇九号（二八〇文書）ニ関シ

学良ヨリ文書取付ケノ都合モ有ルニ付本件ノ内容ハ勿論右文書往復ノ事実ヲモ絶対ニ外部ヘ発表セラレサル様致度シ

支、奉天、天津へ転電セリ

282　昭和6年12月3日（3日）　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平公使館に応援巡査派遣について

北平　12月3日後着
本省

第七一一号（暗、至急）

今次爆弾事件ニ引続キ軍部今後ノ態度ニ付テハ尚極メテ関心ヲ要スルモノアリ（此ノ点極秘）又支那側不良分子ノ不測ノ行動モ懸念セラレ当館警察ヲシテ支那警察トモ連絡ヲ執リ日本人関係ノ目ボシキ場所ニハ特ニ警護ヲ厳ニシ此ノ種事件発生ノ際ハ直ニ之ヲ鎮圧シ得ル様鋭意努メ居ル処目下当館ニハ巡査五名外ニ赤峰巡査二名計七名ニテ充分所期ノ目的ヲ達シ得ザルノミナラズ万一事件発生ノ場合居留民保護ノ見地ヨリスルモ此ノ際ニ、三週間ノ予定ニテ十名内外ノ応援巡査派遣方大至急御配慮相煩シタシ

（欄外注記）
青島ヨリ天津ニ応援中ノ六名ヲ其儘北平ニ進出応援方岩崎領事ト協議スミ
十二月四日

支、天津へ転電セリ

283　昭和6年12月3日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室への派兵制止上の根拠および爆弾事件に関する善後措置について

北平　12月3日後発
本省　12月4日前着

第七一二号（暗、部外絶対極秘）

本官発天津宛電報

第八四号

貴電第六九号ニ関シ

我カ歩兵隊ノ増派及海軍武官室ヘノ派出ヲ制止シ得ヘキ条約上ノ根拠ニ付テハ目下研究中ナルカ本官差当リノ考トシテハ前者ニ付テハ制限ナク後者ニ付テハ義和団事件ニ関スル連名公書第七条及最終議定書第七条等ニ鑑ミ篤ト研究ヲ要スルカ如シ何レニスルモ

一、大局上当方面ニ紛糾ヲ発生セシメサル為ナラハ却テ我兵ノ市中出動セサルコト望マシキハ往電第八一号申進ノ通ニシテ

二、支那側ノ本事件発生後邦人ノ保護振ハ一層厳重ニシテ現ニ二日午前二時市中ヲ巡視セル陸軍輔佐官モ支那側警

備ハ相当周到ニシテ不逞ノ徒ノ活動モ或ハ不可能ナルヘシト云ヘル位ナリ

三、又貴電第六八号ニ関シテハ既ニ学良ニ於テ人ヲ派シ陳謝ノ意ヲ表セシメタル次第ナルカ更ニ大臣宛往電第七〇九号ノ通文書ヲ以テ学良ノ誠意アル回答要求中ナルカ右回答ハ可成司令官希望ノ趣旨ニモ副ヒ得ル様努力シ居レリ

四、尚現在居留民ハ天津及錦州方面ノ事態ニ顧ミ案外落付キ居ル模様ナルモ此ノ際保護ノ周到ヲ期スル意味ニテ我方警官ヲ督シ支那側ト相呼応シテ事端ノ発生防止ニ付出来得ル限リ努力中ナリ（大臣宛往電第七一一号参照）

以上ノ次第貴官限リ御含ノ上此ノ上トモ然ルヘク御配慮ヲ得度シ

大臣、支へ転電セリ

284　昭和6年12月3日　在広東須磨総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

広東における排日取締につき陳友仁に申入れについて

広東　12月3日前発
本省　12月3日後着

第六八一号（暗）

二日会見ノ際陳友仁ニ対シ当方面ノ排日気勢ハ依然潜行的ニ行ハレ何等改マラサル而已ナラス第一集団軍ノ如キハ無法ニモ邦人発受ノ電報ヲ押収シ先般之ヲ緩和スル実行弁法ヲ協定シタルニ拘ラス更ニ之ヲ無視シテ今尚不法措置ヲ続行シ居ルカ如キ将又最近数日間ニ報道セラレタル各要人ノ演説並ニ「インタービュー」ハ著シク反日的トナリ本官深ク憂慮ヲ続ケ居ル折柄当政府ニハ実質的ニ一種ノ政変アリ此ノ形勢ニテ進マハ和平代表一行ノ離広後ハ右気勢或ハ一層露骨トナルヤヲ恐ルル次第ナルカ実効アル取締出来間敷ヤト尋ネタルニ陳ハ実ハ上海和平会議中南京代表殊ニ張継ノ如キハ当政府ノ親日的ナルヲ詰リタル事アリ自然馬超俊等カ相当党方面ニ排日気分ヲ煽リタル事実アルハ自分モ耳ニシ居ル処ナルカ御申出ノ次第ニ付テハ自分ヨリ胡漢民ニ話シ済棠ニ右気運取締方篤ト申聞ケシムル事トスヘシ済棠ハ今ノ所過般来ノ遣リ過キニ余程参リ居レハ多分効果アルヘシト思考スト述ヘ居タリ

支ヨリ上海へ転報アリ度シ

支、北平、奉天、天津、南京へ転電シ香港へ暗送セリ

285　昭和6年12月3日　幣原外務大臣より在米国出淵大使宛（電報）

雲南居留日本人等引揚に際しての米国官憲の尽力に対する表謝について

本省　12月3日後9時発

第二八六号（暗）

雲南在留民等引揚ノ際ニ於ケル米国官憲ノ厚意ニ対シ表謝方ノ件

過般雲南帝国領事館及居留民ノ引揚ニ際シ米国出先官憲ヨリハ左ノ如ク種々厚意ヲ受ケタルカ右ニ対シテハ在支公使ニ於テ既ニ米国公使館ニ一応表謝済ナルモ貴官ヨリモ適当ノ機会ニ於テ貴任国政府ニ対シ公文ヲ以テ謝意ヲ表シ置カレタシ

一、十月四日米国領事ハ橋丸事務代理ヨリ重光公使宛請訓電報ヲ在支米国公使館経由取次ノ労ヲ執レリ

一、在支米国公使館ハ十月七日重光公使発橋丸事務代理宛領事館引揚ニ関スル訓令ヲ雲南米国領事経由取次キタリ（右ニ対シテハ在北平矢野参事官ヨリ米国公使館へ重光公使ノ謝意伝達済）

一、米国領事ハ十月四日橋丸事務代理ニ於テ居留民ノ引揚ニ関シ仏国領事ト至急面談ノ要アリシモ危険ニシテ公安隊ヨリ外出ヲ止メラレ居リ加フルニ電話不通トナリ困却シ居タル際直ニ仏国領事ヲ訪ヒ来館方伝達ノ労ヲ執レリ

参考トシテ支、北平、雲南へ転電セリ

286　昭和6年12月3日　幣原外務大臣より在仏国芳沢大使宛（電報）

雲南居留日本人等引揚に際しての仏国官民の尽力に対する表謝について

本省　12月3日後9時発

第二〇五号（暗）

雲南在留民等引揚ノ際ニ於ケル仏国官民ノ厚意ニ対シ表謝方ノ件

過般雲南帝国領事館及居留民ノ引揚ニ際シ同地方仏国官民ヨリ左ノ如ク種々厚意ヲ受ケタルカ右ニ対シテハ在支公使館ニ於テ既ニ仏国公使館ニ一応表謝済ナルモ貴官ヨリモ貴任国政府ニ対シ公文ヲ以テ謝意ヲ表シ置カレタシ

一、帝国領事館ノ記録一切ハ九月三十日夜仏国領事館ニ寄

託セリ

一、十月三日夜反日群集ノ暴行ニ当リ邦人森永秀助ハ一仏国人（氏名未詳）ノ住宅ニ匿ハレ危難ヲ免レタリ

一、在雲南仏国領事「レヴィ」氏（Daniel Lévi）、副領事ガンドン氏（Armand Gandon）、雲南鉄道副社長「レコルセー」氏（L. Lecorché）及同鉄道監督「ピブロー」氏（F.Pibouleau, Chef d'arrondissement）ハ十月五日在留民引揚ノ為特別列車ヲ仕立テ雲南老開間ハ特ニ夜間ヲモ運行セシムル等帝国領事ノ相談ニ応シテ種々斡旋ノ労ヲ執リ引揚在留民ノ国境通過等モ逐次我方ニ通報越セリ

一、居留民引揚ニ当リ数百ノ支那人群集停車場ニ集リ形勢不穏トナルヤ仏国領事及副領事ハ支那側ニ通報シテ憲兵百名ヲ派遣セシメタリ

一、事変以来支那官憲ハ同地領事宛公私電報一切ヲ差押ヘタル為不安甚タシカリシカ香港日本人襲撃事件其他各種情報ハ専ラ仏国領事ヨリ供給セラレタリ

一、仏国領事及仏領印度支那総督府ハ累次帝国領事ト在河内帝国総領事トノ間ノ電報取次ノ労ヲ執レリ

一、十月八日在支仏国公使ハ在北平帝国公使館参事官ニ対シ雲南在留邦人カ仏国領事ノ斡旋ニヨル特別車ニテ印度支那ニ安着セル旨ヲ通報越セリ

287　昭和6年12月3日　幣原外務大臣より在北平矢野参事官宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件解決方について

第一一二号　暗、至急

北平爆弾事件解決方ニ関スル件

貴電第七〇四号（二七四文書）ニ関シ

事件後ニ於ケル支那側ノ措置ハ相当誠意アルモノト認メラルルモ本件ニ付穏和ナル態度ヲ示スコトハ我方ニ於テ何等弱味アルコトヲ自覚シ居ルカ如キ印象ヲ先方ニ与フル虞アリテ面白カラサルノミナラス主義上及将来ノ為ヨリシテモ貴電冒頭ノ条件ヲ実行セシムルコト必要ト認ムルニ付(一)学良ニ於テ貴官並ニ海軍武官ニ対シ陳謝シタル上ハ貴官ヨリ之ヲ了承スルト共ニ(二)当該責任者ノ処罰(三)犯人ノ捜査厳罰ニ付此上共先方ノ手配ヲ督励シ(四)損害賠償ヲ留保スル趣旨ヲ文書ヲ以テ申入レ先方今後ノ措置振ヲ監視スルノ態度ヲ執ラルルコトト致シタシ

冒頭貴電ノ通転電セリ

288　昭和6年12月5日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件に関する張学良の回答取付について

別電　同日矢野参事官より幣原外相宛第七一五号
右張学良の回答について

北平　12月5日前発
本省　12月5日後着

第七一四号（暗）
往電第七〇九号（二八〇文書）ニ関シ
我方公文ニ対シテハ種々先方ヲ説得シ四日別電第七一五号ノ通回答ヲ取付ケタリ
貴電第一一二号御来示ノ各項ハ早速文書ヲ以テ申入ルヘキモ本官ノ裁量ニ依リ将来ノ保障一項ヲ追加シ置ク筈（天津発本官宛電報第六九号参照）而シテ当方要求各項中陳謝、犯人ノ捜査処罰、将来ノ保障ニ付テハ右先方回答ヲ以テ大体充分カト認メラルル処責任者ノ処罰ニ関シテハ此ノ際当方ニ於テ余リ厳酷ニ追窮スル時ハ結局鮑公安局長ノ辞職トナルヘク然ルニ同人ハ累次電報ノ通当方面ノ治安維持ニハ従来トモ誠意之ニ当リ内外人一般ノ信望ヲ聚メ居ルノミナラス本事件ニ付テハ支那側ニテ既ニ相当誠意ヲ示シ居リ本人モ事件突発後直ニ本官ヲ来訪陳謝セル次第ニモアリ此ノ点ニ付テハ出来得ル限リ寛大ノ取扱ヲナスコトト致シ度シ尚別電先方回答ハ学良ニ於テ種々困難ノ立場ニ顧ミ其ノ儘発表セラレサル様懇請シ居ルヲ以テ若シ必要アラハ事件解決ノ際関係諸文書ノ内容ヲ然ルヘク摘録シ発表スルコトニ願ヒ度シ
公使、奉天、天津へ転電セリ

（別　電）

北平　12月5日前発
本省　12月5日後着

第七一五号
別電（発表御見合セヲ請フ）
本月二日付貴翰ヲ以テ十一月二十九日午後七時丁香胡同貴公使館海軍武官官舎内ニ発生セル爆弾事件ニ付御申越ノ趣閲悉セリ査スルニ軍警ノ厳重ナル保護下ニ在リテ猶酒井武官官舎内ニ之等不祥事件発生セルハ本副司令ノ深ク遺憾トスル所ナリ就テハ右犯人ヲ厳密捜査逮捕ノ上厳重処分スルハ勿論ナルカ既ニ北平市公安局長鮑毓麟ニ命シ親シク貴公使館ニ赴キ遺憾ノ意ヲ表セシメ並本月一日本行営総務処副処長沈祖同、本行営海軍中佐副官郭徳権ニ命シ本副司令ヲ代表シテ貴官及酒井武官ヲ往訪セシメタリ爾後北平在留日本人民ノ生命財産ニ対シ従来通保護ヲ加フルハ勿論武官ニ対シ注意ヲ加倍スヘキヲ嘱令シ以テ之等意外ナル事件ヲ再発セシメサルヲ所期ス右回答ス
支、奉天、天津へ転電セリ

289　昭和6年12月5日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

天津よりの増遣隊と赴京請願学生団との衝突の危険について

北平　12月5日後発
本省　12月5日後着

第七一七号（暗、大至急）
五日午後三時半軍側ノ報告ニ依レハ天津ヨリ歩兵一ケ小隊ト若干ノ砲兵午後二時天津発当地ニ向ヒツツアル由ナルカ当方面ノ停車場一帯ニハ昨夜来赴京請願団ノ学生二千余名軌道上ニ集合シ当局ノ慰撫モ聞カス為ニ汽車モ不通ノ状態ニ在リ我方ノ軍カ強テ之ヲ通過セントセハ必然衝突ノ虞アリ目下極力衝突防止方努力中ナルモ形勢楽観ヲ許サス
支、南京、奉天、天津へ転電セリ

290　昭和6年12月5日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件要求事項列記の公文張学良に交付済について

北平　12月5日後発
本省　12月5日後着

第七一八号（暗）
往電第七一四号（二八八文書）ニ関シ
貴電第一一二号御来示ノ各項要求ヲ列記セル我方公文五日学良ニ交付済
公使、奉天、天津へ転電セリ

291　昭和6年12月5日　在北平矢野参事官より
幣原外務大臣宛（電報）

我が増遣隊と北京学生との衝突回避の見込について

北平　12月5日後発

本省　12月5日後着

第七一九号（暗、至急）
往電第七一七号ニ関シ（二八九文書）
軍側ニテ種々手配中ナルハ勿論支那側ニテモ鋭意尽力シ居ルニ付只今ノ処大体事態緩和シ得ル見込（午後六時半）
往電及本電共部外発表御見合ヲ請フ
支、南京、奉天、天津ニ転電セリ

292　昭和6年12月5日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

上海における対日経済絶交運動の状況について

上海　12月5日後発
本省　12月6日前着

第八八〇号（暗）
往電第八〇〇号ニ関シ
一、当地方ニ於ケル経済絶交運動ハ其ノ後引続キ抗日救済会等不法団体ノ厳密ナル監視検査脅迫等ノ手段ニ依リテ維持セラレ続行ヲ見ツツアリテ支那小貨物ノ抑留被害毎日数件ヲ下ラス邦商ハ何レモ新規取引皆無ニシテ僅ニ石炭紙類（紙類ハ新聞紙始メ印刷用紙ニシテ本年中ノ既約品ノミ来年度ノ契約皆無）等ノ必需品ニシテ既約品ノミノ受渡アルト麩ノ積出アルニ止マリ会社組織ノモノハ兎モ角個人営業者ハ益々困憊ノ度ヲ増シツツアリ
二、邦人紡績ノ製品ハ綿糸綿布トモ当地方ノ取引全然停止シ居リ満州北支那方面ヘノ「コンサインメント」又ハ印度方面ヘノ「ダンピング」ニ依ル販路開拓等ニ依リ十月中ハ出来高ノ綿糸約四割四分綿布約三割一分十一月中ハ綿糸約五割綿布約三割五分ノ処分ヲ為シ滞貨ノ軽減ニ苦心シツツアルモ印度向ハ為替相場ノ関係上本月中ハ軽減スル見込ニテ会社ニ依リ差異アルモ各工場共本月ニ入リテ休業日ノ増加（平常ハ一週間中日曜日ノ昼ノミ休ナリシヲ夜業ヲモ休トスル等）休錘ニ依リ平常ノ操業率ニ比ヘ最低約七分最高約二割三分方操業短縮ヲナシ兼ネテ不良分子ノ淘汰ヲ行ヒツツアリ
三、邦商銀行海運業貿易業者其他一般商人不況状態ハ別段変リナシ
四、日清汽船盧山丸カ特別検査ノ為客月下旬英国商ノ経営スル揚樹浦「ドック」（New Engineering and Shipbuilding work）ニ入渠セントセルニ同「ドック」支那人職工組合ノ為ニ妨害セラレ果ササリシニ依リ同シク英国商ノ Shanghai Dock and Engineering Co. ニ交渉シタルニ之亦支那職工ノ決議ニ依リ拒絶セラレタリ（往電第五七六号ノ㈢ノ江南「ドック」等ノ排日決議実行ノ適例ナリ）
連盟、北平、奉天、天津、青島、漢口
南京、広東ニ転電シ支へ転報セリ

293　昭和6年12月5日　在天津桑島総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

北平への増遣隊に関する天津駐屯軍当局の配慮について

天津　12月5日後発
本省　12月5日後着

第六六六号（暗）
本官発北平宛電報
第七二号
駐屯軍ニ於テハ東北軍内部ノ兵変ニ当リ居留民収容等ニ付万全ヲ期スル為当地ヨリ北平へ一個小隊ヲ増派スルコトトナリタルカ内外各方面ニ対スル影響ヲ考慮シ当分之ヲ発表セス又成ル可ク人目ニ付カヌ様連絡兵ノ如キ形式ヲ用ヒ二、三回ニ分チ送ル由ナルカ右ハ爆弾事件トハ全ク別個ノ考慮ニ依ル旨弁明シ居レリ
支ヨリ上海、南京ニ転報アリタシ
大臣、支、奉天ニ転電セリ

294　昭和6年12月5日　在天津桑島総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

北平への増遣隊の出発中止について

天津　12月5日後発
本省　12月5日後着

第六六七号（暗）
本官発北平宛電報
第七三号
往電第七二号ニ関シ
貴官発大臣宛電報第七一七号ノ情報ヲ得タルヲ以テ軍ニ於テハ出発ヲ中止セシメ状況ヲ見送ルコトトセリ
大臣、公使、南京、奉天ニ転電セリ

295　昭和6年12月5日　※在漢口坂根総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

沙市碇泊の軍艦勢多への投石事件に対する措置について

漢口　12月5日後発
本省　12月6日後着

第八五二号（暗）

沙市来電（暗送）第四四号（二十五日前）

昨二十四日午前十一時頃二名ノ支那少年河岸ヨリ軍艦勢多ニ向ヒ投石シ逃走セントシタルニ依リ直ニ水兵ヲシテ之ヲ追跡セシメ一名（十五才）ヲ捕ヘタル上（一名ハ遂ニ逃亡セリ）本官及艦長連名ヲ以テ郭警備司令ニ対シ右引取ノ為郭自身我軍艦ニ来ルヘキ旨通告シタル処郭ハ掃匪計画ニ関シ目下多忙ノ為自身来艦ナリ難キニ付部員ヲ派遣シ度キ旨申越セリ依テ再三押問答ノ結果副官ヲシテ郭ノ代表トシテ謝罪シタル公文ヲ所持来艦セシメタルニ依リ勢多艦長ト共ニ之ニ会見本官ハ右ノ如キ行為ハ日本ニ対スル無上ノ侮辱行為ナル事ヲ厳談シ且仮令投石者カ少年ナリトシテモ斯カル行為ヲ為スニ至リタル原因ハ支那朝野カ無智ノ民衆ニ対シ隠ニ好マシカラサル反日風潮ヲ煽動シツツアルカ為ナリト看做スヲ得ヘク依テ本官トシテハ親シク郭ト面会ノ上排日取締及今後斯カル不都合ナル行為ノ発生予防方懇談シ度キニ付右郭ニ確ト報告シ且確答セラレ度キ旨申入レタル処副官ハ之ヲ承諾シタルニ依リ午後七時投石者ヲ引渡セリ支、北平、南京、奉天へ転電アリ度シ

296　昭和6年12月5日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛

海軍武官室爆弾事件に関する中国側との往復公文送付について

北平　12月5日付
本省　12月26日着

機密第九六二号

昭和六年十二月五日

在中華民国日本公使館
大使館参事官　矢野　真（印）

外務大臣男爵　幣原喜重郎　殿

海軍武官室爆弾事件ニ関スル支那側トノ往復公文写送付ノ件

本件ニ関シ支那側トノ往復公文写別添送付スルニ付御査閲相成度尚外部ニ対シテハ発表セラレサル様致度

本信写送付先　公使
奉天　天津

（別紙）

（一）

以書翰啓上致候陳者去月二十九日午後七時頃在丁香胡同日本公使館付海軍武官官舎ニ爆弾ヲ投擲セル者アル処本件ハ事件発生場所ノ性質上極メテ重大事件ニ有之候本件措置方ニ関シテハ目下帝国政府ニ請訓中ニテ追テ回訓到達次第何分ノ儀改メテ申入ルヘキモ不取敢本官ハ茲ニ本件ノ重大性ニ付貴副司令ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルト共ニ貴副司令ノ誠意アル態度ヲ表示セラレムコトヲ要望致候右申進旁本官ハ茲ニ貴副司令ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

昭和六年十二月二日

大使館参事官　矢野　真

中華民国陸海空軍副司令　張学良　殿

（二）

陸海空軍副司令行営　公函総字第一九八七号

逕覆者接准本月二日来翰内開十一月二十九日午后七時丁香胡同

貴使館海軍武官宅内発生炸弾事件業已閲悉查在軍警厳重保護之下乃於酒井武官宅中発生此等不祥事件本副司令深為遺憾除厳密捜查人犯務獲究弁外已飭北平市公安局長鮑毓麟親至

貴使館表示歉意並於本月一日命本行営総務処副処長沈祖同本行営海軍中校副官郭徳権代表本副司令造訪執事及酒井武官此後於日本旅平人民之生命財産除仍照向例予以保護外並飭属加倍注意庶不致再有此等意外合行奉復即希

查照為荷此致

日本公使館大使館参事官矢野

中華民国二十年十二月四日

297　昭和6年12月6日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

在北平部隊に対し天津軍司令官より自重方指令発出について

北平　12月6日後発
本省　12月6日後着

第七二一号（暗、部外極秘）

本官発天津宛電報第八六〇号（大至急）
本官発大臣宛電報第一一九号ニ関シ
当地歩兵隊ニテハ支那側カ学生ヲ追払ヒ至急我兵搭乗列車ノ通過ヲ自由ナラシメサルニ於テハ同隊ニ於テ応急ノ措置ヲ執ル決心ニテ其旨司令官ニモ電報済ノ由ナルカ右実行ノ際甚タ面白カラサル事態ヲ招来スル惧アルニ付貴電第七三号御尽力ノ次第アルモ更ニ為念司令官ヨリ歩兵隊ニ対シ自重方指令ヲ発セラルル様至急御配慮アリタシ当方トシテハ昨日来支那側ニ於テ出来得ル丈ケ早ク学生ヲ線路ヨリ退去セシメ列車ノ運行ニ支障無カラシムル様極力交渉スル外本日学良ニ対シ公文ヲ以テ此点ニ付厳重申入レ置ケリ
大臣、公使、奉天ニ転電セリ

298　昭和6年12月6日　在北平矢野参事官より　幣原外務大臣宛（電報）

北平への日本軍増派問題について

北平　12月6日後発
本省　12月7日前着

（電信番号脱）（注）
第八八号（暗、部外極秘）

（二九三文書）
貴電第七二号ニ関シ
当地歩兵隊ノ増派ニ付テハ当地軍側ハ専ラ爆弾事件ノ結果警備ヲ整フル必要ニ依ルト称シ居ル次第ナル処同事件後支那側警備状態ハ累次往電ノ通相当厳重ナルノミナラス目下ノ処兵変等ニ依ル治安ノ危惧差迫リ居ルトノ情報ニモ接シ居ラス在留邦人側ニ於テモ此際至急増兵ノ必要ヲ痛感シ居ル模様モ見エス尚本件増兵ニ付テハ事前何等本官ニ相談ナク軍部単独ノ思惑ヨリ出テタルモノカト思考セラレ其間種種ノ謡言伝ヘラレ居ル有様ナルモ本官トシテハ万突発事件ノ発生防止ニ付折角留意善処シ居レリ右御含迄
大臣、支、奉天ニ転電セリ

（編注）本電報は、第七二二号と推定される。

299　昭和6年12月6日　在北平矢野参事官より　幣原外務大臣宛（電報）

北平学生請願団南下のため列車搭乗強要について

北平　12月6日後発
本省　12月7日前着

第七二三号

往電第七〇八号ニ関シ
学生請願団ノ南下運動ハ其後益々熾烈ニシテ四日北平、輔仁、鉄路等各大学学生請願団約二千停車場ニ押掛ケ列車搭乗ヲ要求シテ発車ヲ阻止シ徹宵退散セサル為当地着列車ハ順次東便門永定門豊台各駅止リトナリ一方学生団ハ更ニ之等各駅ニ赴キ発車ヲ阻止セル為五日ニハ遂ニ黄村止リトナレリ
同日副司令部及公安局ヨリ人ヲ現場ニ派シ学生ノ撤退ヲ勧説セシメ又鉄路局ハ副司令訓令ニ基キ南下阻止方ノ布告及鉄道部訓令ニ依リ無賃乗車団体乗車ハ同部ノ命令ヲ必要トスル旨布告セル処学生団ハ五日午後ノ会議ニ於テ徒歩南下ヲ決議セル由ナルカ目下正陽門東便門ノ両駅及平漢駅モ依然学生団ニ占領セラレ居リ支那側当局ニテハ引続キ事態緩和方極力奔走中ナリ
大臣ヨリ奉天へ転電アリタシ
支、天津、南京へ転電セリ

300　昭和6年12月6日　在上海村井総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

上海における学生および青年等による救国運動について

上海　12月6日後発
本省　12月6日後着

第八八六号
当地方青年学生等ノ所謂救国運動ハ義勇軍ノ組織馬占山援助義捐金ノ募集（既ニ一段落ヲ告ケタリ）馬援助青年団ノ北上（六日出発）等具体的運動トナリ汪兆銘等ノ言論自由ノ主張ニ合流シ各種出版物ノ刊行ト集会ノ開催トニ依リ対日強硬論ヲ叫ヒ兼テ南京政府反対ノ気勢ヲ挙ケツツアルカ最近錦州中立及天津共管問題ニ対シ猛烈反対ヲ表示シツツアリ五日中国青年会館ニ於ケル「権利ヲ喪失シ国辱タル条件ヲ政府カ採用セントスルニ反対」ノ大会ニハ各学校抗日会代表ヲ始メ抗日救国会、救国ジユウニン団、各種同業職工組合等七十余団体ノ代表数百人集マリ主席団ノ激越ナル演説ニ次キ政府宛請願電ノ決議討論ヲ為シタルモ会衆ハ請願電ノ如キハ有効ナラス宜シク「ゼネラルストライキ」ヲ決行スヘシトテ騒立テ又各大学学生抗日救国連合会ハ同日小西門少年宣講団ニ於ケル代表大会例会ニテ二十九抗日代表会合シタルカ近ク全上海学生ノ一大示威遊行ヲ催シ又

「ゼネラルストライキ」ヲ為シテ市民大会ヲ開ク事ヲ決議シタル由ナリ尚南京各学校学生代表百八十余名ハ汪兆銘出迎ノ為五日来滬シタリ支ヘ転報セリ
北平、奉天、天津、青島、済南、南京、漢口、広東ヘ転電セリ

301　昭和6年12月6日　在天津桑島総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

北平学生団による豊台駅の占領および共産党員の学生団に対する宣伝活動について

天津　12月6日後発
本省　12月6日後着

第六七〇号（暗）
北平学生ハ五日夜豊台駅ヲモ占領シタル由ニテ当地ヨリ同地向汽車ハ半途引返シ居レリ尚共産党員当地ヨリ相当入リ込ミ売国不良政府並ニ蔣介石、学良、施肇基、顧維鈞等ノ打倒及対日宣戦等ノ宣伝ニ努メ居ル模様ナリ
支、北平、奉天、青島、済南、南京ヘ転電セリ

302　昭和6年12月6日　在天津桑島総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

北平の学生運動に関し天津軍事態静観の意向について

天津　12月6日後発
本省　12月7日前着

第六七一号（暗、部外極秘）
本官発北平宛電報
第七四号
貴電第八六号ニ関シ
軍ニ於テハ貴地学生運動ノ現状ニ顧ミ何等衝突等ヲ惧レ差当リ増援ヲ見合中ナルノミナラス寧ロ大局上学生運動ヲ此儘放任シ或ハ之ヨリ派生スルコトアルヘキ時局ノ変化ヲ見送リタキ意向ニシテ貴地歩兵隊ニ対シテモ此際条約論ヲ楯トシ支那側ニ対シ鉄道ノ交通回復ヲ迫ル等ノコトナク事態ヲ静観スル様指令済ノ由ナリ尤モ右ハ本官ニ対スル内話ニシテ歩兵隊ノ立場モアルヲ以テ貴官ヘハ之ヲ打明ケサル約束ナルニ付篤ト御含ミ相成度ク歩兵隊ニ対シテハ前記大局論ヲ以テ其態度緩和ニ努メラルルコト如何カト存セラル御如才ナキコト乍ラ為念
大臣ヨリ奉天ヘ転電アリタシ
大臣、支ヘ転電セリ

303　昭和6年12月6日　在済南西田総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

済南における学生請願団による列車占拠事件について

済南　12月6日後発
本省　12月7日後着

第二八六号（暗）
過般来平津方面ノ学生請願団屢南下シ最近青島大学学生モ当地通過南京ニ赴キタル処従来当地各校学生請願団モ度々赴京ヲ計画シ列車準備方請願セシカ省政府ニテ之ヲ阻止シ居タルニ昨五日午後当地高級中学学生約五百名ハ津浦済南駅着ノ北行慢車乗客ヲ下車セシメ赴京セントセルニ鉄路局側ニ於テハ最近蔣介石ノ厳命ニ基キ鉄路部長ヨリ各学生ノ請願団無賃乗車ヲ禁止シ来レル為之ヲ拒絶セルニ端ヲ発シ学生団ト鉄路官憲トノ間ニ紛擾ヲ惹起シ車務総弁住宅ノ窓硝子等ヲ破壊セラレタル事件アリ市長及軍隊側ニテ斡旋中ナルモ当地鉄道幹部等ハ避難セルニ付学生ハ同列車ニ乗込ミタル儘昨日来出発シ得サル外五日以来北平方面ニモ学生団赴京問題起リタル結果ニヤ南北行列車トモ今尚（但午後四時頃迄ハ）到着セス尚昨夕到着スヘキ南京発ノ急行モ党家荘ニ於テ停車セル状態ナリ
尤モ当地市面ニハ何等異状ナシ不取敢
支、北平、青島、天津、南京ヘ転電シ芝栄、博山、張店、坊子ヘ暗送セリ
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

304　昭和6年12月6日　在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

南京における学生団と軍警との衝突事件について

南京　12月6日後発
本省　12月7日前着

第八二〇号
往電第八一七号ニ関シ
其後入手セル情報ヲ綜合スルニ「北大南下示威団」ト称スル学生ハ五日市中示威游行ニ際シ㈠政府ノ東三省売却ニ反対ス㈡売国的政府ヲ打倒スヘシ㈢全国ノ無産階級ハ暴動ヲ起スヘシ等ノ「スローガン」ヲ高唱スルト共ニ反政府的伝単ヲ撒布シ折柄警戒中ノ軍警ト衝突投石又ハ殴打シ九名ノ巡警ニ重軽傷ヲ与ヘタル為首都衛戍司令部ハ主謀者ト目セ

ラルル多数ノ男女学生ヲ検束スル一方北平大学校長蔣夢麟ニ対シ教育部ヨリ北平学生団引取リノ為来京方電報セル趣ナリ

然ルニ当地中央大学（各地請願学生ハ中央大学、金陵大学、軍官学校等ニ宿泊スルヲ常トス）ノ学生数百名ハ前記検束セラレタル学生ニ加担シ㈠北平学生ヲ援助ス㈡政府ノ民衆運動圧迫ニ反対ス㈢同盟休校ヲ実行ストノ決議ヲ為シ校長朱家驊室ニ闖入校旗ヲ取出シ出会ハシタル同大学法学院長郭心崧ヲ殴打負傷セシメ（郭ハ入院セル由）タル後示威游行ヲ行ヒ国民政府及衛戍司令部ニ押掛ケ司令ニ面会ヲ強要セルモ果サス深更ニ至リ解散セリ

尚朱家驊ハ其学生ノ暴行ニ関シ引責辞職ヲ申出テタル趣ナリ

冒頭往電ノ通転電セリ

305　昭和6年12月6日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

学生団の列車占拠事件および国民政府の請願団来京取締りについて

南京　12月6日後発
本省　12月7日前着

第八二一号

当地各学校学生約二百名ハ目下上海ニ在ル汪精衛ヲ南京ニ迎フル為ト称シ二十四日夜当地停車場ニ殺到シ発車準備中ノ列車内ニ在ル乗客ヲ下車セシメタル上駅長ニ発車ヲ迫レルカ駅長ハ鉄道部ノ命令ヲ楯ニ無賃乗車ヲ拒絶セル処学生ハ駅長ヲ殴打シ従業員ヲ脅迫シテ五日午前二時ニ至リ遂ニ発車セシメタルカ該列車ハ五日正午頃漸ク鎮江ニ着シ上海ニハ同夜到着セル趣ナリ（其列車ニハ米国公使「ジョンソン」モ乗車シ居タル由）

尚国民政府ハ五日付ヲ以テ奉天事件発生以来各地ヨリ来京スル請願学生殊ニ多ク現ニ数千ノ青年学徒首都ニ集リ学業ヲ廃シ請願ヲ理由ニ列車ヲ強力占拠シ乗客ヲ駆逐シ甚タシキハ駅長ヲ殴打シ事務所ヲ壊シ国法ニ違反シ交通行政ヲ破壊ス来京後モ往々越軌ノ言動アリ人心ヲ惑ハシ社会ヲ不安ナラシムルハ結局国ヲ誤ルモノナリ依テ今後ハ如何ナル団体ヲ問ハス政府ニ意見ヲ上申セントスル者ハ当該地行政機関又ハ学校長ヲ経由書面ヲ以テ申出ツヘキ旨命令ヲ発セリ

前電ノ通転電セリ

306　昭和6年12月6日　幣原外務大臣より在北平矢野参事官宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件の解決方について

本省　12月6日後9時35分発

第一一八号極秘（部外秘）

北平爆弾事件

往電第一一二号及貴電第七一四号（二八七文書）（二八八文書）ニ関シ

先方回答ニ於テ陳謝及将来ノ保障ノ二条件ニ関スル我方要求ハ達セラレタリト見ルヲ得ル処残余ノ条件中㈠責任者ノ処罰ニ関シテハ公安局長ノ辞職ヲ来スカ如キハ貴見ノ通リ我方ニ取リ不得策ナルノミナラス同局長迄処分スルノ必要無シト思考スルニ付（此点海軍側ニ於テモ内実同意見ナリ）例ヘハ同局長ノ部下中事件ニ直接責任ヲ有スルモノト目サルヘキ上級警察官ニ対シ相当実質的ノ制裁ヲ加フル程度ニテ（我方ニ通報セシム）取纏メ㈡犯人ノ捜査処罰ニ付テハ此上トモ先方ノ手配ヲ督励監視スルノ態度ヲ持続シ㈢損害賠償ハ些少ノ被害額ニテモアリ素直ニ支払ハシムルコトトシテ此際出来得ル限リ速カニ解決シ度キニ付右御含ノ上可然措置アリ度

公使、奉天、天津ニ転電セリ

307　昭和6年12月7日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

北平における反日学生運動の拡大について

北平　12月7日後発
本省　12月7日後着

第七二七号

往電第七二三号（二九九文書）ニ関シ

六日夕刻ニ至リ西陽門駅ニ集合セル学生数ハ応援団、慰問団ヲ合シ、四千ヲ超ユルニ至リ、全体会議開催ノ結果七日出発スヘク此レカ車両提供方当局ニ要求スルコトヲ議決シ物情騒然タルモノアリ。公安局長ハ四日夜以来現場ニ詰切リ説得ニ従事セルモ到底事態ノ円満解決ヲ期シ難キヲ認メ且多数共産党員ノ混入セルヲ探知シ遂ニ軍警三千五百ヲ使用シ武力ニ依ル退散ヲ決意シタルモ、其後副司令部側ノ意見ニ基キ各学校ヨリ数名ノ代表ヲシテ赴京セシムルコトニ話纏リ七日午前十一時一列車ヲ準備シ約二千ノ学生ヲ出発南下セシメタリ尚本件並ニ南京ニ於ケル北大学生団逮捕問題等ヲ切掛ケトシテ、当地学生運動ハ再ヒ拡大ノ模様ニテ

七日一旦停車場ヲ退散セル中央大学学生約四百名ハ天安門前ニ集合シ売国奴顧維鈞、施肇基ノ打倒ヲ絶叫シテ示威游行ヲナシ市党部ニ赴キ党部カ政府ト共ニ学生運動ヲ抑圧スルノ不法ヲ詰リ器物ヲ破壊セル等ノ事件アリ
支、南京、天津、奉天へ転電セリ

308　昭和6年12月7日　在北平矢野参事官より幣原外務大臣宛（電報）

海軍武官室爆弾事件の責任者処罰、損害賠償に関する措置について

北平　12月7日後発
本省　12月7日後着

第七二九号（暗、部外極秘）
貴電第一一八号ニ関シ
㈠ノ責任者ノ処罰ニ付テハ相当物質的制裁トハ罰俸若ハ減俸ノ意味ナリヤ（三一七文書参照）
㈡ノ損害賠償ニ付テハ今更被害者調査等ヲ為スハ徒ニ時日ヲ要スルノミナルニ付支那側ヨリノ回答中本項ニ付テハ何レ日本側ヨリノ申出ニ基キ協議決定スベシト認メシメ（此点酒井輔佐官ト協議済）此際一応右ニテ全部解決ノコトト

シ然ルベキヤ必要アラバ海軍側トモ御協議ノ上何分ノ儀折返シ御回電ヲ請フ
支天津奉天へ転電セリ

309　昭和6年12月（7）日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における「全支日本人居留民大会」の開催について

別電　一二月七日着在上海村井総領事より幣原外務大臣宛第八八八号、第八八九号
「全支日本人居留民大会」の声明および決議

上海
本省　12月7日後着

第八八七号
昨六日当地ニ於テ全支日本人居留民大会開催セラル参加団体四十二内数団体ハ特ニ代表者ヲ派遣セリ其声明及決議ハ別電第八八八号及別電第八八九号ノ通ナルカ右ハ在支邦人ノ総意ヲ世界ニ示サントスル意気込ミニテ当地有識者階級ヲ網羅セル起草委員会ノ起草セルモノニシテ七日ノ外支新聞ニモ掲載セラレタリ

尚右大会ニ於テ「満州ノ情勢憂慮ニ堪ヘス此際速ニ増兵ヲ望ム」旨ノ緊急動議提出セラレ可決セラレタリ
別電ト共ニ公使ヘ転報シ北平、哈爾賓、奉天、天津、済南、青島、漢口、南京、福州、厦門ヘ転電セリ
連盟ヘハ本電ト別電ノ英訳文ヲ転電セリ
別電ト共ニ広東ヨリ香港ヘ転報アリタシ

（別　電）

㈠

上海
本省　12月7日後着

第八八八号
一、現下ノ日支紛争ハ国民政府カ所謂革命外交ノ一手段トシテ全国的反日風潮ヲ煽動挑発シタルニ胚胎シ其内政上ノ欠陥ト相俟ツテ遂ニ今回ノ満州事変並ニ狂暴ナル対日経済絶交ヲ激成シタルモノナリ
二、国民政府カ革命外交ヲ標榜シ打倒帝国主義ト既存条約ノ一方的廃止ヲ声明シテ絶エス国民ニ排外教育ヲ施シ排外思想ヲ助長セシメタル結果支那国民ノ対外感情益々悪化スルニ至リ或ハ排英トナリ或ハ排日トナリ内政紊乱其ノ極ニ達シ国内ノ統制ヲ欠クコト既ニ久シク軍閥各地ニ割拠シ土匪共匪到ル処ニ横行シテ四億ノ民衆塗炭ノ苦シミヲ嘗メ各国通商ノ中心地タル開港地スラ危険ニ瀕スル情勢ニアリ畢竟支那ハ国際信義ヲ無視シ近代国家タル資格ヲ欠如スルモノト云フヘシ
三、故ニ我帝国ハ条約ノ権益ヲ擁護シ満州ニ於ケル平和ト秩序ヲ確保スル為徹底的自衛手段ヲ講スルト共ニ商権維持ノ為国民政府ヲシテ抗日会ノ如キ不法団体ヲ解散シ戦争行為ニ等シキ経済絶交運動ヲ絶滅セシムルニ止マラス更ニ其ノ対外態度ノ根本的革正ヲ要求セサルヘカラス
四、我国民ハ事態ノ重大ニ鑑ミ須ク挙国一致国難ニ当リ内ハ政府当局ヲ督励シ外ハ列国ニ事態ノ真相ヲ宣明シ毅然トシテ日支関係ノ根本的解決ニ邁進スヘシ此レ東洋ノ平和ヲ確保スル所以ニシテ我国ノ世界ニ於ケル使命タルト共ニ隣邦ニ対スル真ノ友誼ナリト信ス

㈡

上海
本省　12月7日後着

第八八九号

決議

一、帝国政府ハ満州ニ於ケル我権益並ニ邦人ノ生命財産ノ安固ヲ確保スル迄実力ヲ以テ徹底的ニ自衛保安ノ手段ヲ講スヘシ

二、帝国政府ハ支那ヲシテ既存条約ヲ尊重履行セシムヘシ

三、帝国政府ハ支那政府ヲシテ対外態度ヲ改メ其ノ排外教育ト打倒日本帝国主義ヲ取消サシムヘシ

四、帝国政府ハ支那全土ニ於ケル抗日運動ヲ根絶セシムル為積極手段ヲ取ルヘシ

五、帝国政府ハ時局ノ根本解決ヲ期スル為姑息ナル解決ヲ絶対ニ避ケ且第三者ノ干渉ヲ拒絶スヘシ

吾人ハ以上五項ノ貫徹ヲ期シ皇国ノ重大ナル時局ニ鑑ミ如何ナル犠牲ヲモ忍フノ決心ヲ有ス

310

昭和6年12月7日　幣原外務大臣より在パリ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

満州事変に関する中国各地学生運動の現況について

本省　12月7日後9時20分発

合第一八七九号（暗）

満州事件（中国学生運動）

一、今次事変ニ関連シ支那各地ニ於ケル学生運動ハ最近愈愈猛烈トナリ来リ殊ニ錦州地方撤兵地帯設置問題ノ報伝ハルヤ一斉ニ強硬ナル反対ヲ唱ヘ居リ同問題ニ対スル南京側又ハ張学良ノ態度急変セルハ右形勢ニ影響セラレタルモノ少ナカラスト認メラルル処右学生運動ハ汪精衛胡漢民等広東側ニ於テ潜カニ操縦シヲルモノナル由ニテ（往電合第一八五五号即漢口来電第八四八号）彼等ハ民衆ノ対日強硬ヲ煽リ南京政府ヲ窮地ニ陥レ又蔣介石ノ北上ニ依リ広東側ノ南京乗取リニ便ナラシメ尚又東北回復ヲ強要シテ張学良ノ滅亡ヲ計ラムトスルノ魂胆ナルカ如ク要スルニ一種ノ政権運動ト見ルヘク尚其ノ間共産分子ノ活躍アルコトモ想像ニ難カラス

二、今次事変発生以来南京、上海ハ勿論全国各地ノ学生（大学生ヲ中心トシ女学生モ之ニ混ス）ハ対日宣戦請願団ナルモノヲ組織シ強制的ニ鉄道、汽船ヲ利用シテ陸続南京ニ押掛ケ何レモ蔣介石等中央要路ノ者ニ面会ヲ強要シ錦州問題ニ関シテハ顧維鈞ヲ強迫スル等ノコトアリ客

月二十四日以来上海、蘇州、杭州、無錫、常州、鎮江等京滬地方学生ノ上京セルモノ一万ニ達スル外北平、天津、青島、武漢等遠隔ノ地ヨリモ数百ノ団体ヲナシテ上京シツツアリ殊ニ北平学生団ハ既ニ千余ノ代表ヲ送レルモ猶後続者数千ハ津浦線停車場ニ集合シテ乗車ヲ強要シ為ニ汽車モ立往生ノ有様ナリ而シテ右等学生ノ請願ハ何レモ㈠学生ニ武器ヲ貸与シ㈡軍事訓練ヲ与フルコト等ノ外㈢蔣介石ノ北上㈣対日宣戦及㈤張学良ニ対シ東北回復ヲ命スヘシ等ノ数項ヲ加ヘ居レリ尚右学生運動最近ノ状況別電合第一八八三号ノ通リナリ

（巴里宛ニハ「在欧各大使ヘ転報アリ度」ト付記ノコト）

311

昭和6年12月7日　幣原外務大臣より在上海村井総領事他宛（電報）

中国各地における館署員および在留民の引揚数等調査方について

本省　12月7日後11時発

合第一八八五号

在留民引揚数等調査方ニ関スル件

往電合第八三四号ニ関シ

十二月五日現在ニ於ケル左記各項ニ付館署員及其ノ家族ト一般在留民トニ分チ成年男子、成年女子及小供別ニ更メテ電報アリタシ（総テ延人員ニ非ラス実員ヲ計上セラレ度シ）

㈠事件発生以来ノ他管内ヘノ引揚者数累計（引揚先記入ノコト）

㈡㈠現地ノ居住ヲ棄テス一時安全地帯ニ避難又ハ収容シタルモノ

㈡貴管内他地ヨリ貴館所在地又ハ管内ノ他ノ地点ヘ引揚ケ又ハ避難シタルモノ

ノ両者ニ付今日迄ノ累計及現在数

㈢自宅残留者現在数

㈣他管内在留民中貴管内ニ避難滞在シ居ルモノノ現在数

尚要救護在留民ノ数及内訳ニ付テハ引続キ書面ヲ以テ随時報告アリタシ

上海ヨリ訓令トシテ杭州、蘇州、南京、蕪湖、九江ヘ転電シ参考トシテ在支公使ヘ転報アリ度

漢口ヨリ訓令トシテ長沙、沙市、宜昌ニ転電シ鄭州、重慶、成都ニ転報アリ度

福州ヨリ訓令トシテ厦門、汕頭、広東、香港ニ転電アリタシ

312

中国各地における引揚者累計および現在数

昭和6年12月7日　外務省作成

昭和六年十二月七日現在

「支那本部引揚者累計及現在数」

（編注）本電報は、天津、北平、張家口その他の公館にも発電された。

引揚者及避難者累計

領事館名	避難者				引揚者				合計	引揚者ノ引揚地別				備考
	現地ニ於テ安全地帯ニ避難シタルモノ								避難	支那本部	内地	其地	計	
	成年男子	成年女子	子供	小計	成年男子	成年女子	子供	小計	計					
天津	三五六	五一七	七三三	一、六〇五	五六	五五	七三	一六八	一、七七三	一〇四	三六〇	四八六	九五〇	二、七三三		男 六三	二〇四	一〇四	一四八	引揚者中ニハ館員家族一、女二、男一、子供四ヲ含ム
北平	二五	五五	五九	一三九	九	八	八	二五	一六四	三	三	二六	八三	二四六	男 九	計 二五	八 二〇五	二	二	引揚者中ニハ館員家族ノ引揚者ナシ
張家口										四	三	七	七	七	男	計 七	三 四			館員家族ノミ
上海	六	三	三	一三	八	一三	一五	三六	四八	二四	一五九	五一	五五九		男	計	二 一四	二 一四	三 八	引揚者中ニハ館員家族、子供四ヲ含ム
蘇州										五	七	七	一九		男	計				

領事館名	避難者				引揚者				合計	引揚者ノ引揚地別				備考
	現地ニ於テ安全地帯ニ避難シタルモノ								避難	支那本部	内地	其地	計	
	成年男子	成年女子	子供	小計	成年男子	成年女子	子供	小計	計					
南京	一三	四	二	一九	一九	四五	一四〇	一五九	一五九	一三三	四四九	一四〇	二九八	引揚者中ニハ館員家族一二、子供二一ヲ含ム
漢口	六五	七二	七八	二一四	四	五七	一〇三	一四五	一四五	一一	六七	三七	四五一	引揚者中ニハ館員家族一、子供一ヲ含ム
九江	一	一	三	五	二	七	一〇	一九	一九	一	一〇	三	三〇	引揚者中ニハ館員家族女三、子供四ヲ含ム
蕪湖	一七	五	一八	四〇	二	四三	一〇	五三	五三	一三	二四	四七	八九	引揚者中ニハ館員家族女二、子供二ヲ含ム
京南	一三	四	二	一九	一九	四五	一四〇	一五九	一五九	一三三	四四九	一四〇	二九八	引揚者中ニハ館員家族一二、子供二一ヲ含ム
杭州	四	一	五	一一	五	一二	一三	三〇	三〇	一二	三三	二八	六四	引揚者中ニハ館署員家族女七、子供二ヲ含ム
長沙	一	七	一〇	一八	一	一三	一三	二七	四五	一六	四〇	二一	七一	引揚者中ニハ館員家族一、女一ヲ含ム
市沙						五	五	一〇	一〇	四	三	三	一〇	引揚者中ニハ館員家族女三、子供四ヲ含ム
鄭州					一	八	一四	二三	二三	六	一四	二	二二	引揚者中ニハ館員一ヲ含ム
漢口	六五	七二	七八	二一四	四	五七	一〇三	一四五	一四五	一一	六七	三七	四五一	引揚者中ニハ館員家族一、子供一ヲ含ム
江九	一	一	三	五	二	七	一〇	一九	一九	一	一〇	三	三〇	引揚者中ニハ館員家族女三、子供四ヲ含ム
湖蕪	一七	五	一八	四〇	二	四三	一〇	五三	五三	一三	二四	四七	八九	引揚者中ニハ館員家族女二、子供二ヲ含ム
京南	一三	四	二	一九	一九	四五	一四〇	一五九	一五九	一三三	四四九	一四〇	二九八	引揚者中ニハ館員家族一二、子供二一ヲ含ム
州杭	四	一	五	一一	五	一二	一三	三〇	三〇	一二	三三	二八	六四	引揚者中ニハ館署員家族女七、子供二ヲ含ム
宜昌							四	四	四	二	一〇	二	一四	引揚者中ニハ同館員家族一、子供四ヲ含ム

十二月五日現在避難者並自宅残留者表

領事館名	現地ニ於ケル安全地帯ノ避難者			奥地ヨリ管内ノ安全地帯ニ引揚タルモノ			他管内ヨリノ避難滞在者			合計			自宅残留者			備考
	成年男子	成年女子	子供	成年男子	成年女子	子供	成年男子	成年女子	子供	計	成年男子	成年女子	子供	計		
天津	一八	九	一三							四〇					男	内男五、女一ハ館署員及其家族
北平	二五	五五	五九	一三九			四	七	五	一六	一五五	四四一	三二	二五三	女	内男四館員
張家口															計	
上海	六	三	三	一三	五	一三	一四	三	三	二六	七二	一一四			男	他館内ヨリノ避難滞在者ニハ南京領事館員家族女三、子供二ヲ含ム
蘇州															女	
杭州											三五	二八	三四	九七	計	
南京	三		三								三五	八	一〇	七〇	男	残留者内男二三、女四、子供三ハ館員及其家族
蕪湖											三	三	一	二六	女	内男五、女二、子供一ハ館署員及其家族
九江	一	一三	五	二						七	二六	一〇	一〇	四六	計	
漢口	五八	七〇	七八	二〇六	三	一	二	七	八	五	五	一八	二三一	六九四	男	残留者内男六七、女三〇、子供二一二ハ館署員及其家族
鄭州				一	一	二							二		女	
沙市															計	
長沙											三七	五	一	四三	男	内男六ハ館署員
宜昌											二〇	九	九	三八	女	内男四ハ館署員
福州											六三	五六五	三七三	一、五七二	計	内男二四、女一六、子供三二ハ館署員及其家族

計	香港	雲南	福州	広東	汕頭	都成（揚引）	重慶（揚引）
八〇四	二八三	二		三三			九
婦女子 九七五	二七六	婦女子 六		三五			婦女子 四三
一、一九九	二八四	八		一〇			五三
四九	八四三			六七			
三、〇三七							
八二							
七九							
八五							
二四六							
三、二七三	八四三	八		六七			五三
七二五	七三	八	一四	二	五三	四	四〇
婦女子 九四五	一一五	婦女子 一〇	九	四八	三三	二	二三
一、一三〇	一一二	一〇	一二	八〇	一〇		四一
二、八一〇	二九八	一八	二四	一四九	八四	六	一〇四
六、〇八三	一、一四一	二六	三四	二六	八四	六	一五六
計 男 九二				計 男 八		計 男	計 男 八
婦女子 六九				子 女 一三		女	子 女 三
計 五〇	計 男 七三		計 男 一四	八	計 女 五三	男 一	三
二、二〇四	子 女 一一五		子 女 一九	一三	女 三三	女 一	六一
九〇一	二九八	計 男 八	二	四八〇	八四	計 一一	九三
一、一〇三		子 女 一〇	一四	八〇	一〇	男 一	二
二九二		八	一四	四九	八四	女 一	一〇四
二、七一〇	一一二	一〇	一四	八〇	八四	六	一五六
	二九八	八	二四	四九		計 二	計 二
	七三五	館員家族ヲ含ム	館員及家族ヲ含マス	二引揚者中ニハ館署員家族女四、子供八ヲ含ム	館員及家族ナシ	四	一二
	一一二					男 一三	男 一
	二九八					女 一一	女 一
	七三五					計 二四	計 二
	館員家族ヲ含マス					内五ハ館員及其家族	四〇引揚者中ニハ館署員及家族二五ヲ含ム

| | | |

ニ対日宣戦断行対日経済絶交ノ実行無抵抗主義ハ亡国ナリ等ノ排日伝単ヲ貼付セルニ付韓主席ハ更ニ手槍旅二個中隊ヲ同駅ニ派遣鉄路員ノ保護並ニ構内整理ニ当ラシメタル趣ナリ

二、学生団ノ赴京ニ関シテハ韓主席ハ当初之ヲ許可スベキ意向ノ如ク紛擾一段落セシ感アリシガ次デ中央ヨリ学生団ノ赴京禁止ノ訓令ニ接シタル由ニテ学生団ハ出発シ得ズ構内及線路上ニ集結シ気勢ヲ挙ゲ居ルニ付解決迄ニハ相当時日ヲ要スベク観測セラル

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、青島、天津、南京ヘ転電セリ

316　昭和6年12月8日　在南京上村領事より幣原外務大臣宛（電報）

南京における各界抗日救国会の顧維鈞の免職等請願運動について

南京　12月8日後発
本省　12月8日後着

第八二四号

新聞報道ニ依レハ首都各界抗日救国会ハ七日各団体代表ヲ召集シ公開大会ヲ開キ㈠顧維鈞ノ免職請願㈡施肇基ノ慰留㈢天津共同管理反対㈣拘留中ノ北平学生釈放要求等ヲ決議シタル後代表ヲ政府ニ派シ顧維鈞ノ免職厳罰ヲ要求セル請願書ヲ提出セル趣ナルカ其ノ理由ハ顧ハ就任早々重光公使ト交渉シ錦州軍ヲ撤退セントシ又施肇基ヲシテ連盟ニ対シ天津ノ共同管理ヲ提議セシメタル趣ナルカ右ハ錦州以東カ日本ノ領有スル所トナルヲ承認スルニ等シク又日本ノ攻撃ヲ防ク為天津ヲ共同管理トスルコトハ日本カ南京ニ於テ暴動ヲ起ストキハ南京モ亦共同管理ニスルコトトナルヘク之等ノ問題カ仮ニ連盟ヨリ出テタル場合ハ吾人ハ之ニ反対シ尚効果無クハ自衛策ヲ講スル要アル処之ヲ我国ヨリ持出ストハ何事ソヤ顧ハ国民反対ノ声ヲ聞クヤ俄ニ之ヲ否認セル声明ヲ為セルモ右言動ヨリ観テ顧カ主動者タルコト疑無ク顧ハ国民党ノ政策ニ逆行シ主権ヲ失ヒ国ヲ辱ムル者ナリト謂フニアリ

連盟、公使、奉天、北平ヘ転電セリ

317　昭和6年12月8日　幣原外務大臣より在北平矢野参事官宛（電報）

北平海軍武官室爆弾事件至急解決方について

第一二二号　暗、極秘

本省　12月8日後11時35分発

北平爆弾事件

貴電第七二九号（三〇八文書）ニ関シ

㈠ノ物質的制裁ハ実質的制裁ノ誤ニシテ（冒頭往電調査アリ度）要スルニ事件ニ直接責任アル上級警察官ヲ極刑ニ処スル必要無キモ相当厳重ニ処分スルノ意ナリ但シ処分ノ程度ニ付テハ貴官ニ於テ貴地海軍側トモ協議ノ上適宜決定セラレ差支ナク（本項部外秘）又㈡ノ損害賠償ニ付テハ大体貴見ノ通支那側ヲシテ其ノ文書回答中ニ賠償ニ関スル我方ノ要求ヲ容ルヘキコトヲ認メシメ置キ実際ノ支払ハ後日調査完了ヲ待ツコトトシテ差支無キニ付（本項海軍側異存ナシ）右ニテ此際至急本件ヲ解決スルコトト致シタシ支、天津、奉天ヘ転電セリ

318　昭和6年12月8日　武居（綾蔵）内外綿株式会社取締役頭取より幣原外務大臣宛

上海における排日貨状況および時局対策について

昭和六年十二月八日

内外綿株式会社
取締役頭取　武居綾蔵（印）

幣原外務大臣閣下

拝啓愈御清栄奉賀候

陳者小生去ル十一月二十二日当地出発同二十四日ヨリ本月二日迄十二日間上海ニ滞在致シ各方面ノ経済事情ヲ調査シ五日帰阪致候就テハ左ニ其概要ヲ記シテ御参考迄供貴覧申候

㈠排日貨状況

抗日救国会ノ横行ハ依然トシテ衰ヘザルノミナラズ其排日貨励行ハ方法頗ル峻厳ニシテ用意ノ周到ナル事従来ト全然其規ヲ異ニシ水モ漏サヌ態ニ有之候例ヘバ綿糸布ノ如キハ綿糸綿布ノ「ブローカー」ヲ使用シテ完全ナル検査ヲ励行スルノミナラズ電話局ト連絡ヲ取リ日支人間ノ電話ヲ不法ニ侵害シ違反者ノ摘発ニ努メ更ニ進ンデハ外国品ヲ取扱フ商人ヲ使用シテ変装日貨ノ摘発ニ迄熱中致シ居ル有様ニ有之候

斯ル有様ナレバ独リ日本人ノミニ止ラズ関係支那人商人

ノ困窮亦其極ニ達シ居ル実状ニ御座候

事変発生以来停滞日貨ノ総量ハ莫大ナル金額ニ達シ其推定ハ人々ニ因リ多少ノ相異有之候得共各方面ノ資料ヲ徴シテ推定スルニ奥地三千万両、上海六千万両、合計九千万両ト概算致サレ候事変以来既ニ二ケ月半全ク封印ノママ積累ネ一俵ノ消費モ許サズ候間之レニ融通セル支那銀行金融逼迫ノ程度ガ如何ニ甚シキカモ亦容易ニ推察致サル可ク候サレバ抗日会ニ於テハ此際之等ノ停滞日貨ニ或程度ノ課税ヲ為シテ売買ヲ許可セントノ議論モ有之ヤニ聞及候然シ斯クテハ暴戻ナル抗日会ニ更ニ資金ヲ供スル事トナリ彼等ヲシテ益々毒牙ヲ振ハシムベク候間此方法ハ極力回避致シ度キ所存ニ御座候得共如何ニ成行ク可キ哉測リ難キ状勢ニ御座候

吾在華日本紡績会社製品ニ対シテハ支那人ハ啻ニ新規買約ヲ為サザルノミナラズ絶対ニ既約品ノ引取ヲ為サズ売行荷捌共ニ依然トシテ皆無ニ有之候依テ各社ハ已ムナク印度、南洋、其他ノ方面ニ対スル輸出ヲ計画シ少量乍ラ実行致シ居候一時カナリ盛況ナリシ満州輸出モ各社カ一六番手ニ切替ヲ断行シテ対満移出ニ努メタル結果割合ニ

（欄外注記１）

狭隘ナル同市場ハ忽チ充満シ再ビ四〇番手ニ変更シテ他方面ニ振向ケルト言フ有様ニ有之候故ニ今日ノ状勢ニシテ改マラザレバ或ハ日本内地ヘノ輸入ヲ企ツルノ已ムナキニ立至ル可キ哉ト被存候

十一月度ハ印度満州両地ヘ積送ノ数量意外ニ多カリシ為（綿糸ハ製額ノ五三％綿布ハ三八％）十月度ヨリモ荷捌多少良好ニ御座候ヒシカ印度市場モ先ヅ一服ノ姿ニ候間十二月度ハ急激ニ悪化スルニ非ズヤト懸念致サレ居候之ニ対スル対策トシテハ同業会所属工場ノ一斉閉鎖ガ屢屢論議セラレタル事ハ既ニ御承知ノ通リニ御座候即チ之ニ因ツテ滞貨激増ノ難ヲ避クルト同時ニ一時ニ数万ノ失職者ヲ街頭ニ送ツテ南京政府ニ脅威ヲ与ヘ排日運動ヲ緩和スルノ已ムナキニ立到ラシメントスルモノニ御座候然ルニ此方策ハ必ズシモ所期ノ効果ヲ収メ難キコト略明白ト相成候ニ付キ此際一斉閉鎖ハ断念致シ各社トモ操業短縮ノ方法ヲ採ルコトニ一決致シ現ニ実施致シ居候七、八％ヨリ二四、五％ニ至ル迄平均十六、七％ノ操短ヲ実施致シ居候

斯クシテ出来得ル限リ操業ヲ継続致シ度所存ニ候得共此

（欄外注記２）

上更ニ長期ニ亘ルノ犠牲ハ各社トモ堪難キ所ニ御座候ヘバ能フ限リ近キ将来ニ於テ有意義ナル解決ニ到達致候様此上トモ御尽力被下度懇願申上候

(二)時局対策

現在上海ニ於テ排日緩和速進策トシテ左ノ二案論議致サレ居候

(1)邦人所有銀引出策

本案ハ上海ノ硬塞セル金融ヲ更ニ逼迫セシメテ南京政府ヲ脅威シ排日緩和ノ已ムナキニ立到ラシメントスルモノニ御座候

其要旨ハ現在上海ニアル両銀ハ大約五千万両ナルガ中半数ノ二千五百万両ハ日本人所有ノモノニ御座候而シテ此ノ中一千万両ハ六大銀行ノ手元ニアリ残リ一千五百万両ハ香港上海銀行ニ無利息ヲ以テ預ケ居リ同行ハ之ヲ上海ノ支那銭荘ニ相当高利ヲ以テ広ク貸付ケ居ル次第ニ有之候故ニ此際六大銀行ヲシテ香港上海銀行ヨリ前記ノ千五百万両ノ預金ヲ回収セシムル時ハ同銀行ハ勢ヒ銭荘ニ対スル貸付ノ回収ヲ計ルコトトナル可ク斯クシテ上海ノ金融界ハ極度ニ混乱シ銭荘ハ殆ド営業不能ニ立到ル可ク遂

（欄外注記３、４）

ニ南京政府ヲ動カシテ排日緩和ノ挙ニ出ヅベシトノ推定ニ基クモノニ有之候然シ乍ラ此案ニ対シテハ邦人銀行業者中ニモ反対意見ノ者有之候即チ事変発生以来邦人銀行ハ弗ノ交換、ネーティーブオーダーノ取扱等ニ就テ専ラ香港上海銀行ノ世話ニナリ居ル実状ナリ斯様ニ恩恵ヲ受ケツツアル取引先ニ対シテ直接打撃ヲ加フルガ如キ方策ニハ此際俄ニ賛意ヲ表ハシ難シトノ理由ニ御座候得共斯カル所論ハ私恩ヲ重ンジ公益ヲ軽ンズルモノ一顧ノ価値モ無キモノニシテ吾人ノ見ル所ヲ以テスレバ此方法ハ頗ル有効ナル方策ト存候尚上海ニ於テモ銀行業者以外ハ一般ニ此案ニ賛成ヲ表シ居候

(2)税関差押

現在ノ状態ヲ以テスレバ南京政府ノ苦痛ハ主トシテ面目上ノ問題ニ止リ実質上ノ打撃トシテハ排日貨ノ為関税収入ノ減少ト言フ程度ニ非ズヤト被存候斯クテハ直接交渉ハ飽ク迄回避セラレ時局ハ愈遷延スルノ怖有之候因ツテ吾々対支貿易業者及企業家トシテハ当面ノボイコットヲ終熄セシムルタメニハ先ヅ南京政府ニ対シテ現実ノ苦痛ヲ与フル必要アリト痛感致シ候其ニハ財政金融上ノ打撃

ヲ与フル事ガ最モ有効ニシテ主題ノ税関差押ハ此意味ニ於テ最適切ナルモノトシテ考慮セラルルニ至リシモノニ御座候

先ヅ之ガ手初メトシテハ大連、安東、営口ノ三税関差押ヲ決行セバ此三税関ノミニテモ税収約三千万元ニ御座候得バ借款担保八百万元ヲ控除スルモ尚二千二百万元ノ差押トナリ追ツテ青島税関ヲモ差押フルコトトスレバ相当ノ実質的打撃ヲ与ヘ得ルモノト確信仕候

既ニ営口塩税差押ノ先例モアレバ政府ノ決意次第何時ニテモ実現可能ナル事ト確信罷在候

此案ニ就テハ上海滞在中特ニ同地ノ有力銀行、満鉄、大連汽船、三井物産ノ代表者船津氏等ト極秘裡ニ論議セル結果何レモ最モ時宜ニ適セル方策ナリトノ結論ニ到達致シ候就テハ是非出来得ル限リ迅速ニ御決行相成度懇願仕候

我生命線タル満州ハ軍部ト共ニ適切ナル御尽力ニ因リ諸事着々其ノ緒ニ就カント致シ居ルニ不拘営養線トモ称スベキ南支ハ徒ニ抗日会ノ如キ無頼ノ徒ノ跳梁ニ委シテ顧ミラレザルハ誠ニ遺憾至極ニ存候前記ノ第二案ノ如キ方策ハ横暴ナル抗日会ノ行動ヲ黙認セルニ止ラズ進ンデ之レヲ使嗾シツツアル南京政府ノ不信義ニ対スル単ナル報復手段ニ過キサルモノナレバ去ル九月三十日ニ発表セラレタル吾政府ノ事件拡大防止声明ニモ抵触スルガ如キコト万々無之モノト信ジ候

第一案ハ銀行業者ノ蹶起奮発ヲ要スルノミニ御座候得共第二案ハ是非政府ノ力ヲ藉ラザル可カラザルコト勿論ニ候二者併セ行フヲ得バ最有効ナリト存候得共御高見如何ニ候哉伺上度候

何レ近日上京拝眉万縷可申上候得共不取敢以書中得貴意候　敬白

（欄外注記1）
華人紡績ニ優秀職工ヲ送ルコトトナル故カ此辺理由不明

（欄外注記2）
何故保護預トナシ居ルヤ

（欄外注記3）
弗交換ハ無料ニハアラサルヘシ

（欄外注記4）
此点我方ニトリ辛カルヘキモ我方ハ保護預ニ依リ利益ヲ香上ニ与ヘ居レルコト注意ヲ要ス

（欄外注記5）

表面上ハ東三省新政権ヲシテ関税剰余ヲ差押ヘシメテハ如何（広東政府ノ例ニ倣ヒ）

319　昭和6年12月9日　在済南西田総領事より　幣原外務大臣宛（電報）

済南における学生団の南下許可により鉄道阻止問題一段落について

済南　12月9日後発
本省　12月9日後着

第二九一号（暗）
往電第二八八号（三一五文書）ニ関シ
当地当局ハ蔣介石ヨリ学生団宛南下見合セ方ノ勧告電報アリシニ付該電報ヲ学生団ニ示シテ説得スル処アリシモ無効ニ終リ交通阻碍三日ニ亘レルヨリ八日朝韓主席ハ各庁長会議ヲ開催シ何庁長並学生側代表ノ意見ヲ聴取シタル上張学良モ已ムナク七日北平学生請願団二千余名ノ赴京ヲ諾セル報モアリ（同学生団ハ八日夕当地通過南下セリ）遂ニ学生団ノ赴京ヲ許スコトトナリ韓ヨリ学生代表者ニ対シ赴京スルトモ紀律秩序ヲ保チ断シテ紛擾ヲ惹起セサル様厳重戒告ヲ加フルト共ニ右ノ次第鉄路局側ニ通報シタルニ同局ニ於テモ韓主席カ責任ヲ負ヘル以上発車方ヲ取計フコトニ決シ当地学生団男女約二千三百余名ハ八日午後七時臨時列車ニテ当地発口号ヲ高唱シツツ南京ニ向ヘリ之ニ依リ五日来問題タリシ鉄道阻碍モ一段落シ昨八日ノ北行特急モ午後十一時発車シ列車運行モ復旧シタル次第ナリ

在支公使ヨリ上海ヘ転報アリタシ

320　昭和6年12月9日　在南京上村領事より　幣原外務大臣宛（電報）

南京における学生団の強硬態度について

南京　12月9日後発
本省　12月9日後着

第八二三号
往電第八二〇号（三〇四文書）ニ関シ
北平及青島ヨリ来京セル学生ハ大部分離京セルカ北平学生ノ一部ハ拘留セラレタル学生ノ釈放ヲ要求シ尚当地ニ在リ市中ヲ徘徊シツツアル外中央大学及金陵大学等ノ学生モ拘留学生ノ釈放及顧維鈞ノ免職ヲ要求シ且ツ政府ガ日本ニ対

シ学生ノ満足スル手段ニ出ツル迄ハ何時迄モ同盟休校ヲ継続スヘシト頑張リ居ル為官憲ハ市中ノ警戒ヲ厳重ニシ当館ニ対シテモ引続キ百余名ノ軍警及消防隊ヲ派遣警戒中ナリ尤モ学生ト衝突以来当館及外交部警戒中ノ軍警ハ武装シ居ラス又中央大学校長朱家驊ハ学生ノ父兄ニ対シ無事学生ヲ帰宅セシメン事ヲ要求シ居レリ尚武漢大学学生百数十名モ来京中央ニ請願セリ

北平、支、漢口、広東、済南、青島、天津、奉天へ転電セリ

321　昭和6年12月9日　在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

南京における学生団の示威運動について

南京　12月9日後発
本省　12月9日後着
第八二七号

八日午後中央大学、武漢大学及北大示威団学生合計約一千名ハ大旗ヲ押シ立テ

(一)連盟脱退
(二)東北ノ武力恢復
(三)打倒日本帝国主義

ヲ連呼シ国民政府中央党部外交部及当館一帯ヲ示威遊行セルカタ刻無事散会セリ

前記武漢学生ハ八日夜離京シ又先日来拘留中ノ北平学生ハ二十八日北平ニ送還セラレタル趣ニシテ官憲ハ九日ヨリ当館ノ特別戒厳ヲ解ケリ

尚国民政府ハ最近学生請願運動ノ悪化ニ鑑ミ七日付ヲ以テ錦州中立地帯設置、日支直接交渉、天津共同管理等ノ説ハ何レモ敵人ノ逆宣伝ヲ売国的反動分子カ利用流布シ居ルモノニシテ政府ハ絶対ニ斯ル主張ヲセル事ナキ旨ヲ述ヘ学生カ停車場ヲ破壊シ駅長ヲ負傷セシメ駅員ヲ捕縛シ教員ヲ殴打シ校長ヲ駆逐シ同窓ヲ監禁シ或ハ三民主義及国民政府打倒等ノ伝単ヲ散布スルハ軈テ社会ヲ動揺シ国家ヲ無政府状態ニ陥ルルモノナリトテ学生ノ反省ヲ促セル通告ヲ発セリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東へ転電セリ

322　昭和6年12月10日　在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛（電報）

上海における学生団の騒擾惹起について

第八九七号
(三二三文書)
往電第八九四号ニ関シ

其後当地学生団ノ空気ハ各地学生運動ノ情勢ニ刺戟セラレ漸次悪化シ来リ何等カ一騒キ勃発スヘキヤニ懸念セラレ居タル処九日午後各大学抗日救国連合会席上公安局ノ密偵カ南京当局ノ請願団迫害状況報告演説ヲ為セル北平大学代表及南京中央大学代表各一名ヲ逮捕シタルニ端ヲ発シ俄然大騒擾ヲ惹起スルニ至レリ

北大生ノ逮捕拘禁（中大生ハ格闘ノ上逃走ス）ニ憤激セル学生側ハ直ニ公安局ニ赴キ陳局長ニ対シ北大学生ノ即時釈放、関係者ノ処罰等ヲ要求セルモ陳ノ応酬振ニ慊ラスト為シ同日午後三時半頃ヨリ約五千ノ学生ハ市政府ニ押寄セ張市長ニ対シ学生運動ヲ弾圧セサルコト、逮捕学生ノ即時釈放、公安局長ノ徴罰、市党部員ノ懲罰等ヲ要求シ更ニ市政府前広場ニ於テ緊急会議ヲ開キ要求事項ヲ逮捕学生ノ釈放、公安局長ノ銃殺、下手人及首謀者ノ銃殺ノ三項ニ改メ目的貫徹迄ハ盟テ市政府ヲ離レスト頑張リ張市長ハ遂ニ学生団ノ要求ニ依リ陳公安局長ノ停職及市党部委員陶百川ノ逮捕令ヲ発出スルト共ニ警備司令等ト共ニ徹宵学生団ノ慰撫、警戒ニ努メ仏工部局ハ支那街トノ交通ヲ遮断シ臨時戒厳ヲ行ヘリ、之ヨリ先学生別働隊約三百ハ前記陶カ本件使嗾者ノ一人ナリトシ市党部ヲ襲撃シ大イニ破壊狼籍ヲ働キタルカ本十日午前ニ至リ逮捕学生釈放セラルルニ至リ市政府広場ノ学生ハ午前十一時頃ニ至リ漸ク解散セルカ引続キ全市各学校学生代表緊急会議ヲ開催シ善後措置ヲ討議シ居レリ、一方徒歩当地ヲ出発セル馬占山援助青年団ハ九日午後十時頃滬寧線真茹駅ニ到リ付近ノ暨南大学学生ト合シ同駅ニ殺到シテ駅長以下職員ヲ監禁シ鉄道、電信、電話ヲ破壊スル等ノ乱暴ヲ為シタルカ上海ヨリ急ヲ聞キ馳ケ付ケタル鉄甲車憲兵隊ニ依リ鎮圧セラレタル由、不取敢

北平、奉天、青島、漢口、済南、広東、福州、天津へ転電シ南京へ暗送シ在支公使へ転報セリ

323　昭和6年12月10日　在杭州米内山領事代理より
幣原外務大臣宛（電報）

杭州における反日学生運動の成行について

杭州　12月10日後発
上海　12月10日後発
本省　12月10日後着

本省　12月10日後着

第五五号（暗）

本十日当地専門学校以上ノ学生約二千名公共運動場ニ集合シ国辱協定調印問題満州武力回収並学生運動擁護等ヲ決議シ其ノ後示威運動ヲ為シ省党部教育庁等ニ暴レ込ミ更ニ張教育庁長私宅ヲ襲ヒ窓硝子器物等ヲ破壊シテ引揚ケタリ

右ハ最近学生運動カ圧迫セラレツツアルニ憤慨シ上海南京方面ト呼応シ南京政府問題ヲ加味シテ運動ヲ起シタルモノト観ラレ今後ノ成行注意セラレツツアリ

上海ヨリ公使ヘ転報アリタシ

大臣、南京ヘ転電セリ

324　昭和6年12月10日　在香港吉田総領事代理より幣原外務大臣宛（電報）

香港よりの引揚避難者数について

香港　12月10日後発
本省　12月10日後着

第一六〇号（一四九文書）

貴電合第八三四号並ニ合第一八八五号ニ関シ

一、引揚者累計二九八人

内訳　内地向　二四〇　内男六〇女九四子供八六
　台湾向　五八　内男一二女二一子供二五

二、(イ)一時避難所（十月十二日閉鎖）ニ収容者九四（ママ）三人内男二八三女二七六子供二八四

(ロ)ナシ

三、自宅残留者十二月五日現在一六二（ママ）七人内男六六八女四二〇子供五五三

尚館員及家族男五女四子供五ハ当初ヨリ自宅ニ残留ノ儘異動ナシ

四、ナシ

325　昭和6年12月11日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海における学生運動と張市長の態度について

上海　12月11日後発
本省　12月11日後着

第八九九号（二三二文書）

往電第八九七号ニ関シ

其後ノ状況左ノ通

十日ノ騒動ニ於テ公安局密偵中王某ハ現場ニ於テ学生団ノ為ニ捕ヘラレ一旦法院ニ押送セラレタルカ其後学生団ハ該密偵ノ引渡シヲ張市長ニ要求シ張市長之ヲ容レ法院ト交渉ノ上十日朝同人ヲ学生団ニ引渡シタル処学生団ハ其ノ場ニ於テ「民衆臨時予審法廷」ヲ組織シ学生中ヨリ審判長及判事ヲ選出シ市政府代表立合ノ上同人ノ審問ヲ行ヒ（本件ハ学生ノ法権濫用ノ好適例ナリ）タル結果同人ハ市党部員ニシテ公安局長等ノ命ニ依リ北大生ヲ逮捕セルコトヲ自白シ又十日朝釈放セラレタル北大学生ノ経過報告ニ依リ同人カ公安局ニ引致セラレタル事明カトナリシカハ張市長ハ更ニ学生団ニ対シ三日以内ニ陳公安局長及陶百川ヲ逮捕処罰スヘキ事ヲ声明シ自ラモ引責辞職ヲ中央ニ電請スルニ至レリ

然ルニ本件解決ニ誠意ヲ披瀝セル張市長ノ態度ニ満足セル学生団及虞洽卿、王暁籟等ハ張市長ノ慰留ヲ南京ニ電報シ陳銘枢亦張ノ辞意打消シヲ勧告スル処アリ中央ニ於テモ張市長慰留ニ決定シ居ル旨伝ヘラレ居レリ

尚情報ニ依レハ中央政府ハ学生ノ反政府運動ノ責任者トシテ上海五大学校長ノ逮捕令ヲ発出シ又往電第八九八号政府ノ回電ニ不満足ナル当地学生団ハ日ヲ期シテ南京ニ赴キ大イニ示威ヲ行フヘキ旨決議セル趣ニテ事態未タ緩和セラレス因ニ真茹付近ノ鉄道破壊個所ハ十日朝復旧セラレ又市党部員ハ十日朝ヨリ一斉ニ影ヲ潜メ事務ヲ停止シ居ル由冒頭往電ノ通転電セリ

326　昭和6年12月12日　在上海村井総領事より幣原外務大臣宛（電報）

上海学生騒動に対する張市長、各大学長、市党部および新聞組合等の態度について

上海　12月12日後発
本省　12月12日後着

第九〇六号（二三五文書）

往電第八九九号ニ関シ

(一)張群ハ学生等ノ越軌行動ニ気ヲ腐ラシ各方面ノ慰留ニモ拘ラス其ノ後市政府ニ出勤セス兪秘書長カ臨時代理ヲ勤メ居ル処辞職電請ニ対シ十一日国民政府ヨリ慰留電報ヲ寄セ来タレルカ同時ニ陳銘枢等ニ対シ今次学生運動ノ徹底的調査ヲ命シ来レリ

(二)今次事件ニ関連シ逮捕令ヲ発セラレタルヤニ伝ヘラルル当地五大学校長鄭洮年（暨南大学）黎照環（交通大学）

何世綻（トクシ大学）陳群（法政学院）等ハ連名ヲ以テ学生運動ハ愛国精神ノ発露ニシテ自分等ハ何等之ヲ指嗾シタルコトナキヲ以テ斯ノ如キ密令ハ自分等ヲ侮辱スルト共ニ純潔ナル青年等ヲ侮辱スルモノト認ム

(三)市党部ハ今次事件ハ何等党部ト関係無ク学生カ市党部ヲ襲ヒ鉄道ヲ破壊シ民衆法院ヲ組織シテ犯人ヲ審問シ各新聞ヲ脅迫シ虚偽ノ報道ヲ為サシメタルハ（学生団カ事件直後各新聞社ヲ襲ヒ学生ニ有利ナル報道ヲ掲載セシメタルハ事実ナリ）共匪ノ指嗾ニ依ルコト明カナリト宣言シ陶百川陳局長ノ逮捕令取消学生越軌行動ノ取締反動分子ノ掃滅党部ノ保護等ヲ中央ニ電請スルコトトナレリ

(四)当地漢字新聞組合ハ本事件ニ関連シ十一日上海市党部カ同日ノ各新聞（学生等ノ圧迫ニ依リ党部側ニ不利ナル記事ヲ掲ケタリト云ハル）ヲ差押ヘ地方ヘノ発送ヲ禁シタルニ憤慨シ国民政府中央党部及市政府ニ対シ党部ノ非法拘留抑止方ヲ請求スルト共ニ交通部ニ対シテハ郵便局カ該非法命令ニ服従セサル様命令方ヲ要求シ又言論ハ自由ナレハ何等ノ検査及干渉ヲ受ケサル旨ノ宣言ヲ発シタリ冒頭往電ノ通転電セリ

327 昭和6年12月13日 在南京上村領事より 犬養外務大臣宛（電報）

学生団の反日請願に対する蔣主席の伝単撒布による訓戒について

南京 12月13日後発
本省 12月13日後着

第八三八号

往電第八三二号ニ関シ

北平学生団ハ十一日又済南学生団ハ十二日夫々国民政府ニ赴キ請願セルカ其後学生等ハ相当疲労シ居ルモノト見エ気勢甚タ上ラス一方蔣介石ハ十一日及十二日ノ両日飛行機ヨリ学生ニ対シ(一)日本ト決シテ直接交渉セス(二)錦州ニハ決シテ中立地帯ヲ設ケス必ス積極的ニ抵抗スヘシ(三)天津ノ再動乱説ハ事実無根ナリ(四)日本人ノ逆宣伝ヲ信スル勿レ等ト書ケル無数ノ伝単ヲ撒布セシメタリ

市中ノ状況頗ル平穏ナリ

尚国民政府文官処ハ上海発閣下宛第九〇六号五大学長ニ対シ逮捕令ヲ下シタルコト絶対ニ無キ旨十二日ノ新聞ニ発表セリ

支、北平、天津、青島、奉天、済南、漢口、広東、福州へ転電セリ

328 昭和6年12月14日 在上海村井総領事より 犬養外務大臣宛（電報）

上海民衆反日救国連合会主催の市民大会の状況について

上海 12月14日後発
本省 12月14日後着

第九一〇号（暗）

往電(1)第九〇七号ニ関シ

十三日午後一時半ヨリ華街南市公共体育場ニ於テ上海民衆反日救国連合会主催ノ市民大会開催セラレ其状況概要次ノ如クニシテ共産党ノ策動セル跡極メテ顕著ナルモノアリ

(一)参加者青年労働者学生等一千五六百名約十名（内一名鮮人朴鉄丸）ノ過激ナル排日反国民政府等ノ演説アリタル後決議ヲ為セルカ会場内ニ於テ撒布サレタル伝単ハ約五十種ニシテ其内共産系諸団体ノ署名アルモノ多数アリ

(二)決議事項左ノ通

一、天津共同管理錦州ノ中立区域設置及中立調査団派遣ノ如キ条件受諾ニ反対スルコト

一、民衆ハ一律ニ自働的ニ武装シテ立チ対日宣戦シ失地ヲ回復スルコト

一、施中国代表ヲ否認シ顧ノ締結セル秘密条約ヲ否認スルコト

一、徹底的ニ日貨ヲ抵制シ人民日貨検査隊ヲ組織シ没収日貨ヲ競売シ罷工工人ヲ援助スルコト

其外ニ「ソビエット」政府ノ擁護其ノ他共産的色彩濃厚ナル二三ノ事項ヲ決議セリトノ情報モアリ

(三)(2)大会ハ午後三時半終了直ニ示威遊行ニ移リ打倒国民党打倒帝国主義ヲ叫ヒツツ林陰路ナル市党部ニ殺到シテ表門及窓硝子等多数破壊シ更ニ中華路ニ出テ群衆ハ漸次増加シテ約四千トナリ北走シテ西門ニ至リテ午後五時過キ解散セリ此間電車及「バス」十数台ヲ襲撃大破セシメタリ

(四)共産党ハ同大会ノ情勢ニ依リ市党部公安局ヲ襲撃シ更ニ当館ヲ襲撃セントスル計画ナリトノ情報アリ為念当館警察署ニ於テハ総員ヲ召集シ又工部局警察ニ於テハ配備警官ヲ増員シテ警戒ニ当レリ

転電先冒頭往電ノ通
広東ヨリ香港へ転報アリタシ

329　昭和6年12月15日　在上海村井総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

上海学生赴京示威団の出発について

上海　12月15日後発
本省　12月15日後着

第九一三号
往電第八九九号（三二五文書）ニ関シ
上海学生赴京示威団ハ十四、十五ノ両日ニ分レ再ヒ赴寧スルニ決シ先発隊五百名ハ鉄道当局カ中央ノ命ヲ楯ニ極力阻止セルニモ不拘普通列車ニ搭乗十四日午後四時半出発セルカ本隊ハ十五日午後出発シ南京ニテ南京、北平、済南ノ三地学生団ト合シテ大示威運動ヲ挙行スル由ナリ一方上海ニ於テハ後方顧問団ヲ組織シ赴寧学生ヲ応援スル手筈ナル由尚上海学生ノ赴京前南京蔡元培ハ各大学校長ニ学生団ノ出発阻止方電報シ来リ各学校当局モ極力阻止ニ努メタルモ其効ナカリシ次第ナリ
冒頭往電ノ通転電セリ

330　昭和6年12月15日　在南京上村領事より
犬養外務大臣宛（電報）

中国各地より来京の学生団の外交部襲撃について

南京　12月15日後発
本省　12月15日後着

第八四二号
往電第八三八号（三二七文書）ニ関シ
十四日北平学生団千五百名及ダンキ大学請願団百五十名ハ国民政府ニ赴キ相変ラス蔣ノ即日北上要求秘密外交軍閥外交反対東北失地長官ノ貶罰対日宣戦等ヲ請願セルカ一方済南学生団約六百名ハ外交部ニ押掛ケ顧維鈞ヲ捜索セルカ顧維鈞ハ出勤シ居ラス又他ノ重要職員モ逸早ク逃出シタル為事務室ノ内外ニ打倒顧維鈞等ト大書シ引揚ケタリ
十五日午前十時頃ニハ更ニ北平学生団約二百名外交部ヲ襲撃シ事務所ノ窓硝子椅子机等ヲ破壊シ引揚ケタルカ警戒ノ軍警ハ之ヲ傍観シ部員ハ全部逃出シ当館ヨリ公用ニテ度々電話セルモ取次ノ使用人ノミニテ応接スルモノ無キ有様ナルカ外交部ヨリ引揚ケタル右学生ハ更ニ中央党部ヲ襲ハントシ途中軍警ト衝突シ午前十一時半頃軍警ハ遂ニ発砲シ学生約四十名ヲ逮捕シタル処残リノ学生ハ現場ヨリ逃亡セリ

尚本日中ニ上海学生約二千名来京スル趣ニシテ若シ此際蔣介石カ下野スルカ如キ事アランカ地方ノ治安ハ相当警戒ノ要アリト認メラル
支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州へ転電セリ

331　昭和6年12月15日　在南京上村領事より
犬養外務大臣宛（電報）

北平学生団の襲撃により蔡元培・陳銘枢負傷について

南京　12月15日後発
本省　12月16日前着

第八四七号
往電第八四二号（三三〇文書）ニ関シ
十五日ノ中央通信ハ本日外交部ヲ襲撃セル北平学生団二百名ハ外交部ヨリ中央党部ニ赴キ先ツ正門ヲ閉鎖シ軍警五名ノ所持セル銃器ヲ取上ケ同時ニ糾察隊ヲ要所ニ配置シテ党部職員ノ行動ヲ牽制シタル後残余ノ学生ハ玄関ニ上リ反動的口号ヲ高唱シタル処折柄臨時中央常務会議ニ列席中ノ蔡元培及陳銘枢ノ両名出テ来リ学生ニ応接セントスルヤ学生ハ棍棒ヲ以テ両人ヲ殴打シ陳ヲ其ノ場ニ昏倒セシメタル騒キニ多数職員及軍警馳付ケタルニ学生中ノ一部ハ拳銃ヲ発射シ蔡元培ヲ引攫ヒ門外ニ逃走セルヲ以テ軍警側モ威嚇ノ為発砲追跡シテ付近ノ畑中ニテ蔡ヲ奪回セルカ蔡ハ病院ニ送リ陳ハ今尚意識判然セス右学生ノ行動ハ愛国運動ニ関係無ク押収セル旗及標語等ハ共産的ノモノナル旨報道シ居レリ
尚当館ハ外交部及中央党部ト近距離ニ在リ銃声モ手近ニ聞エタリ官憲ハ当館ニ軍警及消防隊ヲ繰出シ警戒セルカ何等異状無シ
公使、北平、奉天、天津、青島、済南、広東、漢口、蘇州、杭州、福州へ転電セリ

332　昭和6年12月15日　在蕪湖柴崎領事より
犬養外務大臣宛（電報）

蕪湖における排日概況について

蕪湖　12月15日後発
本省　12月16日前着

第四一号（暗）
往電第三八号ニ関シ

党部学生及新聞ハ南京上海ノ空気ニ響応シ連盟ノ態度ヲ難シ開戦ヲ主張シ一段ト熾烈ニ宣伝講演又ハ行列等ヲ連日繰返シ且今回ノ内閣更迭ヲ機ニ日本ハ一層積極的態度ニ出ツヘシト宣伝シ極力敵愾心ヲ唆リ居レルカ居留民ニ対シテハ何等直接的事故発生セス尤モ支那側商人ハ水害ニ引続ク経済絶交ニテ極度ニ疲弊シ市面更ニ活気ナク年末決済期ヲ控ヘ何レモ苦慮シ居レリ排日概況左ノ如シ

(一)反日会ノ日貨登記封存ハ商務会反対シ未タ実現セス

(二)日清汽船乗客ヲ捉ヘ罵詈侮辱シ亡国奴ト書シ市内ヲ引廻ス

(三)一般商人日貨封存ニ反対シ罷業気勢ヲ示ス

(四)中公司ノ鉄鉱輸出裏面ノ脅迫ニ依リ再ヒ作業休止

(五)反日会領事館宛明記荷物ヲ押収ス（厳重抗議シ即時取戻ス）

(六)省党部ハ党員ノ決死隊組織ヲ奨励ス

(七)無商標又ハ疑ハシキ商品ノ没収ヲ反日会決議ス

(八)撫順炭排斥及封存ヲ提議ス

(九)学生及教職員大刀隊組織ス

(十)抗日会ハ連盟脱退及革命外交ヲ政府ニ電請ス

尚共産党潜入ノ件ハ事実ニシテ最近水害難民ヲ煽動シ蕪湖暴動化ヲ企テタル党員九名逮捕サレ南京ニ（脱）ノ上全市大検挙ヲ為シ嫌疑者多数ヲ逮捕シ引続キ戒厳令ヲ布キ極力警戒シ居レリ委細郵報ス

公使ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平ヘ転電シ漢口、南京、九江ヘ暗送セリ

333 昭和6年12月16日 在上海村井総領事より 犬養外務大臣宛（電報）

上海抗日会の日貨抑留件数について

上海 12月16日後発
本省 12月16日後着

第九一五号

当地抗日会ハ過去五ケ月間ノ日貨抑留件数ヲ左表ノ通発表セリ

	七月	八月	九月	十月	十一月	計
租界内	ナシ	ナシ	二三	二五	二七四	四二二
閘北	二五	二八	四一	一〇六	五七	二五七
南市	三九	一四六	一一二	一一七	三五	四四九
西部	一一	四四	一七	四五	一八	一三五
浦東	一三	一六	二九	四〇	一	九九

呉淞	ナシ	ナシ	ナシ	四四	四九	九三
計	八八	二三四	二二二	四七七	四三四	一四五五

在仏大使ヨリ在英、米大使ニ転電アリタシ

在仏大使、北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、広東、福州ニ転電セリ

334 昭和6年12月16日 在上海村井総領事より 犬養外務大臣宛（電報）

上海邦商の直接被害事件続報について

上海 12月16日後発
本省 12月16日後着

第九一八号

往電第八九三号ニ関シ

其後発生セル当地邦商ノ直接被害事件左ノ通リ

一、十二月十一日新井洋行ヨリ内外綿工場ヘ売渡シノ工業用煉瓦八百八十束（価格約金七百円）艀ニテ運搬ノ途中共同租界ニ沿フ蘇州河上ニテ取抑ヘラレ支那人船頭一名抗日会ニ引致セラレタルカ工部局外人及支那人警官ト当館署員ト現場ニ至リ貨物ヲ取戻シ「トラック」ニ積替ヘ運搬ヲ了シ又船頭ハ後刻釈放セラレタリ

二、十四日三井洋行ヨリ浦東ニテ建築請負中ノ邦人ニ売渡シタル「セメント」五百十俵（価格六百三十七両）艀ニテ黄浦江上ヲ運搬中取抑ヘラレ浦東抗日会指定倉庫ニ格納セラレタルカ当館ヨリ公安局ニ交渉ノ結果現品ハ十六日苦力賃三井負担ニテ取戻シタリ（抑留ノ報ニ依リ我軍艦ヨリ警戒隊出動シタルモ既ニ格納後ナリキ）

三、十五日夜海軍御用達上海相互社カ上流各地碇泊ノ我軍艦ノ酒保ニ納入スル為船積セントスル菓子罐詰等三十一箱（価格約金百六十円）ヲ共同租界内税関碼頭ニ運ヒタルヲ取抑ヘラレントシタルカ工部局外人及印度人警官来リ事ナキヲ得タリ（我軍艦ヨリノ警戒隊ハ群集退散後現場ニ到着ス）

十六日元大洋行カ輸出ノ為船積セントセル屑繭二十五俵（価格約二千両）ヲ共同租界内ニテ取抑ヘラレタルモ我陸戦隊ヨリ警戒隊出動シ取戻シタリ

仏ヨリ米ヘ転電アリタシ

支ヘ転報セリ

北平、奉天、天津、青島、済南、南京、広東、漢口、福州、仏ヘ転電セリ

335　昭和6年12月16日　在汕頭戸根木領事館事務代理より犬養外務大臣宛（電報）

汕頭における排日状況について

汕頭　12月16日前発
本省　12月16日後着

第四〇号（暗）

排日状況

一、学生抗日救国連合会ハ本月十一日ノ会議ニ於テ学生限リノ抗日示威游行ヲ行フコトヲ決議シ之カ日取ヲ外部ニ秘シ居レル処右計画ヲ探知セル市政府ヨリ十四日夜游行禁止ヲ命セラレタルニ拘ラス本十五日午前四時学生千五百名ヲ中山公園ニ集合セシメ官憲ノ反日運動取締及抗日会幹部ノ腐敗等ヲ痛罵シテ先ツ気勢ヲ挙ケ十時半ヨリ市内游行ニ移リ抗日会事務所前ニ至ルヤ突如不良幹部ヲ逮捕シ游街示威セヨト叫ヒ同事務所ニ雪崩レ込ミ次テ近傍ニアル市党部ヲ襲ヒ一旦ハ警戒中ノ巡警ノ威嚇的発砲ニ依リ退却シタルモ再度押寄セ右二ケ処ニ於テ器物ノ破壊等暴行ヲ演シタルカ軍隊巡警ノ増援取締ニテ大事件ニ至ラス更ニ市政府ニ代表ヲ派シタルモ警戒兵ニ遮ラレ門内ニ入ルヲ得ス最後ニ独立第二師司令部ニ至リ近ク組織セラルヘキ広東抗日救国会汕頭分会ヘノ代表参加許可方請願後十二時半解散セリ

二、右学生連合会ノ暴行原因ハ十二月十一日付拙信公第四一七号所報ノ通今回設置セラルヘキ広東抗日救国会汕頭分会ヘノ参加資格ナキ為極力参加運動中ノ処最近市党部ニテ之ヲ阻害セントセルヲ学生側ニテ探知シタルト

三、現抗日会ニ学生ノ代表参加シ居ルニ拘ラス兎角団体代表ヨリ疎ンセラレ殊ニ関東州、復州炭（三井洋行扱）ノ封存解除ニ際シ殊更ニ学生代表ニ討議参加ヲ通告セサリシコトアリ

四、他面商会側ハ封存日貨ノ解放運動ニ極力奔走シ各団体出身抗日会幹部ニ対シテハ次第ニ諒解ヲ取付ケ居ルモ学生連合会代表ノミハ動カシ得サルタメ目下広東滞在中ノ商会代表ニ於テ排日運動ヨリ学生ノ排除方運動中ナリ

五、此等ノ事情ヨリシテ今次排（日）ノ勃発ト共ニ之カ中心ニ立テル学生ノ面目丸潰レトナリシヲ憤慨セルカ為ナルカ素々学生団体ハ其背後ノ指導者張凌雲（前党部執行委員）ト共ニ現市党部委員トハ対立スル関係ニアリシ結

果今回ノ尖鋭化ヲ見タル次第ナリ

尚官憲ハ学生暴行ノ付近邦人居宅ノ保護ハ勿論当館ノ警衛等手落ナク手配シ居レリ

支、北平、広東、福州、厦門へ転電セリ

336　昭和6年12月17日　在南京上村領事より犬養外務大臣宛（電報）

来京各地学生の中央党部および中央日報社襲撃について

南京　12月17日後発
本省　12月18日前着

第八五六号

往電第八五〇号ニ関シ

本十七日正午上海学生ヲ初メ各地学生約千五百名ハ中央大学ニ集合中央党部ニ押寄セタルカ党部ハ正門ヲ閉鎖シ百余名ノ巡警ハ党部構内ニ潜伏シ取合ハサリシ為激昂セル学生モ施ス策無ク唯外部ヨリ帝国主義的国民党ノ打倒等反政府的口号ヲ叫ヒ構内ニ向テ盛ニ投石シ窓硝子等ヲ破壊シテ引揚ケタリ更ニ中央日報社ヲ襲ハントセルカ多数ノ武装巡警ニ阻止セラレ双方夕刻迄対峙シ形勢一時緊張セルモ学生側ハ明十八日更ニ総示威運動ヲ行フ事トシ退散セリ従テ本日ハ当館方面ニ学生ノ来ル者無シ尚学生ハ市中ニ汪精衛歓迎ノ伝単ヲ多数撒布セリ

冒頭往電ノ通転電セリ

337　昭和6年12月18日　在上海村井総領事より犬養外務大臣宛（電報）

上海よりの引揚避難者数について

上海　12月18日後発
本省　12月18日後着

第九二五号

貴電合第一八八五号（二一二文書）ニ関シ

㈠内地ヘノ引揚者

館員家族（淺賀書記生）成年女二子供四計六

一般在留民

成年二二八

女一二二

子供一五五

計五〇五

㈡㈠租界外ヨリ租界内ニ避難セルモノノ累計及現在数

男六
女三
子供三
計一二

(ロ)呉淞及温州ヨリ上海ニ避難シタルモノ累計
男八
女一三
子供一五
計三六
現在数
男五
女一二
子供一四
計三一

(ニ)自宅残留者数（呉淞日華紡績）
男二四
女三
計二七

(ホ)(イ)南京領事館員家族
男三
子供二
計五

(ロ)一般在留民
男二一
女一九
子供二六
計六六
支へ転報セリ

338　昭和6年12月18日　在天津桑島総領事より犬養外務大臣宛

満州における各地学生決死隊の状況について

天津　12月18日付
本省　12月28日着

機密第一一六一号
昭和六年十二月十八日

在天津
総領事　桑島主計(印)

外務大臣　犬養毅殿

学生決死隊赴満ニ関スル件

各地学生団ハ決死隊ニシテ当地通過前線ニ派遣セラレツツアルモノ少カラス当地ノ学生等モ之ニ刺戟サレ学業ヲ放棄シ前線ニ向ハントスル傾向アリテ教育庁ハ之レカ取締方法ニ付キ省政府ト協議中ナリ既ニ赴満セル学生決死隊ノ状況左ノ通

(一)南京三民鉄血救国団、十二月七日南京ヲ出発北上シ十五日当地ニ到着セリ全体八十一名ニシテ三民中学及南京各学校ノ学生ヲ以テ組織シ之ヲ三中隊ニ分ツ団長熊沖及団員六名ハ当地ニ下車シ市党部及市政府、省政府等ヲ歴訪シ同夜北平ニ赴キ張副司令ニ会見後黒龍江ニ向フコトトナリタルカ同団員ハ黒龍江ニテ馬占山軍ニ投シ日本ト交戦セントスルモノニシテ鉄道沿線各停車場ニ下車対日宣戦ヲ鼓動セリ

(二)本月九日南京ヨリ来津シタル駆日敢死隊三十七名ハ十日市党部各民衆団体ヲ訪問シ同夜十一時錦州ニ向ケ出発セルカ該隊ノ目的ハ日本人及売国行為中国人ノ暗殺ニアリ錦州ニ赴キタル後ハ決シテ生還セスト語リ居リタリト

(三)本月十六日北平ヨリ到着セル列車ニテ漢口学生ニ依リ組織セラレタル鉄血団員五十一名ハ来津シ河北省政府ニ出頭シ銃器弾薬ノ供給ヲ受ケ直ニ北寧線ニテ錦州ニ向ヒタリ

本信写送付先　在支公使　北平　上海　南京　奉天　漢口　斉々哈爾　哈爾賓　関東庁

339　昭和6年12月19日　在南京上村領事より犬養外務大臣宛（電報）

国民政府の学生運動取締命令発布について

南京　12月19日後発
本省　12月19日後着

第八六〇号

国民政府ハ十八日大要左ノ如キ学生運動取締命令ヲ発セリ

国難発生以来請願ノ為来京セル各地学生ハ四五万ニ達シ彼等ハ政府ノ説諭ニ依リ決然離京セルカ其間反動分子ハ青年学生ヲ煽動シ鉄道及公ノ機関ヲ破壊シ公務員ヲ殴打シ恣ニ人ヲ逮捕処分シ社会ノ秩序ヲ害セル事少ナカラス民衆ハ怨嗟ノ声ヲ放チ友邦ハ頗ル奇怪トシ居レリ十二月十五日北平学生二百余人ハ外交部ヲ破壊セル後中央党部ニ侵入シ梶棒(ママ)剣銃ヲ携ヘ反動伝単ヲ頒布シ警官ノ銃器ヲ奪取シ蔡元培、

陳銘枢ノ両委員ヲ殴打セルニ付政府ハ逮捕セル犯人ヲ厳罰スル筈ナリシモ将来ヲ戒メ釈放セル処計ラスモ十七日又々千余人ノ学生ハ棍棒、鉄棒ヲ携ヘ三時間以上モ中央党部ヲ包囲シ学生ノ一部ハ共匪ノ腕章旗幟ヲ付ケ党部ノ窓ヲ破壊シ職員ヲ逮捕シ転シテ中央日報社ヲ破壊放火シ成賢街（中央大学所在地）一帯ヲ自ラ戒厳シ通掛リタル行政院秘書等四名ヲ殴打シ又党部ノ事務員五名並ニ職工一名巡警一名ヲ逮捕拉致シ其行キ先未タ判明セス此ノ種ノ行為ハ絶対ニ愛国運動ト称スルヲ得ス政府ハ逮捕セル暴行放火犯人ヲ法ニ依リ処分スルト共ニ今後愛国ヲ口実ニ暴動セルモノハ地方長官ヲシテ厳重処分セシム

尚北平学生ハ容易ニ離京ヲ肯セサリシカ其他ノ学生カ官憲ノ武力圧迫ニ依リ退京セル為遂ニ十八日北上セリ

市中ハ外来学生ノ一掃ニ依リ頗ル平穏トナレリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州、蘇州、杭州ヘ転電セリ

340　昭和6年12月21日　在天津桑島総領事より　犬養外務大臣宛（電報）

天津よりの引揚避難者数について

第七〇二号（暗）

貴電第一二〇号ニ関シ

左ノ通（数字ハ男、女、小供、計ノ順序ニ依ル）

イ、天津

(一)引揚ノ上（生活ノ本拠ヲ移シタルモノ）

日本ヘ二六、二四、三二、八二

大連ヘ五、一一、一一、二七

朝鮮ヘ一四、一四、一三、四一

青島ヘ一、一、一、三

(二)一時避難者

日本ヘ三四、二二三、三一三、五七〇

大連ヘ一四、六一、七九、一五四

朝鮮ヘ七、一二、二一、四〇

台湾ヘ〇、一、二、三

合計七六七

(三)右ノ外館員中司法領事妻子計四

大連ヘ通信員一家族妻子計三

内地ヘ夫々避難セリ

(四)残留在留民数五七八二（但九月末現在六七〇九ヨリ前記引揚ケ避難者ヲ控除シタル数ナリ）

(五)支那街ヨリ日本租界ヘ避難居住者

一八、九、一三、四〇

(六)右ノ外天津事変ノ際当地ニ於ケル一時避難又（ハ）収容者（十二月五日迄ニハ凡テ復帰セリ）

(イ)日本租界内安全地帯ヘ（民団収容所ヲ含ム）三三

六、四七四、六八四、一四九四

(ロ)三三、三八、四六、一一七

ロ、塘沽、日本ヘ避難者〇、六、七、一三

残留者七九

ハ、昌黎、灤州、唐山ヨリ日本、天津、山海関又秦皇島ヘ避難者

二三、一六、八、四七

残留者ナシ

ニ、山海関及秦皇島

日本及天津ヘ二、六、六、一四

残留者一四二

右ノ内守備（隊）兵営ヘ一時避難二、三四、三五、七一

ホ、他管内ヨリ避難中ノ者ナシ

341　昭和6年12月21日　在済南西田総領事より　犬養外務大臣宛（電報）

済南学生請願団の帰校について

済南　12月21日後発
本省　12月21日後着

第三〇三号（暗）

往電第三〇二号ニ関シ

当地各学生請願団約二千三百名ハ昨二十日南京ニ於テ官憲ノ為逮捕セラレタル少数者ヲ除キ帰済セルカ駅ヨリ帰校ノ途中打倒日本帝国主義ヲ口号セントシテ直ニ雷警備司令ヨリ一行カ団結シテ抗日セハ第三路軍ハ泰安ニ撤退シテ当地ノ守備ヲ一行ニ委スヘキ趣旨ヲ諭告セラレ爾後口号ヲ止メテ夫々帰校セリ駅頭ニハ各校会員約二百名出迎ヘ中ニハ排日宣伝文ヲ散布セシモノアリシモ左シタルコトナク今日迄ノ処学生側ニ於テモ別段排日ノ行動ナシ

尚十九日夜行以来津浦線ノ運行常態ニ復シ二十日北平学生団一千余名モ当地通過帰平セリ

公使ヨリ上海、漢口ヘ転報アリタシ
公使、北平、青島、南京、奉天、天津、広東ヘ転電シ芝罘、張店、博山、坊子ヘ暗送セリ

342　昭和6年12月21日　在南京上村領事より
犬養外務大臣宛（電報）

抗日青年団体の来京および活動について

南京　12月21日後発
本省　12月21日後着

第八六四号
上海発大臣宛第八九四号ニ関シ（三二三文書）
「青年自動赴東北援馬抗日団」約二百八十名ハ十九日汽車ニテ来京二十日城内ニ入リ金陵大学ニ止宿中ナルカ二十一日国民政府ニ赴キ請願ノ帰途当館前ニ於テ反日口号ヲ連呼セリ一行ハ約一週間当地滞在ノ上北上スル由
公使、北平、奉天、天津、済南ヘ転電セリ

343　昭和6年12月30日　在上海村井総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

上海地方における対日経済絶交運動の各界への影響について

上海　12月30日後発
本省　12月30日後着

第九四八号（暗）
一、当地方ニ於ケル経済絶交運動ハ其後共抗日会側ニ於テ日貨ノ検査並ニ監視ヲ続行シ居ル為各種商品共依然取引並ニ荷動キ殆ト皆無ナル処綿糸布ハ一時印度方面ヘ「ダンピング」ニ依リ積出サレタルモ最近之亦杜絶ヘ僅ニ青島ヘ荷捌キアルニ過キサルヲ以テ各工場共「ストック」処分難ノ為引続キ操短ヲナシツツアリ其他砂糖洋紙類モ荷動キノ云フヘキモノナシ
二、邦人ノ船舶並ニ倉庫業者等ハ引続キ取扱ヒ貨物皆無ナル外邦人関係ノ閉鎖工場ハ依然其儘トナリ居リ中小工業者ハ年末節季ニ際シ困窮ノ極ニアリ
三、抗日会ノ主ナル幹部カ市商会側トノ確執ニ依リ辞職シタル次第ハ既報ノ通ナルカ其後共抑留貨物保管主任並ニ抗日会秘書主任ハ相次テ辞職ヲ声明スルニ至レルヲ以テ現在ノ抗日会幹部ニハ最早ヤ名ノ知レタル者アルヲ聞カサル処何レ当地ニ於テハ市商会ト一部広東派商人間ニ軋轢アリシ外ニ日貨抵制問題ニ絡メル罷工ニ付泥仕合中ニモアリ新中央政府ノ出現ト共ニ当地抗日会ノ向背注目ノ要アリ
四、封存日貨ノ総数ハ六七千万弗ニ見積ラレ居タルニ拘ラス二十五日ヲ以テ締切リノ結果ハ登記商店五百三十余価格百二十七万元ニ過キサルカ右ハ一部華商筋ニ於テ右手持日貨死蔵ニ依ル金融難ニ迫ラレ居ルモ今直ニ封存日貨ヲ処分サルレハ折角登記シ居レル国産品ノ市価低落シ損失ヲ招クヘシトテ登記ヲナササリシモノ相当アル由ナリ尚抗日会ニ於テハ目下右封存日貨ノ処分方法ニ付各方面ノ意見ヲ徴求中ナリ
五、日本人所有ノ貨物ニ対スル抑留事故ハ其後発生セサルモ支那人取扱ノ日貨ハ尚差押ヘラレ居リ工部局警察カ探知セシモノノミニテモ十二月以降十一件価格約八千弗ニ及ヒ又抗日会ノ手ニ依リ逮捕監禁セラルル支那商民ハ未タ跡ヲ断タス現在尚数名ノ被監禁者アル模様ナリ
公使ニ転報シ北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、広東ニ転電セリ、広東ヨリ香港ニ転報アリ度シ

344　昭和6年12月30日　在済南西田総領事より
犬養外務大臣宛（電報）

済南地方における綿糸布抑留問題に関し韓主席に申入れについて

済南　12月30日後発
本省　12月31日後着

第三一三号（暗）
当地伊藤洋行ヨリ同店カ当地中国商徳順興ニ売却セル綿糸綿布約四十件（価格一万二千余元）ヲ価格ノ半分タケハ既ニ受領シ残額ハ輸送目的地到着ノ日数ヲ見計ヒ三日後受領スルコトト売買契約シタルニ（三十日残額モ受領セル由ナリ）該貨物ハ目的地河北省柴胡店ニ輸送ノ途次当省徳平県劉家集ニ於テ同地民団長ノ為日貨ノ故ヲ以テ抑留セラレ直ニ同県政府ニ移送セラレタル由ニ付之カ解放方交渉アリ度キ旨二十八日願出タルニ付本官同日韓主席ニ会見ノ際右ノ次第ヲ述ヘ折角順調ニ行ハレ居ル一般取引ノ今後ニモ悪影響アルニ付至急徳平県長ニ該品解除命令方申入レタルニ韓ハ直ニ応諾シ秘書長ヲ呼ヒ該品ノ即時返還且ツ今後日貨ヲ抑留スルカ如キコトナキ様厳重電訓シタリ
最近往電第三一〇号ノ通日本綿糸布ハ各地排日ノ為殆ト取引杜絶セル処中国商ハ実際ノ需要ニ迫ラレ買付ケ易キ地方

ニテ買付クル為邦商側ニテモ青島ハ勿論上海方面モ自然比較的平穏ナル山東ニ於テ売却シツツアリ而モ邦商側売手ノ競争激甚ナル結果上海品ノ如キハ投売ニ近キ状態トナリ中国商側之ニ付込ムヨリ価格引下ケ（脱）又当地ハ従来貨物ハ現金引代ヘノ商習慣ナリシモ最近ハ天津洋行筋ノ地盤タリシ細手ノ特殊品ニ付テハ信用アル店ニ限リ価格ノ一部或ハ半分ハ四五日後払ノ条件ニ譲歩スルノ余儀ナキ内情ナル処他方地方ニ於テモ之迄省政府ノ取締厳重ノ為日貨抑留ノ如キハ殆トナカリシモ何分ニモ当地トシテハ新市場タル河北省方面ニ多量日貨ノ荷動キアルヨリ右貨物通過ノ奥地ニ於ケル反日救国会又ハ下級機関ニ於テハ漸次内部的ニ保護費等ノ意味ニテ多少徴収スルコト行ハレ本件抑留ノ如キモ其要求料金余リニ多額ナル為納付拒絶ノ結果抑留セラレタルカ如キ内情アル模様ナルニ付（本件貨物中小問屋ノ分ハ然ルヘク費用ヲ納付シタル為一旦民団長ニテ抑留セラレタルモ還付セラレタル事実アリ）右ノ点ハ本官ヨリ韓ニ対シ私談的ニ注意ヲ喚起シ置ケリ不取敢
公使ヨリ上海ニ転報アリ度シ
公使ニ転電シ北平、青島、天津、南京、芝罘ニ暗送セリ

日本外交文書　満州事変　第一巻第二冊　終

日本外交文書
満州事変
（第一巻第二冊）
不許複製

Documents on
Japanese Foreign Policy
Manchurian Incident
Volume I, Part 2

昭和五十二年十一月十日　印刷
昭和五十二年十一月二十日　発行

外務省編纂
外務省発行

東京都千代田区神田佐久間町
三ノ三七
印刷所　㈱文唱堂印刷所